



Sun Java™ System

Sun Java Enterprise System 2005Q1 インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-0808

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、JDK、Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE ロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。

Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

| | |
|--------------------------------|-----------|
| 表目次 | 17 |
| 手順一覧 | 23 |
| はじめに | 27 |
| 対象読者 | 27 |
| このマニュアルの構成 | 28 |
| このマニュアルで使用する表記規則 | 28 |
| 表記上の規則 | 28 |
| 記号 | 29 |
| シェルプロンプト | 29 |
| 関連マニュアル | 30 |
| このドキュメントセット内のマニュアル | 30 |
| オンライン上の Sun リソースへのアクセス | 32 |
| Sun のテクニカルサポートへの問い合わせ | 33 |
| 関連するサードパーティの Web サイト | 33 |
| ご意見、ご要望の送付先 | 33 |
| | |
| 第 I 部 インストール計画 | 35 |
| | |
| 第 1 章 インストール計画の概要 | 37 |
| Java ES インストーラのしくみ | 37 |
| インストーラのモード | 38 |
| 言語の選択 | 38 |
| 既存のコンポーネントのチェック | 39 |
| 依存性の確認 | 40 |

| | |
|--|-----------|
| 設定オプションとパラメータの設定 | 41 |
| アンインストーラ | 41 |
| インストーラの動作がインストール計画に与える影響 | 42 |
| インストール計画のタスクの概要 | 43 |
| 次の手順 | 45 |
| 第2章 インストールシーケンスの作成 | 47 |
| インストールシーケンス | 47 |
| 配備計画の実行に必要な事項 | 48 |
| 配備アーキテクチャの確認 | 48 |
| 実装仕様の確認 | 50 |
| 主要なインストールの問題 | 50 |
| コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響 | 52 |
| 既存のインストール事例の活用 | 57 |
| インストールセッションの計画 | 57 |
| 最良の設定オプション | 57 |
| 「あとで設定」オプション | 58 |
| 「今すぐ設定」オプション | 58 |
| 必要なインストールセッションの数 | 60 |
| 単一インストールセッション | 60 |
| 複数インストールセッション | 60 |
| 既存ホストの調査方法 | 61 |
| Solaris OS に Java ES ソフトウェアが事前にロードされている場合 | 62 |
| インストールするコンポーネントの非互換性について | 62 |
| このリリースに必要なコンポーネントのバージョン | 63 |
| インストーラを使用したインストール済みソフトウェアの調査 | 64 |
| グラフィカルインストーラをローカルディスプレイにアクセスさせるには | 64 |
| アップグレードに関する問題の確認のためにインストーラを使用するには | 64 |
| ホストの準備状態の確認 | 66 |
| システム要件 | 66 |
| アクセス権 | 66 |
| メモリとディスク容量の要件 | 66 |
| Linux 上の Portal Server で必要な Korn Shell の要件 | 66 |
| 次の手順 | 67 |
| 第3章 インストールシーケンスの例 | 69 |
| この章の利用方法 | 70 |
| 単一セッションインストールの例 | 71 |
| 評価の例 | 71 |
| Access Manager と Portal Server の例 | 72 |
| Application Server のみをインストールする例 | 75 |
| Directory Server のみをインストールする例 | 77 |

| | |
|---|------------|
| Directory Proxy Server の例 | 78 |
| Instant Messaging のみをインストールする例 | 81 |
| Message Queue のみをインストールする例 | 82 |
| Portal Server Secure Remote Access の例 | 84 |
| Web Server のみをインストールする例 | 86 |
| Solaris 10 ゾーン | 88 |
| Solaris ゾーンの概要 | 88 |
| 今回の Java ES のリリースでサポートされるゾーンシナリオ | 89 |
| 大域ゾーン内の Java ES の制限事項 | 89 |
| Solaris 10 ゾーンの例 | 90 |
| Sun Cluster ソフトウェアの例 | 91 |
| 第 1 段階: Sun Cluster フレームワークのインストールと設定 | 92 |
| 第 2 段階: コンポーネントとエージェントのインストールと設定 | 93 |
| コンテナの設定を使用する Access Manager SDK の例 | 95 |
| Calendar Server と Messaging Server の例 | 96 |
| Calendar-Messaging Schema 1 の例 | 99 |
| Communications Express と Messaging Server の例 | 101 |
| Instant Messaging と Access Manager の例 | 103 |
| 通信サービスと共同作業サービスの例 | 105 |
| アイデンティティ管理の例 | 107 |
| Web とアプリケーションサービスの例 | 109 |
| リモートの Access Manager を使用する Portal Server の例 | 111 |
| 非ルートの例 | 113 |
| 非ルートユーザーとして実行するように設定された Access Manager の例 | 114 |
| 非ルート所有の Web Server または Application Server インスタンスでの Portal Server の例 | 116 |
| 第 4 章 設定情報 | 119 |
| この章の利用方法 | 120 |
| デフォルト値 | 121 |
| 情報の参照方法 | 121 |
| 共通サーバー設定 | 121 |
| Access Manager 設定情報 | 122 |
| Access Manager: 管理情報 | 124 |
| Access Manager: Web コンテナ情報 | 125 |
| Web コンテナ情報: Access Manager と Web Server | 125 |
| Web コンテナ情報: Access Manager と Application Server | 127 |
| Access Manager: サービス情報 | 129 |
| Access Manager のコアとコンソールのインストール | 130 |
| Access Manager コンソールのインストール (コアがすでにインストールされている場合) | 132 |
| Access Manager コンソールのインストール (コアがまだインストールされていない場合) | 133 |

| | |
|---|-----|
| Access Manager 連携管理のインストール (コアがすでにインストールされている場合) | 135 |
| Access Manager: Directory Server 情報 | 135 |
| Access Manager: プロビジョニングされているディレクトリの情報 | 136 |
| プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合 | 136 |
| プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合 | 137 |
| Access Manager SDK 設定情報 | 138 |
| Access Manager SDK: 管理情報 | 138 |
| Access Manager SDK: Directory Server 情報 | 140 |
| Access Manager SDK: プロビジョニングされているディレクトリの情報 | 142 |
| プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合 | 142 |
| プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合 | 142 |
| Access Manager SDK: Web コンテナ情報 | 144 |
| 管理サーバーの設定情報 | 145 |
| 管理サーバー: 管理情報 | 145 |
| 管理サーバー: 設定用ディレクトリの設定情報 | 146 |
| Application Server の設定情報 | 148 |
| Application Server: 管理情報 | 148 |
| Application Server: ノードエージェント情報 | 149 |
| Application Server: ロードバランスプラグイン情報 | 150 |
| Directory Server 設定情報 | 150 |
| Directory Server: 管理情報 | 151 |
| Directory Server: サーバー設定情報 | 151 |
| Directory Server: Directory Server 設定情報 | 153 |
| Directory Server: データ格納場所に関する設定情報 | 154 |
| Directory Server: データ取り込み情報 | 156 |
| Directory Proxy Server 設定情報 | 158 |
| Directory Proxy Server: ポート選択の情報 | 158 |
| Directory Proxy Server: サーバルール情報 | 158 |
| Portal Server の設定情報 | 159 |
| Portal Server: Web コンテナ情報 | 159 |
| Web コンテナ情報: Web Server を使用する Portal Server | 159 |
| Web コンテナ情報: Application Server を使用する Portal Server | 160 |
| Web コンテナ情報: BEA WebLogic を使用する Portal Server | 162 |
| Web コンテナ情報: IBM WebSphere を使用する Portal Server | 164 |
| Portal Server: Web コンテナの配備 | 165 |
| Portal Server Secure Remote Access の設定情報 | 166 |
| Secure Remote Access コアの設定 | 166 |
| 単一セッションインストール | 167 |
| 複数セッションインストール (Sun Java System Web Server または IBM WebSphere を使用) Application Server | 168 |
| 複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用) | 170 |

| | |
|---------------------------------------|-----|
| ゲートウェイの設定 | 171 |
| Web コンテナ配備情報 | 171 |
| Access Manager 情報 | 172 |
| ゲートウェイ情報 | 172 |
| 証明書に関する情報 | 174 |
| Netlet プロキシの設定 | 175 |
| Web コンテナ配備情報 | 175 |
| Access Manager 情報 | 175 |
| Netlet プロキシ情報 | 176 |
| プロキシ情報 | 177 |
| 証明書に関する情報 | 179 |
| Rewriter プロキシの設定 | 180 |
| Web コンテナ配備情報 | 180 |
| Rewriter プロキシ情報 | 181 |
| プロキシ情報 | 182 |
| 証明書に関する情報 | 183 |
| Web Server の設定情報 | 184 |
| Web Server: 管理情報 | 185 |
| Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報 | 186 |
| 状態ファイルのみで使用されるパラメータ | 187 |

| | |
|---|------------|
| 第 5 章 設定用ワークシート | 191 |
| Access Manager ワークシート | 192 |
| Application Server に配備された Access Manager | 192 |
| Web Server に配備された Access Manager | 196 |
| 管理サーバーのワークシート | 199 |
| Application Server のワークシート | 200 |
| Directory Server のワークシート | 202 |
| Directory Proxy Server のワークシート | 205 |
| Portal Server のワークシート | 206 |
| Application Server に配備された Portal Server | 206 |
| Web Server に配備された Portal Server | 208 |
| BEA WebLogic Server に配備された Portal Server | 209 |
| IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server | 211 |
| Portal Server Secure Remote Access のワークシート | 213 |
| Web Server のワークシート | 218 |

第 II 部 インストールと設定 221

| | |
|------------------------|------------|
| 第 6 章 インストールの準備 | 223 |
| インストール前提条件 | 223 |

| | |
|---|------------|
| Java ES ソフトウェアの入手 | 226 |
| 配布内容 | 227 |
| インストールイメージの作成 | 231 |
| ネットワーク上にイメージを作成するには | 231 |
| 第7章 グラフィカルインタフェースによるインストール | 233 |
| 前提条件 | 233 |
| グラフィカルモードでのインストーラの実行 | 234 |
| インストールを開始するには | 234 |
| コンポーネントの言語を選択するには | 235 |
| コンポーネントを選択するには | 235 |
| 依存性と互換性の問題を解決するには | 238 |
| インストールディレクトリを指定し、システムチェックを開始するには | 239 |
| 設定の種類を指定するには | 242 |
| 共通サーバー設定を指定するには | 242 |
| 選択したコンポーネントの設定を指定するには | 243 |
| インストールの準備が完了していることを確認するには | 245 |
| 製品を登録し、ソフトウェアのインストールを開始するには | 245 |
| インストールセッションを終了するには | 246 |
| コンポーネントの追加 | 247 |
| 次の手順 | 247 |
| 第8章 テキストベースのインタフェースによるインストール | 249 |
| 前提条件 | 249 |
| テキストベースのインタフェースの使用方法 | 250 |
| テキストベースモードでのインストーラの実行 | 251 |
| インストールを開始するには | 251 |
| インストールの言語を選択するには | 252 |
| コンポーネントを選択するには | 252 |
| 共有コンポーネントをアップグレードするには | 254 |
| インストールディレクトリを指定し、システムチェックを開始するには | 255 |
| 設定の種類を選択するには | 255 |
| 設定データを指定するには | 256 |
| インストールの準備が完了していることを確認するには | 257 |
| ソフトウェアをインストールするには | 257 |
| コンポーネントの追加 | 258 |
| 次の手順 | 258 |
| 第9章 サイレントモードでのインストール | 259 |
| サイレントインストール処理 | 259 |
| 状態ファイルの作成 | 260 |
| 状態ファイルの生成 | 261 |

| | |
|---|------------|
| 状態ファイルの編集 | 261 |
| 状態ファイルの編集のガイドライン | 261 |
| ローカルパラメータの編集 | 262 |
| プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成 | 264 |
| インストーラを使用して状態ファイル ID を生成するには | 264 |
| プラットフォーム固有の配布ファイルを使用して状態ファイル ID を生成するには | 265 |
| サイレントモードでのインストーラの実行 | 266 |
| サイレントモードでインストーラを実行するには | 266 |
| サイレントインストールの進行状況を監視するには | 267 |
| 次の手順 | 268 |
| | |
| 第 10 章 インストール後のコンポーネントの設定 | 269 |
| 前提条件 | 269 |
| パッケージのインストールの確認 | 270 |
| MANPATH の設定 | 270 |
| MANPATH 変数を更新するには | 271 |
| Sun Cluster のインストール後の設定の概要 | 272 |
| Sun Cluster フレームワークの設定 | 273 |
| Sun Cluster フレームワークを設定するには | 273 |
| 「今すぐ設定」オプション: 手順 | 274 |
| 「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定 | 274 |
| Directory Server にすでにユーザーデータがプロビジョニングされている場合 | 275 |
| Directory Server にまだユーザーデータがプロビジョニングされていない場合 | 275 |
| 参照整合性検査プラグインの有効化 | 275 |
| Directory Server に Access Manager インデックスを追加するには | 276 |
| 「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定 | 277 |
| 「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定 | 278 |
| 「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server | |
| Secure Remote Access の設定 | 278 |
| Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal | |
| Server および Portal Server Secure Remote Access の設定 | 279 |
| サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール | |
| 後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定 | 279 |
| 「あとで設定」オプション: 手順 | 280 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定 | 281 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の管理サーバーの設定 | 282 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に管理サーバーを設定するには | 282 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定 | 283 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Application Server を設定するには | 283 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Calendar Server の設定 | 285 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Calendar Server を設定するには | 285 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Communications Express の設定 | 286 |

| | |
|---|-----|
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Communications Express を設定するには | 286 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Proxy Server の設定 | 287 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Directory Proxy Server を設定するには | 287 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定 | 288 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Directory Server を設定するには | 288 |
| 64 ビット Solaris SPARC プラットフォームで Directory Server が 32 ビットモードで稼働するように設定するには | 289 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の HADB の設定 | 289 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Instant Messaging の設定 | 290 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定 | 290 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定 | 290 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Messaging Server を設定するには | 290 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定 | 292 |
| Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定 | 292 |
| Application Server または Web Server 上で「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Portal Server を設定するには | 292 |
| サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定 | 293 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に BEA WebLogic Server または Web Sphere Application Server 上の Portal Server を設定するには | 293 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Cluster の設定 | 294 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Cluster エージェントの設定 | 294 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Remote Services Net Connect の設定 | 294 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定 | 295 |
| 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Web Server を設定するには | 295 |
| Sun Cluster データサービスの設定 | 295 |
| 管理サーバーデータサービス | 296 |
| Calendar Server データサービス | 296 |
| Directory Server データサービス | 297 |
| Message Queue データサービス | 297 |
| Messaging Server データサービス | 298 |
| Web Server データサービス | 298 |
| フェイルオーバーのための Web Server データサービス | 298 |
| スケーラビリティのための Web Server データサービス | 298 |
| その他の製品用のデータサービス | 299 |
| ルート以外の ID によるコンポーネントの設定 | 299 |
| ルート以外の ID による Access Manager の設定 | 300 |
| ルート以外の ID による 管理サーバー の設定 | 300 |

| | |
|--|------------|
| ルート以外の ID による Application Server の設定 | 300 |
| ルート以外の ID による Calendar Server の設定 | 301 |
| ルート以外の ID による Directory Proxy Server の設定 | 301 |
| ルート以外の ID による Directory Server の設定 | 301 |
| ルート以外の ID による Messaging Server の設定 | 302 |
| ルート以外の ID による Portal Server の設定 | 302 |
| ルート以外の ID による Web Server の設定 | 302 |
| 次の手順 | 302 |
| | |
| 第 11 章 コンポーネントの起動と停止 | 303 |
| 前提条件 | 304 |
| Java ES コンポーネントの起動シーケンス | 304 |
| Access Manager の起動と停止 | 306 |
| Access Manager の起動 | 306 |
| Access Manager のログインページへのアクセス | 306 |
| Access Manager の停止 | 306 |
| 管理サーバーとサーバーコンソールの起動と停止 | 307 |
| 管理サーバーの起動 | 307 |
| Console Server の起動 | 307 |
| サーバーコンソールの停止 | 308 |
| 管理サーバーの停止 | 308 |
| Application Server の起動と停止 | 309 |
| Application Server インスタンスの起動 | 309 |
| 管理コンソールへのアクセス | 310 |
| Application Server の停止 | 310 |
| Calendar Server の起動と停止 | 311 |
| Calendar Server の起動 | 311 |
| Calendar Server のグラフィカルインタフェースへのアクセス | 311 |
| Calendar Server の停止 | 311 |
| Communications Express の起動と停止 | 312 |
| Directory Proxy Server の起動と停止 | 312 |
| Directory Proxy Server の起動 | 312 |
| Directory Proxy Server の停止 | 313 |
| Directory Server の起動と停止 | 313 |
| Directory Server の起動 | 313 |
| Directory Server の停止 | 314 |
| Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動と停止 | 314 |
| Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動 | 314 |
| Instant Messaging の停止 | 315 |
| Message Queue の起動 | 316 |
| Message Queue Message Server ブローカの起動 | 316 |
| Messaging Server の起動と停止 | 316 |
| Messaging Server の起動 | 316 |

| | |
|--|------------|
| Messaging Server の停止 | 317 |
| Messenger Express へのアクセス | 317 |
| Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| Sun Web コンテナから Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| BEA WebLogic から Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| IBM WebSphere から Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| Portal Server Secure Remote Access の起動と停止 | 319 |
| Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの起動 | 319 |
| Portal Server Secure Remote Access の停止 | 319 |
| Sun Cluster ソフトウェアの停止と再起動 | 320 |
| Sun Remote Services Net Connect の起動と停止 | 320 |
| Web Server の起動と停止 | 320 |
| Web Server Administration Server とインスタンスの起動 | 320 |
| 管理サーバーのグラフィカルインタフェースへのアクセス | 321 |
| Web Server Administration Server とインスタンスの停止 | 321 |
| 次の手順 | 322 |
| | |
| 第 12 章 コンポーネントのアンインストール | 323 |
| 前提条件 | 323 |
| アンインストーラのしくみ | 325 |
| 全般的な動作 | 325 |
| 相互依存関係の処理 | 326 |
| リモートホストからのコンポーネント依存関係 | 327 |
| 設定によるコンポーネントの依存関係 | 327 |
| アンインストールの計画 | 328 |
| インストール済み Java ES ソフトウェアの調査 | 328 |
| アンインストーラによるインストール済みソフトウェアの表示 | 328 |
| Solaris の prodfreg ユーティリティによるインストール済みソフトウェアの表示 | 329 |
| Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認 | 329 |
| Access Manager のアンインストール動作 | 330 |
| 管理サーバーのアンインストール動作 | 331 |
| Application Server のアンインストール動作 | 331 |
| Calendar Server のアンインストール動作 | 332 |
| Communications Express のアンインストール動作 | 334 |
| Directory Server のアンインストール動作 | 335 |
| Directory Proxy Server のアンインストール動作 | 336 |
| Instant Messaging のアンインストール動作 | 337 |
| Messaging Server のアンインストール動作 | 337 |
| Message Queue のアンインストール動作 | 338 |
| Portal Server のアンインストール動作 | 340 |
| Portal Server Secure Remote Access のアンインストール動作 | 341 |
| Sun Cluster のアンインストール動作 | 342 |
| Web Server のアンインストール動作 | 343 |

| | |
|---------------------------------------|------------|
| アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与 | 344 |
| アンインストーラの実行 | 345 |
| グラフィカルモードでのアンインストーラの実行 | 346 |
| グラフィカルアンインストーラの起動 | 346 |
| アンインストールするコンポーネントの選択 | 346 |
| 管理者アクセス権の付与 | 347 |
| アンインストールの準備完了の確認 | 347 |
| アンインストールセッションの完了 | 348 |
| テキストベースモードでのアンインストーラの実行 | 348 |
| テキストベースモードでのアンインストーラの起動 | 349 |
| アンインストールするコンポーネントの選択 | 349 |
| 管理者アクセス権の付与 | 349 |
| アンインストールの準備完了の確認 | 350 |
| アンインストールセッションの完了 | 350 |
| サイレントモードでのアンインストーラの実行 | 351 |
| 状態ファイルの生成 | 351 |
| ホストに合わせた状態ファイルの編集 | 351 |
| サイレントモードでのアンインストーラの実行 | 352 |
| サイレントアンインストールの進行状況の監視 | 352 |
| Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール | 353 |
| アンインストール後の作業 | 353 |
| Access Manager 関連のアンインストール後の作業 | 354 |
| Application Server アンインストール後の作業 | 354 |
| Web Server アンインストール後の作業 | 354 |
| Access Manager アンインストール後の作業 | 354 |
| Messaging Server アンインストール後の作業 | 355 |
| | |
| 第 13 章 トラブルシューティング | 357 |
| トラブルシューティングの手法 | 357 |
| インストールログファイルの検証 | 358 |
| コンポーネントログファイルの検証 | 359 |
| 製品の依存関係の検証 | 359 |
| リソースと設定のチェック | 360 |
| インストール後の設定のチェック | 360 |
| 配布メディアのチェック | 361 |
| Directory Server の接続性チェック | 361 |
| Web Server のファイルおよびディレクトリの削除 | 361 |
| パスワードの確認 | 362 |
| コンポーネントのインストール状態の検証 | 362 |
| 管理者アクセスの確認 | 362 |
| インストールに関する問題 | 363 |
| アンインストール時に残されたファイルによるインストールの失敗 | 363 |
| 部分的なインストールのクリーンアップ | 363 |

| | |
|--|-----|
| IBM WebSphere を Portal Server の Web コンテナとして設定できない | 364 |
| 設定のチェック | 364 |
| 新しいインスタンスの作成 | 365 |
| 予期せぬ外部エラーが発生する | 365 |
| グラフィカルインストーラが応答しない | 366 |
| サイレントインストールの失敗：状態ファイルに互換性がない、または破損している | 366 |
| 新しい状態ファイルの生成 | 366 |
| プラットフォームに適した新規 ID の作成 | 366 |
| サイレントインストールに失敗した | 367 |
| マニュアルページが表示されない | 367 |
| アンインストールに関する問題 | 367 |
| アンインストーラが見つからない | 368 |
| アンインストールが失敗し、ファイルが削除されずに残った | 368 |
| 手動でのパッケージのクリーンアップ | 368 |
| 製品レジストリが破損している | 370 |
| Common Agent Container の問題 | 370 |
| ポート番号の競合 | 370 |
| ルートパスワードの安全性が危惧される場合 | 372 |
| ロックファイルに関するエラー通知 | 373 |
| コンポーネントのトラブルシューティングのためのヒント | 374 |
| Access Manager のトラブルシューティングツール | 375 |
| 管理サーバーのトラブルシューティングツール | 375 |
| Application Server のトラブルシューティングツール | 376 |
| Calendar Server のトラブルシューティングツール | 376 |
| Communications Express のトラブルシューティングツール | 377 |
| Directory Proxy Server のトラブルシューティングツール | 378 |
| Directory Server のトラブルシューティングツール | 378 |
| Instant Messaging のトラブルシューティングツール | 379 |
| Message Queue のトラブルシューティングツール | 379 |
| Messaging Server のトラブルシューティングツール | 379 |
| Portal Server のトラブルシューティングツール | 380 |
| Portal Server Secure Remote Access のトラブルシューティングツール | 380 |
| Sun Cluster ソフトウェアのトラブルシューティングツール | 381 |
| Sun Remote Services Net Connect のトラブルシューティングツール | 381 |
| Web Server のトラブルシューティングツール | 382 |
| トラブルシューティングの追加情報 | 383 |

第 III 部 インストールリファレンス 385

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 付録 A Java Enterprise System コンポーネント | 387 |
| 選択可能なコンポーネント | 387 |

| | |
|--|------------|
| 共有コンポーネント | 389 |
| 付録 B デフォルトのインストールディレクトリ | 391 |
| 付録 C デフォルトのポート番号 | 395 |
| 付録 D インストールコマンド | 399 |
| インストーラコマンド | 399 |
| uninstall コマンド | 401 |
| 付録 E 状態ファイルの例 | 403 |
| 付録 F インストール可能なパッケージの一覧 | 413 |
| Solaris パッケージ | 413 |
| Solaris OS 用アンインストールパッケージ | 413 |
| コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ | 414 |
| Access ManagerSolaris パッケージ | 414 |
| 管理サーバーの Solaris パッケージ | 415 |
| Application Server の Solaris パッケージ | 415 |
| Calendar Server の Solaris パッケージ | 415 |
| Communications Express の Solaris パッケージ | 416 |
| Directory Server の Solaris パッケージ | 416 |
| Directory Proxy Server の Solaris パッケージ | 416 |
| HADB の Solaris パッケージ | 416 |
| Instant Messaging の Solaris パッケージ | 417 |
| Message Queue の Solaris パッケージ | 417 |
| Messaging Server の Solaris パッケージ | 417 |
| Portal Server の Solaris パッケージ | 418 |
| Portal Server Secure Remote Access の Solaris パッケージ | 418 |
| Sun Cluster ソフトウェアとエージェントの Solaris パッケージ | 419 |
| Sun Remote Services Net Connect の Solaris パッケージ | 420 |
| Web Server の Solaris パッケージ | 420 |
| 共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ | 420 |
| コンポーネント用のローカライズされた Solaris パッケージ | 422 |
| 簡体字中国語の Solaris パッケージ | 423 |
| 繁体字中国語の Solaris パッケージ | 424 |
| フランス語の Solaris パッケージ | 425 |
| ドイツ語の Solaris パッケージ | 427 |
| 日本語の Solaris パッケージ | 428 |
| 韓国語の Solaris パッケージ | 429 |
| スペイン語の Solaris パッケージ | 431 |

| | |
|--|------------|
| Linux パッケージ | 432 |
| Linux 用アンインストールパッケージ | 432 |
| コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ | 432 |
| Access ManagerLinux パッケージ | 433 |
| 管理サーバーの Linux パッケージ | 433 |
| Application Server の Linux パッケージ | 434 |
| Calendar Server の Linux パッケージ | 434 |
| Communications Express の Linux パッケージ | 434 |
| Directory Server の Linux パッケージ | 435 |
| Directory Proxy Server の Linux パッケージ | 435 |
| HADB の Linux パッケージ | 435 |
| Instant Messaging の Linux パッケージ | 435 |
| Message Queue の Linux パッケージ | 436 |
| Messaging Server の Linux パッケージ | 436 |
| Portal Server の Linux パッケージ | 437 |
| Portal Server Secure Remote Access の Linux パッケージ | 438 |
| Web Server の Linux パッケージ | 439 |
| 共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ | 439 |
| コンポーネント用のローカライズされた Linux パッケージ | 441 |
| 簡体字中国語の Linux パッケージ | 441 |
| 繁体字中国語の Linux パッケージ | 444 |
| フランス語の Linux パッケージ | 447 |
| ドイツ語の Linux パッケージ | 449 |
| 日本語の Linux パッケージ | 451 |
| 韓国語の Linux パッケージ | 453 |
| スペイン語の Linux パッケージ | 455 |
| | |
| 用語集 | 457 |
| | |
| 索引 | 459 |

表目次

| | | |
|--------|---|-----|
| 表 1 | 表記上の規則 | 28 |
| 表 2 | 記号の表記規則 | 29 |
| 表 3 | シェルプロンプト | 30 |
| 表 4 | Java Enterprise System ドキュメント | 31 |
| 表 1-1 | インストール計画のタスク | 43 |
| 表 2-1 | 考慮する必要があるインストールの問題 | 50 |
| 表 2-2 | コンポーネント間の依存性 | 53 |
| 表 2-3 | インストール時に設定可能なコンポーネント | 58 |
| 表 3-1 | Access Manager のインストール情報 | 74 |
| 表 3-2 | Portal Server のインストール情報 | 75 |
| 表 3-3 | Application Server のインストール情報 | 76 |
| 表 3-4 | Directory Server のインストール情報 | 78 |
| 表 3-5 | Directory Proxy Server のインストール情報 | 80 |
| 表 3-6 | Instant Messaging のインストール情報 | 82 |
| 表 3-7 | Message Queue のインストール情報 | 83 |
| 表 3-8 | Portal Server Secure Remote Access のインストール情報 | 86 |
| 表 3-9 | Web Server のインストール情報 | 87 |
| 表 3-10 | Sun Cluster のインストール情報 | 94 |
| 表 3-11 | Calendar Server のインストール情報 | 98 |
| 表 3-12 | Messaging Server のインストール情報 | 99 |
| 表 4-1 | 共通サーバー設定 | 122 |
| 表 4-2 | Access Manager のサブコンポーネントのインストールに必要な情報 | 123 |
| 表 4-3 | Access Manager の管理に関する設定情報 | 124 |
| 表 4-4 | Access Manager と Web Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 | 126 |
| 表 4-5 | Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 | 127 |
| 表 4-6 | Access Manager コアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報 | 130 |

| | | |
|--------|--|-----|
| 表 4-7 | Access Manager コンソールのみをインストールするためのサービス情報 (コアがすでにインストールされている場合) | 132 |
| 表 4-8 | Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合) | 133 |
| 表 4-9 | Access Manager 連携管理をインストールするためのサービス情報 (コアがすでにインストールされている場合) | 135 |
| 表 4-10 | Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報 | 135 |
| 表 4-11 | Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報 | 136 |
| 表 4-12 | Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報 | 137 |
| 表 4-13 | Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 | 139 |
| 表 4-14 | Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報 | 140 |
| 表 4-15 | Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報 | 142 |
| 表 4-16 | Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報 | 142 |
| 表 4-17 | Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報 | 144 |
| 表 4-18 | 管理サーバーの管理に関する設定情報 | 145 |
| 表 4-19 | 管理サーバーの設定用ディレクトリの設定情報 | 146 |
| 表 4-20 | Application Server の管理に関する設定情報 | 148 |
| 表 4-21 | Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報 | 149 |
| 表 4-22 | Application Server のインストール時に必要となるロードバランスプラグインに関する設定情報 | 150 |
| 表 4-23 | Directory Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 | 151 |
| 表 4-24 | Directory Server のインストール時に必要となるサーバーに関する設定情報 | 151 |
| 表 4-25 | Directory Server のインストール時に必要となる設定用 Directory Server に関する設定情報 | 153 |
| 表 4-26 | Directory Server のインストール時に必要となるデータ格納場所に関する設定情報 | 155 |
| 表 4-27 | Directory Server のインストール時に必要となるデータ取り込みに関する設定情報 | 156 |
| 表 4-28 | Directory Proxy Server のインストール時に必要となるポート選択に関する設定情報 | 158 |
| 表 4-29 | Directory Proxy Server のインストール時に必要となるサーバールートに関する設定情報 | 158 |
| 表 4-30 | Portal Server のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報 | 159 |
| 表 4-31 | Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 | 159 |
| 表 4-32 | Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 | 160 |
| 表 4-33 | Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 | 162 |
| 表 4-34 | Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 | 164 |

| | | |
|--------|---|-----|
| 表 4-35 | Portal Server のインストール時に必要となるポータルに関する設定情報 (すべてのケース) | 165 |
| 表 4-36 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる情報 | 167 |
| 表 4-37 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報 | 168 |
| 表 4-38 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報 | 169 |
| 表 4-39 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報 | 169 |
| 表 4-40 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報 | 170 |
| 表 4-41 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報 | 170 |
| 表 4-42 | Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Sun Java System Application Server または BEA WebLogic Server に関する設定情報 | 171 |
| 表 4-43 | Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報 | 172 |
| 表 4-44 | Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Access Manager の設定情報 | 172 |
| 表 4-45 | Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報 | 173 |
| 表 4-46 | Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報 | 174 |
| 表 4-47 | Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報 | 175 |
| 表 4-48 | Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報 | 176 |
| 表 4-49 | Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報 | 176 |
| 表 4-50 | Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報 | 177 |
| 表 4-51 | Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報 | 179 |
| 表 4-52 | Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報 | 180 |
| 表 4-53 | Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報 | 181 |
| 表 4-54 | Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報 | 182 |
| 表 4-55 | Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報 | 184 |
| 表 4-56 | Web Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 | 185 |
| 表 4-57 | Web Server のインストール時に必要となるデフォルト Web Server インスタンスに関する設定情報 | 186 |
| 表 4-58 | 状態ファイルのパラメータ | 187 |

| | | |
|---------|--|-----|
| 表 5-1 | Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート | 192 |
| 表 5-2 | Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート | 196 |
| 表 5-3 | 管理サーバーの設定用ワークシート | 199 |
| 表 5-4 | Application Server の設定用ワークシート | 200 |
| 表 5-5 | Directory Server の設定用ワークシート | 202 |
| 表 5-6 | Directory Proxy Server の設定用ワークシート | 205 |
| 表 5-7 | Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート | 206 |
| 表 5-8 | Web Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート | 208 |
| 表 5-9 | BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート | 209 |
| 表 5-10 | IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート | 211 |
| 表 5-11 | Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート | 213 |
| 表 5-12 | Web Server の設定用ワークシート | 218 |
| 表 6-1 | インストール前のチェックリスト | 223 |
| 表 6-2 | Solaris SPARC の配布内容 | 227 |
| 表 6-3 | Solaris x86 の配布内容 | 229 |
| 表 6-4 | Linux の配布内容 | 230 |
| 表 7-1 | システムチェックの結果 | 240 |
| 表 8-1 | テキストベースインストーラのプロンプトに対する応答 | 250 |
| 表 9-1 | サイレントインストールのイベント | 260 |
| 表 9-2 | 編集する状態ファイルのパラメータ | 263 |
| 表 9-3 | プラットフォーム別の状態ファイル ID | 266 |
| 表 10-1 | マニュアルページのデフォルトの場所 | 270 |
| 表 10-2 | Application Server のプロパティ | 283 |
| 表 10-3 | quickstart.tcl スクリプトの引数 | 287 |
| 表 11-1 | Java ES の推奨起動シーケンス | 304 |
| 表 12-1 | アンインストール前のチェックリスト | 324 |
| 表 12-2 | Access Manager アンインストールの詳細 | 330 |
| 表 12-3 | 管理サーバーのアンインストールの詳細 | 331 |
| 表 12-4 | Application Server のアンインストールの詳細 | 331 |
| 表 12-5 | Calendar Server のアンインストールの詳細 | 332 |
| 表 12-6 | Communications Express のアンインストールの詳細 | 334 |
| 表 12-7 | Directory Server のアンインストールの詳細 | 335 |
| 表 12-8 | Directory Proxy Server のアンインストールの詳細 | 336 |
| 表 12-9 | Instant Messaging のアンインストールの詳細 | 337 |
| 表 12-10 | Messaging Server のアンインストールの詳細 | 337 |
| 表 12-11 | Message Queue のアンインストールに関する詳細 | 338 |
| 表 12-12 | Portal Server のアンインストールの詳細 | 340 |

| | | |
|---------|---|-----|
| 表 12-13 | Portal Server Secure Remote Access のアンインストールに関する詳細 | 341 |
| 表 12-14 | Sun Cluster ソフトウェアのアンインストールの詳細 | 342 |
| 表 12-15 | Web Server のアンインストールの詳細 | 343 |
| 表 12-16 | 必要な管理情報 | 344 |
| 表 13-1 | Java ES ログファイル名の形式 | 358 |
| 表 13-2 | Access Manager のトラブルシューティングツール | 375 |
| 表 13-3 | 管理サーバーのトラブルシューティングツール | 375 |
| 表 13-4 | Application Server のトラブルシューティングツール | 376 |
| 表 13-5 | Calendar Server のトラブルシューティングツール | 376 |
| 表 13-6 | Communications Express のトラブルシューティングツール | 377 |
| 表 13-7 | Directory Proxy Server のトラブルシューティングツール | 378 |
| 表 13-8 | Directory Server のトラブルシューティングツール | 378 |
| 表 13-9 | Messaging Queue のトラブルシューティングツール | 379 |
| 表 13-10 | Messaging Server のトラブルシューティングツール | 379 |
| 表 13-11 | Sun Cluster ソフトウェアのトラブルシューティングツール | 381 |
| 表 13-12 | Web Server のトラブルシューティングツール | 382 |
| 表 B-1 | デフォルトのインストールディレクトリ | 391 |
| 表 C-1 | コンポーネントのデフォルトポート番号 | 395 |
| 表 D-1 | Java ES インストーラのコマンド行オプション | 399 |
| 表 D-2 | Java ES uninstall のコマンド行オプション | 401 |
| 表 F-1 | Solaris 用アンインストールパッケージ | 413 |
| 表 F-2 | Access Manager Solaris OS 用パッケージ | 414 |
| 表 F-3 | Solaris OS 用管理サーバーパッケージ | 415 |
| 表 F-4 | Solaris OS 用 Application Server パッケージ | 415 |
| 表 F-5 | Solaris OS 用 Calendar Server パッケージ | 415 |
| 表 F-6 | Solaris OS 用 Communications Express パッケージ | 416 |
| 表 F-7 | Solaris OS 用 Directory Server パッケージ | 416 |
| 表 F-8 | Solaris OS 用 Directory Proxy Server パッケージ | 416 |
| 表 F-9 | Solaris OS 用 HADB パッケージ | 416 |
| 表 F-10 | Solaris OS 用 Instant Messaging パッケージ | 417 |
| 表 F-11 | Solaris OS 用 Message Queue パッケージ | 417 |
| 表 F-12 | Solaris OS 用 Messaging Server パッケージ | 417 |
| 表 F-13 | Solaris OS 用 Portal Server パッケージ | 418 |
| 表 F-14 | Solaris OS 用 Portal Server SRA パッケージ | 418 |
| 表 F-15 | Solaris OS 用 Sun Cluster ソフトウェアのパッケージ | 419 |
| 表 F-16 | Solaris OS 用の Sun Java System 用 Sun Cluster エージェントパッケージ | 419 |
| 表 F-17 | Solaris OS 用 Sun Remote Services Net Connect パッケージ | 420 |

| | | |
|--------|---|-----|
| 表 F-18 | Solaris OS 用 Web Server パッケージ | 420 |
| 表 F-19 | Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ | 420 |
| 表 F-20 | パッケージ名に含まれる言語略号 | 423 |
| 表 F-21 | 簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ | 423 |
| 表 F-22 | 繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ | 424 |
| 表 F-23 | フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ | 425 |
| 表 F-24 | ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ | 427 |
| 表 F-25 | 日本語にローカライズされた Solaris パッケージ | 428 |
| 表 F-26 | 韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ | 429 |
| 表 F-27 | スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ | 431 |
| 表 F-28 | Linux 用アンインストールパッケージ | 432 |
| 表 F-29 | Access Manager Linux 用パッケージ | 433 |
| 表 F-30 | Linux 用管理サーバーパッケージ | 433 |
| 表 F-31 | Linux 用 Application Server パッケージ | 434 |
| 表 F-32 | Linux 用 Calendar Server パッケージ | 434 |
| 表 F-33 | Linux 用 Communications Express パッケージ | 434 |
| 表 F-34 | Linux 用 Directory Server パッケージ | 435 |
| 表 F-35 | Linux 用 Directory Proxy Server パッケージ | 435 |
| 表 F-36 | Linux 用 HADB パッケージ | 435 |
| 表 F-37 | Linux 用 Instant Messaging の Linux パッケージ | 435 |
| 表 F-38 | Linux 用 Message Queue パッケージ | 436 |
| 表 F-39 | Linux 用 Messaging Server パッケージ | 436 |
| 表 F-40 | Linux 用 Portal Server パッケージ | 437 |
| 表 F-41 | Linux 用 Portal Server SRA パッケージ | 438 |
| 表 F-42 | Linux 用 Web Server パッケージ | 439 |
| 表 F-43 | Linux 用共有コンポーネントパッケージ | 439 |
| 表 F-44 | 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ | 441 |
| 表 F-45 | 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ | 444 |
| 表 F-46 | フランス語にローカライズされた Linux パッケージ | 447 |
| 表 F-47 | ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ | 449 |
| 表 F-48 | 日本語にローカライズされた Linux パッケージ | 451 |
| 表 F-49 | 韓国語にローカライズされた Linux パッケージ | 453 |
| 表 F-50 | スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ | 455 |

手順一覧

| | |
|---|-----|
| グラフィカルインストーラをローカルディスプレイにアクセスさせるには | 64 |
| アップグレードに関する問題の確認のためにインストーラを使用するには | 64 |
| ネットワーク上にイメージを作成するには | 231 |
| インストールを開始するには | 234 |
| コンポーネントの言語を選択するには | 235 |
| コンポーネントを選択するには | 235 |
| 依存性と互換性の問題を解決するには | 238 |
| インストールディレクトリを指定し、システムチェックを開始するには | 239 |
| 設定の種類を指定するには | 242 |
| 共通サーバー設定を指定するには | 242 |
| 選択したコンポーネントの設定を指定するには | 243 |
| インストールの準備が完了していることを確認するには | 245 |
| 製品を登録し、ソフトウェアのインストールを開始するには | 245 |
| インストールセッションを終了するには | 246 |
| インストールを開始するには | 251 |
| インストールの言語を選択するには | 252 |
| コンポーネントを選択するには | 252 |
| 共有コンポーネントをアップグレードするには | 254 |
| インストールディレクトリを指定し、システムチェックを開始するには | 255 |
| 設定の種類を選択するには | 255 |
| 設定データを指定するには | 256 |
| インストールの準備が完了していることを確認するには | 257 |
| ソフトウェアをインストールするには | 257 |
| インストーラを使用して状態ファイル ID を生成するには | 264 |
| プラットフォーム固有の配布ファイルを使用して状態ファイル ID を生成するには | 265 |
| サイレントモードでインストーラを実行するには | 266 |
| サイレントインストールの進行状況を監視するには | 267 |
| MANPATH 変数を更新するには | 271 |
| Sun Cluster フレームワークを設定するには | 273 |
| 参照整合性検査プラグインの有効化 | 275 |
| Directory Server に Access Manager インデックスを追加するには | 276 |

| | |
|---|-----|
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に管理サーバーを設定するには | 282 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Application Server を設定するには | 283 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Calendar Server を設定するには | 285 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Communications Express を設定するには | 286 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Directory Proxy Server を設定するには | 287 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Directory Server を設定するには | 288 |
| 64 ビット Solaris SPARC プラットフォームで Directory Server が 32 ビットモードで稼働する ように設定するには | 289 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Messaging Server を設定するには | 290 |
| Application Server または Web Server 上で「あとで設定」設定オプションでのインストール 後に Portal Server を設定するには | 292 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に BEA WebLogic Server または Web Sphere Application Server 上の Portal Server を設定するには | 293 |
| 「あとで設定」 設定オプションでのインストール後に Web Server を設定するには | 295 |
| Access Manager の起動 | 306 |
| Access Manager のログインページへのアクセス | 306 |
| Access Manager の停止 | 306 |
| 管理サーバーの起動 | 307 |
| Console Server の起動 | 307 |
| サーバーコンソールの停止 | 308 |
| 管理サーバーの停止 | 308 |
| Application Server インスタンスの起動 | 309 |
| 管理コンソールへのアクセス | 310 |
| Application Server の停止 | 310 |
| Calendar Server の起動 | 311 |
| Calendar Server のグラフィカルインタフェースへのアクセス | 311 |
| Calendar Server の停止 | 311 |
| Directory Proxy Server の起動 | 312 |
| Directory Proxy Server の停止 | 313 |
| Directory Server の起動 | 313 |
| Directory Server の停止 | 314 |
| Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動 | 314 |
| Instant Messaging の停止 | 315 |
| Message Queue Message Server ブローカの起動 | 316 |
| Messaging Server の起動 | 316 |
| Messaging Server の停止 | 317 |
| Messenger Express へのアクセス | 317 |
| Sun Web コンテナから Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| BEA WebLogic から Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| IBM WebSphere から Portal Server デスクトップへのアクセス | 318 |
| Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの起動 | 319 |
| Portal Server Secure Remote Access の停止 | 319 |
| Web Server Administration Server とインスタンスの起動 | 320 |
| 管理サーバーのグラフィカルインタフェースへのアクセス | 321 |

| | |
|---|-----|
| Web Server Administration Server とインスタンスの停止 | 321 |
| アンインストーラによるインストール済みソフトウェアの表示 | 328 |
| Solaris の prodreg ユーティリティによるインストール済みソフトウェアの表示 | 329 |
| グラフィカルアンインストーラの起動 | 346 |
| アンインストールするコンポーネントの選択 | 346 |
| 管理者アクセス権の付与 | 347 |
| アンインストールの準備完了の確認 | 347 |
| アンインストールセッションの完了 | 348 |
| テキストベースモードでのアンインストーラの起動 | 349 |
| アンインストールするコンポーネントの選択 | 349 |
| 管理者アクセス権の付与 | 349 |
| アンインストールの準備完了の確認 | 350 |
| アンインストールセッションの完了 | 350 |
| 状態ファイルの生成 | 351 |
| ホストに合わせた状態ファイルの編集 | 351 |
| サイレントモードでのアンインストーラの実行 | 352 |
| サイレントインストールの進行状況の監視 | 352 |
| 部分的なインストールのクリーンアップ | 363 |
| 手動でのパッケージのクリーンアップ | 368 |

はじめに

『Java Enterprise System インストールガイド』には、Sun Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) または Linux オペレーティング環境で Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアをインストールするために必要な情報が記載されています。

この章で説明する項目は次のとおりです。

- 27 ページの「対象読者」
- 28 ページの「このマニュアルの構成」
- 28 ページの「このマニュアルで使用する表記規則」
- 30 ページの「関連マニュアル」
- 32 ページの「オンライン上の Sun リソースへのアクセス」
- 33 ページの「Sun のテクニカルサポートへの問い合わせ」
- 33 ページの「関連するサードパーティの Web サイト」
- 33 ページの「ご意見、ご要望の送付先」

対象読者

このマニュアルに記載される内容は、Java ES ソフトウェアをインストールする評価担当者、システム管理者、およびソフトウェア技術者を対象としています。このマニュアルは、次の事項に習熟している方を対象に記述されています。

- エンタープライズレベルのソフトウェア製品のインストール
- サポートする Java ES プラットフォーム上のシステム管理とネットワークング
- クラスタリングモデル (クラスタリングソフトウェアをインストールする場合)
- インターネットと World Wide Web

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次の2つの部から構成されます。

- **第I部「インストール計画」**

第I部は、Java ES ソフトウェアのインストールの準備に必要なタスクについて説明します。ここでは、配備ドキュメントの確認、インストールシーケンスの作成、インストール時に必要な設定情報の収集について説明します。数多くのインストールシーケンスの例が提供されます。

- **第II部「インストールと設定」**

第II部は、Java ES ソフトウェアをインストールする手順について説明します。ここでは、グラフィカルインストール、テキストベースのインストール、またはサイレントインストールの手順、インストール後の設定作業、コンポーネントの起動と停止、Java ES ソフトウェアのアンインストール、およびインストールまたはアンインストール時に発生する問題のトラブルシューティングについて説明します。

- **第III部「インストールリファレンス」**

第III部は、Java ES インストールに使用する参照データについて説明します。ここで説明する参照データには、Java ES コンポーネントの一覧、インストールディレクトリ、ポート番号、インストールコマンド、パッケージ、および状態ファイルの例があります。

このマニュアルで使用する表記規則

次の表で、このマニュアルで使用する表記規則について説明します。

表記上の規則

次の表は、このマニュアルで使用される文字表記の規則を示しています。

表 1 表記上の規則

| 表記 | 意味 | 例 |
|-----------------------|--|--|
| AaBbCc123 (モノスペース) | API および言語の要素、HTML タグ、Web サイトの URL、コマンド名、ファイル名、ディレクトリパス名、画面出力の表示、サンプルコード。 | .login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail. |

表 1 表記上の規則 (続き)

| 表記 | 意味 | 例 |
|-----------------------------------|--|---|
| AaBbCc123 (太字のモノスペース) | 画面出力の表示に対し、ユーザーが入力する文字。 | % su Password: |
| <i>AaBbCc123</i> (イタリック) | マニュアル名、新規用語、語句を強調する場合。 実際の名前または値によって置き換えられるコマンドまたはパス名の変換部分。 | これらは <i>class</i> オプションと呼ばれます。 ファイルは <i>install-dir/bin</i> ディレクトリにあります。 |

記号

次の表は、このマニュアルで使用される記号の表記の規則を示しています。

表 2 記号の表記規則

| 記号 | 説明 | 例 | 意味 |
|-------|------------------------------------|----------------------|---|
| [] | 省略できるコマンドオプションを含みます。 | ls [-l] | -l オプションは省略可能です。 |
| { } | 必須コマンドオプションの選択肢を含みます。 | -d {y n} | -d オプションは、引数 y または n のいずれかを使用する必要があります。 |
| - | 同時に押すキーを連結します。 | Control-A | Control キーと A キーを同時に押します。 |
| + | 連続して押すキーを連結します。 | Ctrl+A+N | Control キーを押し、放してから、以後のキーを続けて押します。 |
| > | グラフィカルユーザーインタフェースで選択するメニュー項目を示します。 | 「ファイル」>「新規」>「テンプレート」 | 「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。 |

シェルプロンプト

次の表は、このマニュアルで使用されるシェルプロンプトを示しています。

表 3 シェルプロンプト

| シェル | プロンプト |
|--|-----------------------|
| UNIX または Linux の C Shell | <i>machine-name</i> % |
| UNIX または Linux の C Shell のスーパーユーザー | <i>machine-name</i> # |
| UNIX または Linux の Bourne Shell および Korn Shell | \$ |
| UNIX または Linux の Bourne Shell および Korn Shell のスーパーユーザー | # |

特定の UNIX Shell が指定されない場合、このマニュアルの例は、ほとんどの場合 C Shell で表示されます。

関連マニュアル

<http://docs.sun.com>SM Web サイトでは、Sun テクニカルマニュアルにオンラインでアクセスできます。特定のマニュアルのタイトルまたは件名のアーカイブを参照し、検索できます。

このドキュメントセット内のマニュアル

Java ES マニュアルは、PDF (Portable Document Format) 形式および HTML (Hypertext Markup Language) 形式のオンラインファイルとして用意されています。どちらの形式のファイルも、障害を持つユーザーにも参照可能です。SunTM のマニュアルには、次の Web サイトからアクセスできます。

<http://docs.sun.com>

Java ES マニュアルには、システム全体に関する情報とそのコンポーネントに関する情報が含まれます。このマニュアルには次の場所からアクセスできます。

<http://docs.sun.com/prod/entsys.05q1>

次の表は、Java ES ドキュメントセットに含まれる、システムレベルのマニュアルを示しています。左の列は各ドキュメントの名称とアクセスできる URL、右の列はドキュメントの簡単な説明を示しています。

表 4 Java Enterprise System ドキュメント

| マニュアル名 | 内容 |
|--|---|
| 『Sun Java Enterprise System リリースノート』 http://docs.sun.com/doc/819-0815?l=ja | 既知の問題など、Java Enterprise System に関する最新の情報が記載されています。これ以外に、コンポーネントごとにリリースノートがあります。 |
| 『Sun Java Enterprise System ドキュメントロードマップ』 http://docs.sun.com/doc/819-1912?l=ja | Java Enterprise System に関するマニュアルについて説明しています。ここから、コンポーネントに関連するマニュアルにリンクすることができます。 |
| 『Sun Java Enterprise System 技術の概要』 http://docs.sun.com/doc/819-1926?l=ja | Java Enterprise System の技術的および概念的な基礎について説明します。コンポーネント、アーキテクチャ、プロセス、および機能について説明しています。 |
| 『Sun Java Enterprise System 配備計画ガイド』 http://docs.sun.com/doc/819-1919?l=ja | Java Enterprise System に基づく企業配備ソリューションの計画および設計に関する情報を提供します。配備の計画および設計に関する基本的概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java Enterprise System に基づくソリューションを計画する際に使用する高度な例と戦略を提供します。 |
| 『Sun Java Enterprise System ユーザーの管理』 http://docs.sun.com/doc/819-2228?l=ja | Java Enterprise System ソリューションのユーザーに関する情報を計画、配備、および管理する上で役立ちます。Sun Java Enterprise System 配備計画ガイドを補完し、ソリューションのライフサイクルの各段階におけるユーザー管理の課題について説明します。 |
| 『Sun Java Enterprise System Deployment Example Series: Evaluation Scenario』 http://docs.sun.com/doc/819-0059 | 任意のシステムに Java Enterprise System をインストールし、共有され、ネットワーク化されたコアとなるサービスを確立し、確立したサービスにアクセス可能なユーザーアカウントを設定する方法について説明します。 |

表 4 Java Enterprise System ドキュメント (続き)

| マニュアル名 | 内容 |
|--|--|
| 『Sun Java Enterprise System インストールガイド』 http://docs.sun.com/doc/819-0808?l=ja | Solaris™ オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティングシステムに対する Java Enterprise System のインストールシーケンスについて説明します。インストールするコンポーネントを選択する方法、インストールしたコンポーネントを設定する方法、および設定したコンポーネントが正常に機能するかどうかを確認する方法について説明します。 |
| 『Sun Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja | Solaris™ オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティング環境における Java Enterprise System のアップグレードに必要な情報および手順について説明します。 |
| 『Sun Java Enterprise System 用語集』 http://docs.sun.com/doc/819-1933?l=ja | Java Enterprise System のドキュメントで使用される用語について説明します。 |

オンライン上の Sun リソースへのアクセス

製品のダウンロード、プロフェッショナルサービス、パッチとサポート、および開発者向け追加情報については、次のオンライン上のリソースにアクセスしてください。

- ダウンロードセンター
<http://www.sun.com/software/download/>
- プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>
- Sun Enterprise サービス、Solaris パッチ、およびサポート
<http://sunsolve.sun.com/>
- 開発者向け情報
<http://developers.sun.com/prodtech/index.html>

次の場所には、Java ES およびそのコンポーネントに関する情報が用意されています。

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.html>

Sun のテクニカルサポートへの問い合わせ

製品のドキュメントで解決できない、本製品に関する技術的な質問の問い合わせ先については、<http://www.sun.com/service/contacting> を参照してください。

関連するサードパーティの Web サイト

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆる内容、広告、製品、およびその他の資料を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または生じたと主張される、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

ご意見、ご要望の送付先

Sun ではマニュアルの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。

コメントをお送りになる場合は、<http://docs.sun.com/> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームで、マニュアルのタイトルと Part No. を入力してください。部品番号は、マニュアルのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。

ご意見、ご要望の送付先

インストール計画

第1章「インストール計画の概要」

第2章「インストールシーケンスの作成」

第3章「インストールシーケンスの例」

第4章「設定情報」

第5章「設定用ワークシート」

インストール計画の概要

Sun Java™ Enterprise System (Java ES) は、多くの Sun のサーバー側製品を 1 つのソフトウェアシステムに統合し、分散型のエンタープライズアプリケーションのサポートに必要なサーバーソフトウェアを提供します。これらの製品の複雑な相互依存関係のため、このインストールでは、単一製品のインストールに必要な計画よりもはるかに多くの計画が必要になります。

この章では、Java ES インストールの準備方法の概要について説明します。

インストールを計画する前に、まず配備を計画する必要があります。まだ配備計画を作成していない場合は、『Java Enterprise System 配備計画ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1919?l=ja>) を参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 37 ページの「Java ES インストーラのしくみ」
- 42 ページの「インストーラの動作がインストール計画に与える影響」
- 43 ページの「インストール計画のタスクの概要」
- 45 ページの「次の手順」

Java ES インストーラのしくみ

Java ES インストーラは、Solaris の pkgadd または Linux の rpm ユーティリティを使用して Java ES ソフトウェアをシステムに転送するインストールフレームワークです。Java ES ソフトウェアのすべてのコンポーネントは、この 1 つのインストーラを使用してインストールされます。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 38 ページの「インストーラのモード」
- 38 ページの「言語の選択」

- 39 ページの「既存のコンポーネントのチェック」
- 40 ページの「依存性の確認」
- 41 ページの「設定オプションとパラメータの設定」
- 41 ページの「アンインストーラ」

インストーラのモード

Java ES のインストールは、対話的に実行することも、再利用可能なスクリプトを使用して実行することもできます。

- **対話的なグラフィカルインタフェース**：グラフィカルワークステーション上で、Java ES ソフトウェアのインストールタスクを順に示す対話的なグラフィカルウィザードを提供します。
- **対話的なテキストベースインタフェース**：グラフィカルモードと同じ機能を提供しますが、端末ウィンドウのコマンド行で 1 行ごとに応答が求められます。
- **サイレントモード**：入力を指定するために生成した状態ファイルを使用して、複数のホスト上でインストーラを実行するオプションを提供します。

ヒント ソフトウェアをインストールせずに Java ES インストーラを実行することができます。これは、サイレントインストール用の状態ファイルを作成したり、既存のホスト上の Java ES ソフトウェアを調査したりする場合に便利です。

言語の選択

対話式インストーラは、オペレーティングシステムのロケール設定で指定されている言語で実行されます。次の言語を利用できます。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- 韓国語
- スペイン語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語

オペレーティングシステムの言語がこのリストに含まれていない場合、インストーラは英語で実行されます。

インストーラにより、英語版の Java ES のコンポーネントがすべて自動的にインストールされます。さらに、コンポーネントパッケージをリスト内のいずれかの言語でインストールできます。オペレーティングシステムの言語がリスト内の言語と一致する場合、コンポーネントのインストールに、その言語が自動的に選択されます。ただし、別の言語を選択することも可能です。

インストールセッションでは、インストールするすべてのコンポーネントに選択した言語が適用されます。ある言語で一部のコンポーネントをインストールし、別の言語でその他のコンポーネントをインストールする場合は、インストーラを複数回実行する必要があります。

以前にインストールしたコンポーネントに対し、Java ES インストーラを使用して追加言語パッケージをインストールすることはできません。ただし、pkgadd または rpm ユーティリティを使用することで、いつでも言語を追加できます。

既存のコンポーネントのチェック

インストール時に、Java ES インストーラは、インストールするホスト上にすでにインストールされているソフトウェアを調べ、次のコンポーネントを識別します。

- 互換性のある Java ES 製品コンポーネント

互換性のあるコンポーネントは再インストールの必要がなく、またインストーラでは選択できません。

- 互換性のない Java ES 製品コンポーネント

インストーラが選択したコンポーネントとすでにローカルにインストールされているコンポーネントとで互換性がないことを確認した場合、すでにインストールされている互換性のないコンポーネントを削除またはアップグレードするよう求められます。これらの互換性のないコンポーネントが処理されるまで、インストーラを続けて実行することはできません。これらのコンポーネントの処理を行ってから、コンポーネントの選択リストを更新し、インストールを続行することができます。

- 互換性のない Java ES 共有コンポーネント

既存のホストに J2SE または NSS などの Java ES 共有コンポーネントのバージョンがインストールされていることは、まれなことではありません。インストーラがインストールしようとする Java ES のバージョンと互換性のない共有コンポーネントのバージョンを検出した場合、これらの共有コンポーネントがリスト表示されます。インストールを続行すると、インストーラにより共有コンポーネントが互換性のあるバージョンにアップグレードされます。

依存性の確認

コンポーネントの多くは、主要な機能を提供するために、ほかのコンポーネントの存在に依存しています。インストール時に選択したコンポーネントが共同して正常に機能するように、インストーラはコンポーネント間のチェックを広範囲に行います。このため、インストーラは、ユーザーが選択するコンポーネントに応じて、特定のコンポーネントをインストールに含めるよう求められます。

通常、Java ES インストーラは、次の規則を使用して Java ES コンポーネント間の依存性を処理します。

- **コンポーネントの選択**：インストールするコンポーネントを選択すると、インストーラはすべてのサブコンポーネントを自動的に選択します。
また、インストーラは、選択したコンポーネントが依存するコンポーネントとサブコンポーネントも選択します。たとえば、**Application Server** を選択すると、インストーラは **Message Queue** を自動的に選択します。
- **コンポーネントの選択の解除**：コンポーネントの選択を解除すると、インストーラはすべてのサブコンポーネントの選択を自動的に解除します。
選択している別のコンポーネントがローカルまたはリモートに必要とするコンポーネントの選択を解除すると、インストール手順を進めるときに、インストーラはさまざまな警告メッセージを表示します。
- **サブコンポーネントの選択**：サブコンポーネントを選択すると、インストーラはサブコンポーネントが属するコンポーネントを自動的に選択し、その他のサブコンポーネントは選択しません。
選択したサブコンポーネントがほかのコンポーネントまたはサブコンポーネントに依存する場合、依存関係にあるこれらのコンポーネントは自動的に選択されません。
- **サブコンポーネントの選択の解除**：サブコンポーネントの選択を解除すると、インストーラはサブコンポーネントが属するコンポーネントの選択を自動的に解除し、その他のサブコンポーネントの選択は解除しません。
選択している別のコンポーネントがローカルまたはリモートに必要とするサブコンポーネントの選択を解除すると、インストール手順を進めるときに、インストーラはさまざまな警告メッセージを表示します。

設定オプションとパラメータの設定

Java ES のコンポーネント製品の多くは、インストール時にある程度の設定を行う必要があります。インストール時に実行する設定の範囲は、選択したコンポーネントおよびインストールオプションの種類によって異なります。

インストーラで、次の設定オプションを使用できます。

- 「**あとで設定**」：インストール時は、インストールに必要な最小限の値だけを入力し、インストール後に詳細な設定を行います。
- 「**今すぐ設定**」：インストール時に、インストール中の設定が可能なコンポーネント製品を設定できます。指定する情報は、いくつかの共通パラメータだけの場合もあれば (共通サーバー設定)、コンポーネントに固有の詳細なパラメータを含む場合もあります (コンポーネント設定)。

「共通サーバー設定」は、複数のコンポーネントが使用するパラメータを設定します。たとえば、ほとんどのコンポーネントでは、管理 ID およびパスワードを指定する必要があります。これらの共通の値を設定することで、すべてのコンポーネントの管理 ID とパスワードのデフォルト値を設定できます。

「コンポーネント設定」は、特定のコンポーネントに適用するパラメータを設定します。これらの設定は、インストール時に「今すぐ設定」オプションを選択した場合にのみ要求されます。これらの設定の一部は、共通サーバー設定から取り込まれます。

アンインストーラ

Java ES には、Java ES インストーラを使用してローカルホストにインストールしたコンポーネント製品を消去するためのアンインストールプログラムが用意されています。アンインストーラは、アンインストーラが稼働しているホストで製品の依存関係をチェックし、他の製品への依存が検出された場合は警告メッセージを出力します。

アンインストーラは、グラフィカル、テキストベース、またはサイレントモードで実行できます。

Java ES のインストールの終了後、アンインストーラは `/var/sadm/prod/entsys` に配置されます。

インストーラの動作がインストール計画に与える影響

ここでは、インストール計画に直接影響を与える Java ES インストーラの動作と制約について説明します。

- **ローカルインストーラ**：Java ES インストーラは、1 ホストずつソフトウェアをインストールします。配備するすべてのホストで、少なくとも 1 回インストーラを実行する必要があります。インストーラは、インストールを実行するたびにインストールセッションを考慮します。
 - **単一インストールセッション**：単一ホストにすべての Java ES コンポーネントのインストールが必要となる配備はほとんどないため、単一インストールセッションだけを実行する場合はほとんどありません。大部分の一般的な単一セッションインストールは、次のような場合です。
 - 評価目的でインストールする場合
 - 確立された配備に単一コンポーネントを追加する場合
 - 別のホストにすでにインストールされているリモートコンポーネントを使用するコンポーネントをインストールする場合
 - **複数インストールセッション**：ほとんどの Java ES 配備では、配備するすべてのホストで少なくとも 1 回のインストールセッションを行う複数インストールセッションが必要です。同じホスト上で複数セッションが必要になる場合があります。
- **コンポーネントの互換性のチェック**：インストーラがホストソフトウェアと Java ES の新規リリースとの互換性をチェックする場合、インストーラは Solaris pkgadd または Linux rpm ユーティリティを使用してインストールしたローカルソフトウェアのみ認識することができます。
- **コンポーネントの依存性のチェック**：Java ES インストーラは、ローカルホスト上でのみ、インストールするように選択したほかのコンポーネントに必要なコンポーネントを除外しないようにします。リモートホスト上のコンポーネントを使用するオプションを選択した場合、インストーラは、リモートコンポーネントが存在するかどうかを確認するために、リモートホストをチェックすることはありません。リモートコンポーネントに互換性があり、適切な稼働状態にあることを確認する必要があります。

同様に、アンインストーラは、リモートホスト上のコンポーネントが使用するコンポーネントのアンインストールを防止しません。このようなアンインストールが意図せずに行われることのないように注意する必要があります。
- **設定オプション**：インストール時に設定可能なコンポーネントと設定不可能なコンポーネントがあります。インストールするコンポーネントを選択後、次のインストール設定オプションを選択します。

- 「**今すぐ設定**」：インストール時に、設定可能なコンポーネントを設定できます。インストール時に設定可能なコンポーネントはほんの一部です。
- 「**あとで設定**」：インストール時には、パッケージのインストールに必要な最小値だけを入力し、インストール後コンポーネントを個別に設定します。すべてのコンポーネントで、このオプションを使用できます。

選択した設定オプションは、インストールセッション全体に適用されます。一部のコンポーネントに対して別の設定オプションを選択する必要がある場合、追加インストールセッションを実行する必要がある場合があります。

- **アップグレード**：Java ES インストーラは、Application Server および Message Queue が Solaris OS ですでにインストールされている場合を除き、コンポーネントのアップグレードは一切行いません。この場合、インストーラは、Application Server および Message Queue をインストール時にアップグレードするかどうかを確認します。

Java ES インストーラは、共有コンポーネントのアップグレードを行います。

インストール計画のタスクの概要

下表は、ほとんどすべての Java ES インストールに共通のインストール計画のタスクを示します。左の列には、上位レベルのタスクと、各タスクのサブタスクの一覧を示しています。右の列には各タスクを実行する手順の参照先を示しています。

表 1-1 インストール計画のタスク

| 実行するタスク | 情報の参照先 |
|---|--|
| 1. インストールシーケンスの作成 | |
| 配備アーキテクチャと実装の仕様を確認します。 | 48 ページの「 配備計画の実行に必要な事項 」 |
| 配備するにあたり、Java ES をインストールの方法に影響を与える特定の状況を識別します。 | 50 ページの「 主要なインストールの問題 」 |
| インストールするコンポーネントの依存関係を識別します。 | 52 ページの「 コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響 」 |
| 設定をインストール時に行うか、またはインストール後に行うかを選択します。 | 57 ページの「 最良の設定オプション 」 |
| インストールセッションの回数と順序を決定します。 | 60 ページの「 必要なインストールセッションの数 」 |
| 2. ターゲットホストの調査 | |
| ホストに Java ES ソフトウェアが事前にインストールされているか、またはロードされているかを確認します。 | 62 ページの「 Solaris OS に Java ES ソフトウェアが事前にロードされている場合 」 |

表 1-1 インストール計画のタスク (続き)

| 実行するタスク | 情報の参照先 |
|--|-----------------------------------|
| ターゲットホストに Java ES コンポーネントがすでにインストールされているかどうかを確認します。 | 62 ページの「インストールするコンポーネントの非互換性について」 |
| システム要件、アクセス権限、メモリおよびディスクの要件など、ホストでインストールの準備が整っているかどうかを確認します。 | 66 ページの「ホストの準備状態の確認」 |
| 3. 設定データの収集 | |
| 共通サーバー設定を確認します。 | 121 ページの「共通サーバー設定」 |
| インストールディレクトリを確認します。 | 391 ページの付録 B 「デフォルトのインストールディレクトリ」 |
| ポートの割り当てを確認します。 | 395 ページの付録 C 「デフォルトのポート番号」 |
| 「今すぐ設定」 オプションでインストーラが必要とする設定データを識別します。 | 119 ページの第 4 章「設定情報」 |

付属のマニュアルを使用して、順序どおりにインストールタスクを実行することが重要です。インストールタスクは、次のように進める必要があります。

1. Java ES で利用できるマニュアルへのアクセス方法を理解します。
 - 『Java Enterprise System ドキュメントロードマップ』
<http://docs.sun.com/doc/819-1912?l=ja>
 - Java ES に関する参照データを提供する Sun の Web サイト
<http://docs.sun.com/prod/entsys.05q1>
2. Java ES とは何か、および Java ES コンポーネントおよびサービスがどのように動作するかを理解します。
『Java Enterprise System 技術の概要』
<http://docs.sun.com/doc/819-1926?l=ja>
3. 配備を計画します。
『Java Enterprise System 配備計画ガイド』<http://docs.sun.com/doc/819-1919?l=ja>
4. インストールを計画します。
 - インストールシーケンスを作成し、インストールに必要な情報を収集します。このマニュアルでは、第 I 部の 35 ページの「インストール計画」を参照してください。

- プラットフォームまたは特定のコンポーネントに関連するインストールの問題については、『Java Enterprise System リリースノート』(<http://docs.sun.com/doc/819-0815?l=ja>)を参照してください。
5. 既存のホスト上で、必要なアップグレードを行います。
 - ホスト上の既存のソフトウェアが、この Java ES のリリースと互換性があるかどうかを確認します。このマニュアルでは、[62 ページの「インストールするコンポーネントの非互換性について」](#)を参照してください。
 - 『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>)
 6. Java ES ソフトウェアをインストールします。

ソフトウェアをホストにインストールし、インストール後の設定を行い、個々のコンポーネントを起動します。このマニュアルでは、[第 II 部の 221 ページの「インストールと設定」](#)を参照してください。
 7. 配備を終了します。

カスタマイズまたはデータの移行など、配備の実装に必要な追加タスクを完了します。対象となる Java ES ドキュメントの参照先には、次のマニュアルがあります。

『Java Enterprise System ドキュメントロードマップ』
<http://docs.sun.com/doc/819-1912?l=ja>

次の手順

インストール計画に必要な概念を理解したら、配備ドキュメントに基づきインストールシーケンスを作成することができます。[47 ページの第 2 章「インストールシーケンスの作成」](#)に進んでください。

次の手順

インストールシーケンスの作成

この章では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) 配備計画に基づくインストールシーケンスの作成に関する情報とガイドラインについて説明します。まだ配備計画を作成していない場合は、『Java Enterprise System 配備計画ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1919?l=ja>) を参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 47 ページの「インストールシーケンス」
- 48 ページの「配備計画の実行に必要な事項」
- 52 ページの「コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響」
- 57 ページの「既存のインストール事例の活用」
- 57 ページの「インストールセッションの計画」
- 61 ページの「既存ホストの調査方法」
- 67 ページの「次の手順」

インストールシーケンス

特定の配備のためにインストールタスクを実行する順序を、「インストールシーケンス」と呼びます。インストールシーケンスは、次の 3 つの事項によって異なります。

- **配備計画**: 配備ドキュメントを一連のインストールタスクに変換することによって、インストールシーケンスを作成します。これらのタスクは、Java ES を配備する各ホスト上で行う必要のある事項、および行う必要のある順序を指定します。配備ドキュメントの詳細については、48 ページの「配備計画の実行に必要な事項」を参照してください。

- **使用する Java ES コンポーネントの依存関係**：インストールシーケンスを作成する上で重要なことは、Java ES コンポーネントが相互にどのように影響を与えるかを理解することです。コンポーネントの依存関係を分析して、最初にインストールするコンポーネント、コンポーネントの設定順序、あらかじめ起動して実行するコンポーネントなどを決定する必要があります。Java ES コンポーネントの依存関係を理解するには、[52 ページの「コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響」](#)を参照してください。
- **ホストの状況とレイアウト**：既存のホストを調べて、既存のホストにすでにインストールされている Java ES ソフトウェアがインストールしようとする新しい Java ES のバージョンと互換性があるかどうかを確認する必要があります。必要な場合はアップグレードします。次に、インストールのためのシステム要件を満たしているかどうかを確認します。
 - 既存のホストの評価に関するガイドラインについては、[61 ページの「既存ホストの調査方法」](#)を参照してください。
 - システム要件の詳細については、[66 ページの「ホストの準備状態の確認」](#)を参照してください。

配備計画の実行に必要な事項

ここでは、実行する必要がある Java ES のインストールタスクに関連する配備計画ドキュメントを解釈する方法について説明します。インストール計画の基礎を成す配備計画ドキュメントには、配備アーキテクチャと実装仕様の 2 つのドキュメントがあります。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

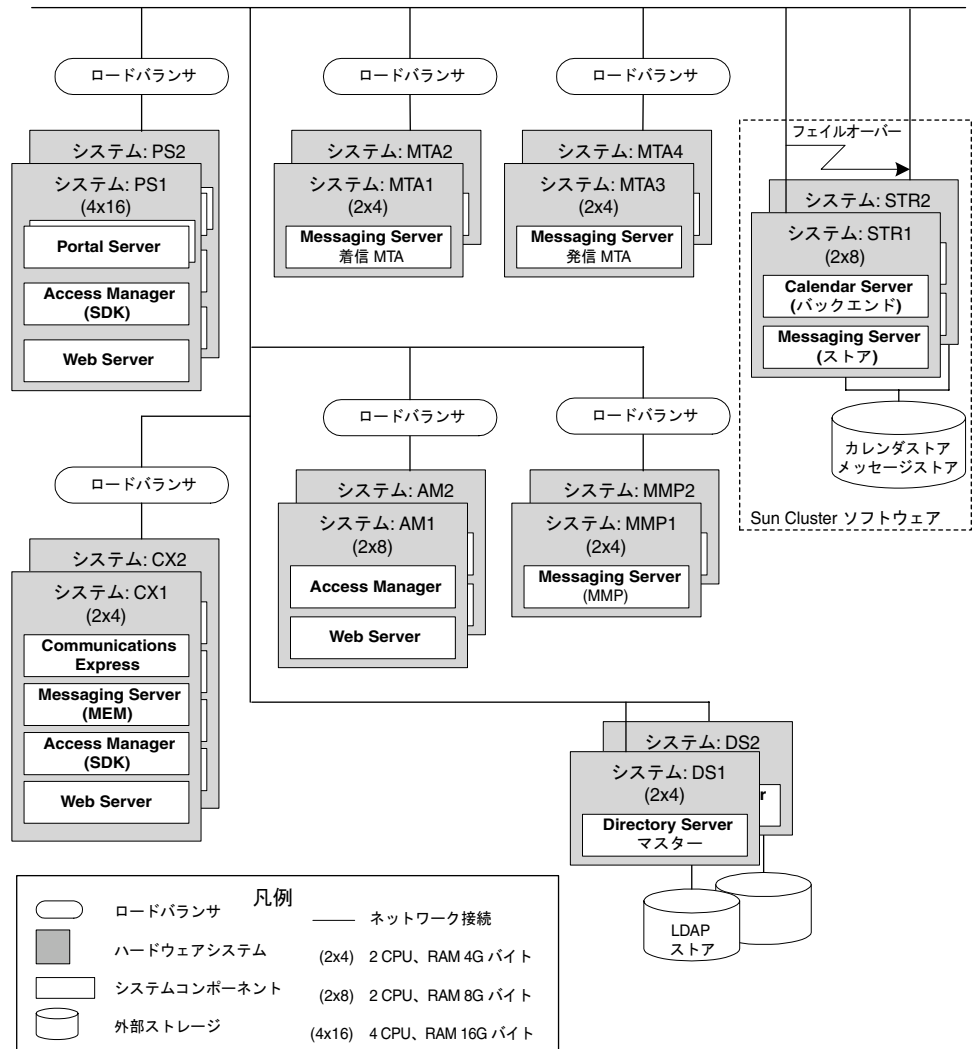
- [48 ページの「配備アーキテクチャの確認」](#)
- [50 ページの「実装仕様の確認」](#)
- [50 ページの「主要なインストールの問題」](#)

配備アーキテクチャの確認

「配備アーキテクチャ」とは、論理アーキテクチャを物理的なコンピュータ環境に大まかにマッピングしたものです。物理環境には、イントラネットまたはインターネット環境のコンピュータノード、これらのネットワークリンク、およびソフトウェアのサポートに必要な物理デバイスが含まれます。

次の図は、配備アーキテクチャの例を示します。

図 2-1 配備アーキテクチャの例



実装仕様の確認

「実装仕様」とは、Java ES 配備アーキテクチャを実装するために行う必要のある事項の概要が記載してあるドキュメントです。実装仕様には、どのソフトウェアがどのハードウェアに実装されるか、ユーザーがどの設定の詳細によりサービスにアクセスできるようになるかなどについての詳細が含まれます。

実装仕様には、次の事項の詳細が含まれます。

- ハードウェアリソースと構成
- ネットワークの接続性
- ルーター、ゲートウェイ、ロードバランサなどのネットワークデバイス
- オペレーティングシステム
- エンドユーザーをシステムサービスにアクセス可能にする LDAP ディレクトリのツリー構造(「ユーザー管理」とも呼ばれる)

また、実装仕様には、本稼働環境の配備に適用する前に設定し、テストする必要があるパイロットシステムとプロトタイプの説明も含まれます。パイロットシステムで開発したインストール計画(サンドボックスまたはステージングシステムとも呼ばれる)がどのようなものであっても、本稼働システムに対する最終発表用の計画を繰り返す必要があります。

実装仕様により、実行する必要がある項目の詳細リストを把握できても、仕様は、インストールをどのように進めるかまでは示しません。この仕様を特定の配備レイアウトに適用するための調査を行い、インストールに影響を与える主要な問題を識別する必要があります。

主要なインストールの問題

各配備では、さまざまなコンポーネントの問題が提起されます。実装仕様を調査することで、インストールシーケンスに影響を与える主な問題を識別することができます。

次の表は、インストールシーケンスに影響を与える可能性のあるいくつかの代表的な配備要件を示します。左側の列は配備計画で必要となる機能を示し、右側の列はその要件に関する情報の参照先を示します。

表 2-1 考慮する必要があるインストールの問題

| 配備要件 | ガイドラインまたは取扱説明書 |
|-----------------------------|---|
| Sun Cluster ソフトウェアを使用した高可用性 | 高可用性のための Sun Cluster ソフトウェアのインストールについては、 91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」 を参照してください。 |

表 2-1 考慮する必要があるインストールの問題 (続き)

| 配備要件 | ガイドラインまたは取扱説明書 |
|------------------------------------|--|
| Solaris 10 ゾーン | Solaris 10 ゾーンにインストールする場合は、 88 ページの「Solaris 10 ゾーン」 を参照してください。 |
| Directory Server のレプリケーション | 注 : Directory Server のレプリケーションが要件の場合は、Directory Server のインストール時に、管理サーバーをインストールする必要があります。 |
| Directory Server の暗号化 | Directory Server インスタンス上での LDAPS (SSL over LDAP) の設定 注 : Directory Server の暗号化が要件の場合は、Directory Server のインストール時に、管理サーバーをインストールする必要があります。 |
| サードパーティ製の Web コンテナ | Portal Server と Access Manager では、サードパーティ製の Web コンテナ (BEA WebLogic Server または IBM WebSphere Application Server) を使用することができます。これらのコンテナは、コンテナに依存する Java ES コンポーネントをインストールする前にインストールして設定する必要があります。 注 : Access Manager SDK 用のサードパーティ製の Web コンテナを使用する場合は、Access Manager SDK をインストール後、手動で設定する必要があります。 95 ページの「コンテナの設定を使用する Access Manager SDK の例」 を参照してください。 注 : Portal Server は、Solaris OS 上でのみサードパーティ製 Web コンテナを使用することができ、Linux では使用できません。 |
| 負荷分散プラグイン用 Apache Web Server | Apache Web Server は、Application Server の負荷分散プラグインで使用することができます。この場合、Apache Web Server は、このサーバーに依存する Java ES コンポーネントをインストールする前にインストールし、設定する必要があります。詳細については、 223 ページの「インストール前提条件」 を参照してください。 |
| Portal Server と Access Manager の分離 | Portal Server と Access Manager を別個のホストにインストールする必要がある場合は、 111 ページの「リモートの Access Manager を使用する Portal Server の例」 を参照してください。 |
| LDAP Schema 1 | LDAP Schema 1 に基づくインストールの例については、 99 ページの「Calendar-Messaging Schema 1 の例」 を参照してください。Schema 1 配備の場合は、Access Manager を使用することはできません。 |

表 2-1 考慮する必要があるインストールの問題 (続き)

| 配備要件 | ガイドラインまたは取扱説明書 |
|--|---|
| シングルユーザーエントリ | シングルユーザーエントリの設定用のガイドライン (通常はシングルサインオンに使用する) は、『Sun Java Enterprise System ユーザーの管理』 (http://docs.sun.com/doc/819-2228?l=ja) にあります。Schema 2 でシングルサインオンを設定するには、Access Manager が必要です。 |
| HADB を使用する高可用性 | 高可用性のために HADB を設定する例については、109 ページの「Web とアプリケーションサービスの例」を参照してください。 |
| 負荷分散 | Application Server の負荷分散プラグインの使用を含む例については、109 ページの「Web とアプリケーションサービスの例」を参照してください。 |
| 非ルート所有権 | Application Server または Web Server で非ルート所有権が必要な場合は、次の例を参照してください。 114 ページの「非ルートユーザーとして実行するように設定された Access Manager の例」 116 ページの「非ルート所有の Web Server または Application Server インスタンスでの Portal Server の例」 |
| 64 ビットプラットフォーム上の 32 ビット Directory Server | 64 ビット Solaris SPARC プラットフォーム上で 32 ビット Directory Server を使用する場合は、288 ページの「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」を参照してください。 |

コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響

最良の Java ES インストールシーケンスを決定するには、コンポーネントの相互依存関係を理解することが重要です。ここでは、基本的な相互依存関係を示し、これらの依存関係に含まれる意味の一部について説明します。

インストールの観点から、Java ES コンポーネントは、次のように層状に配置されます。通常は、下部レイヤーが上部レイヤーの基礎となります。

| | |
|---|--|
| 5 | Portal Server, Portal Server Secure Remote Access |
| 4 | Calendar Server, Messaging Server, Instant Messaging, Communications Express |
| 3 | Directory Server, Directory Proxy Server, Access Manager |

| | |
|---|--|
| 2 | Web コンテナ (Application Server、Web Server) |
| 1 | Sun Cluster ソフトウェア |

この階層構造は、必ずしもコンポーネントが他のコンポーネントを必要とすることを示すものではありません。たとえば、配備で Sun Cluster ソフトウェアを指定しない場合、レイヤー 1 はインストール計画で考慮する要素にはなりません。または、配備で Web コンテナが不要の場合、2 番目のレイヤーはインストール計画で考慮する要素にはなりません。

表 2-2 は、Java ES コンポーネントの依存関係を示します (J2SE などの共有コンポーネントの依存関係は含まれない)。この表を利用して、配備するホストにまたがる依存連鎖のリストやダイアグラムを作成することができます。左側の列はコンポーネント、中央の列は各コンポーネントの必要コンポーネントを示し、右側の列はこの必要なコンポーネントをローカルホストにインストールする必要があるかどうかを示します。

表 2-2 コンポーネント間の依存性

| コンポーネント | 必要コンポーネント | ローカルの必要性 |
|--|--|----------|
| Access Manager | Directory Server | なし |
| | Web コンテナ (次のいずれか): <ul style="list-style-type: none"> • Application Server • Web Server | あり |
| 注: Access Manager SDK 用のサードパーティ製の Web コンテナを使用する場合は、「あとで設定」インストールを実行後、Access Manager を手動で設定する必要があります。 | | |
| Access Manager SDK | Access Manager | なし |
| 管理サーバー | Directory Server | なし |
| Application Server | Message Queue | あり |
| | Web Server (負荷分散を使用する場合) | なし |
| Calendar Server | Directory Server | なし |
| | Schema 2 の場合: | |
| | Access Manager | なし |
| | Web コンテナ。Access Manager を参照してください。 | なし |

表 2-2 コンポーネント間の依存性 (続き)

| コンポーネント | 必要コンポーネント | ローカルの必要性 |
|------------------------------|--|----------------------------|
| Communications Express | Directory Server | なし |
| | 管理サーバー | あり |
| | Calendar Server (カレンダーサービスを使用する場合) | なし |
| | 管理サーバーでの Messaging Server (メッセージングサービスを使用する場合) | あり |
| | Schema 2 の場合 : | あり |
| | Access Manager SDK | |
| | Access Manager | なし |
| | Web コンテナ。Access Manager を参照してください。 | あり |
| Directory Preparation Script | なし | なし |
| Directory Proxy Server | Directory Server | なし |
| | 管理サーバー | あり |
| Directory Server | なし | なし |
| HADB | なし | なし |
| Instant Messaging | シングルサインオンまたは Access Manager 管理ポリシー : | |
| | Access Manager または Access Manager SDK | なし (IM コア) あり (IM リソース) |
| | Web コンテナ。Access Manager を参照してください。 | なし |
| Message Queue | なし | なし |
| Messaging Server | Directory Server | なし |
| | 管理サーバー | あり |
| | Schema 2 の場合 : | |
| | Access Manager または Access Manager SDK | なし あり |
| | Web コンテナ。Access Manager を参照してください。 | なし |

表 2-2 コンポーネント間の依存性 (続き)

| コンポーネント | 必要コンポーネント | ローカルの必要性 |
|------------------------------------|---|----------|
| Portal Server | Access Manager または Access Manager SDK | なし あり |
| | Web コンテナ (次のいずれか): <ul style="list-style-type: none"> • Application Server • Web Server Solaris OS の場合のみ: <ul style="list-style-type: none"> • BEA WebLogic Server • IBM WebSphere Application Server | あり |
| Portal Server Secure Remote Access | Portal Server | あり |
| | Portal Server — ゲートウェイのみの場合 Access Manager または Access Manager SDK | なし あり |
| Sun Cluster | なし | なし |
| Sun Remote Services Net Connect | なし | なし |
| Web Server | なし | なし |

コンポーネントの依存性は、多くの方法でインストールに影響を与えます。たとえば、次のような場合があります。

- **Sun Cluster: Solaris** での配備で **Sun Cluster** ソフトウェアが必要な場合、その他のコンポーネントをクラスタにインストールする前に、まずクラスタ内にあるホストに **Sun Cluster** フレームワークをインストールし、設定する必要があります。複数インストールセッションが必要になります。
- **Web コンテナ** : **Access Manager** は **Web コンテナ** を必要とするため、**Access Manager** を必要とするコンポーネントには **Web コンテナ** が必要です。**Application Server** と **Web Server** は **Java ES web コンテナ** です。
- **サードパーティ製の Web コンテナ** : **Application Server** または **Web Server** を **Web コンテナ** として使用するほか、**Solaris OS** 上で **Portal Server** と **Access Manager SDK** が **BEA WebLogic Server** または **IBM WebSphere Application Server** を使用することもできます。

Access Manager SDK 用のサードパーティ製の Web コンテナを使用する場合は、「あとで設定」インストールを実行後、Access Manager を手動で設定する必要があります。

- **サードパーティ製品** : Java ES の依存関係を満たすためにサードパーティ製品を使用する場合、依存する Java ES コンポーネントをインストールする前にサードパーティ製品をインストールして設定する必要があります。
- **リモート依存性** : 必要なコンポーネントのリモートコピーを使用して、数多くのコンポーネントの依存性を満たすことができます。リモートコンポーネントに依存するコンポーネントをインストールする前に、リモートコンポーネントをインストールして稼働しておく必要があります。複数インストールセッションが必要になります。
- **Schema 1 LDAP** : Calendar Server と Messaging Server は、Schema 1 または Schema 2 のいずれかで使用できます。Schema 1 で Calendar Server または Messaging Server を使用する場合は、Access Manager は使用できません。
- **Schema 2 LDAP** : Schema 2 で Calendar Server または Messaging Server を使用する場合は、Access Manager または Access Manager SDK を選択する必要があります。
- **シングルサインオン** : すべてのコンポーネント製品が認証用に使用するシングルユーザーエントリだけを使用することにより、統合 ID を作成することができます。Schema 2 環境で、この設定を実装するには、Access Manager が必要です。
- **Access Manager SDK** : Access Manager SDK は、Instant Messaging、Messaging Server、および Portal Server で使用するためにローカルで必要になります。Access Manager とは切り離して Access Manager SDK をインストールする場合は、Access Manager SDK には Access Manager のリモートコピーが必要です。
- **Instant Messaging** : インストーラは、Instant Messaging の必要コンポーネントの選択に失敗した場合に何も表示しません。Instant Messaging に必要なコンポーネントが選択されたかどうかを手動で確認する必要があります。
- **付属コンポーネント** : 一部のコンポーネントは、他のコンポーネントに付属しています。たとえば、Delegated Administrator は Access Manager とともに自動的にインストールされ、Directory Preparation Script は Directory Server とともに自動的にインストールされます。これらのコンポーネントを切り離すことはできません。

インストール時に、要件を満たすコンポーネントの選択に失敗した場合、要件が満たされていないことを示すメッセージが表示されます。この要件が満たされるまで、インストールを進めることはできません。

複数のホストにコンポーネントをインストールする順序は、選択したコンポーネントの相互依存関係によって決まります。69 ページの第 3 章「インストールシーケンスの例」に、いくつかの有用な例があります。

既存のインストール事例の活用

インストールシーケンス作成の最初の手順として、69 ページの第 3 章「インストールシーケンスの例」で示される事例を調べるのが有益です。これらの事例が特定の配備の場合と類似している場合、独自のインストールシーケンスを作成する場合の基礎として、事例にあるシーケンスを利用することができます。

既存の事例のいずれかを適用できる場合であっても、どの事例のシーケンスが役立つかを理解するために、この章で説明するすべての参考資料を確認するとよいでしょう。

いずれかの事例をインストールシーケンスの作成のモデルとして利用できる場合、61 ページの「既存ホストの調査方法」に進むことができます。Java ES ソフトウェアをインストールする前に、既存のホストの Java ES インストールの準備を完了しておくことが重要です。

ヒント Java ES インストールに精通している場合、インストールシーケンスを調整して所要時間を短縮できる場合があります。インストール事例から、所要時間を短縮するアイデアが得られる場合があります。

インストールセッションの計画

Java ES コンポーネントの相互依存関係に対応するほかに、シーケンスを計画する際に考慮しなければならない問題が 2 つあります。

- 57 ページの「最良の設定オプション」
- 60 ページの「必要なインストールセッションの数」

最良の設定オプション

Java ES インストーラでは、Java ES コンポーネントの初期設定を行うために、次の 2 つのオプションが提供されています。

- 「あとで設定」：インストール後に初期設定を行います。
- 「今すぐ設定」：インストール時に初期設定を行います。

これらの設定オプションは、相互に排他的です。つまり、インストールセッション全体を通して 1 つのオプションだけを選択できます。たとえば、「あとで設定」オプションを選択した場合でも、多くの選択したコンポーネントはインストール時の設定機能を提供します。「あとで設定」オプションを選択した場合、すべての設定は、インストール終了後に行う必要があります。

選択した設定オプションは、インストールセッション全体に適用されます。一部のコンポーネントに対して別の設定オプションを選択する場合は、複数のインストールセッションを実行する必要があります。

「あとで設定」オプション

インストール時に「あとで設定」オプションを選択した場合、インストーラは、コンポーネントのパッケージファイルをそれぞれのディレクトリに配置します。パラメータの設定は行われず、実行時サービスを利用できないため、ほとんどのコンポーネントはそのままでは機能しません。インストール後、インスタンスは設定されないため、さまざまなコンポーネントの設定ツールを実行する必要があります。

選択した一部のコンポーネントがインストール時の設定機能を提供する場合でも、これらのコンポーネントは設定されません。「あとで設定」インストールで選択したすべてのコンポーネントに対して、インストール後の設定が必要です。

注 Access Manager 用のサードパーティ製 Web コンテナを使用する場合は、「あとで設定」オプションを選択する必要があります。インストール後の設定時に、サードパーティ製の Web コンテナを指定することができます。

すべてのコンポーネントを、「あとで設定」オプションを使用してインストールできます。

「今すぐ設定」オプション

「今すぐ設定」オプションを選択すると、インストール時に設定可能な各コンポーネントに対して、インストーラの設定ページが表示されます。表示されるデフォルトを受け入れるか、または別の値を入力することができます。インストールを開始する前に設定情報を収集するには、[119 ページの第 4 章「設定情報」](#)を参照してください。

「今すぐ設定」オプションを選択し、選択したコンポーネントの一部がインストール時の設定機能を提供しない場合、インストール時に選択したコンポーネントの中で設定できないコンポーネントを示すメッセージが表示されます。インストールを進めると、インストール時の設定機能を提供するコンポーネントに対して、設定ページが表示されます。

次の表は、インストール時に設定可能なコンポーネントの一覧を示します。

表 2-3 インストール時に設定可能なコンポーネント

| コンポーネント | 「今すぐ設定」インストール後に必要な追加設定 |
|----------------|--|
| Access Manager | Directory Server プロビジョニングが必要です。 274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」 を参照してください。 |
| 管理サーバー | Directory Server を設定後、設定する必要があります。 |

表 2-3 インストール時に設定可能なコンポーネント (続き)

| コンポーネント | 「今すぐ設定」インストール後に必要な追加設定 |
|------------------------------------|--|
| Application Server | なし |
| Directory Server | なし |
| Directory Proxy Server | なし |
| Portal Server | Web コンテナの設定が必要です。279 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」を参照してください。 279 ページの「サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」 |
| Portal Server Secure Remote Access | なし |
| Web Server | なし |

インストール時に設定するコンポーネントのインストール後の設定は、あるとしてもきわめて少数です。

次のコンポーネントは、Java ES インストーラでは設定できません。Calendar Server、Communications Express、HADB、Instant Messaging、Message Queue、Messaging Server、Sun Cluster ソフトウェア、および SunSM Remote Services Net Connect。「今すぐ設定」インストールにこれらのコンポーネントが含まれている場合、これらのコンポーネントは設定できないことを示すメッセージが出力されます。インストールが進み、これらのコンポーネントはインストール後に設定する必要があります。

必要なインストールセッションの数

Java ES コンポーネントの相互依存関係のため、ホスト上で複数のインストールセッションを実行した方が望ましいか、または実行する必要がある場合があります。配備する各ホストには、少なくとも1つのインストールセッションが必要です。

インストールシーケンスは、配備するすべてのホストを通じて、すべての配備問題（負荷分散など）とすべての選択されたコンポーネント（Sun Cluster など）を考慮に入れる必要があります。配備のための全体的なインストールシーケンスを作成せずに、あるホストでインストールだけを実行し、次に別のホストでインストールを実行するようなことはできません。他のコンポーネントと同じホストに配備する必要があるコンポーネントもあれば、他のコンポーネントの前にインストールし、稼働しておく必要があるコンポーネントもあります。さらに、関連するコンポーネントを設定する前に特定の方法で設定する必要があるコンポーネントもあります。

単一インストールセッション

単一インストールセッションは、次の場合に実行することができます。

- 評価目的でインストールする場合。
評価の場合、通常は、単一インストールセッションで、すべてのコンポーネント（Sun Cluster ソフトウェアを除く）を単一のホストにインストールします。
- 単一言語で単一ホストにコンポーネントをインストールする場合。
コンポーネントにローカルホストに一致しない依存関係の要件が含まれていない場合、単一インストールセッションが機能します。たとえば、リモートホストにインストールした Directory Server に依存させる場合、Directory Server を含むホストとローカルホストの両方で、複数インストールセッションを実行する必要があります。

複数インストールセッション

ほとんどの Java ES 配備で、複数インストールセッションが必要になります。複数セッションでインストールするには、インストーラを1度実行して、一部の Java ES コンポーネントをインストールして設定し、次に再度インストーラを実行して、別の Java ES コンポーネントをインストールして設定します。

関連するコンポーネント（たとえば、Directory Server、Directory Proxy Server、管理サーバー）に対して複数インストールセッションを使用する場合は、各セッションを通じてパラメータ設定を同一にする必要があります。通常のインストールパラメータには、サーバールート、ユーザー、グループがあります。

複数インストールセッションは次の場合に使用します。

- Sun Cluster ソフトウェアを配備する場合。

Sun Cluster フレームワークは、その他任意のコンポーネントをインストールする前に、必ずインストールして設定する必要があります。このように正しくインストールするには、単独のセッションで Sun Cluster ソフトウェアをインストールし、次に配備に必要な残りの Java ES コンポーネントをインストールする必要があります。

- リモートコンポーネントの要件を満たす場合。

たとえば、リモート Directory Server に依存するコンポーネントをインストールする前に、リモートホストで、リモート Directory Server をインストールし、設定し、稼働しておく必要があります。

- 「今すぐ設定」オプションを使用して、インストール時に設定可能なコンポーネントの一部をインストールし、「あとで設定」オプションを使用して、コンポーネントの一部をインストールする場合。

選択した設定オプションがインストールセッション全体に適用されるため、インストール時に一部の (全部ではなく) 設定可能なコンポーネントを設定する場合は、複数セッションを実行する必要があります。

- Access Manager または Portal Server を非ルートの Application Server または Web Server に配備する場合。
- Solaris 10 環境で、複数の非大域ゾーンにインストールする場合。
- 一部のコンポーネントをある言語でインストールし、他のコンポーネントを別の言語でインストールする場合。言語ごとに別のインストールセッションが必要です。

既存ホストの調査方法

インストールの前に、Java ES ソフトウェアをインストールしようとするホストにどのようなコンポーネントが存在するかを把握することが重要です。Java ES ソフトウェアが事前にロードされた新しい Solaris システムを使用する場合、ホストの調査は不要です。ただし、既存のホストが Java ES コンポーネントがすでにインストールされているバージョンを使用している場合、Java ES インストーラを実行する前に、ソフトウェアの一部をアップグレードするか、または削除する必要があります。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- [62 ページの「Solaris OS に Java ES ソフトウェアが事前にロードされている場合」](#)
- [62 ページの「インストールするコンポーネントの非互換性について」](#)
- [66 ページの「ホストの準備状態の確認」](#)

Solaris OS に Java ES ソフトウェアが事前にロードされている場合

事前にソフトウェアがロードされた Sun Solaris ハードウェアシステムを使用する場合、Java ES ソフトウェアのインストールイメージは、すでにシステムにコピーされています。

Java ES ソフトウェアがホストに事前にロードされている場合は、次のディレクトリが存在します。

```
/var/spool/stage/JES_05Q1_architecture/
```

`architecture` 変数は、SPARC または x86 など、システムのハードウェアのアーキテクチャを示します。

このマニュアルで説明されているとおり、インストールイメージを展開し、Java ES インストーラを使用して、事前にロードされた Java ES ソフトウェアをインストールし、設定する必要があります。ホストに既存の Java ES コンポーネントが存在しない場合でも、インストールシーケンスを計画する必要があります。

注 事前にロードされた Java ES ソフトウェアが Solaris 10 システム上にある場合は、次のとおり実行します。

- インストールイメージを展開する前に、[88 ページの「Solaris 10 ゾーン」](#)を参照して、Java ES ソフトウェアを Solaris 10 ゾーンで動作するようにインストールする方法について確認してください。
- 今回のリリースでは、Sun Cluster ソフトウェアは Solaris 10 で動作しません。

インストールするコンポーネントの非互換性について

インストーラはインストール時に、ホストにすでにインストールされている Java ES コンポーネントがインストールする Java ES と互換性があるかどうかをチェックします。コンポーネントの一部に互換性がない場合、互換性がないことを示すエラーメッセージが表示され、インストールが中断する場合があります。したがって、インストール済みのソフトウェアを調べ、必要なアップグレードを行ってから、Java ES インストーラを実行することが重要です。

Java ES インストーラは、次の例外を除き、インストール時にコンポーネントのアップグレードを行うことはありません。Solaris OS で、Application Server と Message Queue がインストール済みの場合、インストーラはインストール時にアップグレードするかどうかを確認します。

Java ES インストーラは、インストール時に共有コンポーネントのアップグレードを行います。

このリリースで必要なコンポーネントのバージョン

2005Q1 リリースに関連する Java ES ソフトウェアには、次の選択可能なコンポーネントが含まれています (このマニュアルで使用する名前とバージョンの略称は、次のとおり)。

- Sun Cluster 3.1 9/04 (Sun Cluster ソフトウェア)
- Sun Cluster Agents for Sun Java System (Sun Cluster エージェント)
- Sun Java System Access Manager 6 (Access Manager)
- Sun Java System Administration Server 5 (Administration Server)
- Sun Java System Application Server 8.1 Enterprise Edition (Application Server)
- Sun Java System Calendar Server 6 (Calendar Server)
- Sun Java System Communications Express 6 (Communications Express)
- Sun Java System Directory Server 5 (Directory Server)
- Sun Java System Directory Proxy Server 5 (Directory Proxy Server)
- Sun Java System Instant Messaging 7 (Instant Messaging)
- Sun Java System Message Queue 3 (Message Queue)
- Sun Java System Messaging Server 6 (Messaging Server)
- Sun Java System Portal Server 6 (Portal Server)
- Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 (Portal Server Secure Remote Access)
- Sun Java System Web Server 6 SP4 (Web Server)
- SunSM Remote Services Net Connect 3.1.1 (SRS Net Connect)
- High Availability Session Store (HADB)

Java ES インストーラで表示されるサービスとサブコンポーネントの一覧を確認するには、[387 ページの付録 A 「Java Enterprise System コンポーネント」](#)を参照してください。この付録では、今回のリリースで提供する共有コンポーネントの一覧も示します。

インストーラを使用したインストール済みソフトウェアの調査

Solaris コマンド `proddreg` と `pkginfo` または Linux コマンド `rpm` を使用して、インストール済みソフトウェアを調べることができます。また、インストーラそのものを使用して、この項で説明する手順に従って、パッケージベースのソフトウェアインストールを調べることができます。

注 インストールされているソフトウェアに関する情報を得るために、インストーラだけを頼りにすることは、避けるべきです。インストール済みのソフトウェアについて、ホストを独自に調査して確認することも必要です。

▶ グラフィカルインストーラをローカルディスプレイにアクセスさせるには

リモートホストにログインしているときには、`DISPLAY` 環境変数がローカルディスプレイに適切に設定されていることを確認します。`DISPLAY` 変数が正しく設定されていないと、インストーラはテキストベースで実行されます。

- C Shell での例 (ホスト名は `myhost`):

```
setenv DISPLAY myhost:0.0
```

- Korn Shell での例 (ホスト名は `myhost`):

```
DISPLAY=myhost:0.0
```

ローカルディスプレイでインストーラを実行するには、表示権限の付与が必要になる場合があります。たとえば、次のコマンドを使用して、`serverhost` 上のルートユーザーに対し、`myhost` から表示許可を付与することができます。

```
myhost> xauth extract - myhost:0.0 | rsh -l root serverhost xauth merge -
```

注 このような権限を安全に付与する手順については、『Solaris X Window System Developer's Guide』(<http://docs.sun.com/doc/805-3921?l=ja>) の「Manipulating Access to the Server」の章を参照してください。

▶ アップグレードに関する問題の確認のためにインストーラを使用するには

1. 各ホストで、アクティブインストールではないことを示す `-no` オプションを指定してインストーラを起動します。

グラフィカルインストーラの場合、次のとおり入力します。

```
./installer -no
```

テキストベースのインストーラの場合、次のとおり入力します。

```
./installer -nodisplay -no
```


2. コンポーネントの選択に進みます。
3. このホストにインストールするコンポーネントを選択します。状態列は、選択したコンポーネントに必要な製品を示します。
4. インストーラが選択可能なコンポーネントのバージョンに互換性がないことを検出した場合、互換性のないバージョンのアップグレードまたは削除が求められます。この問題を解決したら、選択リストを更新し、選択し、インストーラを先に進めます。
5. インストーラが共有コンポーネントのバージョンに互換性がないことを検出した場合、アップグレードの必要がある共有コンポーネントのリストが表示されます。
表示された各共有コンポーネントについて、「インストール済みのバージョン」と「必要なバージョン」を比較し、アップグレードする必要があるかどうかを確認します。共有コンポーネントの新しい Java ES バージョンと、ホストにインストールされているその他のアプリケーションとの間に互換性があるかどうかを確認する必要があります。
6. インストーラを終了し、必要なアップグレードを実行します。
 - 選択可能なコンポーネントの場合は、『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>)を参照してください。
 - 共有コンポーネントの場合は、インストール時に大部分のアップグレードを実行できます。
7. 各ターゲットホストに対して手順を繰り返します。

注 インストーラは Solaris OS によって配布される Directory Server のバージョンを調べ、この Solaris の配布の中に含まれている Directory Server のスクリプトの名前がインストーラによって変更されることを警告します。何も対処する必要はありません。

ホストの準備状態の確認

インストーラを起動する前に、この項で説明する問題を確認します。

システム要件

Java ES をインストールする前に、システム内のホストがハードウェアとオペレーティングシステムの最小要件を満たしていることを確認します。サポートするプラットフォーム、ソフトウェア要件、およびハードウェア要件に関する最新の情報は、次の Web サイトにある『Java Enterprise System リリースノート』

(<http://docs.sun.com/doc/819-0815?l=ja>) の「ハードウェアおよびソフトウェアの要件」を参照してください。

ホストに実装されているオペレーティングシステムが Java ES の要件を満たしていないことが判明した場合、インストーラは処理を中断します。インストール前に、この問題を解決する必要があります。

アクセス権

Java ES ソフトウェアをインストールするには、root としてログインするか、スーパーユーザーになる必要があります。

メモリとディスク容量の要件

選択したコンポーネントが必要とするメモリとディスク容量が十分であるかどうかについて、インストーラはホストを検証します。

- ホストのメモリが Java ES の要件を満たしていないことが判明した場合、インストーラは警告メッセージを表示します。インストールは続行可能です。
- ホストのディスク容量が不足している場合は、インストーラは処理を中断します。この問題を解決してからインストールを再開する必要があります。

Linux 上の Portal Server で必要な Korn Shell の要件

Linux 上で Portal Server をインストールし、設定するには、インストーラの Korn Shell で /bin/ksh にアクセスできなければなりません。ホストに Korn Shell がインストールされていない場合、次のコマンドを実行して Korn Shell を取得することができます。

```
up2date pdksh
```

次の手順

既存のホストの調査を行っていない場合、および必要なアップグレードを行う場合は、以下を参照してください。

- 61 ページの「既存ホストの調査方法」
- 『Java Enterprise System アップグレードと移行』
(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>)

シナリオの事例の調査を行っていない場合は、69 ページの第3章「インストールシーケンスの例」を参照してください。

「今すぐ設定」インストールを実行する場合は、119 ページの第4章「設定情報」で説明する設定情報を収集します。

インストールシーケンスの準備が完了している場合は、次のインストールの章のいずれかに進みます。

- 233 ページの第7章「グラフィカルインタフェースによるインストール」
- 249 ページの第8章「テキストベースのインタフェースによるインストール」
- 259 ページの第9章「サイレントモードでのインストール」

次の手順

インストールシーケンスの例

この章では、一般的な Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストールシーケンスのガイドラインについて、いくつかの例を使用して説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 70 ページの「この章の利用方法」
- 71 ページの「単一セッションインストールの例」
- 88 ページの「Solaris 10 ゾーン」
- 91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」
- 95 ページの「コンテナの設定を使用する Access Manager SDK の例」
- 96 ページの「Calendar Server と Messaging Server の例」
- 99 ページの「Calendar-Messaging Schema 1 の例」
- 101 ページの「Communications Express と Messaging Server の例」
- 103 ページの「Instant Messaging と Access Manager の例」
- 105 ページの「通信サービスと共同作業サービスの例」
- 107 ページの「アイデンティティ管理の例」
- 109 ページの「Web とアプリケーションサービスの例」
- 111 ページの「リモートの Access Manager を使用する Portal Server の例」
- 113 ページの「非ルートの例」

この章の利用方法

この章のインストールシーケンスの例は、一般的な Java ES インストールのいくつかを実行する基本的なガイドラインを提供することを意図しています。これらは文字どおりの手順を示すものではありませんが、特定の配備シナリオの実装に必要な高度な手順を順を追って説明します。

単一セッションの例では、単一ホストに、単一インストールセッションで1つまたは複数の Java ES コンポーネントをインストールする代表的な手順について説明します。これには評価の例が含まれます。

残りの例では、さまざまなソリューションのために、複数ホストで、複数インストールセッションを実行する状況について説明します。

注 99 ページの「[Calendar-Messaging Schema 1 の例](#)」は、LDAP Schema 1 に基づく唯一の例を提供します。この章のその他すべての例は、Schema 2 に基づいています。

ほとんどの場合、この章のシーケンスは、53 ページの表 2-2 に示すコンポーネント間の依存関係に基づきます。

コンポーネントの選択では、Java ES インストーラは、コンポーネントの互換性のないバージョンと要件に適合しないバージョンを識別します。問題が識別されると警告メッセージが出力され、対処する必要がある内容が示されます。これらのメッセージの多くは、適合しない要件に関する指示を出力します。その他のメッセージは、インストールしようとするコンポーネントの一部または全部が、すでにローカルホスト上に存在するコンポーネントのバージョンと互換性がないことを示します。

ヒント Java ES コンポーネントの互換性のないバージョンを識別し、インストーラを起動する前に削除またはアップグレードすると、インストールを円滑に行うことができます。

Java ES インストーラを使用して、ローカルホストにすでに存在しているコンポーネントを識別することができます。詳細については、62 ページの「[インストールするコンポーネントの非互換性について](#)」を参照してください。

すでにローカルホストに存在するコンポーネントをアップグレードする場合は、『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) を参照してください。

単一セッションインストールの例

次の例は、単一セッションで、単一ホストにインストールする場合に適用されます。

- [71 ページの「評価の例」](#)
- [72 ページの「Access Manager と Portal Server の例」](#)
- [75 ページの「Application Server のみをインストールする例」](#)
- [77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」](#)
- [78 ページの「Directory Proxy Server の例」](#)
- [81 ページの「Instant Messaging のみをインストールする例」](#)
- [82 ページの「Message Queue のみをインストールする例」](#)
- [84 ページの「Portal Server Secure Remote Access の例」](#)
- [86 ページの「Web Server のみをインストールする例」](#)

評価の例

この例では、単一インストールセッションで、単一ホストに Sun Cluster ソフトウェアを除くすべての Java ES コンポーネントをインストールします。

評価インストールでは、通常、インストールがどのように行われるかを確認するために、トライアル配備、クイックインストールが検討されます。この例は、グラフィカルインタフェースと「今すぐ設定」オプションを使用します。設定ページが表示されたら、可能な限りデフォルト設定を受け入れます。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES グラフィカルインストーラを起動します
[233 ページの第7章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)
2. コンポーネントの選択で、「全て選択」を選択し、次に Application Server と Sun Cluster コンポーネントの選択を解除します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
3. インストールディレクトリを確認します
4. 「今すぐ設定」オプションを選択します
インストール時に設定できないコンポーネントを示すメッセージが表示されます。

5. デフォルト設定がある場合は、それを受け入れます。
非デフォルトの設定情報を使用する場合は、119 ページの第 4 章「設定情報」の該当する設定の表を確認します。
6. インストールサマリーとログを表示します
7. インストール後の設定を完了します
269 ページの第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」
8. コンポーネントを起動します
304 ページの表 11-1 には、推奨 Java ES 起動シーケンスが記載されています。この表の起動手順に従います。

注 リモートコンポーネントを使用して、依存性の要件を満たす場合は、依存するコンポーネントをインストールする前に、リモートコンポーネントをインストールし、稼働しておく必要があります。

Access Manager と Portal Server の例

この例では、単一ホストの Access Manager で、Web コンテナとして Web Server を使用して、Portal Server をインストールします。

要件

Portal Server は、Access Manager または Access Manager SDK のローカルコピーが必要です。Access Manager はリモートに配置できますが、Access Manager SDK はローカルに配置する必要があります。Access Manager は Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Portal Server は、ローカル Web コンテナが必要です (この例では Web Server)。Delegated Administrator は、Access Manager とともに自動的にインストールされます。

このインストールの例の一般的な手順には、次の手順が含まれます。

1. Java ES インストーラを実行します
233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」
249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」

2. コンポーネントの選択で、Portal Server と Web Server を選択します

Access Manager、Directory Server と Directory Preparation Script は自動的に選択されます。

- Directory Server のリモートコピーを使用する場合は、Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します。

注 その他任意のコンポーネントをインストールする前に、**Directory Server** を実行する必要があります。**Directory Server** のインストール手順については、[77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」](#)を参照してください。

- **Access Manager** のリモートコピーを使用する場合は、**Access Manager** の選択を解除し、インストール後の設定時にリモートコピーを指定します。

注 その他任意のコンポーネントをインストールする前に、リモートの **Access Manager** を実行する必要があります。**Access Manager** のインストール手順については、[107 ページの「アイデンティティ管理の例」](#)を参照してください。

3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

4. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します

a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なコンポーネントを示す設定ページが表示されます。リモートに配置するコンポーネントでは、デフォルトを受け入れずに、リモートの情報を使用してください。

[119 ページの第 4 章「設定情報」](#)に示す表から、設定情報を収集する必要があります。

b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。

5. インストールを実行します

6. インストールサマリーとログを表示します

7. インストール後の設定を完了します

「今すぐ設定」の場合は、次を参照してください。

- [274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」](#)
- [279 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」](#)

「あとで設定」の場合は、次を参照してください。

- [288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」](#)

- 281 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」
 - 295 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」
 - 292 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定」
8. コンポーネントを起動します
- 313 ページの「Directory Server の起動」
 - 320 ページの「Web Server Administration Server とインスタンスの起動」(Access Manager と Portal Server が自動的に起動する)。
9. デフォルトの Access Manager ログインページにアクセスします。
<http://webservice-host:port/amconsole>

次の表には、Access Manager の追加情報が含まれています。

表 3-1 Access Manager のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストーラの設定情報 | 122 ページの「Access Manager 設定情報」 138 ページの「Access Manager SDK 設定情報」 |
| インストール後の設定 | 274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」 281 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」 |
| 起動と停止 | 306 ページの「Access Manager の起動と停止」 |
| アンインストール | 354 ページの「Access Manager 関連のアンインストール後の作業」 330 ページの「Access Manager のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 375 ページの「Access Manager のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

次の表には、Portal Server の追加情報が含まれています。

表 3-2 Portal Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストーラの設定情報 | 159 ページの「Portal Server の設定情報」 |
| インストール後の設定 | 279 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」 293 ページの「サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定」 |
| 起動と停止 | 318 ページの「Portal Server デスクトップへのアクセス」 |
| アンインストール | 340 ページの「Portal Server のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 380 ページの「Portal Server のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Application Server のみをインストールする例

この例では、Application Server を単独でインストールします。

要件

Application Server は、Message Queue のローカルコピーが必要です。負荷分散を使用する場合は、Web Server のローカルコピーも必要です。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES インストーラを実行します

233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」

249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」

2. コンポーネントの選択で、Application Server を選択します。

Message Queue は自動的に選択されます。ロードバランスプラグイン・サブコンポーネントは選択されません。

(オプション) 負荷分散を実装する場合は、Application Server を展開し、ロードバランスプラグイン・サブコンポーネントを選択します。Web Server は自動的に選択されます。

3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
4. インストールディレクトリを確認します
5. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します
 - a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なローカルコンポーネントを示す設定ページが表示されます。

148 ページの「[Application Server の設定情報](#)」の表から、Application Server の設定情報を収集します。
 - b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。
6. インストールを実行します
7. インストールサマリーとログを表示します
8. インストール後の設定を完了します
 - 283 ページの「[「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定](#)」
 - (オプション) 295 ページの「[「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定](#)」
 - (オプション) 290 ページの「[「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定](#)」(自動起動の場合)
9. Application Server を起動します (Message Queue が自動的に起動する)。
 - 309 ページの「[Application Server インスタンスの起動](#)」
 - (オプション) 320 ページの「[Web Server Administration Server とインスタンスの起動](#)」

次の表には、Application Server の追加情報が含まれています。

表 3-3 Application Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|---|
| インストーラの設定情報 | 148 ページの「 Application Server の設定情報 」 |
| インストール後の設定 | 283 ページの「 「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定 」 |
| 起動と停止 | 309 ページの「 Application Server の起動と停止 」 |
| アンインストール | 331 ページの「 Application Server のアンインストール動作 」 |
| トラブルシューティング | 376 ページの「 Application Server のトラブルシューティングツール 」 |

表 3-3 Application Server のインストール情報 (続き)

| 実行するタスク | 関連情報 |
|---------|--|
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Directory Server のみをインストールする例

この例では、Directory Server を単独でインストールします。

要件

Directory Server は、他の Java ES コンポーネントとの依存関係はありません。

注 Directory Server の暗号化のために複製を使用する場合は、コンポーネントの選択で管理サーバーも選択する必要があります。

シーケンスの問題

- このコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアで使用する場合、コンポーネントをインストールする前に一連のタスクを正確に実行する必要があります。ガイドランスについては、91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」を参照してください。
- Directory Server に依存するその他のコンポーネントをインストールする前に実行する必要があります。
- 配備で Schema 2 が必要な場合、その他のコンポーネントを実装する前に Schema 2 用の Directory Server を設定する必要があります。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES インストーラを実行します
233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」
249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」
2. コンポーネントの選択で、Directory Server とオプションで管理サーバーを選択します。
Directory Preparation Script は自動的に選択されます。
3. 非互換性の問題を解決します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイドランスを示します。
4. インストールディレクトリを確認します

5. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します
 - a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なローカルコンポーネントを示す設定ページが表示されます。
 119 ページの第 4 章「設定情報」の表から、設定情報を収集します。
 - b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。
6. インストールを実行します
7. インストールサマリーとログを表示します
8. インストール後の設定を完了します
 - o. 288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」
 - o. (オプション) 282 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の管理サーバーの設定」
9. 次の順序で、コンポーネントを起動します。
 - a. 313 ページの「Directory Server の起動」
 - b. (オプション) 307 ページの「管理サーバーの起動」

次の表には、Directory Server の追加情報が含まれています。

表 3-4 Directory Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストーラの設定情報 | 150 ページの「Directory Server 設定情報」 |
| インストール後の設定 | 288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」 |
| 起動と停止 | 313 ページの「Directory Server の起動と停止」 |
| アンインストール | 335 ページの「Directory Server のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 378 ページの「Directory Server のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Directory Proxy Server の例

この例では、単一ホストで、Directory Server とともに Directory Proxy Server をインストールします。

要件

Directory Proxy Server は Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。また、Directory Proxy Server は、管理サーバーのローカルコピーが必要です。

このタイプのインストーラの一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)

[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Directory Proxy Server を選択します。

Directory Server、Directory Preparation Script、および管理サーバーは自動的に選択されます。

(オプション) Directory Server のリモートコピーを使用する場合は、Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します。

注 その他任意のコンポーネントをインストールする前に、Directory Server を実行する必要があります。Directory Server のインストール手順については、[77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」](#)を参照してください。

3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

4. インストールディレクトリを確認します

5. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します

- a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なローカルコンポーネントを示す設定ページが表示されます。リモートに配置するコンポーネントでは、デフォルトを受け入れずに、リモートの情報を使用してください。

[119 ページの第 4 章「設定情報」](#)の表から、設定情報を収集します。

- b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。

6. インストールを実行します

7. インストールサマリーとログを表示します

8. インストール後の設定を完了します

- o [288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」](#)

- 282 ページの「[あとで設定] 設定オプションでのインストール後の管理サーバーの設定」
 - 287 ページの「[あとで設定] 設定オプションでのインストール後の Directory Proxy Server の設定」
9. 次の順序で、コンポーネントを起動します。
- a. 313 ページの「Directory Server の起動」
 - b. 307 ページの「管理サーバーの起動」
 - c. 312 ページの「Directory Proxy Server の起動」

次の表には、Directory Proxy Server の追加情報が含まれています。

表 3-5 Directory Proxy Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストーラの設定情報 | 158 ページの「Directory Proxy Server 設定情報」 |
| インストール後の設定 | 287 ページの「[あとで設定] 設定オプションでのインストール後の Directory Proxy Server の設定」 |
| 起動と停止 | 314 ページの「Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動と停止」 |
| アンインストール | 336 ページの「Directory Proxy Server のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 378 ページの「Directory Proxy Server のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Instant Messaging のみをインストールする例

この例では、Instant Messaging を単独でインストールします。

その他のコンポーネントをインストールして設定してから、別のインストールセッションで Instant Messaging をインストールすることは、まれなことではありません。

注 シングルサインオンまたは Access Manager 管理ポリシーを使用する場合は、Access Manager が必要です。ガイダンスについては、103 ページの「Instant Messaging と Access Manager の例」を参照してください。

シーケンスの問題

- インストーラは、Instant Messaging が依存するコンポーネントを自動的に選択しません。これらのコンポーネントは、手動で選択する必要があります。
- Instant Messaging でその他のコンポーネントを配備する場合は、Instant Messaging を設定する前に、その他のコンポーネントを設定する必要があります。
Instant Messaging で一般的に使用される Java ES コンポーネントには、Messaging Server、Calendar Server、および Portal Server (Access Manager で使用) があります。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)
[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Instant Messaging を選択します。
3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

4. インストールディレクトリを確認します
5. 「あとで設定」オプションを選択します

Instant Messaging は、インストール時に設定できません。

6. インストールを実行します
7. インストールサマリーとログを表示します
8. インストール後の設定を完了します

[290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Instant Messaging の設定」](#)

- Instant Messaging を起動します (Instant Messaging が依存する可能性のあるその他のコンポーネントを起動後)

314 ページの「Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動」

次の表には、Instant Messaging の追加情報が含まれています。

表 3-6 Instant Messaging のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストール後の設定 | 290 ページの「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Instant Messaging の設定」 |
| 起動と停止 | 314 ページの「Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動と停止」 |
| アンインストール | 337 ページの「Instant Messaging のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 379 ページの「Instant Messaging のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |
| 配備シナリオ | 『Sun Java System Communications Deployment Planning Guide』 |

Message Queue のみをインストールする例

この例では、Message Queue を単独でインストールします。

要件

Message Queue は、他の Java ES コンポーネントとの依存関係はありません。

注 このコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアで使用する場合、コンポーネントをインストールする前に一連のタスクを正確に実行する必要があります。91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」を参照して、Sun Cluster のガイドラインを確認します。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

- Java ES インストーラを実行します

233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」

249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」

2. コンポーネントの選択で、Message Queue を選択します
3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

- o Solaris OS の場合：

以前の Message Queue の Platform Edition のコピーがホストで検出された場合、インストーラは Message Queue の Enterprise Edition に、自動的にインストーラをアップグレードします。

以前の Message Queue の Enterprise Edition のコピーがホストで検出された場合、インストーラを終了し、『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) で説明する Message Queue の Enterprise Edition へのアップグレード手順に従う必要があります。

- o Linux の場合：

以前の Message Queue のコピー (Platform または Enterprise Edition) がホストで検出された場合、インストーラを終了し、『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) で説明する Message Queue の Enterprise Edition へのアップグレードおよび移行手順に従う必要があります。

4. 「あとで設定」オプションを選択します。

Message Queue は、インストール時に設定できません

5. インストールを実行します
6. インストールサマリーとログを表示します
7. Message Queue を起動します

[316 ページの「Message Queue の起動」](#)

次の表には、Message Queue の追加情報が含まれています。

表 3-7 Message Queue のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストール後の設定 | 278 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定」 |
| 起動と停止 | 316 ページの「Message Queue の起動」 |
| アンインストール | 338 ページの「Message Queue のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 379 ページの「Message Queue のトラブルシューティングツール」 |

表 3-7 Message Queue のインストール情報 (続き)

| 実行するタスク | 関連情報 |
|---------|--|
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Portal Server Secure Remote Access の例

この例では、単一ホストの Access Manager で、Web コンテナとして Web Server を使用して、Portal Server Secure Remote Access をインストールします。

要件

Portal Server Secure Remote Access は、Access Manager または Access Manager SDK のローカルコピーが必要です。Portal Server Secure Remote Access コアには、ゲートウェイの場合を除き Portal Server のローカルコピーが必要です。ゲートウェイの場合、Portal Server Secure Remote Access は Portal Server のローカルコピーは必要とせず、別のホストにインストールできます。Directory Server は Portal Server で必要になりますが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Access Manager には、ローカルの Web コンテナが必要です。

このインストールの例の一般的な手順には、次の手順が含まれます。

1. Java ES インストーラを実行します
 - 233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」
 - 249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」
2. コンポーネントの選択で、Portal Server Secure Remote Access と Web Server を選択します。

Portal Server、Access Manager、Directory Server と Directory Preparation Script は自動的に選択されます。

- Directory Server のリモートコピーを使用する場合は、Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します。

注 その他任意のコンポーネントをインストールする前に、Directory Server を実行する必要があります。Directory Server のインストール手順については、77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」を参照してください。

- Access Manager のリモートコピーを使用する場合は、Access Manager の選択を解除し、インストール後の設定時にリモートコピーを指定します。

注 その他任意のコンポーネントをインストールする前に、リモートの **Access Manager** を実行する必要があります。Access Manager のインストール手順については、107 ページの「**アイデンティティ管理の例**」を参照してください。

3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

4. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します

a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なコンポーネントを示す設定ページが表示されます。リモートに配置するコンポーネントでは、デフォルトを受け入れずに、リモートの情報を使用してください。

119 ページの第 4 章「設定情報」に示す表から、設定情報を収集する必要があります。

b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。

5. インストールを実行します

6. インストールサマリーとログを表示します

7. インストール後の設定を完了します

「今すぐ設定」の場合は、次を参照してください。

- 274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」
- 279 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」

「あとで設定」の場合は、次を参照してください。

- 288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」
- 281 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」
- 295 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」
- 292 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定」

8. コンポーネントを起動します

[313 ページの「Directory Server の起動」](#)

[320 ページの「Web Server Administration Server とインスタンスの起動」](#) (Access Manager と Portal Server が自動的に起動する)

[319 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの起動」](#)

9. デフォルトの Access Manager ログインページにアクセスします。

`http://webserver-host:port/amserver`

10. ポータルにアクセスします。

`http://webserver-host:port/portal/dt`

11. Portal Gateway にアクセスします。

`http://gateway-server:port/`

次の表には、Portal Server Secure Remote Access の追加情報が含まれています。

表 3-8 Portal Server Secure Remote Access のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストーラの設定情報 | 166 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」 |
| 起動と停止 | 319 ページの「Portal Server Secure Remote Access の起動と停止」 |
| アンインストール | 341 ページの「Portal Server Secure Remote Access のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 380 ページの「Portal Server Secure Remote Access のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Web Server のみをインストールする例

この例では、Web Server を単独でインストールします。

要件

Web Server は、他の Java ES コンポーネントとの依存関係はありません。

注 このコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアで使用する場合、コンポーネントをインストールする前に一連のタスクを正確に実行する必要があります。91 ページの「[Sun Cluster ソフトウェアの例](#)」を参照して、Sun Cluster のガイドラインを確認します。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES インストーラを実行します
 - 233 ページの第 7 章「[グラフィカルインタフェースによるインストール](#)」
 - 249 ページの第 8 章「[テキストベースのインタフェースによるインストール](#)」
2. コンポーネントの選択で、Web Server を選択します
3. 非互換性の問題を解決します
 - インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
4. インストールディレクトリを確認します
5. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します
 - a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストーラによって Web Server 設定ページが表示されます。
 - 119 ページの第 4 章「[設定情報](#)」の表から、設定情報を収集します。
 - b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。
6. インストールを実行します
7. インストールサマリーとログを表示します
8. インストール後の設定を完了します
 - 295 ページの「[「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Web Server を設定するには](#)」
9. Web Server を起動します
 - 320 ページの「[Web Server Administration Server とインスタンスの起動](#)」

次の表には、Web Server の追加情報が含まれています。

表 3-9 Web Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストーラの設定情報 | 184 ページの「 Web Server の設定情報 」 |

表 3-9 Web Server のインストール情報 (続き)

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストール後の設定 | 295 ページの「 あとで設定 」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」 |
| 起動と停止 | 320 ページの「 Web Server の起動と停止 」 |
| アンインストール | 343 ページの「 Web Server のアンインストール動作 」 |
| トラブルシューティング | 382 ページの「 Web Server のトラブルシューティングツール 」 |
| アップグレード | 『 Java Enterprise System アップグレードと移行 』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Solaris 10 ゾーン

ここでは、Java ES の現在のリリースの Solaris 10 ゾーンをサポートについて説明します。インストールの例が含まれます。

Solaris ゾーンの概要

Solaris 10 ゾーン (Solaris コンテナとも呼ばれる) 機能は、Solaris OS のインスタンス内に、オペレーティングシステム環境を仮想化する手段を提供します。この機能により、ホストの別のアクティビティとは分離して 1 つまたは複数のプロセスが実行可能になります。たとえば、ゾーンで実行するプロセスは、ユーザー ID やその他の資格情報に関係なく、同じゾーンの別のプロセスに信号だけを送信することができます。

すべての Solaris 10 ホストには、1 つの大域ゾーンが含まれています。大域ゾーンは、ホストのデフォルトゾーンであると同時にシステム全体の管理コントロールに使用するゾーンです。グローバル管理者によって非大域ゾーンが作成されない場合、すべてのプロセスが大域ゾーンで実行されます。

非大域ゾーンは、ボックスとみなすことができます。残りのホストと相互に作用することなく、このボックス内で 1 つまたは複数のアプリケーションを実行することができます。各非大域ゾーンは、その非大域ゾーンに特有の設定およびその他の情報を持つ、インストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの独自のインスタンスであるように見えます。非大域ゾーンのデフォルトの設定は、ファイルシステムの一部を大域ゾーンと共有します (読み取り専用のループバックファイルシステムのマウントとして)。

今回の Java ES のリリースでサポートされるゾーンシナリオ

次の Java ES とゾーンシナリオは、今回の Java ES のリリースでサポートされます。

- ルートのファイルシステム全体を使用する非大域ゾーンへの Java ES のインストール (デフォルトの空白ルートファイルシステムの使用はサポートされない)
- 非大域ゾーンのない大域ゾーンへの Java ES のインストール

大域ゾーン内の Java ES の制限事項

大域ゾーンで使用する Java ES のインストールと設定はサポートされていますが、Java ES の今回のリリースでは、この設定にいくつかの制限があります。これらの制限は、一部の Java ES パッケージの性質と、これらのパッケージがゾーンインフラストラクチャによって既存および新規に作成される非大域ゾーンの両方に自動的に伝搬される方法によるものです。

- 制限事項: 非大域ゾーンがすでに存在する場合、Java ES インストーラは、インストールを進めることはできません。

解決方法: 非大域ゾーンに Java ES をインストールするように計画するか、または既存の非大域ゾーンを削除し、大域ゾーンに Java ES をインストールします。

- 制限事項: 大域ゾーンに Java ES ソフトウェアをインストールしたあとの非大域ゾーンの作成はサポートされません。Java ES ソフトウェアをインストールしてから非大域ゾーンを作成すると、非大域ゾーンの作成時にパッケージ伝播エラーが発生します。新規に作成した非大域ゾーンが正常に機能する可能性はありません。

解決方法: 新規に作成した非大域ゾーンを削除します。大域ゾーンでの Java ES インストールと非大域ゾーンの作成のどちらが重要かを判断します。非大域ゾーンを作成する必要がある場合は、大域ゾーンから Java ES をアンインストールし、必要な非大域ゾーンを作成して、1 つまたは複数の非大域ゾーンに Java ES をインストールすることを検討します。

Solaris 10 ゾーンの例

この例では、Solaris 10 非大域ゾーンに Java ES ソフトウェアをインストールします。

1. ホストに Solaris 10 がインストールされているかどうかを確認します。
大域ゾーンは自動的に作成されます。
2. 実装計画に指定したすべての非大域ゾーンが、大域ゾーン管理者によって、継承ファイルシステムを含まない「完全にルート」のゾーンとして作成されているかどうかを確認します。
非大域ゾーンの作成に関する詳細については、『System Administration Guide: Solaris Containers-Resource Management and Solaris Zones』(<http://docs.sun.com/doc/817-1592>)の「Planning and Configuring Non-Global Zones (Tasks)」の章を参照してください。
3. 希望する非大域ゾーンで Java ES を起動します。
[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)
[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)
4. コンポーネントの選択で、希望するコンポーネントを選択します。
SRS Net Connect などの一部のコンポーネントは、大域ゾーン機能にアクセスする必要があるため非大域ゾーンにはインストールできません。その他のコンポーネントは Solaris 10 ではサポートされません。これらのコンポーネントは、コンポーネントの選択を利用できません。
5. インストールを実行します
6. インストールサマリーとログを表示します
7. 必要に応じて、インストール後の設定を完了します
[269 ページの第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)
8. コンポーネントを起動します
[303 ページの第 11 章「コンポーネントの起動と停止」](#)
9. 必要に応じて、追加の非大域ゾーンで、手順 3～手順 8 を繰り返します

Sun Cluster ソフトウェアの例

この例では、Sun Cluster フレームワークで Messaging Server をインストールします。

注 単一サーバーではなく、クラスタ内で実行するように設定できるコンポーネントには、管理サーバー、Calendar Server、Directory Server、Message Queue、Messaging Server、および Web Server があります。

要件

Messaging Server は Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。また、Messaging Server は、管理サーバーのローカルコピーが必要です。Directory Server、管理サーバー、および Messaging Server 用の Sun Cluster コアコンポーネントおよび Sun Cluster エージェントが必要です。

シーケンスの問題

Sun Cluster の実装を成功させるには、コンポーネントを正しい順序でインストールし、設定し、起動することがきわめて重要です。一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES Sun Cluster コンポーネントをインストールします
2. Sun Cluster フレームワークを設定します。
3. Messaging Server がクラスタを操作するために必要となる Java ES の追加コンポーネントをインストールします
4. 関連する Java ES コンポーネントのエージェントを使用して、Sun Cluster データサービスを設定します。

クラスタの各ノードで、少なくとも 2 つのインストールセッションが実行されます。

第 1 段階 : Sun Cluster フレームワークのインストールと設定

クラスタのすべてのノードで、次のタスクを実行する必要があります。

1. ハードウェアがクラスタに正しく接続されているかどうか確認します。
 - Sun Cluster 3.x Hardware Collection for Solaris OS (SPARC Platform Edition)
<http://docs.sun.com/coll/1024.1>
 - Sun Cluster 3.x Hardware Collection for Solaris OS (x86 Platform Edition)
<http://docs.sun.com/coll/1142.1>
2. Java ES インストーラを実行します。
[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)
[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)
3. コンポーネントの選択で、Sun Cluster コンポーネントだけを選択します
4. 「あとで設定」オプションを選択します
5. 手順に従って、クラスタの各ホストに対して Sun Cluster フレームワークを設定します

『Sun Cluster Software Installation Guide for Solaris OS』
(<http://docs.sun.com/doc/817-4229?l=ja>) の「Installing and Configuring Sun Cluster Software」の章

リソースグループの作成およびデータサービスの設定に関するドキュメントについては、『Sun Cluster Data Services Planning and Administration Guide for Solaris OS』(<http://docs.sun.com/doc/817-6564>) を参照してください。

第 2 段階 : コンポーネントとエージェントのインストールと設定

クラスタのすべてのノードで、次のタスクを実行する必要があります。

1. Java ES インストーラを実行します。

233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」

249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」

2. コンポーネントの選択で、次のとおり選択します。

- a. Messaging Server

Directory Server、Directory Preparation Script、および管理サーバーは自動的に選択されます。

(オプション) Directory Server のリモートコピーを使用する場合は、Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します。

注 その他任意のコンポーネントをインストールする前に、リモートの Directory Server を実行する必要があります。Directory Server のインストール手順については、77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」を参照してください。

- b. Sun Java System 用 Sun Cluster エージェント

デフォルトで、すべてのエージェントが選択されます。

- c. Sun Java System コンポーネント用の Sun Cluster エージェントを展開し、管理サーバー、Directory Server、Messaging Server を除く、すべてのエージェントの選択を解除します。

3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ノード上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

ヒント 「今すぐ設定」インストール時に (通常は、すべての Java ES コンポーネントのインストールを選択)、Sun Cluster のリモート設定のサポートを有効にするかどうか求められます。「はい」を選択すると、Sun Cluster のインストール後の設定が容易になります。

4. インストールディレクトリを確認します

5. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します
Messaging Server と Sun Cluster は、インストール時に設定できません。
6. Sun Cluster エージェントを除く、選択したすべてのコンポーネントを設定します。
 - 288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」
 - 282 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の管理サーバーの設定」
 - 290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定」

インストールディレクトリを指定するときは、Messaging Server のクラスターファイルシステム上の場所を使用します。
7. 次の順序で、Sun Cluster エージェントを除くすべてのコンポーネントを起動します。
 - a. 313 ページの「Directory Server の起動」
 - b. 307 ページの「管理サーバーの起動」
 - c. 316 ページの「Messaging Server の起動」
8. インストールして設定したコンポーネントのデータサービスを設定します。
295 ページの「Sun Cluster データサービスの設定」

次の表には、Sun Cluster の追加情報が含まれています。

表 3-10 Sun Cluster のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|--------------|--|
| インストール後の設定情報 | 273 ページの「Sun Cluster フレームワークの設定」 295 ページの「Sun Cluster データサービスの設定」 |
| 起動と停止 | 320 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの停止と再起動」 |
| アンインストール | 342 ページの「Sun Cluster のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 381 ページの「Sun Cluster ソフトウェアのトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

コンテナの設定を使用する Access Manager SDK の例

この例では、リモートホストにすでにインストールされている Access Manager のコピーを使用して、Access Manager SDK をインストールします。

要件

Access Manager SDK をインストールする前に、リモートホストに Access Manager コアサービスをインストールし、稼働しておく必要があります。このインストールの例で実行中に指定する Web コンテナの情報と Directory Server の設定情報は、Access Manager コアサービスのインストール時に指定する Web コンテナ情報および Directory Server 設定情報と一致している必要があります。

注 インストーラが Web コンテナと Directory Server に関する情報を要求するとき、ローカルホストの設定に基づいたデフォルト値が表示されます。デフォルト値は形式の例としてだけ使用し、これらの値をそのまま適用しないでください。ここでは、デフォルト値の代わりに、リモートホストの正しい情報を指定する必要があります。

Access Manager SDK だけをインストールする場合、Java ES インストーラでは Web コンテナを設定することはできません。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Access Manager コアサービスをインストールし、起動します

[107 ページの「アイデンティティ管理の例」](#)

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)

[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Access Manager を選択します

3. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

4. 「あとで設定」オプションを選択します

5. インストールを実行します
6. インストールサマリーとログを表示します
7. Web コンテナがインストールされ、稼働されていることを確認します
8. 設定を完了します
 - a. *AccessManager-base/SUNWam/bin* ディレクトリで、`amsamplesilent` ファイルのコピーを作成します。
 - b. `amsamplesilent` ファイルのコピーを編集します。

注 `Access Manager SDK` の `amsamplesilent` ファイルを編集する場合は、`Access Manager` へのリモートインストール時に指定した暗号化鍵と同じ暗号化鍵である `AM_ENC_PWD` を使用します。

- c. 編集した `amsamplesilent` ファイルを使用して、`Access Manager` を配備します。

```
./amconfig -s ./am.sdk_install
```
9. Web コンテナを再起動します。

Calendar Server と Messaging Server の例

この例では、ホストが3つ存在する Schema 2 環境で、Calendar Server と Messaging Server をインストールします。Access Manager と Directory Server のリモートコピーを使用します。

注 Schema 1 の例については、99 ページの「[Calendar-Messaging Schema 1 の例](#)」を参照してください。

要件

シングルサインオンまたは Access Manager 管理ポリシーを実装する場合は、Access Manager が必要です。この場合は、Access Manager または Access Manager SDK のローカルコピーのいずれかが必要です。Access Manager SDK は Access Manager が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Calendar Server と Messaging Server は、両方とも Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Messaging Server は、管理サーバーのローカルコピーが必要です。

この例では、Directory Server と Access Manager のリモートコピーを使用します。Access Manager は、ローカルの Web コンテナが必要です。

シーケンスの問題

- このコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアで使用する場合、コンポーネントをインストールする前に一連のタスクを正確に実行する必要があります。91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」を参照して、Sun Cluster のガイドラインを確認します。
- 依存するコンポーネントをインストールする前に、リモートの Directory Server をインストールし、実行する必要があります。
- Access Manager SDK をインストールする前に、リモートの Access Manager を実行する必要があります。Access Manager のインストール手順については、107 ページの「アイデンティティ管理の例」を参照してください。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Directory Server をインストールし、起動します

77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」

ホスト B 上で次のとおり実行します

Web コンテナと Access Manager をインストールし、起動します (Directory Server の選択を解除する)

107 ページの「アイデンティティ管理の例」

ホスト C で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」

249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」

2. コンポーネントの選択で、Calendar Server、Messaging Server、および Access Manager SDK を選択します

Directory Server、Directory Preparation Script、および管理サーバーは自動的に選択されます

3. Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します
4. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

5. インストールディレクトリを確認します

6. 「今すぐ設定」 オプションを選択します

Calendar Server と Messaging Server は、インストール時に設定できません。

インストール時に設定可能なローカルコンポーネントの設定ページが表示されます。リモートに配置するコンポーネントでは、デフォルトを受け入れずに、リモートの情報を使用してください。119 ページの第 4 章「設定情報」の表から、設定情報を収集します。

7. インストールを実行します

8. インストールサマリーとログを表示します

9. リモートコンポーネントの指定を含む、インストール後の設定を完了します

285 ページの「[あとで設定] 設定オプションでのインストール後の Calendar Server の設定」

290 ページの「[あとで設定] 設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定」

10. 次の順序で、コンポーネントを起動します。

a. 307 ページの「管理サーバーの起動」

b. 316 ページの「Messaging Server の起動」

c. 311 ページの「Calendar Server の起動」

次の表には、Calendar Server の追加情報が含まれています。

表 3-11 Calendar Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストール後の設定 | 285 ページの「[あとで設定] 設定オプションでのインストール後の Calendar Server の設定」 |
| 起動と停止 | 311 ページの「Calendar Server の起動と停止」 |
| アンインストール | 332 ページの「Calendar Server のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 376 ページの「Calendar Server のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

次の表には、Messaging Server の追加情報が含まれています。

表 3-12 Messaging Server のインストール情報

| 実行するタスク | 関連情報 |
|-------------|--|
| インストール後の設定 | 290 ページの「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定」 |
| 起動と停止 | 316 ページの「Messaging Server の起動と停止」 |
| アンインストール | 355 ページの「Messaging Server アンインストール後の作業」 337 ページの「Messaging Server のアンインストール動作」 |
| トラブルシューティング | 379 ページの「Messaging Server のトラブルシューティングツール」 |
| アップグレード | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja |

Calendar-Messaging Schema 1 の例

この例では、2つのホストに、LDAP Schema 1 環境で Calendar Server と Messaging Server をインストールします。Directory Server のリモートバージョンを使用します。

要件

Calendar Server と Messaging Server は、両方とも Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。また、Messaging Server は、管理サーバーのローカルコピーが必要です。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Directory Server をインストールし、起動します

77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」

249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」

2. コンポーネントの選択で、Calendar Server と Messaging Server を選択します

Directory Server、Directory Preparation Script、および管理サーバーは自動的に選択されます。

3. Directory Server の選択を解除します
ローカルまたはリモートの Directory Server の選択が求められた場合は、リモート (すでにホスト A にインストールされ、稼働されている Directory Server) を選択します。
4. 非互換性の問題を解決します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
5. 「今すぐ設定」 オプションを選択します
インストール時に Calendar Server と Messaging Server を設定できないことを示すメッセージが表示されます。
6. 管理サーバーの設定ページを確認します
7. インストールを実行します
8. インストールサマリーとログを表示します
9. インストール後の設定を完了します。
 - o 285 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Calendar Server の設定」
 - o 290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定」
10. 次の順序で、コンポーネントを起動します。
 - a. 307 ページの「管理サーバーの起動」
 - b. 316 ページの「Messaging Server の起動」
 - c. 311 ページの「Calendar Server の起動」
11. 必要な場合は、シングルサインオンを設定します
『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』 (<http://docs.sun.com/doc/819-1054?l=ja>) の「レガシー SSO」の章を参照してください。

Communications Express と Messaging Server の例

この例では、2つのホストに、Schema 2 環境で、メッセージングサービス用の Communications Express をインストールします。Directory Server のリモートコピーを使用します。

要件

Communications Express は、Access Manager または Schema 2 用の Access Manager SDK が必要です (Access Manager SDK のローカルコピーは常に必要ですが、Access Manager はリモートコピーを使用することができる)。Directory Server は Access Manager と Communications Express で必要ですが、Directory Server はローカルホスト上に配置する必要はありません。Communications Express は、Application Server または Web Server に配置できるローカル Web コンテナを必要とします。

メッセージングサービスを使用するには、Communications Express は、管理サーバーのローカルコピーを必要とする Messaging Server のローカルコピーが必要です。カレンダーサービスを使用するには、Communications Express は Calendar Server が必要です。ただし、Calendar Server はローカルホスト上に配置する必要はありません。この例では、メッセージングサービスを使用します。

シーケンスの問題

- Messaging Server または Web Server を Sun Cluster ソフトウェアで使用する場合、コンポーネントをインストールする前に一連のタスクを正確に実行する必要があります。91 ページの「[Sun Cluster ソフトウェアの例](#)」を参照して、Sun Cluster のガイドラインを確認します。
- 依存するコンポーネントをインストールする前に、リモートの Directory Server をインストールし、稼働しておく必要があります。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Directory Server をインストールし、起動します

[77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」](#)

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)

[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Communications Express、Access Manager、Messaging Server、および Web Server を選択します。
管理サーバー、Directory Server、および Directory Preparation Script は自動的に選択されます。
3. Directory Server の選択を解除します
ローカルまたはリモートの Directory Server の選択が求められた場合は、リモート (すでにホスト A にインストールされ、稼働されている Directory Server) を選択します。
4. 非互換性の問題を解決します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
5. 「今すぐ設定」オプションを選択します
Communications Express はインストール時に設定できません。インストール後に設定する必要があります。
インストール時に設定可能なこれらのコンポーネントに対して、設定ページが表示されます。
6. 設定ページを確認します
7. インストールを実行します
8. インストールサマリーとログを表示します
9. インストール後の設定を完了します。
 - [274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定](#)
 - [290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定](#)
 - [286 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Communications Express の設定](#)
10. コンポーネントを起動します
 - [316 ページの「Messaging Server の起動](#)
 - [320 ページの「Web Server Administration Server とインスタンスの起動](#) (Access Manager は自動的に起動)
11. 次の URL を使用して、デフォルトの Communications Express のログインページにアクセスします。

`http://web-container-host:web-container-port/URI-path-CommsExpress`

12. 次の URL を使用して、デフォルトの Access Manager のログインページにアクセスします。

`http://web-container-host:web-container-port/amserver/UI/Login`

Instant Messaging と Access Manager の例

この例では、リモートの Directory Server と Web コンテナとして Web Server を使用して、Access Manager で Instant Messaging をインストールします。

要件

Instant Messaging コアサブコンポーネントでは、Access Manager が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Instant Messaging リソースサブコンポーネントの場合、Access Manager SDK が Instant Messaging のローカルになければなりません。Access Manager には Web コンテナが必要です。このコンテナはリモートに配置できます。Access Manager を使用する場合、Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Instant Messaging で Access Manager を使用する場合、Access Manager SDK も使用する必要があります。

シーケンスの問題

- インストーラは、Instant Messaging が依存するコンポーネントを自動的に選択しません。これらのコンポーネントは、手動で選択する必要があります。
- Instant Messaging でその他のコンポーネントを配備する場合は、Instant Messaging を設定する前に、その他のコンポーネントを設定する必要があります。

Instant Messaging で一般的に配備される Java ES コンポーネントには、Messaging Server、Calendar Server、および Portal Server (Access Manager で使用) があります。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Directory Server をインストールし、起動します

[77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」](#)

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)

[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Instant Messaging、Directory Server、および Web Server を選択します
Directory Preparation Script は自動的に選択されます。
3. Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します。
4. 非互換性の問題を解決します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
5. インストールディレクトリを確認します
6. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します
Instant Messaging は、インストール時に設定できません。
 - a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なローカルコンポーネントを示す設定ページが表示されます。リモートに配置するコンポーネントでは、デフォルトを受け入れずに、リモートの情報を使用してください。
[119 ページの第 4 章「設定情報」](#) の表から、設定情報を収集します。
 - b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。
7. インストールを実行します
8. インストールサマリーとログを表示します
9. インストール後の設定を完了します
[295 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」](#)
[290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Instant Messaging の設定」](#)
(オプション) リモートコンポーネントの場合は、Instant Messaging の設定時に Directory Server、Access Manager、および Web Server のリモートの場所を指定します。
10. 次の順序で、コンポーネントを起動します。
 - a. [320 ページの「Web Server Administration Server とインスタンスの起動」](#)
 - b. [314 ページの「Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動」](#)

通信サービスと共同作業サービスの例

この例では、4 ホストにまたがる通信サービスと共同作業サービスを実装するために、ほとんどの Java ES コンポーネントをインストールします。

注 これらのコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアで使用する場合、Java ES コンポーネントをインストールする前に一連のタスクを正確に実行する必要があります。91 ページの「[Sun Cluster ソフトウェアの例](#)」を参照して、Sun Cluster のガイドラインを確認します。

要件

Directory Server は、すべての通信コンポーネントが必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Messaging Server は、管理サーバーのローカルコピーが必要です。Access Manager または Access Manager SDK が必要です。ただし、Access Manager はリモートに配置できます。この例では、Web Server は Web コンテナとしての Access Manager の要件を満たします。Calendar Server と Messaging Server ではローカルの Web コンテナは必要ありませんが、Communications Express では必要になります。Communications Express は Calendar Server のリモートコピーを使用できますが、Messaging Server はローカルでなければなりません。

シングルサインオンを実装するには、Instant Messaging は Access Manager とローカルまたはリモートの Web コンテナが必要です。Portal Server Secure Remote Access は、Access Manager とローカルの Web コンテナが必要です。Portal Server Secure Remote Access は Portal Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。

シーケンスの問題

大規模配備の場合、この例とほぼ同じ順序で、別個のサーバーに各コンポーネントを配備することが可能です。小規模配備の場合、コンポーネントは少数のサーバーの個別のインストールセッションでインストールします。

この例では、次のインストールセッションを使用します。

- セッション 1、ホスト A: Access Manager と Directory Server をインストールします
- セッション 2、ホスト B: Portal Server と Web Server をインストールします (ホスト A のリモートの Directory Server と Access Manager を使用)
- セッション 3、ホスト C: Messaging Server と Calendar Server をインストールします (ホスト A のリモートの Directory Server と Access Manager を使用)

- セッション 4、ホスト D: Communications Express、Messaging Server、Access Manager SDK、および Web Server をインストールします (ホスト A のリモートの Directory Server と Access Manager、ホスト C のリモートの Calendar Server を使用)
- セッション 5、ホスト D: その他のコンポーネントをインストールし、機能させてから、Instant Messaging をインストールします (ホスト A のリモートの Directory Server と Access Manager を使用)
- セッション 6、ホスト D: Portal Server Secure Remote Access をインストールします (ホスト A のリモートの Directory Server と Access Manager を使用)

インストールを多数のセッションに分割することで、次のセッションに進む前に、各セッションのコンポーネントを検証することができます。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

1. Access Manager と Directory Server をインストールし、起動します
[107 ページの「アイデンティティ管理の例」](#)

ホスト B 上で次のとおり実行します

2. ホスト A にインストールし、稼働しているリモートの Access Manager と Directory Server を指定して、Portal Server と Web Server をインストールし、起動します。

Web コンテナと Access Manager SDK は、Portal Server のローカルになければなりません。

- [72 ページの「Access Manager と Portal Server の例」](#)
- [111 ページの「リモートの Access Manager を使用する Portal Server の例」](#)

ホスト C で次のとおり実行します

3. ホスト A にインストールしたリモートの Access Manager と Directory Server を指定して、Messaging Server と Calendar Server をインストールし、起動します。

Access Manager SDK は、Messaging Server と Calendar Server のローカルになければなりません。

[96 ページの「Calendar Server と Messaging Server の例」](#)

ホスト D 上で次のとおり実行します

4. ホスト A にインストールしたリモートの Access Manager と Directory Server、およびホスト C にインストールしたリモートの Calendar Server を指定して、Communications Express、Messaging Server、Access Manager SDK、および Web Server をインストールし、起動します。

Access Manager SDK は、Messaging Server と Communications Express のローカルになければなりません。Web コンテナは、Communications Express のローカルになければなりません。

101 ページの「Communications Express と Messaging Server の例」

ホスト D 上で次のとおり実行します

5. ホスト A にインストールしたリモートの Access Manager と Directory Server を指定して、Instant Messaging をインストールし、起動します。

Access Manager SDK は、Instant Messaging のローカルになければなりません。

103 ページの「Instant Messaging と Access Manager の例」

ホスト D 上で次のとおり実行します

6. ホスト A にインストールしたリモートの Access Manager と Directory Server を指定して、Portal Server Secure Remote Access をインストールし、起動します。

Web コンテナと Access Manager SDK は、Portal Server Secure Remote Access のローカルになければなりません。

84 ページの「Portal Server Secure Remote Access の例」

7. 初期ユーザーを確立し、シングルサインオンを設定します

『Sun Java Enterprise System ユーザーの管理』
(<http://docs.sun.com/doc/819-2228?l=ja>)

アイデンティティ管理の例

この例では、リモートホストの Directory Server で、Access Manager と Directory Server をインストールして、アイデンティティ管理を実装します。

要件

Access Manager は Directory Server が必要ですが、必ずしもローカルコピーである必要はありません。Access Manager は、Web コンテナが必要です (この例では Web Server)。Delegated Administrator は、Access Manager とともに自動的にインストールされます。その他任意のコンポーネントをインストールする前に、Directory Server を実行する必要があります。

注 Access Manager 用のサードパーティ製 Web コンテナを使用する場合は、「あとで設定」インストールを実行後、Access Manager を手動で設定する必要があります。

このインストールの例の一般的な手順には、次の手順が含まれます。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Directory Server をインストールし、起動します

[77 ページの「Directory Server のみをインストールする例」](#)

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)

[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Access Manager と Web Server を選択します。

Directory Server と Directory Preparation Script は自動的に選択されます。

3. Directory Server の選択を解除し、プロンプト表示でリモートコピーを指定します。

4. 非互換性の問題を解決します

インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。

5. 「今すぐ設定」または「あとで設定」オプションを選択します

a. 「今すぐ設定」オプションでは、インストール時の設定が可能なコンポーネントを示す設定ページが表示されます。リモートに配置するコンポーネントでは、デフォルトを受け入れずに、リモートの情報を使用してください。

[119 ページの第 4 章「設定情報」](#) に示す表から、設定情報を収集する必要があります。

b. 「あとで設定」オプションでは、設定ページは表示されません。

6. インストールを実行します

7. インストールサマリーとログを表示します

8. インストール後の設定を完了します

「今すぐ設定」の場合は、次を参照してください。

[274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」](#)

「あとで設定」の場合は、次を参照してください。

o [281 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」](#)

o [295 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」](#)

9. コンポーネントを起動します
 320 ページの「[Web Server Administration Server とインスタンスの起動](#)」(Access Manager は自動的に起動する)。

10. デフォルトの Access Manager ログインページにアクセスします。
`http://webserver-host:port/amserver`

11. 初期ユーザーを確立し、シングルサインオンを設定します
 『Sun Java Enterprise System ユーザーの管理』
 (<http://docs.sun.com/doc/819-2228?l=ja>)

初期ユーザーを確立し、シングルサインオンを実装する方法の示す完全なシナリオについては、『Java Enterprise System Deployment Example Series: Small Scale Communications Scenario』(<http://docs.sun.com/doc/819-0060>)を参照してください。

Web とアプリケーションサービスの例

この例では、負荷分散を装備する 2 ノードの HADB クラスタを実装するガイドラインについて説明します。

シーケンスの問題

HADB (高可用性セッションストレージで使用) は、Application Server で動作し、セッションの持続性を含むフェイルオーバー機能を提供します。

一般的な手順には、次のものがあります。

1. Java ES コンポーネントをインストールします
2. サーバーを起動します
3. HADB を設定します
4. 負荷分散を設定します

すべてのタスクはクラスタの各ノードで実行されます。つまり、最小で 2 つのインストールセッションが必要になります (2 つのホストクラスタに対して)。

要件

Application Server は、Message Queue のローカルコピーが必要です。Application Server が提供する統合管理ツールを利用するために、Application Server と HADB は同じホスト上になければなりません。Application Server のロードバランスプラグイン・サブコンポーネントは Web サーバーが必要です。この例では、コンテナとして Java ES Web Server を使用します。

クラスタのすべてのノードで、次のタスクを実行する必要があります。

1. ハードウェアがクラスタに正しく接続されているかどうか確認します。
2. Java ES インストーラを実行します
[233 ページの第7章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)
[249 ページの第8章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)
3. コンポーネントの選択で、Application Server と High Availability Session Store を選択します
Message Queue と Application Server Node Agent および Load Balancing Plugin を除くすべての Application Server のサブコンポーネントは、自動的に選択されます。
4. Application Server コンポーネントを展開し、Load Balancing Plugin を選択します。
Web Server は自動的に選択されます。

注 同じアクセス権を使用して、Web Server と Load Balancing Plug-in をインストールする必要があります。

5. 非互換性の問題を解決します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
6. 「今すぐ設定」オプションを選択します
High Availability Session Store は、インストール時に設定できません。Message Queue は、設定が不要です。
インストール時に設定可能なコンポーネントに対して、設定ページが表示されます。
7. インストールを実行します
8. インストールサマリーとログを表示します
9. コンポーネントを起動します。
 - [309 ページの「Application Server インスタンスの起動」](#) (Message Queue は自動的に起動する)
 - [320 ページの「Web Server Administration Server とインスタンスの起動」](#)
10. HADB のインストール後の設定を完了します
[289 ページの「あとで設定」設定オプションでのインストール後の HADB の設定](#) を参照してください。
11. 負荷分散の設定を完了します

『Sun Java System Application Server Enterprise Edition High Availability Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0216>)の「Application Server High Availability Features」の章の「HTTP Load Balancing and Failover」の項を参照してください。

リモートの Access Manager を使用する Portal Server の例

この例では、Directory Server を使用して、別のホストにすでにインストールされている Access Manager のコピーを使用して、Portal Server と必要なコンポーネントをインストールします。

要件

Portal Server は、Access Manager が必要です。Access Manager は、Directory Server のローカルまたはリモートのコピーと、ローカルの Web コンテナが必要です。Access Manager とは別のホストで Portal Server を実行することができます。この場合、Portal Server は Access Manager SDK のローカルコピーとローカルの Web コンテナが必要です。Portal Server と Access Manager SDK をインストールする場合、Access Manager の不要なサブコンポーネントの選択を解除する必要があります (Portal Server を選択するときに、インストーラは、すべての Access Manager のサブコンポーネントを自動的に選択する)。

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Access Manager と Directory Server がインストールされ、稼働されていることを確認します

[107 ページの「アイデンティティ管理の例」](#)

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Java ES インストーラを実行します

[233 ページの第 7 章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)

[249 ページの第 8 章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)

2. コンポーネントの選択で、Portal Server を選択します

Access Manager のすべてのコンポーネントとともに、Directory Server と Directory Preparation Tool が自動的に選択されます。

Web コンテナは選択されません。Web Container Selection ページが表示され、Web コンテナの選択が求められます。

3. Directory Server と Access Manager SDK を除く Access Manager のすべてのサブコンポーネントの選択を解除します。
依存性に関するメッセージに従って、次のとおり実行します。
 - a. Application Server、Web Server、または以前にインストールしたローカルの Web コンテナを選択します。
 - b. Access Manager のリモートインスタンスを選択します。
4. 非互換性の問題を解決します
インストーラは、ホスト上のソフトウェアを検証し、非互換性が識別された場合のガイダンスを示します。
5. 「今すぐ設定」オプションを選択します
設定ページが表示されます。
6. 「Directory Server: 設定 Directory Server (3 / 5)」 ページで、次のとおり設定します。
 - a. Directory Server の次のインスタンスで、このサーバーの設定データの保存を選択します。
 - b. リモート Directory Server で、次のパラメータの値を指定します。
 - ディレクトリサーバーホスト
 - ディレクトリサーバーポート (デフォルトは 389)
 - ディレクトリマネージャ DN (cn=Directory Manager はデフォルト)
 - ディレクトリマネージャパスワード
7. 「Directory Server: データの保存場所 (4 / 5)」 ページで、次のとおり設定します。
 - a. 「Directory Server の次のインスタンスにユーザー / グループデータを保存します。」を選択します。
 - b. リモート Directory Server で、次のパラメータの値を指定します。
 - ディレクトリサーバーホスト
 - ディレクトリサーバーポート (デフォルトは 389)
 - ディレクトリマネージャ DN (cn=Directory Manager はデフォルト)
 - ディレクトリマネージャパスワード
 - サフィックス
8. 「Access Manager: 管理 (1 / 6)」 ページで、リモートの次の値を指定します。
Access Manager:
 - 管理者 (amAdmin) パスワード (再入力)

- LDAP ユーザー (amldapuser) パスワード (再入力)
 - パスワードの暗号鍵
 - ディレクトリサーバー情報 (手順 9 に一致する必要がある)
 - ディレクトリマネージャパスワード
 - サフィックス
9. Access Manager SDK を実行する Web コンテナのホスト名を指定します (Portal Server と同じ)
 10. Portal Server 内で実行する Web コンテナ (および設定パラメータ) を指定します
 11. インストールを実行します
 12. インストールサマリーとログを表示します
 13. 必要なインストール後の設定を完了します。
 - [279 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定](#)
 - [279 ページの「サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定](#)

非ルートの例

ここでは、次の項で非ルートの例を説明します。

- [114 ページの「非ルートユーザーとして実行するように設定された Access Manager の例](#)
- [116 ページの「非ルート所有の Web Server または Application Server インスタンスでの Portal Server の例](#)

その他の非ルートの情報については、[299 ページの「ルート以外の ID によるコンポーネントの設定](#)」を参照してください。

非ルートユーザーとして実行するように設定された Access Manager の例

この例では、ルートが所有しない Web コンテナで実行可能な Access Manager のインストールシーケンスと設定手順について説明します。

要件

インストール計画で、スーパーユーザー (root) が所有していない Web Server または Application Server のインスタンスに Access Manager を配備する必要があるときは、Directory Server、Web Server、または Application Server とは異なるインストールセッションで Access Manager をインストールする必要があります。

注 Web Server または Application Server のルートが所有するインスタンスに Web Server がすでに配備されている場合、この項の次の手順に進む前に、Access Manager のコピーをアンインストールします。

シーケンスの問題

この例では、3つのインストールセッションを使用します。

- セッション 1、ホスト A: Directory Server と管理サーバーをインストールします
- セッション 2、ホスト B: Web Server をインストールします
- セッション 3、ホスト B: Access Manager をインストールします

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

1. 「今すぐ設定」オプションを使用して、Directory Server と管理サーバーをインストールします
 - 「共通サーバー設定」ページで、システムユーザーの非ルートユーザーおよびシステムグループの非ルートグループを入力します。
 - Directory Server と管理サーバーのポート番号を 1024 以上で選択します (389 と 390 は使用しないこと)。
2. 非ルートユーザーとして、Directory Server と管理サーバーを起動します (非ルートユーザーが、すべてのプロセスを所有する必要がある)。

ホスト B のインストールセッション 1 で、次のとおり実行します

1. 「今すぐ設定」オプションを使用して、Web Server をインストールします。
 - 「共通サーバー設定」ページで、システムユーザーの非ルートユーザーおよびシステムグループの非ルートグループを入力します。

- 「Web Server: 管理 (1 / 2)」 ページで、管理実行時ユーザー ID を非ルートユーザーに変更します。
- 「Web Server: デフォルトの Web Server インスタンス」 ページで、次のとおり設定します。
 - I. 実行時ユーザー ID を非ルートユーザーに変更します。
 - II. 実行時グループを非ルートグループに変更します。
 - III. 1024 以上の HTTP ポートの値を選択します。
- 2. 非ルートユーザーとして、Web Server の管理インスタンスと Web Server インスタンスを起動します (非ルートユーザーが、すべてのプロセスを所有する必要がある)。

ホスト B のインストールセッション 2 で、次のとおり実行します

1. 「あとで設定」 オプションを使用して、Access Manager をインストールします
2. 次のディレクトリの所有者を root/other から non-root user/non-root group に変更します。

Solaris OS の場合 : /opt/SUNWma および /etc/opt/SUNWma

Linux の場合 : /opt/sun/mobileaccess および /etc/opt/sun/mobileaccess

`chown -R non-root-user:non-root-group /opt/SUNWma /etc/opt/SUNWma`

3. `amsamplesilent` ファイルを編集します。
 - a. Access Manager の bin ディレクトリに移動します。
 - Solaris OS の場合 : `cd AccessManager-base/SUNWam/bin`
 - Linux の場合 : `cd AccessManager-base/identity/bin`
 - b. `amsamplesilent` ファイルのコピーを作成します。

例 :

```
cp -p amsamplesilent am.non_root_install
```
 - c. `amsamplesilent` ファイルのコピーを編集します。
 - BASEDIR を、インストール時に Access Manager のインストールディレクトリ用に選択した値と同じ値に設定します
 - SERVER_HOST、SERVER_PORT、DS_HOST、DS_PORT、ROOT_SUFFIX、WS61_ADMINPORT、および関連するすべてのパスワードフィールド (DS_DIRMGRPASSWD、ADMINPASSWD、AMLDAPUSERPASSWD) を更新します。
4. 編集した `amsamplesilent` ファイルを使用して、Access Manager を配備します


```
./amconfig -s ./am.non_root_install
```

 - a. NEW_OWNER を非ルートユーザーに設定します。

- b. NEW_GROUP を非ルートユーザーに設定します。
5. 非ルートユーザーとして、Web Server 管理インスタンスと Web Server インスタンスを停止します
6. ルートとして、Web Server のインストールディレクトリの所有者を変更します
`chown -R <non-root-user>:<non-root-group> WebServer-base`
7. 非ルートユーザーとして、Web Server 管理インスタンスと Web Server インスタンスを起動します
8. ブラウザで Web Server 管理コンソールにアクセスし、管理ユーザーとしてログインします。
9. Access Manager を配備したインスタンスを選択します
 - a. 「Manage」をクリックします。
 - b. 「Apply」をクリックし、「Apply Changes」をクリックします。

非ルート所有の Web Server または Application Server インスタンスでの Portal Server の例

この例では、ルートが所有しない Web コンテナで実行可能な Portal Server のインストールシーケンスと設定手順について説明します。

要件

インストール計画で、スーパーユーザー (root) が所有しない Web Server または Application Server のインスタンスに Portal Server の配備が必要な場合、Web Server または Application Server とは別のインストールセッションで Portal Server をインストールする必要があります。

| | |
|-----------|--|
| 警告 | <p>Portal Server ホストを非ルートユーザーとして実行するように設定して、その後パッチを適用する場合、パッチはルートユーザーとして適用されるため、一部のディレクトリの所有者をルート所有者にリセットする必要があります。</p> <p>パッチを適用後、非ルートユーザーとして実行するようにホストを再設定します。</p> |
|-----------|--|

このタイプのインストールの一般的な手順には、次のものがあります。

ホスト A 上で次のとおり実行します

Web コンテナと Access Manager をインストールし、起動します (Directory Server の選択を解除)

107 ページの「アイデンティティ管理の例」

Portal Server がリモートホストですすでに稼働されている Access Manager のコピーを使用する場合は、この手順を省略します。

ホスト B 上で次のとおり実行します

1. Web Server または Application Server の非ルートインスタンスが Portal Server をインストールするホストと同じホストにインストールされ、設定されていることを確認します。

- Web Server の場合は、次のとおり実行します

Web Server がインストールされていない場合、インストーラを使用して Web Server をインストールし、「今すぐ設定」オプションを選択します。実行時ユーザーおよび実行時グループの設定パラメータで、非ルートの所有者を指定します。

86 ページの「Web Server のみをインストールする例」

Web Server がすでにインストールされている場合は、Web Server の管理ユーティリティを使用して、非ルートユーザーが所有する新しい Web Server インスタンスを作成します。

- Application Server の場合は、次のとおり実行します。

Application Server がインストールされていない場合は、インストーラを使用して Application Server をインストールします。

75 ページの「Application Server のみをインストールする例」

Application Server をインストールしたら、Application Server の管理ユーティリティを使用して、非ルートユーザーが所有する新しい Application Server インスタンスを作成します。

2. Web Server または Application Server の非ルートインスタンスとともに、Web Server または Application Server の管理インスタンスが稼働していることを確認します
3. 「今すぐ設定」オプションを使用して、Portal Server をインストールします
4. Portal Server の設定時に、次のとおり実行します。
 - 「共通サーバー設定」ページに値を指定するときに、システムユーザーとシステムグループのパラメータとして、ルート以外のインスタンス所有者のユーザー情報とグループ情報を入力します。

- Portal Server の「Sun Java System Web Server」 ページ、または「Portal Server Sun Java System Application Server」 ページで値を指定する場合、非ルートインスタンスに関する情報を入力します。
5. インストールが完了したら、Portal Server ディレクトリの所有者を root から *Userid:UserGroup* に変更します。

Solaris OS の場合 :

```
chown -R Userid:UserGroup /opt/SUNWps  
chown -R Userid:UserGroup /etc/opt/SUNWps  
chown -R Userid:UserGroup /var/opt/SUNWps
```

Linux の場合 :

```
chown -R Userid:UserGroup /opt/sun/portal  
chown -R Userid:UserGroup /etc/opt/sun/portal  
chown -R Userid:UserGroup /var/opt/sun/portal
```

6. Portal Server ディレクトリのアクセス権を設定します。

Solaris OS の場合 :

```
chmod 0755 /opt/SUNWps  
chmod 0755 /etc/opt/SUNWps  
chmod 0755 /var/opt/SUNWps
```

Linux の場合 :

```
chmod 0755 /opt/sun/portal  
chmod 0755 /etc/opt/sun/portal  
chmod 0755 /etc/opt/sun/portal
```

7. Web Server または Application Server を停止し、その後、起動します。

[309 ページの「Application Server の起動と停止」](#)

[320 ページの「Web Server の起動と停止」](#)

設定情報

この章では、「今すぐ設定」設定オプションでのインストール時にコンポーネントを設定するために、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラに指定する必要がある情報について説明します。この情報には、一般的なサーバー設定や、インストール時に設定できる各コンポーネントに固有の情報が含まれます。

この章の内容と、191 ページの第 5 章「設定用ワークシート」に掲載されているワークシートを使用して、Java ES のインストール準備を行なってください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 120 ページの「この章の利用方法」
- 121 ページの「共通サーバー設定」
- 122 ページの「Access Manager 設定情報」
- 138 ページの「Access Manager SDK 設定情報」
- 145 ページの「管理サーバーの設定情報」
- 148 ページの「Application Server の設定情報」
- 150 ページの「Directory Server 設定情報」
- 158 ページの「Directory Proxy Server 設定情報」
- 159 ページの「Portal Server の設定情報」
- 166 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」
- 184 ページの「Web Server の設定情報」
- 187 ページの「状態ファイルのみで使用されるパラメータ」

この章の利用方法

「今すぐ設定」設定オプションを使用する場合、Java ES のインストーラは、インストール時に設定可能な、選択されたコンポーネントの設定ページを表示します。デフォルトの情報をそのまま使用することも、別の情報を入力することもできます。

注 次のコンポーネントは、Java ES インストーラでは設定できません。
Calendar Server、Communications Express、Directory Server Preparation Script、HADB、Instant Messaging、Message Queue、Messaging Server、Sun Cluster ソフトウェア、および SunSM Remote Services Net Connect。

「あとで設定」設定オプションを使用する場合、インストール中は、一般的なサーバー設定と、ポート設定がどのように機能するかを認識する以外の作業はほとんど必要ありません。インストールディレクトリとポート割り当ての詳細については、[391 ページの付録 B 「デフォルトのインストールディレクトリ」](#) または [395 ページの付録 C 「デフォルトのポート番号」](#) を参照してください。

この章で示すコンポーネント別の表は、グラフィカルインストーラでの設定ページのグループ分けと同様にグループ分けされています。最初はコンポーネント別に、次に情報のタイプ別にグループ分けされています。設定情報の表には、「ラベルと状態ファイルのパラメータ」と「説明」の 2 つの列があります。「ラベル」、「状態ファイルのパラメータ」列には、次の情報が含まれます。

- **ラベル**：グラフィカルインストーラで情報を識別するためのテキスト。これは、通常は入力フィールドに付けられたラベルです。
- **状態ファイルのパラメータ**：サイレントインストール用の状態ファイルで情報を識別するためのキー。状態ファイルのパラメータは、大文字のモノスペースフォントで表示されます。

ヒント パラメータの使用方法を理解するには、[403 ページの付録 E 「状態ファイルの例」](#) で示されている状態ファイルの例を検討するのがよい方法です。

インストールセッションの最後に、インストール中に設定された設定値がサマリーファイルに記録されます。このファイルをインストーラで表示したり、このファイルが保存されている次のディレクトリから表示することができます。

Solaris OS の場合：`/var/sadm/install/logs`

Linux の場合：`/var/opt/sun/install/logs`

デフォルト値

デフォルト値は、インストーラのすべてのモードに適用されます。ただし、サイレントモードで使用される状態ファイルの説明では別の値が示されます。

状態ファイルの値は、特に明記されていないかぎり大文字と小文字が区別されます。

情報の参照方法

この章の情報を参考にして、インストーラで要求される設定情報を入力するには、次のようにします。

1. そのコンポーネントについて説明している項目を特定します。
2. 表示されているインストーラページに対応する表を探します。各表には、インストーラのそれぞれのページに含まれるすべてのフィールドと質問が記載されています。

この章で状態ファイルのパラメータに関する情報を参照するには、次のようにします。

- オンラインガイドを使用している場合は、HTML または PDF の検索機能を使用してパラメータ文字列を検索します。
- 印刷されているマニュアルを使用している場合は、索引を参照します。索引には、各パラメータ名の項目が記載されています。

共通サーバー設定

「今すぐ設定」設定オプションを使用してコンポーネントをインストールする場合、インストーラでは一連の共通サーバー設定が表示されます。この設定は、設定を使用するコンポーネントのデフォルト値として使用されます。

インストーラの設定ページで「*共有デフォルト値」という表記は、その設定が「共通サーバー設定」ページで設定されたデフォルト値であることを示します。デフォルト値をそのまま使用することも、設定中のコンポーネントに固有の値を入力することによってデフォルト値を変更することもできます。

次の表は、共通サーバー設定のデフォルト値の一覧です。

表 4-1 共通サーバー設定

| ラベルと状態ファイルの パラメータ | 説明 | デフォルト値 |
|--------------------------------|--|--|
| ホスト名 CMN_HOST_NAME | Java ES コンポーネントのインストール先ホストのホスト名。 | hostname コマンドの出力。 例: thishost |
| DNS ドメイン名 CMN_DOMAIN_NAME | インストール先ホストのドメイン。 | ローカル DNS サーバーに登録されている、このコンピュータのドメイン名。 例: subdomain.domain.com |
| ホスト IP アドレス CMN_IPADDRESS | インストール先ホストの IP アドレス。 | ローカルホストの IP アドレス。 例: 127.51.91.192 |
| 管理者ユーザー ID CMN_ADMIN_USER | インストールされるすべてのコンポーネントの管理者のデフォルトユーザー ID。 | admin |
| 管理者パスワード CMN_ADMIN_PASSWORD | インストールされるすべてのコンポーネントの管理者のデフォルトパスワード。 | デフォルト値はありません。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。 |
| システムユーザー CMN_SYSTEM_USER | コンポーネントプロセスの実行に適用されるユーザー ID (UID)。 | root |
| システムグループ CMN_SYSTEM_GROUP | システムユーザーのグループ ID (GID)。 | other |

Access Manager 設定情報

Java ES インストーラでは、Access Manager の次のサブコンポーネントをインストールすることができます。

- アイデンティティ管理とポリシーサービスコア
- Access Manager 管理コンソール
- 連携管理の共有ドメインサービス
- Access Manager SDK

注 アイデンティティ管理とポリシーサービスコアの一部として Access Manager SDK は自動的にインストールされますが、SDK はリモートホストに個別にインストールすることもできます。Access Manager SDK の個別のインストールについては、[138 ページの「Access Manager SDK 設定情報」](#) および [95 ページの「コンテナの設定を使用する Access Manager SDK の例」](#) を参照してください。

インストールするサブコンポーネントが異なると、インストーラに指定する情報も異なります。詳細は次の表を参照してください。この表には、関連情報を参照できる表の参照先も記載されています。

表 4-2 Access Manager のサブコンポーネントのインストールに必要な情報

| インストールするコンポーネント | 必要な情報 | 参照先 |
|------------------------|---------------------|---|
| アイデンティティ管理とポリシーサービスコア | Web コンテナ情報 | 125 ページの「Access Manager: Web コンテナ情報」 |
| | Directory Server 情報 | 135 ページの表 4-10 |
| | 作成されたディレクトリの情報 | 136 ページの表 4-11 および 137 ページの表 4-12 |
| 連携管理の共有ドメインサービス | サービス情報 | 135 ページの「Access Manager 連携管理のインストール (コアがすでにインストールされている場合)」 |
| Access Manager 管理コンソール | 管理情報 | 124 ページの表 4-3 |
| | サービス情報 | 132 ページの「Access Manager コンソールのインストール (コアがすでにインストールされている場合)」 |

Access Manager: 管理情報

Access Manager の管理コンソールをインストールする場合、インストーラは次の情報を要求します。

表 4-3 Access Manager の管理に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------|---|
| 管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID | <p>Access Manager の最上位管理者。このユーザーは、Access Manager が管理するすべてのエントリに対するすべてのアクセス権を持ちます。</p> <p>デフォルト名の amadmin を変更することはできません。これにより、Access Manager 管理者のロールおよび権限の作成と Directory Server へのマッピングが正しく行われることが保証されるため、ユーザーはインストール後すぐに Access Manager にログオンできます。</p> |
| 管理者パスワード IS_ADMINPASSWD | <p>amadmin ユーザーのパスワード。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値 (CMN_ADMIN_PASSWORD) です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> |
| LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER | <p>LDAP サービス、Membership サービス、および Policy サービスに対するバインド DN ユーザー。このユーザーは、Directory Server のすべてのエントリに対する読み取りおよび検索アクセス権を持ちます。</p> <p>デフォルトユーザー名の amldapuser は変更できません。</p> |
| LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD | <p>amldapuser ユーザーのパスワード。このパスワードを amadmin ユーザーのパスワードと同じにすることはできません。有効な任意のディレクトリサービスのパスワードを指定できます。</p> |

表 4-3 Access Manager の管理に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------|--|
| パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD | <p>Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。</p> <p>対話式インストーラは、デフォルトのパスワード暗号鍵を生成します。デフォルト値を受け入れることも、J2EE 乱数発生関数の生成する任意の鍵を指定することもできます。Access Manager のインストール時にプロパティファイルが更新され、<code>am.encrypted.pwd</code> プロパティはこの値に設定されます。プロパティファイルは <code>AMConfig.properties</code> です。このファイルは次の場所にあります。</p> <p>Solaris OS の場合 : <code>/etc/opt/SUNWam/config</code> Linux の場合 : <code>/etc/opt/sun/identity/config</code></p> <p>Access Manager のサブコンポーネントはすべて、アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアが使用するのと同じ暗号鍵を使用する必要があります。Access Manager のサブコンポーネントを複数のホスト間で配布し、管理コンソールまたは連携管理の共有ドメインサービスをインストールする場合、コアのインストールで生成された <code>am.encrypted.pwd</code> の値をコピーし、このフィールドにペーストします。</p> <p>状態ファイルのデフォルトは LOCK です。任意の文字の組み合わせを使用できます。</p> |

Access Manager: Web コンテナ情報

Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアの各サブコンポーネントは、Web Server または Application Server で稼働します。インストーラが要求する情報は、Web コンテナの種類によって異なります。

- Web Server の場合は、[125 ページの「Web コンテナ情報 : Access Manager と Web Server」](#) を参照してください。
- Application Server の場合は、[127 ページの「Web コンテナ情報 : Access Manager と Application Server」](#) を参照してください。

Web コンテナ情報 : Access Manager と Web Server

表 4-4 は、Web Server が Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントの Web コンテナである場合に、インストーラに指定する必要がある情報を示しています。

表 4-4 Access Manager と Web Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| ホスト名 IS_WS_HOST_NAME | ホストの完全修飾ドメイン名。 たとえば、このホストが <code>siroe.example.com</code> の場合、値は <code>siroe.example.com</code> となります。 デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名です。 |
| Web サーバーポート IS_WS_INSTANCE_PORT | Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。 デフォルト値は 80 です。 このインストーラセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は「Web サーバーポート」の値 (<code>WS_ADMIN_PORT</code>) となります。 186 ページの表 4-57 を参照してください。 |
| Web サーバーインスタンスディレクトリ IS_WS_INSTANCE_DIR | Web Server インスタンスのインストール先ディレクトリへのパス。パスの構文は次のとおりです。 <i>WebServer-base/https-web-server-instance-name</i> このセッションで Web Server をインストールする場合、 <i>WebServer-base</i> のデフォルト値は、次に示す Web Server のインストールディレクトリです。 Solaris OS の場合 : <code>/opt/SUNWwbsvr</code> Linux の場合 : <code>/opt/sun/webserver</code> |
| ドキュメントルートディレクトリ IS_WS_DOC_DIR | Web Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリ。 このインストーラセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は Web Server の「ドキュメントルートディレクトリ」の値 (<code>WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT</code>) となります。 186 ページの表 4-57 を参照してください。 Web Server をインストールしない場合、デフォルトの場所は <i>WebServer-base/docs</i> となります。 <i>WebServer-base</i> のデフォルト値は、次に示す Web Server のインストールディレクトリです。 Solaris OS の場合 : <code>/opt/SUNWwbsvr</code> Linux の場合 : <code>/opt/sun/webserver</code> |

表 4-4 Access Manager と Web Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| セキュアサーバーインスタンス ポート IS_SERVER_PROTOCOL | <p>Web Server のインスタンスのポートがセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。</p> |

Web コンテナ情報 : Access Manager と Application Server

表 4-5 は、Application Server が Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントの Web コンテナである場合に、インストーラに指定する必要がある情報を示しています。

表 4-5 Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| インストールディレクトリ IS_APPSERVERBASEDIR | <p>Application Server のインストール先ディレクトリへのパス。</p> <p>Application Server をインストールする場合、この値のデフォルト値は Application Server のインストールディレクトリに指定した値となります。デフォルト値は次のとおりです。</p> <p>Solaris OS の場合 : /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合 : /opt/sun/appserver</p> |
| Access Manager 実行時インスタンス IS_IAS81INSTANCE | <p>Access Manager を実行する Application Server インスタンスの名前。</p> <p>デフォルト値は server です。</p> |

表 4-5 Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| インスタンスディレクトリ IS_IAS81INSTANCEDIR | Application Server がインスタンスのファイルを格納するディレクトリへのパス。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合： /var/opt/SUNWappserver/domains Linux の場合： /var/opt/sun/appserver/domains |
| Access Manager インスタンスポート IS_IAS81INSTANCE_PORT | Application Server がインスタンスへの接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。 |
| ドキュメントルート IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR | Application Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリです。 デフォルトのドキュメントルートは、IS_IAS81INSTANCEDIR によって指定されるインスタンスディレクトリの最後に <i>domainname/docroot</i> を追加した値となります。例： IS_IAS81INSTANCEDIR/ <i>domainname</i> /docroot |
| 管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN | Application Server 管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| 管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWD | Application Server 管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者のユーザーパスワード」の値です。 122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| 管理ポート IS_IAS81_ADMINPORT | Application Server の管理サーバーが接続を待機するポート。 デフォルト値は 4849 です。 |

表 4-5 Access Manager と Application Server を連動させる場合の Web コンテナの設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| セキュアサーバーインスタンスポート IS_SERVER_PROTOCOL | <p>「インスタンスポート」の値 (IS_IAS81INSTANCE_PORT) がセキュリティ保護されているポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。</p> |
| セキュリティ保護された管理サーバーポート ASADMIN_PROTOCOL | <p>「管理ポート」の値 (IS_IAS81_ADMINPORT) がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。</p> |

Access Manager: サービス情報

Access Manager のサブコンポーネントが異なる場合、インストーラに指定する Access Manager サービスの情報も異なります。

- 「[Access Manager のコアとコンソールのインストール](#)」
- 「[Access Manager コンソールのインストール \(コアがすでにインストールされている場合\)](#)」
- [133 ページの「Access Manager コンソールのインストール \(コアがまだインストールされていない場合\)」](#)
- [135 ページの「Access Manager 連携管理のインストール \(コアがすでにインストールされている場合\)」](#)

Access Manager のコアとコンソールのインストール

表 4-6 は、アイデンティティ管理、ポリシーサービスコア、および Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのインストール時に、インストーラに指定するサービス情報を示しています。

この例では、新規コンソールを配備するか、配備済みのコンソールを使用できます。「説明」列に示すように、新規コンソールを配備する場合は表 4-6 の一部の情報は必要ありません。

表 4-6 Access Manager コアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------|--|
| ホスト名 IS_SERVER_HOST | インストール先のホストの完全修飾ドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。 |
| サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI | アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。 デフォルト値は amserver です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| 共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI | Web コンテナ上の共通ドメインサービスにアクセスするための URI プレフィックス。 デフォルト値は amcommon です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| クッキードメイン COOKIE_DOMAIN_LIST | Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。 この値は、example.com などの単一の最上位ドメインに限定することができます。この場合、セッション ID で example.com のすべてのサブドメインの認証が得られます。 また、.corp.example.com, .sales.example.com のように、コンマで区切ってサブドメインを指定することもできます。この場合、セッション ID でリスト内のすべてのサブドメインの認証が得られます。 リスト内の各ドメインの先頭に、ドット (.) を指定する必要があります。 デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。 |

表 4-6 Access Manager コアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| 管理コンソール: 新しいコンソールを配備および 既存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB _CONTAINER | <p>Access Manager がインストールされるホストの Web コンテナにコンソールを配備するには、新規コンソールの配備を選択します。別のホストに配備されている既存のコンソールを使用するには、既存コンソールの使用を選択します。</p> <p>どちらの場合も、コンソール配備 URI とパスワード配備 URI を指定します。既存のコンソールを使用する場合は、コンソールホスト名とコンソールポートも指定する必要があります。</p> <p>状態ファイルでは、新規コンソールを配備する場合は true、既存コンソールを使用する場合は false を指定します。</p> |
| コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI | <p>Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。</p> <p>デフォルト値は amconsole です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。</p> |
| パスワード配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI | <p>Access Manager を実行する Web コンテナが使用する、ユーザー指定の文字列と対応する配備済みアプリケーション間のマッピングを決定する URI。</p> <p>デフォルト値は ampassword です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。</p> |
| コンソールホスト名 CONSOLE_HOST | <p>既存のコンソールをホストするサーバーの完全修飾ドメイン名。</p> <p>コンソールを新たに配備する場合は、この値を指定する必要はありません。グラフィカルインストールモードでは、既存のコンソールを使用する場合のみ、このフィールドを編集できます。</p> <p>デフォルト値には、「ホスト」に指定した値 (IS_SERVER_HOST)、ドット、および共通サーバー設定で指定した「DNS ドメイン名」の値が含まれます。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> <p>たとえば、ホストが siroe、ドメインが example.com であれば、デフォルト値は siroe.example.com となります。</p> |

表 4-6 Access Manager コアとコンソールをインストールするためのサービスに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------|---|
| コンソールポート CONSOLE_PORT | <p>既存のコンソールが接続を待機するポート。0～65535 の範囲内で、有効かつ未使用の任意のポート番号を使用できます。</p> <p>コンソールを新たに配備する場合は、この値を指定する必要はありません。グラフィカルインストールモードでは、既存のコンソールを使用する場合のみ、このフィールドを編集できます。</p> <p>デフォルト値は、次のいずれかの Web コンテナポートで指定した値となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Web サーバーポート」(IS_WS_INSTANCE_PORT)。126 ページの表 4-4 の定義を参照。 「Access Manager インスタンスポート」(IS_IAS81INSTANCE_PORT)。127 ページの表 4-5 の定義を参照。 |

Access Manager コンソールのインストール (コアがすでにインストールされている場合)

表 4-7 は、次の両方の条件が真である場合にインストーラに指定するサービス情報を示しています。

- Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのみをインストールします。
- アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが、すでに同一のホストにインストールされています。

表 4-7 Access Manager コンソールのみをインストールするためのサービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI | <p>Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。</p> <p>デフォルト値は amconsole です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。</p> |

表 4-7 Access Manager コンソールのみをインストールするためのサービス情報 (コアがすでにインストールされている場合) (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| パスワードサービス配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI | Access Manager を実行する Web コンテナが使用する、ユーザー指定の文字列と対応する配備済みアプリケーション間のマッピングを決定する URI。 デフォルト値は <code>ampassword</code> です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |

Access Manager コンソールのインストール (コアがまだインストールされていない場合)

表 4-8 は、次の両方の条件が真である場合にインストーラに指定するサービス情報を示しています。

- Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのみをインストールします。
- アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが、異なるホストにインストールされています。

表 4-8 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| Access Manager 管理コンソールを実行するための Web コンテナ | |
| コンソールホスト名 CONSOLE_HOST | インストール先のホストの完全修飾ドメイン名。 |
| コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI | Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。 デフォルト値は <code>amconsole</code> です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| パスワードサービス配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI | パスワードサービス用の配備 URI。 デフォルト値は <code>ampassword</code> です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |

表 4-8 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合) (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------------------|---|
| Access Manager サービスを実行するための Web コンテナ | |
| サービスホスト名 IS_SERVER_HOST | <p>アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントのインストール先ホストの完全修飾ドメイン名。</p> <p>デフォルト値は、このホストの完全修飾ドメイン名です。デフォルト値は指定形式を示す例としてだけ用い、値を編集して正しいリモートホスト名を指定する必要があります。</p> <p>状態ファイルでは、リモートホストの完全修飾ドメイン名を指定します。</p> |
| ポート CONSOLE_PORT | <p>アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが接続を待機するポート。このポートは、Web コンテナが使用する HTTP ポートまたは HTTPS ポートです。</p> |
| サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI | <p>アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。</p> <p>デフォルト値は <code>amserver</code> です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。</p> |
| クッキードメイン COOKIE_DOMAIN_LIST | <p>Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。</p> <p>この値を、<code>example.com</code> などの単一の最上位ドメインに限定できます。この場合、セッション ID で <code>example.com</code> のすべてのサブドメインの認証が得られます。</p> <p>また、<code>.corp.example.com</code>, <code>.sales.example.com</code> のように、コンマで区切ってサブドメインを指定することもできます。この場合、セッション ID でリスト内のすべてのサブドメインの認証が得られます。</p> <p>各ドメインの先頭に、ドット (.) を指定する必要があります。</p> <p>デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。</p> |

Access Manager 連携管理のインストール (コアがすでにインストールされている場合)

表 4-9 は、連携管理サブコンポーネントの共有ドメインサービスのみをインストールする場合に、インストーラに指定するサービス情報を示しています。

表 4-9 Access Manager 連携管理をインストールするためのサービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------------|---|
| 共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI | Web コンテナ上の共通ドメインサービスにアクセスするための URI プレフィックス。 デフォルト値は amcommon です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |

Access Manager: Directory Server 情報

アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアをインストールする場合に、インストーラに指定する情報は次のとおりです。

表 4-10 Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME | Directory Server が存在するホストを決定するホスト名または値。 デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。たとえば、ローカルホストが siroe.example.com の場合、デフォルト値は siroe.example.com となります。 |
| Directory Server ポート IS_DS_PORT | Directory Server がクライアント接続を待機するポート。 デフォルト値は 389 です。 |
| Access Manager ディレクトリルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX | Access Manager ルートサフィックスとして設定する識別名 (DN)。 デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが siroe.subdomain.example.com の場合、値は dc=subdomain,dc=example,dc=com となります。 |

表 4-10 Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|------------------------------------|--|
| ディレクトリマネージャ DN IS_DIRMGRDN | Directory Server へのすべてのアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。 |
| ディレクトリマネージャパスワード IS_DIRMRPASSWD | ディレクトリマネージャのパスワード。 |

Access Manager: プロビジョニングされているディレクトリの情報

プロビジョニングされたディレクトリの設定に必要な情報は、インストーラがホスト内でプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出するかどうかによって異なります。

インストーラが状態ファイルを生成するとき、プロビジョニングされた既存ディレクトリをインストーラが検出した場合、状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=y` が書き込まれます。プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合、インストーラは状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=n` を書き込みます。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

表 4-11 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|------------------------------------|---|
| ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR | プロビジョニングされたディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。 デフォルト値は uid です。 |

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出しない場合、プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを選択できます。次の表の最初の質問に対して Yes を指定した場合、表に記載されている残りの質問に対しても情報を指定する必要があります。

表 4-12 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| Directory Server にユーザーデータが準備されていますか? IS_LOAD_DIT | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを指定します。</p> <p>デフォルト値は No です。</p> <p>状態ファイルの値として指定できる値は、y または n です。デフォルト値は n です。</p> |
| 組織マーカーオブジェクトクラス IS_ORG_OBJECT_CLASS | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内で組織に対して定義されているオブジェクトクラス。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は SunISManagedOrganization です。</p> |
| 組織ネーミング属性 IS_ORG_NAMING_ATTR | <p>プロビジョニングされている既存ディレクトリ内で組織の定義に使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は o です。</p> |
| ユーザーマーカーオブジェクトクラス IS_USER_OBJECT_CLASS | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して定義されているオブジェクトクラス。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は inetorgperson です。</p> |
| ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は uid です。</p> |

Access Manager SDK 設定情報

Access Manager のサブコンポーネントであるアイデンティティ管理とポリシーサービスコアをインストールすると、Access Manager SDK が自動的にインストールされます。Access Manager SDK は、Access Manager コアサービスから離れたリモートホストにも独立したコンポーネントとしてインストールできます。

Access Manager SDK をインストールする前に、リモートホストに Access Manager コアサービスがインストールされ、稼働している必要があります。このインストールの実行中に指定する Web コンテナの情報と Directory Server の設定情報は、Access Manager コアサービスの Web コンテナ情報および Directory Server 設定情報と一致している必要があります。

注 インストーラが Web コンテナと Directory Server に関する情報を要求するとき、ローカルホストの設定に基づいたデフォルト値が表示されます。

デフォルト値は形式の例としてだけ使用し、これらの値をそのまま適用しないでください。ここでは、デフォルト値の代わりに、正しいリモート情報を指定する必要があります。

Access Manager SDK を独立したコンポーネントとしてインストールする場合は、次の情報を指定する必要があります。

- [138 ページの「Access Manager SDK: 管理情報」](#)
- [140 ページの「Access Manager SDK: Directory Server 情報」](#)
- [142 ページの「Access Manager SDK: プロビジョニングされているディレクトリの情報」](#)
- [144 ページの「Access Manager SDK: Web コンテナ情報」](#)

Access Manager SDK: 管理情報

Access Manager SDK のみをインストールする場合、インストーラは次の管理情報を要求します。

表 4-13 Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------|--|
| 管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID | <p>Access Manager の最上位管理者。このユーザーは、Access Manager が管理するすべてのエントリに対するすべてのアクセス権を持ちます。</p> <p>デフォルト名の <code>amadmin</code> を変更することはできません。これにより、Access Manager 管理者のロールおよび権限の作成と Directory Server へのマッピングが正しく行われることが保証されるため、ユーザーはインストール後すぐに Access Manager にログオンできます。</p> |
| 管理者パスワード IS_ADMINPASSWD | <p><code>amadmin</code> ユーザーのパスワード。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値 (<code>CMN_ADMIN_PASSWORD</code>) です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> |
| LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER | <p>LDAP サービス、Membership サービス、および Policy サービスに対するバインド DN ユーザー。このユーザーは、Directory Server のすべてのエントリに対する読み取りおよび検索アクセス権を持ちます。</p> <p>デフォルトユーザー名の <code>amldapuser</code> は変更できません。</p> |
| LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD | <p><code>amldapuser</code> ユーザーのパスワード。このパスワードを <code>amadmin</code> ユーザーのパスワードと同じにすることはできません。有効な任意のディレクトリサービスのパスワードを指定できます。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> |

表 4-13 Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------|---|
| パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD | <p>Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。</p> <p>Access Manager のサブコンポーネントはすべて、アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアが使用するのと同じ暗号鍵を使用する必要があります。Access Manager SDK の暗号鍵を指定するには、次の手順を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コアのインストールで生成された <code>am.encrypted.pwd</code> の値をコピーします。 2. コピーした値をこのフィールドにペーストします。 <p>状態ファイルのデフォルトは LOCK です。任意の文字の組み合わせを使用できます。</p> |

Access Manager SDK: Directory Server 情報

Access Manager のサブコンポーネントなしで Access Manager SDK をインストールする場合、インストーラは Directory Server に関する次の情報を要求します。

表 4-14 Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME | <p>Directory Server が存在するホストを決定するホスト名または値。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> |
| Directory Server ポート IS_DS_PORT | <p>Directory Server がクライアント接続を待機するポート。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> |

表 4-14 Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| Access Manager ディレクトリ ルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX | <p>Directory Server のインストール時に Access Manager のルートサフィックスとして指定した識別名 (DN)。ルートサフィックスは、Access Manager によって管理されるディレクトリの一部を示します。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが <code>siroe.subdomain.example.com</code> の場合、値は <code>dc=subdomain,dc=example,dc=com</code> となります。</p> <p>デフォルト値は、形式を示す例としてだけ利用します。</p> |
| ディレクトリマネージャ DN IS_DIRMGRDN | <p>Directory Server へのすべてのアクセス権を持つユーザーの DN。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は <code>cn=Directory Manager</code> です。</p> |
| ディレクトリマネージャパスワード IS_DIRMGRPASSWD | <p>ディレクトリマネージャのパスワード。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> |

Access Manager SDK: プロビジョニングされているディレクトリの情報

プロビジョニングされたディレクトリの設定に必要な情報は、インストーラがホスト内でプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出するかどうかによって異なります。

インストーラが状態ファイルを生成するとき、プロビジョニングされた既存ディレクトリをインストーラが検出すると、状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=y` が書き込まれます。プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合、インストーラは状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=n` を書き込みます。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

表 4-15 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| ユーザーネーミング属性 <code>IS_USER_NAMING_ATTR</code> | プロビジョニングされたディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。 デフォルト値は <code>uid</code> です。 |

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出しない場合、プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを選択できます。次の表の最初の質問に対して **Yes** を指定した場合、表に記載されている残りの質問に対しても情報を指定する必要があります。

表 4-16 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| Directory Server にユーザーデータが準備されていますか？ <code>IS_LOAD_DIT</code> | プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを指定します。 デフォルト値は No です。 状態ファイルの値として指定できる値は、 <code>y</code> または <code>n</code> です。デフォルト値は <code>n</code> です。 |

表 4-16 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| 組織マーカーオブジェクトクラス IS_ORG_OBJECT_CLASS | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内で組織に対して定義されているオブジェクトクラス。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は SunISManagedOrganization です。</p> |
| 組織ネーミング属性 IS_ORG_NAMING_ATTR | <p>プロビジョニングされている既存ディレクトリ内で組織の定義に使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は o です。</p> |
| ユーザーマーカーオブジェクトクラス IS_USER_OBJECT_CLASS | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して定義されているオブジェクトクラス。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は inetorgperson です。</p> |
| ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR | <p>プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。</p> <p>この値は、この表の最初の項目の値を Yes に設定した場合にだけ使用されます。</p> <p>デフォルト値は uid です。</p> |

Access Manager SDK: Web コンテナ情報

Access Manager SDK だけをインストールする場合、インストーラは Web コンテナに関する次の情報を要求します。

表 4-17 Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| ホスト IS_WS_HOST_NAME (Web Server) | <p>Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナのホスト名。リモートホストに Access Manager をインストールするときに指定した値を使用します。</p> <p>デフォルト値は存在しません。</p> |
| サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI | <p>Access Manager に関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は <code>amservice</code> です。先頭にスラッシュを入力してはなりません。</p> |
| クッキードメイン COOKIE_DOMAIN_LIST | <p>Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。</p> <p>リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。</p> <p>デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。</p> |
| サービスポート IS_WS_INSTANCE_PORT (Web Server) IS_IAS81INSTANCE_PORT (Application Server) | <p>Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナインスタンスのポート番号。Access Manager コアサービスのインストール時に指定したポート番号を使用します。</p> |

管理サーバーの設定情報

インストール時に、管理サーバーについて次の情報を指定する必要があります。

- 145 ページの「管理サーバー：管理情報」
- 146 ページの「管理サーバー：設定用ディレクトリの設定情報」

管理サーバー：管理情報

表 4-18 管理サーバーの管理に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------------|--|
| サーバールート ADMINSERV_ROOT | <p>管理サーバーによって管理されるコンポーネントのインストール先のベースパス名。</p> <p>デフォルト値は次のとおりです。</p> <p>Solaris OS の場合：/var/opt/mps/serverroot Linux の場合：/var/opt/sun/directory-server</p> |
| 管理ポート ADMINSERV_PORT | <p>管理コンソールから HTTP 経由でこの管理サーバーに接続する際に使用するポート。</p> <p>デフォルト値は 390 です。使用可能な任意のポート番号を指定できます。</p> |
| 管理ドメイン ADMINSERV_DOMAIN | <p>ディレクトリサービスを共有するサーバーコレクションの名前。</p> <p>推奨されるデフォルト値は、共通サーバー設定に指定したホストドメイン名です。122 ページの表 4-1 を参照してください。ただし、管理ドメインの名称は、ネットワークドメインに対して、一致や関連付けの必要はありません。</p> |
| システムユーザー ADMINSERV_SYSTEM_USER | <p>管理サーバープロセスの実行に適用されるユーザー ID。有効な任意のシステムユーザーを指定できます。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「システムユーザー」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> <p>注：この値は、関連付けられた Directory Server に対する値と同じでなければなりません。</p> |

表 4-18 管理サーバーの管理に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|------------------------------------|--|
| システムグループ ADMINSERV_SYSTEM_GROUP | <p>有効な任意のシステムグループを指定できます。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定したシステムグループです。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> <p>注: この値は、関連付けられた Directory Server に対する値と同じでなければなりません。</p> |

管理サーバー：設定用ディレクトリの設定情報

表 4-19 管理サーバーの設定用ディレクトリの設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| 管理ユーザー ID ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER | <p>設定ディレクトリ管理者のユーザー ID。管理サーバーは、この ID を使用して設定ディレクトリのデータを管理します。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は Directory Server の「管理者ユーザー ID」で指定した値となります。151 ページの表 4-23 を参照してください。</p> |
| 管理者パスワード ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD | <p>設定ディレクトリ管理者のパスワード。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者のユーザーパスワード」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は Directory Server の「管理者のユーザーパスワード」で指定した値となります。151 ページの表 4-23 を参照してください。</p> |

表 4-19 管理サーバーの設定用ディレクトリの設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| Directory Server ホスト ADMINSERV_CONFIG_DIR_HOST | <p>ホスト名、または設定ディレクトリが存在するホストを解決する値を指定します。設定ディレクトリには、管理ドメインに所属する全サーバーの設定データが保存されます。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は共通サーバー設定で指定した「ホスト名」の値 (CMN_HOST_NAME) となります。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールしない場合、デフォルト値は存在しません。</p> |
| Directory Server ポート ADMINSERV_CONFIG_DIR_PORT | <p>LDAP 操作で設定ディレクトリへのバインド時に使用するポート。</p> <p>使用中でない任意の有効なポート番号を指定できます。デフォルトは 389 です。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールする場合、デフォルト値は Directory Server の「Port」の値となります。151 ページの表 4-24 を参照してください。</p> <p>このセッションで Directory Server をインストールしない場合、デフォルト値は存在しません。</p> |

Application Server の設定情報

インストール時に、Application Server について次の情報を指定する必要があります。

- 148 ページの「Application Server: 管理情報」
- 149 ページの「Application Server: ノードエージェント情報」
- 150 ページの「Application Server: ロードバランSPラグイン情報」

Application Server: 管理情報

表 4-20 Application Server の管理に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|------------------------------|--|
| 管理ユーザー名 AS_ADMIN_USER | Application Server の管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| パスワード AS_PASSWORD | Application Server の管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| 管理ポート AS_ADMIN_PORT | Application Server の管理サーバーが接続を待機するポート。管理ツールにアクセスするために必要です。 デフォルト値は 4849 です。 |
| JMX ポート AS_JMX_PORT | Application Server が JMX 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8686 です。 |
| HTTP サーバーポート AS_HTTP_PORT | Application Server が HTTP 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。デフォルトポートが使用中の場合、インストーラにより別の値が表示されま す。 |
| HTTPS ポート AS_HTTPS_PORT | Application Server が HTTPS 接続を待機するポ ート。 デフォルト値は 8181 です。 |

表 4-20 Application Server の管理に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------|---|
| マスターパスワード AS_MASTER_PASSWORD | ドメイン管理サーバーやノードエージェントの起動などの asadmin 操作で使用される SSL 証明書データベースパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。 |

Application Server: ノードエージェント情報

インストール時に、Application Server のノード管理に関する次の情報を指定する必要があります。

表 4-21 Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|------------------------------------|---|
| 管理ホスト名 ASNA_ADMIN_HOST_NAME | ノードエージェントが接続可能なドメイン管理用ホストの名前。 デフォルト値は存在しません。 |
| 管理ユーザー名 ASNA_ADMIN_USER_NAME | Application Server 管理ユーザーのユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 |
| パスワード ASNA_PASSWORD | Application Server 管理ユーザーのパスワード。 デフォルト値は存在しません。 |
| マスターパスワード ASNA_MASTER_PASSWORD | ドメイン管理サーバーやノードエージェントの起動などの asadmin 操作で使用される SSL 証明書データベースパスワード。 デフォルト値は存在しません。 |
| 管理ポート ASNA_ADMIN_PORT | Application Server のノードエージェントが接続を待機するポート。管理ツールにアクセスするために必要です。 デフォルト値は 4849 です。 |
| ノードエージェント名 ASNA_NODE_AGENT_NAME | ローカルノードの名前。 デフォルト値はローカルホスト名です。 |

Application Server: ロードバランスプラグイン情報

表 4-22 Application Server のインストール時に必要となるロードバランスプラグインに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| ロードバランスプラグインが使用する Web サーバー AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE | Web Server または Apache Web Server を選択します。 デフォルト値は Web Server です。 |
| Web サーバーの場所 AS_WEB_SERVER_LOCATION | Web Server のインスタンスディレクトリおよび Apache HTTP Server のインストールディレクトリ。 ロードバランスプラグインをインストールするのと同じセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は Web Server です。次に例を示します。 Solaris OS の場合 : /opt/SUNWwbsvr /https- <i>hostname.domainname</i> Linux の場合 : /opt/sun/webserver/https- <i>hostname.domainname</i> |

Directory Server 設定情報

インストール時に、Directory Server について次の情報を指定する必要があります。

- 151 ページの「[Directory Server: 管理情報](#)」
- 151 ページの「[Directory Server: サーバー設定情報](#)」
- 153 ページの「[Directory Server: Directory Server 設定情報](#)」
- 154 ページの「[Directory Server: データ格納場所に関する設定情報](#)」
- 156 ページの「[Directory Server: データ取り込み情報](#)」

Directory Server: 管理情報

表 4-23 Directory Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| 管理者ユーザー ID DS_ADMIN_USER | <p>設定ディレクトリに対して管理者権限を持つユーザー。</p> <p>このユーザーは、サフィックスの作成や削除など、Directory Server の設定を変更できますが、アクセス制御の制約を受けます。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> |
| 管理者パスワード DS_ADMIN_PASSWORD | <p>管理者のパスワード。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> |
| ディレクトリマネージャ DN DS_DIR_MGR_USER | <p>Directory Server に対して無制限のアクセス権を持つユーザーの識別名 (DN)。</p> <p>デフォルト値は cn=Directory Manager です。</p> |
| ディレクトリマネージャパスワード DS_DIR_MGR_PASSWORD | <p>ディレクトリマネージャのパスワード。</p> <p>デフォルト値は存在しません。</p> |

Directory Server: サーバー設定情報

表 4-24 Directory Server のインストール時に必要となるサーバーに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------|---|
| サーバー識別子 DS_SERVER_IDENTIFIER | <p>管理コンソールで Directory Server のインスタンスを識別する名前。</p> <p>名前は、オペレーティングシステムのファイル命名規則に準拠している必要があります。ピリオドや空白文字は使用できません。</p> <p>デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「ホスト名」の値 (CMN_HOST_NAME) です。122 ページの表 4-1 を参照してください。</p> |

表 4-24 Directory Server のインストール時に必要となるサーバーに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------|--|
| サーバーポート DS_SERVER_PORT | Directory Server がクライアント接続を待機するポート。 デフォルト値は 389 です。 |
| サフィックス DS_SUFFIX | このインスタンスによって管理される初期ディレクトリサフィックス。 デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名のセグメントから構成されます。たとえば、インストール先が <code>siroe.sub1.example.com</code> の場合、デフォルト値は <code>dc=sub1,dc=example,dc=com</code> となります。 |
| 管理ドメイン DS_ADM_DOMAIN | データ管理と認証のためにユーザーディレクトリを共有するサーバー製品のグループ。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「DNS ドメイン名」の値 (CMN_DOMAIN_NAME) となります。 122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| システムユーザー DS_SYSTEM_USER | Directory Server がホスト上で動作するために使用するユーザー名 (UID)。ID 番号ではなく名前を使用します。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「システムユーザー」の値です。 122 ページの表 4-1 を参照してください。 注: この値は、関連付けられた管理サーバーに対する値と同じでなければなりません。 |
| システムグループ DS_SYSTEM_GROUP | Directory Server がユーザーとして実行されるグループ名 (UID)。ID 番号ではなく名前を使用します。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「システムグループ」の値です。 122 ページの表 4-1 を参照してください。 注: この値は、関連付けられた管理サーバーに対する値と同じでなければなりません。 |

Directory Server: Directory Server 設定情報

この Directory Server インスタンスの設定データは、この Directory Server インスタンス、または別のホスト上の既存の Directory Server インスタンスに格納できます。このインスタンスに設定データを格納する場合は、次の表の最初の質問に対してだけ情報を指定します。別のインスタンスに設定データを格納する場合は、次の表に示されるすべての情報を指定します。

表 4-25 Directory Server のインストール時に必要となる設定用 Directory Server に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| このサーバーに設定データを保存します。 このサーバーの設定データを Directory Server の次のインスタンスに保存します。 USE_EXISTING_CONFIG_DIR | <p>Java ES インストーラがこの Directory Server の設定データを格納する場所 (この Directory Server インスタンスまたは別のインスタンス) を制御するオプション。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: (ゼロ) この Directory Server インスタンスを使用します。これがデフォルト値です。 1: 別のインスタンスを使用します。 <p>別のインスタンスに設定データを格納する場合は、この表のほかの情報も指定する必要があります。このインスタンスに設定データを格納する場合は、ほかの項目を指定する必要はありません。</p> |
| Directory Server ホスト CONFIG_DIR_HOST | <p>ホスト名、または設定ディレクトリが存在するホストを解決する値を指定します。設定ディレクトリには、管理ドメインに所属する全サーバーの設定データが保存されます。</p> <p>このパラメータは、状態ファイル内でデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_CONFIG_DIR に 1 を設定した場合にだけ指定が必要となります。</p> |
| Directory Server ポート CONFIG_DIR_PORT | <p>LDAP 操作で設定ディレクトリへのバインド時に使用するポート。</p> <p>デフォルト値は 389 です。</p> <p>状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_CONFIG_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。</p> |

表 4-25 Directory Server のインストール時に必要となる設定用 Directory Server に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| ディレクトリマネージャ DN CONFIG_DIR_ADM_USER | Directory Server へのすべてのアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_CONFIG_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |
| ディレクトリマネージャパスワード CONFIG_DIR_ADM_PASSWD | ディレクトリマネージャのパスワードを指定します。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_CONFIG_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |

Directory Server: データ格納場所に関する設定情報

ユーザーデータおよびグループデータは、この Directory Server インスタンスまたは既存のインスタンスに格納できます。次の表に示す設定情報を指定する必要があるのは、この Directory Server インスタンスのユーザーデータおよびグループデータを別のインスタンスのユーザーディレクトリに格納する場合だけです。

表 4-26 Directory Server のインストール時に必要となるデータ格納場所に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| このサーバーにユーザー / グループデータを保存します。 Directory Server の次のインスタンスにユーザー / グループデータを保存します。 USE_EXISTING_USER_DIR | <p>Java ES インストーラが Directory Server のユーザーデータおよびグループデータを格納する場所を制御するオプション。データは、インストールされるインスタンス、または既存の Directory Server インスタンスのどちらかに格納されます。</p> <p>別のインスタンスにユーザーデータおよびグループデータを保存する場合は、この表に記載された追加情報を指定する必要があります。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0: (ゼロ) ユーザーデータおよびグループデータをこの Directory Server インスタンスに格納します。これがデフォルト値です。 • 1: リモートインスタンスを使用します。 |
| Directory Server ホスト USER_DIR_HOST | <p>Directory Server がユーザーデータを保存するホストを解決するホスト名または値を指定します。</p> <p>状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。</p> |
| Directory Server ポート USER_DIR_PORT | <p>LDAP 操作でユーザーディレクトリへのバインド時に使用するポート。</p> <p>このポートは、Directory Server の設定で指定した「Directory Server ポート」の値 (CONFIG_DIR_PORT) と一致する必要があります。デフォルト値は 389 です。</p> <p>状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。</p> |
| ディレクトリマネージャ DN USER_DIR_ADM_USER | <p>Directory Server へのすべてのアクセス権を持つユーザーの DN。</p> <p>デフォルト値は cn=Directory Manager です。</p> <p>状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。</p> |

表 4-26 Directory Server のインストール時に必要となるデータ格納場所に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| ディレクトリマネージャパスワード USER_DIR_ADM_PASSWD | ディレクトリマネージャのパスワード。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |
| サフィックス USER_DIR_SUFFIX | ユーザーおよびグループデータを含む Directory Server サフィックス。たとえば、dc=example,dc=com などです。 この値は、LDAP ツリー内のエントリーに対応している必要があります。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |

Directory Server: データ取り込み情報

インストールおよび設定処理を行う際に、Directory Server のユーザーディレクトリを取り込むことができます。

表 4-27 Directory Server のインストール時に必要となるデータ取り込みに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| サンプル組織構造の読み込み DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES | Java Enterprise System インストーラに対し、サンプルのロールおよびグループを、この Directory Server インスタンスの対応するアクセス制御リストとともに追加するように指示するオプション。 状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1: Directory Server にサンプル組織構造を読み込みます。 • 0: (ゼロ) サンプルデータを読み込みません。これがデフォルト値です。 |

表 4-27 Directory Server のインストール時に必要となるデータ取り込みに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| データの読み込み DS_POPULATE_DATABASE | <p>Java Enterprise System インストーラに対し、エントリーをあとで別個にロードするのではなく、インストールおよび設定処理の一部としてロードするように指示します。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1: Directory Server にサンプルデータを読み込みます。これがデフォルト値です。 • 0: (ゼロ) サンプルデータを読み込みません。 |
| サンプルデータ、 自分のデータ (LDIF ファイル)、 ファイル名 DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME | <p>次のオプションのいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>dir_svr_base/slaped-ServerID/ldif/</i> 内のサンプル LDIF ファイルからエントリーをロードします。 • ユーザーが指定した LDIF ファイルからエントリーをロードします。このオプションを選択する場合は、ファイル名を入力する必要があります。 <p>状態ファイルで次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パラメータ値には何も入力せずに、サンプルファイルからエントリーをロードします。 • 完全修飾ファイル名を指定して、そのファイルからエントリーをロードします。 |
| スキーマチェックを無効にして データインポートを高速化する DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING | <p>Java Enterprise System インストーラに対し、エントリーが既知のスキーマに従っているかどうかをチェックせずにサンプルデータをロードするように指示するオプション。</p> <p>スキーマチェックを有効にすると、既知のスキーマに従っている場合にのみ、ロードされたエントリーを変更できます。スキーマチェックを無効にする場合は、インストール後に矛盾を解決することを予定に入れておく必要があります。</p> <p>状態ファイルで次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1: スキーマチェックを無効にします。 • 0: (ゼロ) スキーマチェックを有効にします。これがデフォルト値です。 |

Directory Proxy Server 設定情報

Directory Proxy Server と同時に管理サーバーがインストールされる場合、管理サーバーも設定する必要があります。

いずれかのバージョンの管理サーバーがすでにインストールされているホストに Directory Proxy Server をインストールする場合は、インストーラにサーバールート情報も指定する必要があります。

Directory Proxy Server: ポート選択の情報

インストーラでは、Directory Proxy Server のポート選択情報が必要です。

表 4-28 Directory Proxy Server のインストール時に必要となるポート選択に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| Directory Proxy Server ポート DPS_PORT | Directory Proxy Server がクライアント接続を待機するポート。 デフォルト値は 489 です。 |

Directory Proxy Server: サーバルート情報

管理サーバーがすでにインストールされている場合に限り、インストーラは次の表に記載されている情報を要求します。

表 4-29 Directory Proxy Server のインストール時に必要となるサーバルートに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| Administration Server ルートディレクトリ DPS_SERVERROOT | Directory Proxy Server のこのインスタンスの管理サーバー設定データが格納されているファイルシステムディレクトリ。 このディレクトリは、管理サーバーの「サーバルート」の値 (ADMINSERV_ROOT) に関連しています。 145 ページの表 4-18 を参照してください。 この値の形式は、ローカルファイルシステムの完全修飾パス名です。 デフォルト値は存在しません。 |

Portal Server の設定情報

インストール時に、Portal Server について次の情報を指定する必要があります。

- 159 ページの「Portal Server: Web コンテナ情報」
- 165 ページの「Portal Server: Web コンテナの配備」

Portal Server: Web コンテナ情報

Portal Server は、4 種類の Web コンテナのいずれかで稼働します。インストーラが要求する情報は、Web コンテナの種類によって異なります。次の表は、4 種類の Web コンテナと、各 Web コンテナが必要とする情報についての説明です。

表 4-30 Portal Server のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報

| Web コンテナ | 参照先 |
|----------------------------------|--|
| Web Server | 159 ページの「Web コンテナ情報: Web Server を使用する Portal Server」 |
| Application Server | 160 ページの「Web コンテナ情報: Application Server を使用する Portal Server」 |
| BEA WebLogic | 162 ページの「Web コンテナ情報: BEA WebLogic を使用する Portal Server」 |
| IBM WebSphere Application Server | 164 ページの「Web コンテナ情報: IBM WebSphere を使用する Portal Server」 |

Web コンテナ情報: Web Server を使用する Portal Server

表 4-31 は、Portal Server の Web コンテナが Web Server の場合にインストーラが必要とする情報を示しています。

表 4-31 Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------|--|
| インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | Web Server のインストール先ディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr Linux の場合: /opt/sun/webserver |

表 4-31 Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | Portal Server で使用する Web Server インスタンス。 |
| サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT | Web Server が HTTP 接続を待機するポート。 デフォルト値は 80 です。 このインストーラセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は「Web サーバーポート」の値 (WS_ADMIN_PORT) となります。186 ページの表 4-57 を参照してください。 |
| サーバードキュメントルート PS_DEPLOY_DOCROOT | スタティックページが保持されるディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合 : /opt/SUNWwbsvr/docs Linux の場合 : /opt/sun/webserver/docs |
| セキュアサーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PROTOCOL | Web Server のインスタンスのポートがセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。 |

Web コンテナ情報 : Application Server を使用する Portal Server

表 4-32 は、Portal Server の Web コンテナが Application Server の場合にインストーラが必要とする情報を示しています。

表 4-32 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------|--|
| インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | Application Server のインストール先ディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合 : /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合 : /opt/sun/appserver |

表 4-32 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| ドメイン名 PS_DEPLOY_DOMAIN | Portal Server を配備する Application Server インスタンスの名前。この名前は、Application Server インスタンスディレクトリの名前でもあります。 デフォルト値は domain1 です。 |
| サーバーインスタンスディレクトリ PS_DEPLOY_INSTANCE | ドメインの、この Portal Server インスタンスを配備する Application Server ディレクトリへのパス。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合： /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1 Linux の場合： /var/opt/sun/appserver/domains/domain1 |
| サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT | Application Server がインスタンスへの接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。 |
| ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT | スタティックページが保持されるディレクトリの名前。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合： /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux の場合： /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot |
| 管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT | Application Server 管理インスタンスが、Portal Server のインストール先ドメインで稼働するポート。 デフォルト値は 4849 です。 |
| 管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN | Portal Server が Application Server に管理者としてアクセスする際に使用するユーザー ID。 デフォルト値は admin です。 |
| 管理者パスワード PS_IS_ADMIN_PASSWORD | Portal Server が Application Server に管理者としてアクセスする際に使用するパスワード。 |

表 4-32 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| セキュアサーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PROTOCOL | 「インスタンスポート」の値がセキュリティ保護されているポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。 |
| セキュリティ保護された管理サーバーポート PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL | 「管理ポート」の値がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。 |

Web コンテナ情報 : BEA WebLogic を使用する Portal Server

表 4-33 は、Portal Server の Web コンテナが BEA WebLogic の場合にインストーラが要求する情報を示しています。

表 4-33 Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| ホームディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | BEA WebLogic ホームディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/boa です。 |
| 製品インストールディレクトリ PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR | BEA WebLogic のインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/boa/weblogic81 です。 |
| ユーザープロジェクトのディレクトリ PS_DEPLOY_PROJECT_DIR | BEA WebLogic がユーザープロジェクトを格納するディレクトリへのパス。 デフォルトは user_projects です。 |

表 4-33 Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| 製品の JDK ディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR | BEA WebLogic が使用する JDK のコピーのインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルトは /usr/local/bean/jdk141_05 です。 |
| サーバー / クラスタドメイン PS_DEPLOY_DOMAIN | BEA WebLogic が配備される BEA WebLogic ドメインの名前。 デフォルトは mydomain です。 |
| サーバー / クラスタインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | Portal Server を実行する BEA WebLogic インスタンスの名前。 デフォルトは myserver です。 |
| サーバー / クラスタポート PS_DEPLOY_PORT | BEA WebLogic が管理接続を待機するポート。 デフォルトは 7001 です。 |
| サーバー / クラスタプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL | 「サーバー / クラスタポート」の値がセキュリティ保護されているポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルトは http です。 |
| ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT | BEA WebLogic がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリへのパス。 |
| 管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN | BEA WebLogic 管理者 (システムユーザー) のユーザー名。 デフォルトは weblogic です。 |
| 管理者パスワード PS_IS_ADMIN_PASSWORD | BEA WebLogic 管理者 (システムユーザー) のパスワード。 |
| 管理対象サーバー PS_DEPLOY_NOW | BEA WebLogic Server が管理対象サーバーであることを指定できます。 BEA WebLogic Server が管理対象サーバーである場合、Portal Server Web アプリケーションを WebLogic の「サーバーインスタンス」に指定したインスタンスに配備してはなりません。 状態ファイルで、管理対象サーバーの場合は n、または管理対象外サーバーの場合は y を指定します。デフォルト値は y です。 |

Web コンテナ情報 : IBM WebSphere を使用する Portal Server

表 4-34 は、Portal Server の Web コンテナが IBM WebSphere Application Server の場合にインストーラが要求する情報を示しています。

表 4-34 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------------------|---|
| インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | IBM WebSphere Application Server のインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer です。 |
| 仮想ホスト PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST | IBM WebSphere Application Server インスタンスの仮想ホストエイリアスの名前。 デフォルト値は default_host です。 |
| セル PS_DEPLOY_CELL | IBM WebSphere Application Server セルの名前。 デフォルト値は DefaultNode です。 |
| ノード PS_DEPLOY_NODE | IBM WebSphere Application Server ノードの名前。 デフォルト値は tDefaultNode です。 |
| サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | IBM WebSphere Application Server インスタンスの名前。 デフォルト値は server1 です。 |
| サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT | IBM WebSphere アプリケーションインスタンスが HTTP 接続を待機するポート。この値は、通常はフロントエンド Web サーバーから設定されます。 デフォルト値は 9080 です。 |
| ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT | IBM WebSphere Application Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリ。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/web/docs です。 英語以外の言語を使用する場合は、パス名の最後の部分を変更する必要があります。 |

表 4-34 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| Java ホームディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR | IBM WebSphere Application Server が使用する Java インストールへのパス。 デフォルトは /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/java です。 |
| セキュリティ保護されたサーバー インスタンス PS_DEPLOY_PROTOCOL | 「サーバーインスタンスポート」がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。 |

Portal Server: Web コンテナの配備

表 4-35 は、インストーラが Portal Server 用に必要とする Web コンテナの配備に関する情報を示しています。

表 4-35 Portal Server のインストール時に必要となるポータルに関する設定情報 (すべてのケース)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|------------------|---|
| ロードバランサプロトコル | ロードバランサが HTTP と HTTPS のどちらのプロトコルを使用するかを指定します。このオプションは、「複数の Portal Server を制御するロードバランサ」オプションを指定した場合にだけ有効になります。 |
| ロードバランサホスト | ロードバランサホストの完全修飾ホスト名。このオプションは、「複数の Portal Server を制御するロードバランサ」オプションを指定した場合にだけ有効になります。 |
| ロードバランサポート | ロードバランサが接続を待機するポート。このオプションは、「複数の Portal Server を制御するロードバランサ」オプションを指定した場合にだけ有効になります。 |

表 4-35 Portal Server のインストール時に必要となるポータルに関する設定情報 (すべてのケース) (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------------|--|
| 配備 URI PS_DEPLOY_URI | Portal Server に関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。 値の先頭にスラッシュを含め、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。 |
| 複数の Portal Server を制御する ロードバランサ | インストールしている Portal Server へのアクセスが、複数の Portal Server を制御するロードバランサを経由するかどうかを指定します。 |
| サンプルポータルのインストール PS_SAMPLE_PORTAL | サンプルポータルをインストールするかどうかを指定します。 状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。 デフォルト値は y です。 |

Portal Server Secure Remote Access の設定情報

ここでは、最初に Secure Remote Access コアのインストールについて説明し、次に Portal Server Secure Remote Access のゲートウェイ、Netlet プロキシ、Rewriter プロキシの各サブコンポーネントのインストールについて説明します。

- [166 ページの「Secure Remote Access コアの設定」](#)
- [171 ページの「ゲートウェイの設定」](#)
- [175 ページの「Netlet プロキシの設定」](#)
- [180 ページの「Rewriter プロキシの設定」](#)

Secure Remote Access コアの設定

表 4-36 は、Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時にインストーラが必要とする情報を示しています。指定が必要となる情報は、次に示すインストール方法によって異なります。

- **単一セッションインストール** : Portal Server と Portal Server Secure Remote Access を同時にインストールする

- **複数セッションインストール** : あるセッションで Portal Server をインストールし、その後のセッションで Portal Server Secure Remote Access をインストールする

表 4-36 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる情報

| Portal Server の状況 | 要件 | 情報の参照先 |
|---|--|---|
| Portal Server をこのセッションでインストールする。 | ゲートウェイ情報 | 167 ページの「 単一セッションインストール 」 |
| Portal Server がすでにインストールされ、Web Server または IBM WebSphere Application Server を使用している。 | Web コンテナ配備情報 ゲートウェイ情報 Access Manager 情報 | 168 ページの「 複数セッションインストール (Sun Java System Web Server または IBM WebSphere を使用) Application Server 」 |
| Portal Server がすでにインストールされ、Application Server を使用している。 | Web コンテナ配備情報 Access Manager 情報 ゲートウェイ情報 Sun Java System Application Server 情報 | 170 ページの「 複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用) 」 |
| Portal Server がすでにインストールされ、BEA WebLogic を使用している。 | Web コンテナ配備情報 ゲートウェイ情報 Access Manager 情報 BEA WebLogic 情報 | 170 ページの「 複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用) 」 |

単一セッションインストール

Portal Server Secure Remote Access コアと Portal Server を単一のセッションでインストールする場合は、Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイに関する情報を指定する必要があります。インストーラは、Portal Server Secure Remote Access のその他の設定情報を Portal Server の設定情報から取得します。

表 4-37 は、Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時にインストーラが要求するゲートウェイに関する情報を示しています。

表 4-37 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| ゲートウェイプロトコル SRA_GATEWAY_PROTOCOL | Portal Server との通信時にゲートウェイが使用するプロトコル。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。 |
| Portal Server ドメイン SRA_SERVER_DOMAIN | Portal Server のドメイン名。 たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、subdomain1.example.com を入力します。 |
| ゲートウェイドメイン SRA_GATEWAY_DOMAIN | ゲートウェイコンポーネントのドメイン名。 たとえば、Portal Server ホストの完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、subdomain1.example.com を入力します。 |
| ゲートウェイポート SRA_GATEWAY_PORT | ゲートウェイホストの待機ポート。 デフォルト値は 443 です。 |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_GATEWAY_PROFILE | リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。 |
| ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD | ルート以外のアクセス権を持つ管理者がゲートウェイログファイルにアクセスするためのパスワード。 |

複数セッションインストール (Sun Java System Web Server または IBM WebSphere を使用) Application Server

ここでは、次の条件が満たされるホストに Portal Server Secure Remote Access をインストールするときに必要となる情報について説明します。

- Portal Server がすでにインストールされている
- Portal Server は Sun Java System Web Server または IBM WebSphere Application Server Web コンテナに配備されている

このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- Web コンテナ配備情報
- ゲートウェイ情報
- Access Manager 情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 4-38 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------|--|
| 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。 |

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 4-39 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| ディレクトリマネージャ DN USER_DIR_ADM_USER | Directory Server へのすべてのアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、 USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |
| ディレクトリマネージャパスワード USER_DIR_ADM_PASSWD | ディレクトリマネージャのパスワード。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、 USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |

複数セッションインストール (Sun Java System Application Server または BEA WebLogic を使用)

ここでは、次の条件が満たされるホストに Portal Server Secure Remote Access をインストールするときに必要となる情報について説明します。

- Portal Server がすでにインストールされている
- Portal Server が Sun Java System Application Server Web コンテナまたは BEA WebLogic Web コンテナに配備されている

このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- Web コンテナ配備情報
- Access Manager 情報
- Sun Java System Application Server 情報または BEA WebLogic 情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 4-40 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------|--|
| 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。 |

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 4-41 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------------|--|
| ディレクトリマネージャ DN USER_DIR_ADM_USER | Directory Server へのすべてのアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |

表 4-41 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| ディレクトリマネージャパスワード USER_DIR_ADM_PASSWD | ディレクトリマネージャのパスワード。 状態ファイルでは、このパラメータはデフォルト値を持ちません。この値は、USE_EXISTING_USER_DIR を 1 に設定した場合にだけ指定が必要となります。 |

次の表は、Sun Java System Application Server または BEA WebLogic Server について指定が必要な情報を示しています。

表 4-42 Portal Server Secure Remote Access コアのインストール時に必要となる Sun Java System Application Server または BEA WebLogic Server に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------------|--|
| 管理者のユーザーパスワード PS_IS_ADMIN_PASSWORD | Portal Server が Application Server または BEA WebLogic に管理者としてアクセスするためのパスワード。 |

ゲートウェイの設定

ここでは、Netlet プロキシサブコンポーネントをインストールするときに指定する必要がある情報について説明します。このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- [175 ページの「Web コンテナ配備情報」](#)
- [175 ページの「Access Manager 情報」](#)
- [177 ページの「プロキシ情報」](#)
- [179 ページの「証明書に関する情報」](#)

Web コンテナ配備情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 4-43 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------|--|
| 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。 |

Access Manager 情報

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 4-44 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる Access Manager の設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| インストールディレクトリ SRA_IS_INSTALLDIR | Access Manager コンポーネントのインストール先ディレクトリ。 デフォルト値は /opt です。 |

ゲートウェイ情報

表 4-45 は、ゲートウェイサブコンポーネントのインストール時に、インストーラに指定するゲートウェイ情報を示しています。

表 4-45 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------|--|
| プロトコル SRA_GW_PROTOCOL | <p>ゲートウェイが通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。ほとんどの場合、ゲートウェイでは HTTPS を使用する必要があります。</p> <p>状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https、またはセキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。</p> |
| ホスト名 SRA_GW_HOSTNAME | <p>ゲートウェイコンポーネントのインストール先ホストの名前。</p> <p>たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、siroe を入力します。</p> <p>デフォルト値は、ローカルホストの名前です。</p> |
| サブドメイン SRA_GW_SUBDOMAIN | <p>ゲートウェイホストのサブドメイン名。</p> <p>デフォルト値は存在しません。</p> |
| ドメイン SRA_GW_DOMAIN | <p>ゲートウェイホストのドメイン名。</p> <p>たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.example.com の場合、この値は example.com となります。</p> <p>デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。</p> |
| ホスト IP アドレス SRA_GW_IPADDRESS | <p>Access Manager ホストの IP アドレス。Portal Server に対して Access Manager がインストールされたホストの IP アドレスを指定します。</p> <p>デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。</p> |
| アクセスポート SRA_GW_PORT | <p>ゲートウェイホストの待機ポート。</p> <p>デフォルト値は 443 です。</p> |

表 4-45 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---------------------------------------|--|
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_GW_PROFILE | ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連する情報を含むゲートウェイプロファイル。 デフォルト値は default です。 |
| ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD | ルート以外のアクセス権を持つ管理者がゲートウェイログファイルにアクセスするためのパスワード。 |
| インストール後ゲートウェイの開始 SRA_GW_START | インストール後にゲートウェイを自動的に起動させるかどうかをインストーラに指示します。 状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。 |

証明書に関する情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 4-46 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------|---------------|
| 組織 SRA_CERT_ORGANIZATION | 所属する組織または会社名。 |
| 部署 SRA_CERT_DIVISION | 所属する部署名。 |
| 市 / 地域 SRA_CERT_CITY | 居住する市または地域名。 |
| 州 / 都道府県 SRA_CERT_STATE | 居住する都道府県名。 |

表 4-46 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 国名コード SRA_CERT_COUNTRY | 2文字の国名コード。 |
| 証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD | 自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。 |

Netlet プロキシの設定

ここでは、Netlet プロキシサブコンポーネントをインストールするときに指定する必要がある情報について説明します。このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- 180 ページの「Web コンテナ配備情報」
- 176 ページの「Netlet プロキシ情報」
- 182 ページの「プロキシ情報」
- 183 ページの「証明書に関する情報」

Web コンテナ配備情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 4-47 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------|--|
| 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んではなりません。 デフォルト値は /portal です。 |

Access Manager 情報

次の表は、Access Manager について指定が必要な情報を示しています。

表 4-48 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Access Manager に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| インストールディレクトリ SRA_IS_INSTALLDIR | Access Manager コンポーネントのインストール先ディレクトリ。 デフォルト値は /opt です。 |

Netlet プロキシ情報

表 4-49 は、Netlet プロキシのインストール時に、インストーラに指定する Netlet プロキシ情報を示しています。

表 4-49 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|--|
| ホスト名 SRA_NLP_HOSTNAME | Netlet プロキシホストのホスト名。 デフォルト値は、ローカルホストのホスト名です。 |
| サブドメイン SRA_NLP_SUBDOMAIN | Netlet プロキシホストのサブドメイン名。 デフォルト値は存在しません。 |
| ドメイン SRA_NLP_DOMAIN | Netlet プロキシホストのドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。 |
| IP アドレス SRA_NLP_IPADDRESS | Netlet プロキシホストの IP アドレス。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。 |
| アクセスポート SRA_NLP_PORT | Netlet プロキシの待機ポート。 デフォルト値は 10555 です。 |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE | リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。 |
| ログのユーザーパスワード SRA_NLP_USER_PASSWORD | ルート以外のアクセス権を持つ管理者がログファイルにアクセスするためのパスワード。 |

表 4-49 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| インストール後 Netlet プロキシの開始 SRA_NLP_START | インストール後に Netlet プロキシを自動的に起動させるかどうかをインストーラに指示します。 状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。 |

プロキシ情報

次の表は、Portal Server Secure Remote Access がすでにインストールされているホストにプロキシサブコンポーネントをインストールする場合に指定が必要な情報を示しています。

表 4-50 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| 別のホスト上の Portal Server で作業 SRA_IS_CREATE_INSTANCE | <p>このホストに Netlet プロキシと Rewriter プロキシをインストールし、これらのプロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと通信する場合にだけこのオプションを選択します (CLI モードでは y を指定する)。</p> <p>Netlet プロキシと Rewriter プロキシが Portal Server SRA のローカルインスタンスと通信する場合は、このオプションを選択しません (CLI モードでは n を指定する)。</p> <p>状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。状態ファイルでのこの値の意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • y を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のローカルインスタンスと対話します。 • n を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話します。 <p>この表に示す残りのフィールドは、プロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話することを指定した場合にだけ適用されます。</p> |

表 4-50 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| Portal Server プロトコル SRA_SERVER_PROTOCOL | ゲートウェイが Portal Server との通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。 状態ファイルで、https または http を指定します。デフォルト値は https です。 |
| Portal Server ホスト SRA_SERVER_HOST | Portal Server のインストール先ホストのホスト名。 |
| Portal Server ポート SRA_SERVER_PORT | Portal Server へのアクセスに使用するポート。 デフォルト値は 8080 です。 |
| Portal Server 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。 |
| 組織 DN SRA_IS_ORG_DN | Portal Server のインストール先ドメインのルートサフィックスの識別名 (DN)。 デフォルト値は .com です。このデフォルト値を編集する必要があります。 |
| Access Manager サービス URI SRA_IS_SERVICE_URI | Access Manager サービスの呼び出しに使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 デフォルト値は /amserver です。 |

表 4-50 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| Access Manager パスワードの暗号鍵 SRA_IS_PASSWORD_KEY | <p>Access Manager のインストール時に生成される暗号鍵を含む文字列。この文字列は、パスワード生成のシードとして使われます。</p> <p>Portal Server SRA は、Access Manager がインストール時に使用した暗号鍵を使用する必要があるため、インストーラはデフォルト値を自動的にその鍵に設定します。対話モードのインストーラでは、デフォルト値として表示される値を変更してはなりません。</p> <p>Access Manager のインストール後、暗号鍵は Access Manager プロパティファイルである AMConfig.properties にマッピングされます。このファイルは次の場所にあります。</p> <p>Solaris OS の場合 : /etc/opt/SUNWam/config Linux の場合 : /etc/opt/sun/identity/config</p> <p>この値を含むプロパティは am. encryption.pwd です。</p> |

証明書に関する情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 4-51 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-----------------------------|---------------|
| 組織 SRA_CERT_ORGANIZATION | 所属する組織または会社名。 |
| 部署 SRA_CERT_DIVISION | 所属する部署名。 |

表 4-51 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| 市 / 地域 SRA_CERT_CITY | 居住する市または地域名。 |
| 州 / 都道府県 SRA_CERT_STATE | 居住する都道府県名。 |
| 国名コード SRA_CERT_COUNTRY | 2 文字の国名コード。 |
| 証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD | 自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。 |

Rewriter プロキシの設定

ここでは、Rewriter プロキシサブコンポーネントをインストールするときに指定する必要がある情報について説明します。このケースでは、次の情報を指定する必要があります。

- Web コンテナ配備情報
- Rewriter プロキシ情報
- プロキシ情報
- 証明書情報

次に、指定が必要な情報について詳しく説明します。

Web コンテナ配備情報

次の表は、Web コンテナについて指定が必要な情報を示しています。

表 4-52 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Web コンテナ配備に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------|--|
| 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。 配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 デフォルト値は /portal です。 |

Rewriter プロキシ情報

表 4-53 は、Rewriter プロキシのインストール時に、インストーラに指定する Rewriter プロキシ情報を示しています。

表 4-53 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|---|
| ホスト名 SRA_RWP_HOSTNAME | Rewriter プロキシのインストール先ホストのホスト名。 デフォルト値は、ローカルホストのホスト名です。 |
| サブドメイン SRA_RWP_SUBDOMAIN | Rewriter プロキシのインストール先ホストのサブドメイン名。 デフォルト値は存在しません。 |
| ドメイン SRA_RWP_DOMAIN | Rewriter プロキシのインストール先ホストのドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストのドメイン名です。 |
| IP アドレス SRA_RWP_IPADDRESS | Rewriter プロキシのインストール先ホストの IP アドレス。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。 |
| アクセスポート SRA_RWP_PORT | Rewriter プロキシの待機ポート。 デフォルト値は 10443 です。 |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE | リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。 |
| ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD | ルート以外のアクセス権を持つ管理者がログファイルにアクセスするためのパスワード。 |
| インストール後 Rewriter プロキシの開始 SRA_RWP_START | インストール後に Rewriter プロキシを自動的に起動させるかどうかをインストーラに指示します。 状態ファイルで指定可能な値は、y または n です。デフォルト値は y です。 |

プロキシ情報

次の表は、Portal Server Secure Remote Access がすでにインストールされているホストにプロキシサブコンポーネントをインストールする場合に指定が必要な情報を示しています。

表 4-54 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| 別のホスト上の Portal Server で作業 SRA_IS_CREATE_INSTANCE | <p>このホストに Netlet プロキシと Rewriter プロキシをインストールし、これらのプロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと通信する場合にだけこのオプションを選択します (CLI モードでは <code>y</code> を指定する)。</p> <p>Netlet プロキシと Rewriter プロキシが Portal Server SRA のローカルインスタンスと通信する場合は、このオプションを選択しません (CLI モードでは <code>n</code> を指定する)。</p> <p>状態ファイルで指定可能な値は、<code>y</code> または <code>n</code> です。状態ファイルでのこの値の意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>y</code> を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のローカルインスタンスと対話します。 • <code>n</code> を指定した場合、プロキシは Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話します。 <p>この表に示す残りのフィールドは、プロキシが Portal Server SRA のリモートインスタンスと対話することを指定した場合にだけ適用されます。</p> |
| プロトコル SRA_SERVER_PROTOCOL | <p>ゲートウェイが Portal Server との通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。</p> <p>状態ファイルで、<code>https</code> または <code>http</code> を指定します。デフォルト値は <code>https</code> です。</p> |
| ポータルホスト名 SRA_SERVER_HOST | <p>Portal Server のインストール先ホストの完全修飾ドメイン名。</p> |
| Portal Server ポート SRA_SERVER_PORT | <p>Portal Server へのアクセスに使用するポート。デフォルト値は 80 です。</p> |

表 4-54 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となるプロキシに関する設定情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|---|--|
| Portal Server 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | <p>Portal Server の配備に使用する URI (Uniform Resource Identifier)。</p> <p>配備 URI の値は、先頭がスラッシュであり、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。</p> <p>デフォルト値は /portal です。</p> |
| 組織 DN SRA_IS_ORG_DN | <p>Portal Server のインストール先ドメインのルートサフィックスの識別名 (DN)。</p> <p>デフォルト値は .com です。このデフォルト値を編集する必要があります。</p> |
| サービス URI SRA_IS_SERVICE_URI | <p>Access Manager サービスの呼び出しに使用する URI (Uniform Resource Identifier)。</p> <p>デフォルト値は /amserver です。</p> |
| Access Manager パスワードの暗号鍵 SRA_IS_PASSWORD_KEY | <p>Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。</p> <p>Portal Server SRA は、Access Manager がインストール時に使用した暗号鍵を使用する必要があるため、インストーラはデフォルト値を自動的にその鍵に設定します。対話モードのインストーラでは、デフォルト値として表示される値を変更してはなりません。</p> <p>Access Manager 暗号鍵は、Access Manager のプロパティファイルである AMConfig.properties から見つけることができます。このファイルは次の場所にあります。</p> <p>Solaris OS の場合 : /etc/opt/SUNWam/config Linux の場合 : /etc/opt/sun/identity/config</p> <p>この値を含むプロパティは am. encryption.pwd です。</p> |

証明書に関する情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server, Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 4-55 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 組織 SRA_CERT_ORGANIZATION | 所属する組織または会社名。 |
| 部署 SRA_CERT_DIVISION | 所属する部署名。 |
| 市 / 地域 SRA_CERT_CITY | 居住する市または地域。 |
| 州 / 都道府県 SRA_CERT_STATE | 居住する都道府県名。 |
| 国名コード SRA_CERT_COUNTRY | 2文字の国名コード。 |
| 証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD | 自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。 |

Web Server の設定情報

インストール時に、Web Server に関する以下の情報を指定する必要があります。

- 管理情報
- デフォルトの Web Server インスタンス情報

Web Server: 管理情報

表 4-56 Web Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--------------------------------------|--|
| 管理者ユーザー ID WS_ADMIN_USER | Web Server 管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| 管理者パスワード WS_ADMIN_PASSWORD | Web Server 管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。122 ページの表 4-1 を参照してください。 |
| Web Server ホスト WS_INSTANCE_HOST | ローカルホストとして解決されるホストとドメインの値。この値を使用して、Web Server インスタンスのサーバールート内にディレクトリが作成されます。 デフォルト値は、共通サーバー設定の「ホスト名」と「DNS ドメイン名」に指定した値を結合して自動的に作成されます。値の書式は、 <i>host-name.domain-name</i> です。 |
| 管理ポート WS_ADMIN_PORT | Web Server の管理サーバーが接続を待機するポート。 デフォルト値は 8888 です。 |
| 管理実行時ユーザー ID WS_ADMIN_SYSTEM_USER | Web Server Administration Server を実行するユーザー ID。 デフォルト値は root です。 |

Web Server: デフォルト Web Server インスタンス情報

表 4-57 Web Server のインストール時に必要となるデフォルト Web Server インスタンスに関する設定情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| 実行時ユーザー ID WS_INSTANCE_USER | <p>Web Server のデフォルトインスタンスがシステムでの実行に使用するユーザー ID。</p> <p>Access Manager または Portal Server をインストールする場合は、この値を root に設定し、「実行時グループ」の値を other に設定します。これらの値は、インストール後に変更できます。その他のサーバーの場合、「実行時ユーザー ID」をルート以外のユーザーに設定する必要があります。</p> <p>デフォルト値は webservd です。</p> |
| 実行時グループ WS_INSTANCE_GROUP | <p>Web Server のデフォルトインスタンスを実行するグループ ID。</p> <p>デフォルト値は webservd です。</p> |
| HTTP ポート WS_INSTANCE_PORT | <p>Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。</p> <p>デフォルト値は 80 です。</p> |
| ドキュメントルートディレクトリ WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT | <p>Web Server がコンテンツドキュメントを格納する場所。</p> <p>デフォルト以外の値を使用するには、指定するディレクトリがファイルシステムにすでに存在していることを確認します。存在しないディレクトリを指定しても、インストーラはディレクトリを作成しません。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合 : /opt/SUNWwbsvr/docs Linux の場合 : /opt/sun/webserver/docs</p> |
| システム再起動時に自動的に Web Server を起動 WS_INSTANCE_AUTO_START | <p>システムを再起動したときに Web Server が自動的に起動されるように設定します。</p> <p>Web Server は、システムの再起動時に Access Manager の起動スクリプトによって起動されるため、Access Manager を Web Server に配備した場合、この値は無視されます。</p> <p>状態ファイルで指定可能な値は、Y または N です。デフォルト値は Y です。</p> |

状態ファイルのみで使用されるパラメータ

次の表は、コンポーネントの設定に関係しない状態ファイルパラメータに関する情報を示しています。パラメータ名は、アルファベット順に記載されています。

表 4-58 状態ファイルのパラメータ

| パラメータ名 | 説明 |
|--|--|
| CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_INCOMPATIBLE_JDK | <p>JDK がホスト内で検出されたが、Java Enterprise System により配布される JDK とは互換性がない場合に、アップグレードするかどうかを指定します。</p> <p>指定できる値は yes または no のいずれかです。このパラメータでは、大文字と小文字は区別されません。デフォルト値は no です。</p> |
| CONFIG_TYPE | <p>設定の種類を定義します。</p> <p>指定できる値は、Custom (インストール時に設定) または Skip (インストール後に設定) です。デフォルト値は Custom です。</p> <p>状態ファイルにこの値を設定してはなりません。インストーラを実行して状態ファイルを生成する場合にのみ、この値を指定します。設定タイプは、インストーラの処理ロジックにさまざまな方法で影響を及ぼします。状態ファイルの生成後に値を変更した場合、エラーが発生する場合があります。</p> |
| DeploymentServer | <p>Access Manager の Web コンテナの種類を指定します。</p> <p>指定可能な値は、WebServer および AppServer です。デフォルト値は AppServer (Application Server) です。</p> |

表 4-58 状態ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ名 | 説明 |
|--------------------------------|--|
| LANGUAGE_SUPPORT | <p>インストールする言語を指定します。</p> <p>指定可能な値と各略語の意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • en (英語) • es (スペイン語) • ja (日本語) • fr (フランス語) • de (ドイツ語) • ko (韓国語) • zh_TW (繁体字中国語) • zh_CN (簡体字中国語) <p>英語はいかなる場合でもインストールされ、パラメータ値が空白の場合でもインストールされます。複数の言語を選択する場合は、言語の略号をコンマで区切って指定します。たとえば、en,es,ja,frのように指定することができます。</p> |
| LICENSE_TYPE | <p>指定可能な値は「Evaluation」および「Deployment」ですが、このフィールドは使用されません。</p> |
| PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING | <p>選択したコンポーネントの依存関係が要件を満たしていない場合に終了するようにインストーラに指示します。通常、警告を確認することで、設定時に指定可能なリモートコンポーネントに適した依存関係を識別できます。</p> <p>依存関係の警告が表示されたらインストールを終了する場合は Yes を指定し、警告に関係なく処理を続行する場合は No を指定します。デフォルト値は No です。</p> <p>このパラメータでは、大文字と小文字が区別されません。</p> |

表 4-58 状態ファイルのパラメータ (続き)

| パラメータ名 | 説明 |
|-----------------------------|---|
| PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED | <p>現在インストールされている製品リストのログファイルへの書き出しをインストーラに指示します。このオプションは、グラフィカルインストーラの「コンポーネントの選択」ページの「インストール済みの製品」ボタンをクリックする操作に相当します。</p> <p>指定可能な値は、Yes および No です。デフォルト値は Yes です。</p> <p>このパラメータでは、大文字と小文字が区別されません。</p> |
| PSP_SELECTED_COMPONENTS | <p>インストールするコンポーネントおよびサブコンポーネントのコンマ区切りのリスト。</p> <p>デフォルト値は All です。</p> |

状態ファイルのみで使用されるパラメータ

設定用ワークシート

この章では、「今すぐ設定」設定オプションでのインストールに必要な設定データを収集するためのワークシートを示します。これらのワークシートは、[119 ページの「設定情報」](#)の設定表に対応します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [192 ページの「Access Manager ワークシート」](#)
- [199 ページの「管理サーバーのワークシート」](#)
- [200 ページの「Application Server のワークシート」](#)
- [202 ページの「Directory Server のワークシート」](#)
- [205 ページの「Directory Proxy Server のワークシート」](#)
- [206 ページの「Portal Server のワークシート」](#)
- [213 ページの「Portal Server Secure Remote Access のワークシート」](#)
- [218 ページの「Web Server のワークシート」](#)

注 ワークシートは、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラを使用して設定できるコンポーネントだけを対象としています。

Access Manager ワークシート

Access Manager 用の 2 つのワークシートがあります。これらのワークシートは、Access Manager を配備できる各 Web コンテナに対応します。

- 192 ページの「Application Server に配備された Access Manager」
- 196 ページの「Web Server に配備された Access Manager」

Application Server に配備された Access Manager

このワークシートの各フィールドの詳細については、122 ページの「Access Manager 設定情報」の表を参照してください。

表 5-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|-------------------------------------|---|
| <i>インストールディレクトリ</i> | |
| Access Manager CMN_IS_INSTALLDIR | データ : _____ 例 : /opt (デフォルト) |
| <i>管理</i> | |
| 管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID | データ : amadmin 変更することはできません。 |
| 管理者パスワード IS_ADMINPASSWD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER | データ : amldapuser 変更することはできません。 |
| LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD | データ : _____ 制限 : 管理者パスワードとは異なる必要があります。 |
| パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD | データ : _____ 状態ファイルの例 : LOCK (デフォルト) 対話インストールの例 : デフォルトが生成されます。 |

表 5-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| <i>Sun Java System Application Server</i> | |
| インストールディレクトリ IS_APPSERVERBASEDIR | データ : <hr/> デフォルトの場所 Solaris OS: /opt/SUNWappserver/appserver Linux: /opt/sun/appserver |
| Access Manager 実行時インスタンス IS_IAS81INSTANCE | データ : <hr/> 例 : server (デフォルト) |
| インスタンスディレクトリ IS_IAS81INSTANCEDIR | データ : <hr/> デフォルトの場所 Solaris OS: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/ Linux: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/ |
| Access Manager インスタンスポート IS_IAS81INSTANCE_PORT | データ : <hr/> 例 : 8080 (デフォルト) |
| ドキュメントルート IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR | データ : <hr/> デフォルトの場所 Solaris OS: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot |
| 管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN | データ : <hr/> 例 : admin (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWD | データ : <hr/> (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理ポート IS_IAS81_ADMINPORT | データ : <hr/> 例 : 4849 (デフォルト) |
| セキュアサーバーインスタンスポート IS_PROTOCOL | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| セキュリティ保護された管理サーバーポート ASADMIN_PROTOCOL | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |

表 5-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| <i>Access Manager サービスを実行するための Web コンテナ</i> | |
| ホスト名 SERVER_HOST | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI | データ : _____ 例 : amserver (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| 共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI | データ : _____ 例 : amcommon (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| クッキードメイン COOKIE_DOMAIN_LIST | データ : _____ 例 : .example.com 注 : 先頭にピリオド (.) が必要です。 |
| 新しいコンソールを配備および 既存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB _CONTAINER | 詳細については、 130 ページの表 4-6 を参照してください。 |
| コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI | データ : _____ 例 : amconsole (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| パスワード配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI | データ : _____ 例 : ampassword (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| コンソールホスト CONSOLE_HOST | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| コンソールポート CONSOLE_PORT | データ : _____ 例 : 80 |

表 5-1 Application Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| <i>Directory Server 情報</i> | |
| Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| Directory Server ポート IS_DS_PORT | データ : _____ 例 : 389 (デフォルト) |
| Access Manager ディレクトリ ルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX | データ : _____ 例 : dc=example,dc=com |
| ディレクトリマネージャ DN IS_DIRMGRDN | データ : _____ 例 : cn=Directory Manager (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャパス ワード IS_DIRMGRPASSWD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| <i>Directory Server 情報、プロビジョニングされたディレクトリ</i> | |
| Directory Server にユーザーデー タが準備されていますか? IS_LOAD_DIT | データ : _____ 例 : no (デフォルト) |
| 組織マーカークラス IS_ORG_OBJECT_CLASS | データ : _____ 例 : SunISManagedOrganization (デフォルト) |
| 組織ネーミング属性 CONFIG_IDENT_NA4ORG | データ : _____ 例 : o (デフォルト) |
| ユーザーマーカークラス IS_USER_OBJECT_CLASS | データ : _____ 例 : intorgperson (デフォルト) |
| ユーザーネーミング属性 CONFIG_IDENT_NA4USER | データ : _____ 例 : uid (デフォルト) |

Web Server に配備された Access Manager

このワークシートの各フィールドの詳細については、[122 ページの「Access Manager 設定情報」](#)の表を参照してください。

表 5-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|---|
| <i>インストールディレクトリ</i> | |
| Access Manager CMN_IS_INSTALLDIR | データ : _____ 例 : /opt (デフォルト) |
| <i>管理</i> | |
| 管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID | データ : amadmin 変更することはできません。 |
| 管理者パスワード IS_ADMINPASSWD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER | データ : amldapuser 変更することはできません。 |
| LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD | データ : _____ 制限 : 管理者パスワードとは異なる必要があります。 |
| パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD | データ : _____ 状態ファイルの例 : LOCK (デフォルト) 対話インストールの例 : デフォルトが生成されます。 |
| <i>Sun Java System Web Server</i> | |
| ホスト名 IS_WS_HOST_NAME | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| Web サーバーポート IS_WS_INSTANCE_PORT | データ : _____ 例 : 80 (デフォルト) |
| Web サーバーインスタンスディレクトリ IS_WS_INSTANCE_DIR | データ : _____ Solaris OS: /opt/SUNWwbsvr/https-mycomputer.example.com Linux: /opt/sun/webserver/https-mycomputer.example.com |

表 5-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| ドキュメントルートディレクトリ IS_WS_DOC_DIR | データ : Solaris OS: /opt/SUNWwbsvr/docs (デフォルト) Linux: /opt/sun/webserver/docs (デフォルト) |
| セキュアサーバーインスタンスポート IS_PROTOCOL | データ : 対話インストールの例: セキュリティ保護されていない場合は http、 セキュリティ保護されている場合は https 状態ファイルの例: http (デフォルト) |
| Access Manager サービスを実行するための Web コンテナ | |
| ホスト名 SERVER_HOST | データ : 例: mycomputer.example.com |
| サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI | データ : 例: amserver (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| 共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI | データ : 例: amcommon (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| クッキードメイン COOKIE_DOMAIN_LIST | データ : 例: .example.com 注: 先頭にピリオド (.) が必要です。 |
| 新しいコンソールを配備および 既存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB _CONTAINER | 詳細については、 130 ページの表 4-6 を参照してください。 |
| コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI | データ : 例: amconsole (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |
| パスワード配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI | データ : 例: ampassword (デフォルト) 注: 先頭にスラッシュを入力してはなりません。 |

表 5-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| コンソールホスト CONSOLE_HOST | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| コンソールポート CONSOLE_PORT | データ : _____ 例 : 80 |
| Directory Server 情報 | |
| Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| Directory Server ポート IS_DS_PORT | データ : _____ 例 : 389 (デフォルト) |
| Access Manager ディレクトリ ルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX | データ : _____ 例 : dc=example,dc=com |
| ディレクトリマネージャ DN IS_DIRMGRDN | データ : _____ 例 : cn=Directory Manager (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャパス ワード IS_DIRMRPSSWD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| Directory Server 情報、プロビジョニングされたディレクトリ | |
| Directory Server にユーザーデー タが準備されていますか? IS_LOAD_DIT | データ : _____ 例 : no (デフォルト) |
| 組織マーカーオブジェクトクラ ス IS_ORG_OBJECT_CLASS | データ : _____ 例 : SunISManagedOrganization (デフォルト) |
| 組織ネーミング属性 CONFIG_IDENT_NA4ORG | データ : _____ 例 : o (デフォルト) |
| ユーザーマーカーオブジェクト クラス IS_USER_OBJECT_CLASS | データ : _____ 例 : intorgperson (デフォルト) |

表 5-2 Web Server に配備された Access Manager の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ユーザーネーミング属性 CONFIG_IDENT_NA4USER | データ : _____ 例 : uid (デフォルト) |

管理サーバーのワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、[145 ページ](#)の「管理サーバーの設定情報」の表を参照してください。

表 5-3 管理サーバーの設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|---|
| サーバー設定 | |
| サーバールート ADMINSERV_ROOT | データ : _____ 例 : /var/opt/mps/serverroot (デフォルト) |
| 管理ポート ADMINSERV_PORT | データ : _____ 例 : 390 (デフォルト) |
| 管理ドメイン ADMINSERV_DOMAIN | データ : _____ 例 : example.com |
| システムユーザー ADMINSERV_SYSTEM_USER | データ : _____ 例 : root (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| システムグループ ADMINSERV_SYSTEM_GROUP | データ : _____ 例 : other (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 設定用ディレクトリの設定 | |
| 管理ユーザー ID ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER | データ : _____ 例 : admin (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理者パスワード ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSW ORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |

表 5-3 管理サーバーの設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| Directory Server ホスト ADMINSERV_CONFIG_DIR_HOST | データ : _____ 例 : mycomputer.example.com |
| Directory Server ポート ADMINSERV_CONFIG_DIR_PORT | データ : _____ 例 : 389 (デフォルト) |

Application Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、[148 ページの「Application Server の設定情報」](#)の表を参照してください。

表 5-4 Application Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|---|
| インストールディレクトリ | |
| Application Server CMN_AS_INSTALLDIR | データ : _____ Solaris OS: /opt/SUNWappserver/appserver (デフォルト) Linux: /opt/sun/appserver (デフォルト) |
| Application Server のサーバー設定 CMN_AS_DOMAINSDIR | データ : _____ Solaris OS: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1 (デフォルト) Linux: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1 (デフォルト) |
| 管理 | |
| 管理ユーザー名 AS_ADMIN_USER | データ : _____ 例 : admin (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| パスワード AS_PASSWORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理ポート AS_ADMIN_PORT | データ : _____ 例 : 4849 (デフォルト) |
| JMX ポート AS_JMX_PORT | データ : _____ 例 : 8686 (デフォルト) |

表 5-4 Application Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| HTTP ポート AS_HTTP_PORT | データ : _____ 例 : 8080 (デフォルト) |
| HTTPS ポート AS_HTTPS_PORT | データ : _____ 例 : 8181 (デフォルト) |
| マスターパスワード AS_MASTER_PASSWORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| ノードエージェント | |
| 管理ホスト名 ASNA_ADMIN_HOST_NAME | データ : _____ 例 : ノードエージェントが接続可能な管理用ホストの名前。デフォルト値はありません。 |
| 管理ユーザー名 ASNA_ADMIN_USER_NAME | データ : _____ 例 : admin (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| パスワード ASNA_PASSWORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| マスターパスワード ASNA_MASTER_PASSWORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理ポート ASNA_ADMIN_PORT | データ : _____ 例 : 4849 (デフォルト) |
| ノードエージェント名 ASNA_NODE_AGENT_NAME | データ : _____ 例 : デフォルトはローカルホスト名です。 |
| ロードバランスプラグイン | |
| プラグイン用に使われる Web サーバー AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE | データ : _____ 例 : デフォルト値は Web Server です。 |

表 5-4 Application Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---------------------------------------|--|
| Web サーバーの場所 AS_WEB_SERVER_LOCATION | データ : ロードバランスプラグインをインストールするのと同じセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は Web Server です。 |

Directory Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、[150 ページ](#)の「[Directory Server 設定情報](#)」の表を参照してください。

表 5-5 Directory Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| インストールディレクトリ | |
| Directory Server、サーバルーター CMN_DS_INSTALLDIR | データ : Solaris OS: /var/opt/mps/serverroot (デフォルト) Linux: /var/opt/sun/mps/directory-server (デフォルト) |
| 管理 | |
| 管理者ユーザー ID DS_ADMIN_USER | データ : 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理者パスワード DS_ADMIN_PASSWORD | データ : (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| ディレクトリマネージャ DN DS_DIR_MGR_USER | データ : 例: cn=Directory Manager (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャパスワード DS_DIR_MGR_PASSWORD | データ : (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| サーバー設定 | |
| サーバー識別子 DS_SERVER_IDENTIFIER | データ : 例: mycomputer (デフォルトは共通サーバー設定の値) |

表 5-5 Directory Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| サーバーポート DS_SERVER_PORT | データ : _____ 例 : 389 (デフォルト) |
| サフィックス DS_SUFFIX | データ : _____ 例 : dc=example,dc=com |
| 管理ドメイン DS_ADM_DOMAIN | データ : _____ 例 : example.com (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| システムユーザー DS_SYSTEM_USER | データ : _____ 例 : root (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| システムグループ DS_SYSTEM_GROUP | データ : _____ 例 : other (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 設定用 Directory Server | |
| このサーバーに設定データを保存します。 このサーバーの設定データを Directory Server の次のインスタンスに保存します。 USE_EXISTING_CONFIG_DIR | 詳細については、 153 ページの表 4-25 を参照してください。 |
| Directory Server ホスト CONFIG_DIR_HOST | データ : _____ 例 : othercomputer.example.com |
| Directory Server ポート CONFIG_DIR_PORT | データ : _____ 例 : 389 (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャ DN CONFIG_DIR_ADM_USER | データ : _____ 例 : cn=Directory Manager (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャパスワード CONFIG_DIR_ADM_PASSWD | データ : _____ _____ |

表 5-5 Directory Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| データストレージの場所 | |
| このサーバーにユーザー / グループデータを保存します。 Directory Server の次のインスタンスにユーザー / グループデータを保存します。 USE_EXISTING_USER_DIR | 詳細については、 155 ページの表 4-26 を参照してください。 |
| Directory Server ホスト USER_DIR_HOST | データ : _____ 例 : othercomputer.example.com |
| Directory Server ポート USER_DIR_PORT | データ : _____ 例 : 389 (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャ DN USER_DIR_ADM_USER | データ : _____ 例 : cn=Directory Manager (デフォルト) |
| ディレクトリマネージャパスワード USER_DIR_ADM_PASSWD | データ : _____ _____ |
| サフィックス USER_DIR_SUFFIX | データ : _____ 例 : dc=example,dc=com |
| データの取り込み情報 | |
| サンプル組織構造の読み込み DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES | データ : _____ 例 : 1 または 0 (デフォルト) |
| データの読み込み DS_POPULATE_DATABASE | データ : _____ 例 : 1 または 0 (デフォルト) |
| インストーラからのサンプルデータまたは LDIF ファイルからの自分のデータ | 詳細については、 156 ページの表 4-27 を参照してください。 |
| ファイル名 DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME | 詳細については、 156 ページの表 4-27 を参照してください。 |

表 5-5 Directory Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|-------------------------------|
| データのインポートにかかる時間を短縮するため、スキーマチェックを無効にします。 DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING | データ : 例: 1 または 0 (デフォルト) |

Directory Proxy Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、158 ページの「[Directory Proxy Server 設定情報](#)」の表を参照してください。

表 5-6 Directory Proxy Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|---------------------------|
| インストールディレクトリ | |
| Directory Proxy Server CMN_DPS_INSTALLDIR | データ : 例: / (デフォルト) |
| ポート選択 | |
| Directory Proxy Server ポート DPS_PORT | データ : 例: 489 (デフォルト) |

Portal Server のワークシート

Portal Server 用の 4 つのワークシートがあります。これらのワークシートは、Portal Server を配備できる各 Web コンテナに対応します。

- [206 ページの「Application Server に配備された Portal Server」](#)
- [208 ページの「Web Server に配備された Portal Server」](#)
- [209 ページの「BEA WebLogic Server に配備された Portal Server」](#)
- [211 ページの「IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server」](#)

Application Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、[159 ページの「Portal Server の設定情報」](#)の表を参照してください。

表 5-7 Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| インストールディレクトリ | |
| Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR | データ : 例 : /opt (デフォルト) |
| Sun Java System Application Server | |
| インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | データ : Solaris OS: /opt/SUNWappserver/appserver (デフォルト) Linux: /opt/sun/appserver (デフォルト) |
| ドメインディレクトリ PS_DEPLOY_DOMAIN | データ : Solaris OS: domain1 (デフォルト) Linux: domain1 (デフォルト) |
| サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | データ : 例 : server (デフォルト) |
| サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT | データ : 例 : 8080 (デフォルト) |

表 5-7 Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT | データ : <hr/> Solaris OS: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot |
| 管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT | データ : <hr/> 例 : 4849 (デフォルト) |
| 管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN | データ : <hr/> 例 : admin (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理者のユーザーパスワード PS_IS_ADMIN_PASSWORD | データ : <hr/> (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| セキュアサーバーインスタンス ポート PS_DEPLOY_PROTOCOL | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| セキュリティ保護された管理 サーバーポート PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| Web コンテナの配備 | |
| ロードバランサプロトコル | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| ロードバランサホスト | データ : <hr/> 例 : mycomputer.example.com |
| ロードバランサポート | データ : <hr/> 例 : 8080 (デフォルト) |
| 配備 URI PS_DEPLOY_URI | データ : <hr/> 例 : /portal (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュ (/) が必要です。 |
| 複数の Portal Server を制御する ロードバランサ | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : n (デフォルト) |

表 5-7 Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|------------------|------------------------|
| サンプルポータルインストール | データ : |
| PS_SAMPLE_PORTAL | 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |

Web Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、159 ページの「Portal Server の設定情報」の表を参照してください。

表 5-8 Web Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| <i>インストールディレクトリ</i> | |
| Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR | データ : Solaris OS: /opt (デフォルト) Linux: /opt/sun (デフォルト) |
| <i>Sun Java System Web Server</i> | |
| インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | データ : Solaris OS: /opt/SUNWwbsvr (デフォルト) Linux: /opt/sun/webserver (デフォルト) |
| サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | データ : 例 : mycomputer.example.com |
| サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT | データ : 例 : 80 (デフォルト) |
| サーバードキュメントルート PS_DEPLOY_DOCROOT | データ : Solaris OS: /opt/SUNWwbsvr/docs (デフォルト) Linux: /opt/sun/webserver/docs (デフォルト) |
| セキュアサーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PROTOCOL | データ : 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |

表 5-8 Web Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|------------------------------------|---|
| <i>Web コンテナの配備</i> | |
| ロードバランサプロトコル | データ : 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| ロードバランサホスト | データ : 例 : mycomputer.example.com |
| ロードバランサポート | データ : 例 : 80 (デフォルト) |
| 配備 URI PS_DEPLOY_URI | データ : 例 : /portal (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュ (/) が必要です。 |
| 複数の Portal Server を制御する ロードバランサ | データ : 状態ファイルの例 : n (デフォルト) |
| サンプルポータルインストール PS_SAMPLE_PORTAL | データ : 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |

BEA WebLogic Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、[150 ページの「Directory Server 設定情報」](#)の表を参照してください。

表 5-9 BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|------------------------------------|-----------------------------|
| <i>インストールディレクトリ</i> | |
| Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR | データ : 例 : /opt (デフォルト) |
| <i>BEA WebLogic Server</i> | |

表 5-9 BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| ホームディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | データ : 例 : /usr/local/boa (デフォルト) |
| 製品インストールディレクトリ PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR | データ : 例 : /usr/local/boa/weblogic81 (デフォルト) |
| ユーザープロジェクトのディレクトリ PS_DEPLOY_PROJECT_DIR | データ : 例 : user_projects (デフォルト) |
| 製品の JDK ディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR | データ : 例 : /usr/local/boa/jdk141_05 (デフォルト) |
| サーバー / クラスタドメイン PS_DEPLOY_DOMAIN | データ : 例 : mydomain (デフォルト) |
| サーバー / クラスタインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | データ : 例 : myserver (デフォルト) |
| サーバー / クラスタポート PS_DEPLOY_PORT | データ : 例 : 7001 (デフォルト) |
| サーバー / クラスタプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL | データ : 例 : http (デフォルト) |
| ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT | データ : |
| 管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN | データ : 例 : weblogic (デフォルト) |
| 管理者パスワード PS_IS_ADMIN_PASSWORD | データ : (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| 管理対象サーバー PS_DEPLOY_NOW | データ : 状態ファイルの例 : n (デフォルト) |

表 5-9 BEA WebLogic Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|------------------------------------|---|
| <i>Web コンテナの配備</i> | |
| ロードバランサブプロトコル | データ : 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| ロードバランサホスト | データ : 例 : mycomputer.example.com |
| ロードバランサポート | データ : 例 : 80 (デフォルト) |
| 配備 URI PS_DEPLOY_URI | データ : 例 : /portal (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュ (/) が必要です。 |
| 複数の Portal Server を制御する ロードバランサ | データ : 状態ファイルの例 : n (デフォルト) |
| サンプルポータルインストール PS_SAMPLE_PORTAL | データ : 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |

IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、[159 ページの「Portal Server の設定情報」](#)の表を参照してください。

表 5-10 IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|------------------------------------|---------------------------|
| <i>インストールディレクトリ</i> | |
| Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR | データ : 例 : /opt (デフォルト) |

表 5-10 IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|---|
| <i>IBM WebSphere Application Server</i> | |
| インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR | データ : 例 : /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer (デフォルト) |
| 仮想ホスト PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST | データ : 例 : default_host (デフォルト) |
| セル PS_DEPLOY_CELL | データ : 例 : DefaultNode (デフォルト) |
| ノード PS_DEPLOY_NODE | データ : 例 : DefaultNode (デフォルト) |
| サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE | データ : 例 : server1 (デフォルト) |
| サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT | データ : 例 : 9080 (デフォルト) |
| ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT | データ : 例 : /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer/installedApps/DefaultNode/DefaultApplication.ear (デフォルト) |
| Java ホームディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR | データ : 例 : /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/java (デフォルト) |
| セキュリティ保護されたサーバーインスタンス PS_DEPLOY_PROTOCOL | データ : 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| <i>Web コンテナの配備</i> | |
| ロードバランサプロトコル | データ : 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| ロードバランサホスト | データ : 例 : mycomputer.example.com |

表 5-10 IBM WebSphere Application Server に配備された Portal Server の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|---|
| ロードバランサポート | データ : 例 : 8080 (デフォルト) |
| 配備 URI PS_DEPLOY_URI | データ : 例 : /portal (デフォルト) 注 : 先頭にスラッシュ (/) が必要です。 |
| 複数の Portal Server を制御する ロードバランサ | データ : 状態ファイルの例 : n (デフォルト) |
| サンプルポータルインスタ ール PS_SAMPLE_PORTAL | データ : 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |

Portal Server Secure Remote Access のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、166 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」の表を参照してください。

表 5-11 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|-------------------------------------|
| インストールディレクトリ (常に必要) | |
| Portal Server Secure Remote Access CMN_SRA_INSTALLDIR | データ : 例 : /opt (デフォルト) |
| Web コンテナの配備 (Secure Remote Access コアを Portal Server と同じセッションでインストールする場合以外は必須) | |
| プロトコル SRA_SERVER_PROTOCOL | データ : 状態ファイルの例 : http (デフォルト) |
| ホスト SRA_SERVER_HOST | データ : 例 : mycomputer.example.com |

表 5-11 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|--|
| ポート SRA_SERVER_PORT | データ : _____ 例 : 8080 (デフォルト) |
| 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | データ : _____ 例 : /portal (デフォルト) |
| ゲートウェイ情報 (Secure Remote Access コアをインストールする場合は必須) | |
| ゲートウェイプロトコル SRA_GATEWAY_PROTOCOL | データ : _____ 状態ファイルの例 : https (デフォルト) |
| Portal Server ドメイン SRA_SERVER_DOMAIN | データ : _____ 例 : example.com |
| ゲートウェイドメイン SRA_GATEWAY_DOMAIN | データ : _____ 例 : example.com |
| ゲートウェイポート SRA_GATEWAY_PORT | データ : _____ 例 : 443 (デフォルト) |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_GATEWAY_PROFILE | データ : _____ 例 : default (デフォルト) |
| ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| ゲートウェイ (ゲートウェイをインストールする場合は必須) | |
| プロトコル SRA_GW_PROTOCOL | データ : _____ 状態ファイルの例 : https (デフォルト) |
| ホスト名 SRA_GW_HOSTNAME | データ : _____ 例 : mycomputer |
| サブドメイン SRA_GW_SUBDOMAIN | データ : _____ |

表 5-11 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| ドメイン SRA_GW_DOMAIN | データ : _____ 例 : example.com |
| ホスト IP アドレス SRA_GW_IPADDRESS | データ : _____ 例 : 127.51.91.192 |
| アクセスポート SRA_GW_PORT | データ : _____ 例 : 443 (デフォルト) |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_GW_PROFILE | データ : _____ 例 : default (デフォルト) |
| ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD | データ : _____ (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| インストール後ゲートウェイの 開始 SRA_GW_START | データ : _____ 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |
| Netlet プロキシ (Netlet プロキシをインストールする場合は必須) | |
| ホスト名 SRA_NLP_HOSTNAME | データ : _____ 例 : mycomputer |
| サブドメイン SRA_NLP_SUBDOMAIN | データ : _____ _____ |
| ドメイン SRA_NLP_DOMAIN | データ : _____ 例 : example.com |
| ホスト IP アドレス SRA_NLP_IPADDRESS | データ : _____ 例 : 127.51.91.192 |
| アクセスポート SRA_NLP_PORT | データ : _____ 例 : 10555 (デフォルト) |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE | データ : _____ 例 : default (デフォルト) |

表 5-11 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|--|--|
| ログのユーザーパスワード SRA_NLP_USER_PASSWORD | データ : <hr/> (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| インストール後 Netlet プロキシ の開始 SRA_NLP_START | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |
| Rewriter プロキシ (Rewriter プロキシをインストールする場合は必須) | |
| ホスト名 SRA_RWP_HOSTNAME | データ : <hr/> 例 : mycomputer |
| サブドメイン SRA_RWP_SUBDOMAIN | データ : <hr/> |
| ドメイン SRA_RWP_DOMAIN | データ : <hr/> 例 : example.com |
| ホスト IP アドレス SRA_RWP_IPADDRESS | データ : <hr/> 例 : 127.51.91.192 |
| アクセスポート SRA_RWP_PORT | データ : <hr/> 例 : 10443 (デフォルト) |
| ゲートウェイプロファイル名 SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE | データ : <hr/> 例 : default (デフォルト) |
| ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD | データ : <hr/> (デフォルトは共通サーバー設定の値) |
| インストール後 Rewriter プロキシ の開始 SRA_RWP_START | データ : <hr/> 状態ファイルの例 : y (デフォルト) |
| プロキシ情報 (Netlet プロキシまたは Rewriter プロキシをインストールする場合は必須) | |
| 別のホスト上の Portal Server で 作業 SRA_IS_CREATE_INSTANCE | データ : <hr/> |

表 5-11 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|----------------|
| Portal Server プロトコル SRA_SERVER_PROTOCOL | データ : _____ |
| Portal Server ホスト SRA_SERVER_HOST | データ : _____ |
| Portal Server ポート SRA_SERVER_PORT | データ : _____ |
| Portal Server 配備 URI SRA_DEPLOY_URI | データ : _____ |
| 組織 DN SRA_IS_ORG_DN | データ : _____ |
| Access Manager サービス URI SRA_IS_SERVICE_URI | データ : _____ |
| Access Manager 暗号鍵 SRA_IS_PASSWORD_KEY | データ : _____ |

表 5-11 Portal Server Secure Remote Access の設定用ワークシート (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---|----------------|
| 証明書情報 (ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合は必須) | |
| 組織 SRA_CERT_ORGANIZATION | データ : _____ |
| 部署 SRA_CERT_DIVISION | データ : _____ |
| 市 / 地域 SRA_CERT_CITY | データ : _____ |
| 州 / 都道府県名 SRA_CERT_STATE | データ : _____ |
| 国名コード SRA_CERT_COUNTRY | データ : _____ |
| 証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD | データ : _____ |

Web Server のワークシート

このワークシートの各フィールドの詳細については、[184 ページ](#)の「[Web Server の設定情報](#)」の表を参照してください。

表 5-12 Web Server の設定用ワークシート

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | データ |
|---------------------------------|---|
| インストールディレクトリ | |
| Web Server CMN_WS_INSTALLDIR | データ : _____ Solaris OS: /opt/SUNWwbsvr (デフォルト) Linux: /opt/sun/webserver (デフォルト) |

表 5-12 Web Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ データ

管理

管理者ユーザー ID
WS_ADMIN_USER

データ:

 例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)

管理者パスワード
WS_ADMIN_PASSWORD

データ:

 (デフォルトは共通サーバー設定の値)

Web Server ホスト
WS_INSTANCE_HOST

データ:

 例: mycomputer.example.com

管理ポート
WS_ADMIN_PORT

データ:

 例: 8888 (デフォルト)

管理実行時ユーザー ID
WS_ADMIN_SYSTEM_USER

データ:

 例: root (デフォルト)

表 5-12 Web Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ データ

デフォルト Web Server インスタンス

| | |
|---|--|
| 実行時ユーザー ID WS_INSTANCE_USER | データ : 例 : webservd (デフォルト) |
| 実行時グループ WS_INSTANCE_GROUP | データ : 例 : webservd (デフォルト) |
| HTTP ポート WS_ADMIN_PORT | データ : 例 : 80 (デフォルト) |
| ドキュメントルートディレクトリ WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT | データ : Solaris OS: /opt/SUNWwbsvr/docs (デフォルト) Linux: /opt/sun/webserver/docs (デフォルト) |
| システム再起動時に自動的に Web Server を起動 WS_INSTANCE_AUTO_START | データ : 状態ファイルの例 : N (デフォルト) |

インストールと設定

第 6 章 「インストールの準備」

第 7 章 「グラフィカルインタフェースによるインストール」

第 8 章 「テキストベースのインタフェースによるインストール」

第 9 章 「サイレントモードでのインストール」

第 10 章 「インストール後のコンポーネントの設定」

第 11 章 「コンポーネントの起動と停止」

第 12 章 「コンポーネントのアンインストール」

第 13 章 「トラブルシューティング」

インストールの準備

この章では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアのインストールの準備に役立つ情報を提供します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 223 ページの「インストール前提条件」
- 226 ページの「Java ES ソフトウェアの入手」
- 227 ページの「配布内容」
- 231 ページの「インストールイメージの作成」

インストール前提条件

次の表は、すべての種類のインストールを開始する前に必要なタスクを示しています。左の列は、タスクの一般的な実行順序を示し、中央の列は実行する操作を説明しています。右の列は、手順の参照先と便利なその他の情報を示しています。すべてのインストールですべてのタスクが必要なわけではありません。

表 6-1 インストール前のチェックリスト

| 順序 | 実行するタスク | 便利な情報と参照先 |
|----|--|--|
| 1 | 『Java Enterprise System リリースノート』を読みます。 | 『インストールガイド』で説明されている手順を実行する前に、『Java Enterprise System リリースノート』(http://docs.sun.com/doc/819-0815?l=ja)をお読みください。リリースノートには、個別のケースに関するインストール時の問題についての情報が記載されています。 |

表 6-1 インストール前のチェックリスト (続き)

| 順序 | 実行するタスク | 便利な情報と参照先 |
|----|--|--|
| 2 | Java ES コンポーネントのインストールの順序を計画します。 | <p>47 ページの第 2 章「インストールシーケンスの作成」</p> <p>Sun Cluster ソフトウェア (Solaris 8 および 9 のみ) をインストールする場合は、91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」を参照してください。</p> |
| 3 | Java ES 2005Q1 との互換性を持たない既存のコンポーネントをアップグレードします。 | <p>62 ページの「インストールするコンポーネントの非互換性について」</p> <p>prodreg、pkginfo、または rpm コマンド使用方法については、各コマンドのマニュアルページを参照してください。</p> <p>『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja</p> |
| 4 | システム要件が満たされていることを確認します。 | <p>66 ページの「ホストの準備状態の確認」</p> <p>『Java Enterprise System リリースノート』 http://docs.sun.com/doc/819-0815?l=ja</p> |
| 5 | 「今すぐ設定」設定オプションでのインストールの場合、コンポーネントの設定情報を収集します。 | <p>119 ページの第 4 章「設定情報」</p> <p>191 ページの第 5 章「設定用ワークシート」</p> |
| 6 | 製品レジストリファイルのコピーを取ります。バックアップコピーは、インストールが失敗した際にシステムの復旧に役立ちます。 | <p>Solaris: /var/sadm/install/productregistry Linux: /var/opt/sun/install/productregistry</p> |
| 7 | ルート以外のユーザーの場合、必要なシステムアカウントを作成します。 | <p>Directory Server、Directory Proxy Server、または管理サーバーをルート以外のユーザーとして実行する場合は、設定前にシステムアカウントを作成する必要があります。</p> |
| 8 | すでにインストールされているサーバーまたはサービスに依存するコンポーネントをインストールする場合は、既存のサーバーおよびサービスが稼働しており、アクセス可能であることを確認します。 | <p>たとえば、Portal Server Secure Remote Access サブコンポーネントをインストールする場合は、Secure Remote Access コアが稼働し、アクセス可能である必要があります。</p> |

表 6-1 インストール前のチェックリスト (続き)

| 順序 | 実行するタスク | 便利な情報と参照先 |
|----|--|---|
| 9 | Directory Server をインストールする場合、Perl がインストールされていることを確認します。 | <p>Solaris: Perl のパッケージ (SUNWpl5*) は Solaris 8 の媒体に用意されています。</p> <p>Linux: インストールの前に /usr/bin/perl が存在していなければなりません。</p> <p>Perl が存在しない場合、pkgadd または rpm -i を使用してパッケージを追加します。</p> |
| 10 | Access Manager または Messaging Server をインストールする場合、Access Manager のインストール先ホストのドメイン名が設定されていることを確認します。 | <p>ドメイン名を設定するには、次のいずれかの操作を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /etc/resolv.conf ファイルが存在する場合は、domain 設定エントリにドメイン名を入力します。例: domain madisonparc.com • /etc/resolv.conf ファイルが存在しない場合は、次のコマンドを実行します。 <pre># domainname domain_name</pre> |
| 11 | Calendar Server または Messaging Server をインストールする場合、/etc/hosts ファイルの 2 番目の列の内容が、単純なホスト名ではなく完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。 | <p>例:</p> <pre>192.18.99.999 mycomputer.company.com mycompany loghost</pre> |
| 12 | Apache Web Server とともにロードバランシングプラグインをインストールするときは、JES のインストールを開始する前に Apache Web Server をインストールおよび設定します。(Linux の場合は、まず Application Server をインストールし、次に Apache Web Server をインストールし、最後にロードバランシングプラグインをインストールする必要があります)。 | <p>詳細については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 High Availability Administration Guide』 (http://docs.sun.com/doc/819-0216) の「Configuring Web Servers for HTTP Load Balancing」を参照してください。</p> |
| | Access Manager をインストールし、サードパーティ製の Web コンテナに配備する場合、「あとで設定」設定オプションを選択して設定スクリプトを実行する必要があります。 | <p>詳細については、『Sun Java System Access Manager 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/doc/819-1938?l=ja) の「Access Manager の設定スクリプト入力ファイルのサンプル」を参照してください。</p> |
| 13 | 再インストールを行う場合、Web Server のインストールディレクトリが存在しないことを確認します。存在する場合、そのディレクトリを削除するか、名前を変更します。 | <p>Web Server のデフォルトインストールディレクトリ:</p> <pre>Solaris: /opt/SUNWwbsvr Linux: /opt/sun/webserver</pre> |

表 6-1 インストール前のチェックリスト (続き)

| 順序 | 実行するタスク | 便利な情報と参照先 |
|----|---|--|
| 14 | J2SE ソフトウェアをアップグレードする場合は、アップグレードする J2SE コンポーネントに依存するその他の製品が停止されていることを確認します。 | 『Java Enterprise System アップグレードと移行』(http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja)を参照してください。 |
| 15 | Directory Proxy Server が、すでにインストールされている設定用 Directory Server を使用する場合は、Directory Proxy Server をインストールする前に、設定用 Directory Server が稼働していることを確認します。 | Directory Proxy Server と設定用 Directory Server を同時にインストールするときは、このタスクを省略できます。 |

Java ES ソフトウェアの入手

Java ES ソフトウェアは、次の方法で入手できます。

- CD または DVD

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.html> またはご購入先から CD または DVD を含むメディアキットを入手できます。各 CD には、単一オペレーティングシステム用のインストールファイル、Java ES インストーラプログラム、およびすべてのコンポーネントパッケージが収録されています。DVD には、Solaris オペレーティングシステム用のインストールファイル、Java ES インストーラプログラム、およびすべてのコンポーネントパッケージが収録されています。

- Web ダウンロード

Sun Download Center (<http://www.sun.com/download>) では、Java ES ソフトウェアをいくつかの形式でダウンロードできます。次の形式が用意されています。

- 単一オペレーティングシステム用のすべてのインストールファイルを含む ISO CD イメージ。
- 単一オペレーティングシステム用のすべてのインストールファイルを含む圧縮アーカイブ。
- 単一コンポーネントのすべてのインストールファイルの圧縮アーカイブ。選択されたコンポーネントが依存するすべてのサブコンポーネントを含む。

- システムに事前にロードまたはインストールされているソフトウェア

ソフトウェアが事前にロードまたはインストールされている Sun のハードウェアシステムを注文した場合は、Java ES ソフトウェアがシステムにすでにロードされている可能性があります。システムに次のディレクトリが存在すれば、Java ES ソフトウェアは事前にロードされています。

```
/var/spool/stage/JES_05Q1_architecture/
```

この *architecture* は、たとえば SPARC や x86 など、システムのハードウェアアーキテクチャを示します。

注 Sun Cluster ソフトウェアは事前にロードされた形式でのみ入手できません。

- ネットワーク上のファイルサーバー

各企業の操作手順によっては、社内ネットワークに Java ES のインストールファイルが用意されている場合があります。このような環境に該当するかどうかについて、システムを操作または管理する担当者に確認してください。

Java ES のインストールファイルの配布を担当する方は、「[配布内容](#)」を参照してください。

配布内容

次の表に、Java ES ソフトウェアの配布内容の一覧を示します。ISO 配布には、バンドル名に `iso` という指定が含まれます。次に例を示します。

```
java_es_05Q1-ga-solaris-sparc-1-iso.zip
```

表 6-2 Solaris SPARC の配布内容

| コンポーネントバンドル | それ以外に含まれる内容 | バンドル名 |
|------------------------|--|---|
| Solaris SPARC プラットフォーム | すべてのコンポーネント | java_es_05Q1-ga-solaris-sparc-1.zip java_es_05Q1-ga-solaris-sparc-2.zip または java_es_05Q1-ga-solaris-sparc-1-iso.zip java_es_05Q1-ga-solaris-sparc-2-iso.zip |
| Access Manager | 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server ユーザー管理ユーティリティ | java_es_05Q1_identity-ga-solaris-sparc.zip |
| Application Server | Message Queue | java_es_05Q1_appserver-ga-solaris-sparc.zip |

表 6-2 Solaris SPARC の配布内容 (続き)

| コンポーネントバンドル | それ以外に含まれる内容 | バンドル名 |
|---------------------------------|---|--|
| Calendar Server | 管理サーバー、Directory Server Access Manager | java_es_05Q1_calendar-ga-solaris-sparc.zip |
| Communications Express | | java_es_05Q1_uwc-ga-solaris-sparc.zip |
| Directory Server | 管理サーバー | java_es_05Q1_directory-ga-solaris-sparc.zip |
| Directory Proxy Server | 管理サーバー、Directory Server | java_es_05Q1_dirproxy-ga-solaris-sparc.zip |
| Instant Messaging | Access Manager 管理サーバー Application Server Message Queue Web Server ユーザー管理ユーティリティ | java_es_05Q1_im-ga-solaris-sparc.zip |
| Message Queue | | java_es_05Q1_msgq-ga-solaris-sparc.zip |
| Messaging Server | Access Manager 管理サーバー Directory Server | java_es_05Q1_msgserver-ga-solaris-sparc.zip |
| Portal Server | Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Portal Server SRA Web Server ユーザー管理ユーティリティ | java_es_05Q1_portal-ga-solaris-sparc.zip |
| Sun Cluster | | java_es_05Q1_cluster-ga-solaris-sparc.zip |
| Sun Remote Services Net Connect | | java_es_05Q1_cnplclient-ga-solaris-sparc.zip |
| Web Server | Web Server | java_es_05Q1_webserver-ga-solaris-sparc.zip |

表 6-3 Solaris x86 の配布内容

| コンポーネントバンドル | それ以外に含まれる内容 | バンドル名 |
|---------------------------|--|---|
| Solaris x86 プラット フォーム | すべてのコンポーネント | java_es_05Q1-ga-solaris-x86-1.zip java_es_05Q1-ga-solaris-x86-2.zip または java_es_05Q1-ga-solaris-x86-1-iso.zip java_es_05Q1-ga-solaris-x86-2-iso.zip |
| Access Manager | 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server ユーザー管理ユーティリ ティ | java_es_05Q1_identity-ga-solaris-x86.zip |
| Application Server | Message Queue | java_es_05Q1_appserver-ga-solaris-x86.zip |
| Calendar Server | Access Manager 管理サーバー、Directory Server | java_es_05Q1_calendar-ga-solaris-x86.zip |
| Communications Express | | java_es_05Q1_uwc-ga-solaris-x86.zip |
| Directory Server | 管理サーバー | java_es_05Q1_directory-ga-solaris-x86.zip |
| Directory Proxy Server | 管理サーバー、Directory Server | java_es_05Q1_dirproxy-ga-solaris-x86.zip |
| Instant Messaging | Access Manager 管理サーバー Application Server Message Queue Web Server ユーザー管理ユーティリ ティ | java_es_05Q1_im-ga-solaris-x86.zip |
| Message Queue | | java_es_05Q1_msgq-ga-solaris-x86.zip |
| Messaging Server | Access Manager 管理サーバー Directory Server | java_es_05Q1_msgserver-ga-solaris-x86.zip |

表 6-3 Solaris x86 の配布内容 (続き)

| コンポーネントバンドル | それ以外に含まれる内容 | バンドル名 |
|---------------|---|---|
| Portal Server | Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Portal Server SRA Web Server ユーザー管理ユーティリ ティ | java_es_05Q1_portal-ga-solaris-x86.zip |
| Sun Cluster | | java_es_05Q1_cluster-ga-solaris-x86.zip |
| Web Server | Web Server | java_es_05Q1_webserver-ga-solaris-x86.zip |

表 6-4 Linux の配布内容

| コンポーネントバンドル | それ以外に含まれる内容 | バンドル名 |
|---------------------------|--|---|
| Linux x86 プラット フォーム | すべてのコンポーネント | java_es_05Q1-ga-linux-x86-1.zip java_es_05Q1-ga-linux-x86-2.zip または java_es_05Q1-ga-linux-x86-1-iso.zip java_es_05Q1-ga-linux-x86-2-iso.zip |
| Access Manager | 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Web Server ユーザー管理ユーティリティ | java_es_05Q1_identity-ga-linux-x86.zip |
| Application Server | Message Queue | java_es_05Q1_appserver-ga-linux-x86.zip |
| Calendar Server | Access Manager 管理サーバー、Directory Server | java_es_05Q1_calendar-ga-linux-x86.zip |
| Communications Express | | java_es_05Q1_uwc-ga-linux-x86.zip |
| Directory Server | 管理サーバー | java_es_05Q1_directory-ga-linux-x86.zip |
| Directory Proxy Server | 管理サーバー、Directory Server | java_es_05Q1_dirproxy-ga-linux-x86.zip |

表 6-4 Linux の配布内容 (続き)

| コンポーネントバンドル | それ以外に含まれる内容 | バンドル名 |
|-------------------|---|---|
| Instant Messaging | Access Manager 管理サーバー Application Server Message Queue Web Server ユーザー管理ユーティリティ | java_es_05Q1_im-ga-linux-x86.zip |
| Message Queue | | java_es_05Q1_msgq-ga-linux-x86.zip |
| Messaging Server | Access Manager 管理サーバー Directory Server | java_es_05Q1_msgserver-ga-linux-x86.zip |
| Portal Server | Access Manager 管理サーバー Application Server Directory Server Message Queue Portal Server SRA Web Server ユーザー管理ユーティリティ | java_es_05Q1_portal-ga-linux-x86.zip |
| Web Server | Web Server | java_es_05Q1_webserver-ga-linux-x86.zip |

インストールイメージの作成

Java ES の配布は、共有される場所にインストールファイルを簡単に格納できるように設計されています。この設計の利点は、インストールファイルをこの共有の場所から何度でも実行できることです。

▶ ネットワーク上にイメージを作成するには

ここでは、インストールイメージを作成してサイトのネットワークで公開するための手順を示します。

1. root としてログインするか、スーパーユーザーになります。
2. ネットワーク上に共有ディレクトリを作成します。次に例を示します。

```
mkdir java_ent_sys_2005Q1
```
3. Web サイト、CD、または DVD に含まれるインストールファイルにアクセスし、インストールファイルの共有を準備します。

Web ダウンロード用 : Java ES の配布内容をダウンロードしたら (CD イメージまたは圧縮されたアーカイブ)、共有の場所でファイルを解凍します。

- a. 通常は、CD イメージは CD に書き込まれていますが、必要に応じてマウントすることもできます。マウントの例を次に示します。

```
unzip java_es_05Q1-ga-solaris-sparc-iso.zip
lofiadm -a pathname/java_es_05Q1-ga-solaris-sparc.iso /dev/lofi/1
mkdir mountpoint
mount -F hsfs /dev/lofi/1 mountpoint
ls mountpoint
Copyright      Docs          README         Solaris_sparc

cd mountpoint/Solaris_sparc
ls
Product      installer
```

- b. 圧縮されたアーカイブを共有の場所にコピーし、ファイルを解凍します。次に例を示します。

```
unzip java_es_05Q1-ga-solaris-sparc.zip
```

CD または DVD: インストールファイルを共有の場所にコピーします。次に例を示します。

```
mkdir shared-loc/java_ent_sys_2005Q1
cd /mnt/cdrom
find jes_05Q1_sparc | cpio -pdmu shared-loc/java_ent_sys_2005Q1
```

注 複数プラットフォームのファイルを共有の場所にコピーした場合、README ファイルと COPYRIGHT ファイルに関する次のようなプロンプトが表示されます。

```
File already exists. OK to overwrite?
```

Yes と入力します。これらのファイルはすべてのプラットフォームで共通です。

グラフィカルインタフェースによる インストール

この章では、対話的なグラフィカルインタフェースを使用して、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアをインストールする方法を説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [233 ページの「前提条件」](#)
- [234 ページの「グラフィカルモードでのインストーラの実行」](#)
- [247 ページの「コンポーネントの追加」](#)
- [247 ページの「次の手順」](#)

前提条件

この章で説明する手順を開始する前に、インストールの順序を作成し、非互換性についてシステムを調査し、必要な前提条件をすべて満たしておく必要があります。詳細については、[223 ページの「インストール前提条件」](#)を参照してください。

グラフィカルモードでのインストーラの実行

インストール中に問題が発生した場合は、[357 ページの第 13 章「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

▶ インストールを開始するには

1. (省略可能) ローカルディスプレイへのアクセスを確保します。

リモートホストにログインしているときには、`DISPLAY` 環境変数がローカルディスプレイに適切に設定されていることを確認します。`DISPLAY` 変数が正しく設定されていないと、インストーラはテキストベースで実行されます。

- C Shell での例 (ホスト名は myhost):

```
setenv DISPLAY myhost:0.0
```

- Korn Shell での例 (ホスト名は myhost):

```
DISPLAY=myhost:0.0
```

ローカルディスプレイでインストーラを実行するには、表示権限の付与が必要になる場合があります。たとえば、次のコマンドを使用して、`serverhost` 上のルートユーザーに対し、`myhost` から表示許可を付与することができます。

```
myhost> xauth extract - myhost:0.0 | rsh -l root serverhost xauth merge -
```

注 このような権限を安全に付与する手順については、『Solaris X Window System Developer's Guide』(<http://docs.sun.com/doc/805-3921?l=ja>)の「Manipulating Access to the Server」の章を参照してください。

2. `root` としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
3. グラフィカルインストールソフトウェアを起動します。

注 インストーラユーティリティのオプションの詳細については、[399 ページの「インストールコマンド」](#)を参照してください。

- **CD の場合**：インストールセッション中に CD を切り替えられるように、CD 上以外のディレクトリに移動します。次に例を示します。

```
cd /tmp
```

インストーラへの完全修飾パスを使用し、コマンドを入力してインストーラを起動します。

```
mount-point/os-arch/installer
```

このコマンドで、*mount-point* は、CD をマウントした位置です。*os-arch* はプラットフォームを表し、*Solaris_sparc*、*Solaris_x86*、または *Linux_x86* のいずれかです。

- **DVD の場合**：インストール先のプラットフォームと同じ名前の DVD ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストーラを開始します。

```
./installer
```

- **ダウンロードの場合**：ソフトウェアをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストーラを開始します。

```
./installer
```

「ようこそ」ページが表示されます。

4. 「次へ」をクリックして処理を続けます。

「ソフトウェアライセンス契約」ページが表示されます。

5. ライセンス契約のすべての条項に同意する場合は、「はい、ライセンス契約に同意します」をクリックします。「言語サポート」ページが表示されます。

ライセンス契約のすべての条項に同意しない場合は、「同意しません」を選択します。インストールプロセスが終了します。

▶ コンポーネントの言語を選択するには

ここで選択した言語用のパッケージは、選択するすべてのコンポーネントにインストールされます。言語を追加するごとにインストールするパッケージが増え、インストールに必要なディスク容量が増えます。英語は必ずインストールされます。

1. Java ES コンポーネントのインストールに使用する言語を「言語サポート」ページで選択します。

2. 「次へ」をクリックして処理を続けます。

「コンポーネントの選択」ページが表示されます。

注 ホストシステムの言語が英語ではない場合、その言語がデフォルトで選択されます。

▶ コンポーネントを選択するには

「コンポーネントの選択」ページには、関連サービスごとにグループ分けされたコンポーネントのリストが表示されます。コンポーネントの選択および「コンポーネントの選択」ページについては、次の点に注意する必要があります。

- **Solaris 10**: インストーラを非大域ゾーンで実行する場合、非大域ゾーンにインストールできないコンポーネントは無効になります。

- **Solaris:** 互換性のないバージョンの **Application Server** または **Message Queue** が検出された場合、バンドルされたバージョンにインストール中にアップグレードすることを選択できます。データへのリスクがあるとインストーラが判断した場合や、アプリケーションがすでに配備されている場合、処理を続けるかどうかを確認されます。「いいえ」を選択した場合、インストーラを終了し、互換性のないバージョンの **Application Server** または **Message Queue** を削除してから、インストールプロセスを再開する必要があります。

注 インストーラによって実行されるこのアップグレードでは、データは移行されません。アップグレードの詳細については、『**Java Enterprise System アップグレードと移行**』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) を参照してください。

- インストーラによってアップグレードすることができない非互換コンポーネントが検出された場合、そのコンポーネントを削除するか、または手動でアップグレードする必要があります。アップグレード手順については、『**Java Enterprise System アップグレードと移行**』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) を参照してください。問題を解決したあとで、「リストを更新」をクリックして「コンポーネントの選択」パネルを再表示します。
- 個別のコンポーネントについての情報を見るには、その項目の上にカーソルを置きます。その項目の説明が、ページ下部のテキストボックスに表示されます。すでにインストールされているコンポーネントの選択は解除 (グレー表示) されません。
- コンポーネントの互換性状態についての情報を見るには、「詳細」列の省略記号 (...) をクリックします (存在する場合)。



1. インストールするコンポーネントを選択します。
 - a. **すべてのコンポーネント** : 「全て選択」を選択して「次へ」をクリックします。
 - b. **一部のコンポーネント** : 特定のコンポーネントをインストールするには、コンポーネントを個別に選択します。コンポーネントを選択するたびに、そのコンポーネントが依存するコンポーネントが自動的に選択されます。
 - c. **Web コンテナ** : Web コンテナ用に使用するコンポーネントが確定していない場合、Application Server と Web Server の両方を選択し、「今すぐ設定」設定オプションを選択することができます。その後の設定ページで、Web コンテナを選択することができます。
 - d. **サードパーティ製の Web コンテナ** : サードパーティ製の Web コンテナを使用する場合、次の手順に従います。
 - I. コンポーネント選択ページで Application Server または Web Server を選択しません。「次へ」をクリックすると、「Web コンテナの選択」ページが表示されます。
 - II. 「サードパーティの Web コンテナを使用」を選択します。
 - III. 「了解」をクリックします。

- e. **リモート依存性**:ほかのホストにインストールされたコンポーネントを使うことによって依存性を満たす場合、次の手順に従います。
 - I. 選択を行ったあとで、コンポーネントのリスト全体を展開して調べ、インストーラによって自動的に選択されたコンポーネントを確認します。
 - II. **Directory Server** など、リモートホスト上でアクセスするコンポーネントの選択を解除します。「次へ」をクリックすると、「依存関係の警告」画面が表示されます。
 - III. リモートホストにインストールされたバージョンの使用を選択します。
 - IV. 「了解」をクリックします。
2. 「次へ」をクリックして処理を続けます。

➤ **依存性と互換性の問題を解決するには**

インストーラは、選択されたコンポーネントの依存性チェックを実行します。問題がある場合、問題を通知して対処を促す1つ以上のメッセージがインストーラによって表示されます。

1. コンポーネントの依存性の問題を解決して「次へ」をクリックします。次の処理に進めるようになるまで、この手順を繰り返します。

インストーラは次に、すでにインストールされている共有コンポーネントの互換性チェックを行います。

2. 互換性のないバージョンのコンポーネントが見つかったと、そのようなコンポーネントをホストから削除するかどうかを確認されます。「はい」をクリックすると、インストーラはそれらをただちに削除します。コンポーネントを手動で削除するには「いいえ」をクリックします。

警告 「いいえ」を選択する場合、インストールを続ける前にコンポーネントを削除する必要があります。

問題のあるコンポーネントが削除されたあとで、インストーラはすでにインストールされている共有コンポーネントの互換性チェックを行います。

3. 共有コンポーネントの互換性のないバージョンが検出された場合は、「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページが表示されます。このリストを確認し、表示された共有コンポーネントをインストーラが自動的にアップグレードしても安全かどうかを判断します。表示された共有コンポーネントをインストーラが自動的にアップグレードすることを許可するには、「次へ」をクリックします。このアップグレードは、「インストールの準備が完了しています」ページに進むまでは実行されません。

Solaris: 互換性のないシステム全体バージョンの J2SE SDK が検出された場合、「J2SE SDK のアップデートが必要です」ページが表示されます。Linux プラットフォームには、J2SE SDK のシステム全体の特定インストールが存在しないため、インストーラによるこのチェックは Solaris プラットフォームでのみ行われます。

警告 JES 以外のアプリケーションについては、ホストに存在する依存関係を確認せずに共有コンポーネントをアップグレードしないでください。必要となる共有コンポーネントのバージョンと、これらの既存のアプリケーションとの間に互換性があるかどうかを最初に確認する必要があります。

「インストールディレクトリ」ページが表示されます。

- ▶ **インストールディレクトリを指定し、システムチェックを開始するには**
「インストールディレクトリ」ページには、選択したコンポーネントのデフォルトのインストールディレクトリが表示されます。



1. デフォルトのインストールディレクトリについて、次のことを確認します。
 - これから行う配備のディレクトリが正しいことを確認します。

- デフォルトのディレクトリが適していない場合は、必要に応じて別のパスを参照し、変更します。
2. 「次へ」をクリックしてシステムチェックを開始します。

インストーラは、指定されたインストールディレクトリに基づいて、ディスク容量、メモリ、オペレーティングシステムのパッチ、オペレーティングシステムのリソースをチェックします。次の表の左側の列には、システムチェックの結果表示されるメッセージを示しています。右の列は、それぞれの結果に対して必要となる対処方法を示しています。

表 7-1 システムチェックの結果

| 表示されるメッセージ | 対処方法 |
|--|---|
| システムはインストールの準備が完了しています | 「次へ」をクリックし、設定の種類を指定します。 |
| システムはインストールの準備が完了しています メモリの量が推奨レベルに達していないことを示す警告メッセージを含む場合。 | 「次へ」をクリックしてインストールを続行しますが、作業完了後にメモリを追加します。メモリを追加しない場合、パフォーマンスに深刻な影響が生じる可能性があります。 |

表 7-1 システムチェックの結果 (続き)

| 表示されるメッセージ | 対処方法 |
|------------------------|---|
| システムはインストールの準備ができていません | <p data-bbox="719 274 1315 418">「レポートの参照」をクリックし、インストーラによって検出された問題に関する情報を参照します。インストーラを停止することなく、レポートされた問題を解決できる場合は、問題を解決したあとで「再チェック」をクリックし、システムの再チェックを行います。</p> <p data-bbox="719 435 1315 552">必要なパッチがインストールされていない場合、このレポートにはパッチ番号が報告されます。必要なオペレーティングシステムパッチをインストールするには、次の手順に従います。</p> <ol data-bbox="719 569 1315 1119" style="list-style-type: none"> 1. Sunsolve サイトにアクセスします。 http://sunsolve.sun.com 2. 「Patch Portal」をクリックします。 3. 「PatchFinder」テキストボックスにパッチ番号を入力し、「Find Patch」をクリックします。 4. パッチの zip ファイルをダウンロードします。 5. zip ファイルを展開します。 例: <code>unzip 112785-44.zip</code> パッチファイルのディレクトリが作成されます。 6. パッチを適用します。 例: <code>patchadd 117885-44</code> 7. Java ES インストーラに戻り、「再チェック」をクリックします。 8. すべてのシステム要件が再びチェックされます。 |

Solaris 10: インストーラを非大域ゾーンで実行している場合、メモリ情報を取得できないことを知らせるメッセージが表示されます。

3. システムチェックが完了し、システムの状態に問題がなければ、「次へ」をクリックします。

選択したコンポーネントの中に、インストール時に設定可能なものがある場合、「設定タイプ」ページが表示されます。

注 インストール時に設定可能なコンポーネントの詳細については、[57 ページの「最良の設定オプション」](#)を参照してください。

▶ 設定の種類を指定するには

次のオプションから設定の種類を指定します。

- **今すぐ設定**：インストール時に設定可能なコンポーネントを設定できます。
「今すぐ設定」の作業には、共通サーバー設定や、選択したコンポーネント製品の設定情報の指定が含まれます。

注 一部のコンポーネントは、インストール時に設定できません。これらのコンポーネントを選択した場合、インストール後にこれらのコンポーネントの設定が必要なことを知らせる警告が表示されます。手順については、[280 ページの「あとで設定」オプション:手順](#)を参照してください。

- **あとで設定**：パッケージのインストールに必要な最小限の値だけを入力します。
インストーラは、詳細設定を行わずに処理を先に進めます。このオプションを選択する場合、[245 ページの「インストールの準備が完了していることを確認するには」](#)に進みます。

▶ 共通サーバー設定を指定するには

「今すぐ設定」設定オプションでのインストールでは、グローバル設定情報を指定するように求められます。パスワードを除いて、デフォルト値が表示されます。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。

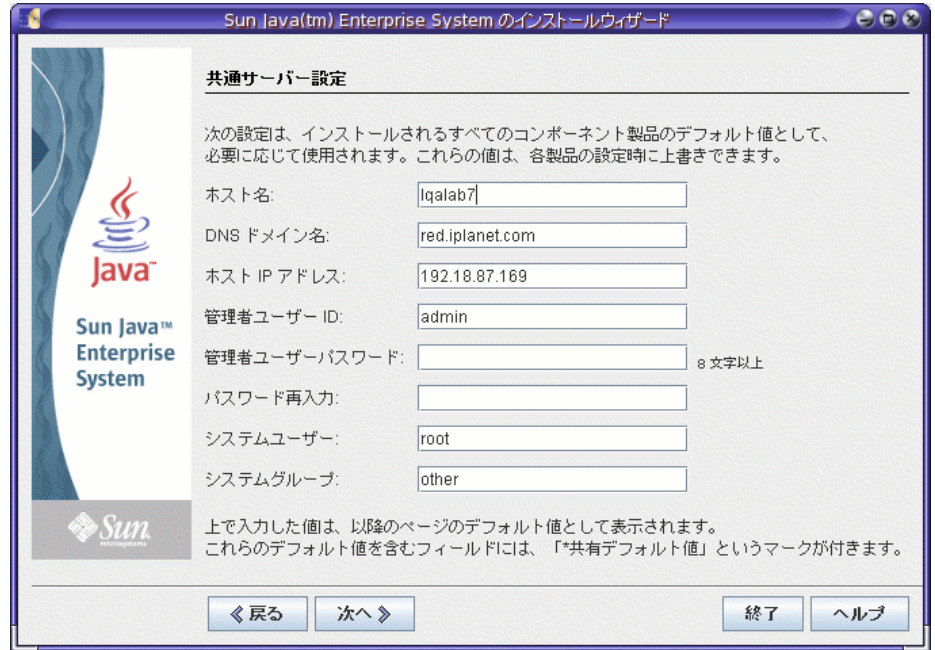
ヒント 設定パネルの操作中に、インストーラは設定情報を収集します。インストールが完了したあとで、「インストールサマリー」でこの情報を確認できます。

Solaris の場合：/var/sadm/install/logs

Linux の場合：/var/opt/sun/install/logs

1. 共通サーバー設定を指定します。

デフォルト値をそのまま使用するか、または別のデータを使用して、これらのグローバルフィールドに関するインストーラの質問に答えます。ここに入力する値は、以降のコンポーネント設定ページにデフォルト値として表示されます。これらのフィールドの詳細については、[121 ページの「共通サーバー設定」](#)を参照してください。次の画面例は、「共通サーバー設定」ページを示しています。



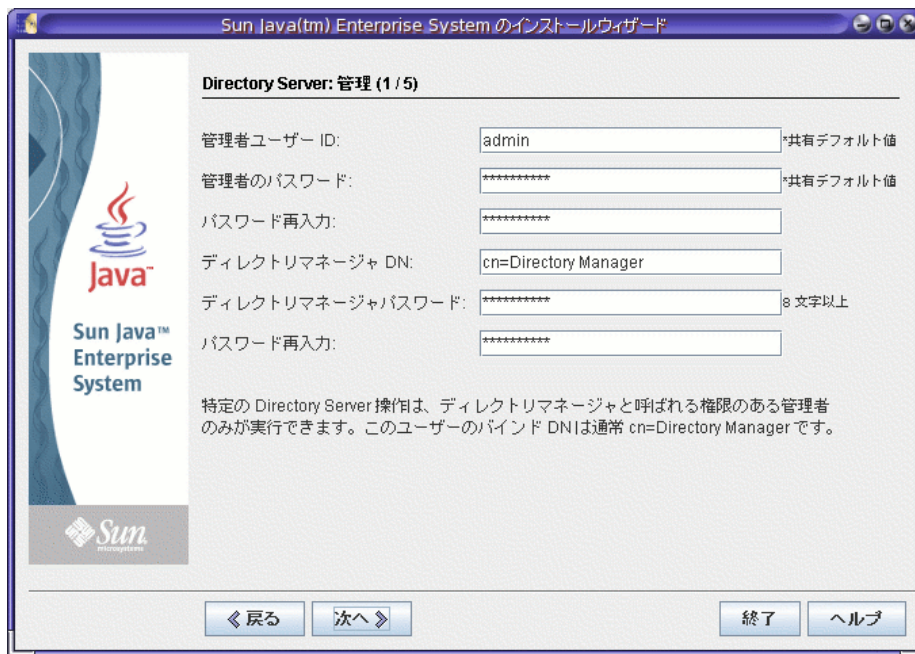
2. 「次へ」をクリックして処理を続けます。

インストール時に設定可能な各コンポーネントのコンポーネント設定ページが順番に表示されます。

▶ **選択したコンポーネントの設定を指定するには**

「今すぐ設定」設定オプションでのインストールの場合、インストーラは、選択したコンポーネントのうち、インストール時に設定可能なコンポーネントの設定ページを1つ以上表示します。

次の画面例は、Directory Server の最初の設定ページを示しています。



各ページの設定値の詳細については、次を参照してください。

- インストーラのオンラインヘルプ
各設定ページの下部にある「ヘルプ」ボタンをクリックします。
- 119 ページの第 4 章「設定情報」
各設定ページの設定値について詳しく説明しています。
- 191 ページの第 5 章「設定用ワークシート」
設定データをすでに収集している場合は、これらのワークシートを参照してください。

コンポーネント設定ページの一部のフィールドには、「共通サーバー設定」ページに指定したデフォルト値が表示されます。これらの値は編集可能です。たとえば、Directory Server の画面例で、「管理者ユーザー ID」および「管理者パスワード」フィールドには、「共通サーバー設定」ページで設定されたデフォルト値が表示されています。これらのフィールドには「*共有デフォルト値」というマークが付けられます。

注 Sun Cluster ソフトウェア自体はインストール時に設定できませんが、インストール後の設定を簡単にするためにリモートサポートを有効にするオプションがあります。デフォルトは Yes です。

1. 表示される各設定ページでは、設定に関する情報の入力が必要です。

ヒント

設定パネルの操作中に、インストーラは設定情報を収集します。インストールが完了したあとで、「インストールサマリー」でこの情報を確認できます。

Solaris の場合: /var/sadm/install/logs

Linux の場合: /var/opt/sun/install/logs

2. 「次へ」をクリックして、次のコンポーネントの設定ページに進みます。
3. 最後の設定ページで「次へ」をクリックすると、インストール時の設定が完了します。

「インストールの準備が完了しています」ページが表示されます。

▶ **インストールの準備が完了していることを確認するには**

システムにソフトウェアを転送する前に、インストーラは、選択されたコンポーネントの一覧を表示します。ここには共有コンポーネントは表示されませんが、それらはすでに確認されており、必要に応じてインストールされます。

1. 表示されたコンポーネントの一覧を確認し、必要な変更を行います。
 - a. 特定の「コンポーネントの選択」ページに戻るには、「戻る」ボタンをクリックし、目的の「コンポーネントの選択」ページが表示されるまで各ページの「戻る」ボタンをクリックし続けます。
 - b. インストーラの先のページに進むには、「次へ」をクリックします。すでに入力されている値を再入力する必要はありません。
2. 「インストールの準備が完了しています」ページの情報が適切であることを確認したら、「次へ」をクリックします。

「製品登録」ページが表示されます。

▶ **製品を登録し、ソフトウェアのインストールを開始するには**

ソフトウェアのインストール中に「製品登録」ページが表示されます。ここには、製品の登録オプションが示されます。

1. インストール中に登録フォームの入力と送信をしたくない場合は、デフォルトの「インストール中に登録ウィンドウを開きます」オプションの選択を解除します。
2. 「インストール」をクリックして、コンポーネントパッケージのインストールを開始します。インストール中に表示される項目は次のとおりです。
 - インストールがどこまで完了したか、割合を示す進捗バー。
 - インストールしているパッケージの名前。

- 製品登録オプションを受け入れた場合は、登録を行うためのブラウザウィンドウ。インストールのサイズと複雑さによっては、インストールに長い時間がかかる場合があります。

注 「取消し」をクリックすると、インストールをキャンセルすることができます。インストールをキャンセルすると、アンインストーラが起動し、それまでにインストールされた Java ES ソフトウェアが消去されます。

▶ インストールセッションを終了するには

インストールが完了すると、「インストールが完了しました」ページが表示されます。メモリ不足など、インストールに関する問題はこのページに表示されます。また、このページからインストールサマリーおよびログを参照することができます。

1. 「サマリーの表示」または「ログの表示」ボタンをクリックすると、インストールに関する情報が表示されます。
 - **インストールサマリー**：インストールされた各コンポーネントと、指定した設定内容が記録されます。「今すぐ設定」設定オプションを選択した場合、このサマリーファイルにはすべての設定値が記録されます。
 - **インストールログ**：コンポーネントに関するインストーラのログメッセージを示します。

この情報は、インストーラを終了したあとで次の場所から参照できます。

Solaris の場合：/var/sadm/install/logs

Linux の場合：/var/opt/sun/install/logs

2. インストール後の手順を表示するには、『Java Enterprise System インストールガイド』を自動的に表示するチェックボックスを選択します。
3. 「閉じる」をクリックしてインストーラを終了します。

これでインストーラセッションは完了です。インストールされたコンポーネントは、インストール後の作業をすべて完了したあとで開始する必要があります。
4. Java ES のインストールを完了する方法については、[247 ページの「次の手順」](#)を参照してください。

コンポーネントの追加

インストーラを再び実行し、追加のコンポーネントをインストールできます。インストーラは、新しくインストールされたコンポーネントを検出し、他のコンポーネントとの依存関係を満たすコンポーネントを使用します。インストールされたコンポーネントは、「コンポーネントの選択」ページで無効になります。

たとえば、今回のインストールで **Access Manager** とそれに必要なコンポーネントをインストールしたとします。そのあとで、**Portal Server** をインストールすることになりました。**Access Manager** に対する **Portal Server** の依存性を満たすために、**Access Manager** の既存のインスタンスが使用されます。**Access Manager** を再インストールするように求められることはありません。

次の手順

インストーラによる Java ES のインストールが完了したら、[第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)の説明に従って、最終のインストール作業を行います。インストール時に拡張設定を行なっている場合もありますが、ほとんどのコンポーネントでは追加設定が必要です。

次の手順

テキストベースのインタフェースによるインストール

この章では、対話的なテキストベースのインタフェースを使用して、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアをインストールする方法を説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [249 ページの「前提条件」](#)
- [250 ページの「テキストベースのインタフェースの使用法」](#)
- [251 ページの「テキストベースモードでのインストーラの実行」](#)
- [258 ページの「コンポーネントの追加」](#)
- [258 ページの「次の手順」](#)

前提条件

この章で説明する手順を開始する前に、インストールの順序を作成し、非互換性についてシステムを調査し、すべての前提条件を満たしておく必要があります。個別の前提条件については、[223 ページの「インストール前提条件」](#)を参照してください。

テキストベースのインタフェースの使用法

インストーラのテキストベースモードでは、グラフィカルインタフェースは表示されず、一連の質問の形式で情報が要求されます。次の表は、インストーラのテキストベースのプロンプトに回答する方法の説明です。

表 8-1 テキストベースインストーラのプロンプトに対する応答

| 処理 | 入力 |
|---------------------------------|---|
| 角カッコ ([]) 内に示されているデフォルト値を受け入れる | Return キーを押します。 |
| リストから項目を選択する | 項目の番号を入力し、複数の場合はコンマで区切り、Return キーを押します。空白文字は使用できません。たとえば、リスト内の項目 2 を選択するには、2 と入力して Return キーを押します。 項目 1、3、4 を選択するには、1,3,4 と入力して Return キーを押します。 |
| リストに含まれる項目の選択を解除する | 項目番号の前にマイナス記号 (-) を入力し、複数の場合はコンマで区切り、Return キーを押します。空白文字は使用できません。たとえば、リスト内の項目 2 の選択を解除するには、-2 を入力して Return キーを押します。 項目 1、3、4 の選択を解除するには、-1,-3,-4 と入力して Return キーを押します。 |
| テキストフィールドに値を指定する | 値を入力し、Return キーを押します。 |
| パスワードを指定する | パスワードを入力し、Return キーを押します。 パスワードは端末ウィンドウには表示されません。 |
| 前のページに戻る | 左向き不等号 (<) を入力し、Return キーを押します。 |
| セッションを終了する | 感嘆符 (!) を入力し、Return キーを押します。 |

テキストベースモードでのインストーラの実行

インストール中に問題が発生した場合は、[357 ページの第 13 章「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

▶ インストールを開始するには

1. root としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
2. テキストベースのインストールインタフェースを起動します。

注 インストーラユーティリティのオプションの詳細については、[399 ページの「インストールコマンド」](#)を参照してください。

- **CD の場合**：インストールセッション中に CD を切り替えられるように、CD 上以外のディレクトリに移動します。たとえば、次のように入力します。

```
cd /tmp
```

インストーラへの完全修飾パスを使用し、コマンドを入力してインストーラを起動します。

```
mount-point/os-arch/installer -nodisplay
```

このコマンドで、*mount-point* は、CD をマウントした位置であり、*os-arch* はプラットフォームを表します。プラットフォームは Solaris_sparc、Solaris_x86、または Linux_x86 のいずれかです。

- **DVD の場合**：インストール先のプラットフォームと一致する名前の DVD ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストーラを起動します。

```
./installer -nodisplay
```

- **ダウンロードの場合**：ソフトウェアをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストーラを起動します。

```
./installer -nodisplay
```

「ようこそ」情報が表示されます。

3. Enter キーを押して、「ソフトウェアライセンス契約」に進みます。
4. Enter キーを押して、「ソフトウェアライセンス契約」を表示します。
Enter キーを押し続けて、契約書を最後まで読みます。

5. ライセンス契約のすべての条項に同意する場合は、yes と入力して **Enter** キーを押します。「言語サポート」ページが表示されます。

ライセンス契約のすべての条項に同意しない場合は、**Enter** キーを押すことによってデフォルトの no を選択します。インストールプロセスが終了します。

▶ **インストールの言語を選択するには**

各パッケージに対応する番号をコマンドで区切って入力し、インストールする追加の言語パッケージを指定して **Return** キーを押します。

英語は必ずインストールされます。

▶ **コンポーネントを選択するには**

インストーラはまず、すでにインストールされているコンポーネントのバージョンがないかシステムを調べ、検出された場合は、検出されたコンポーネントのリストが「このホストのコンポーネント製品」というタイトルの下に表示されます。次のメッセージが表示されます。

The following component products are detected on this system. They will appear disabled, '* *', in the following Component Selection Main Menu. (このシステム上で次のコンポーネント製品が検出されました。次のコンポーネント選択メインメニューでは、検出された製品は '* *' のように無効として表示されます。)

Enter キーを押して、コンポーネント選択メインメニューに進みます。

注 検出されたコンポーネント製品は選択ページでは選択できませんが、そのバージョンが Java ES の要件またはほかのコンポーネントとの依存要件を満たしていない場合、アップグレードが必要になることがあります。

すでにインストールされているコンポーネントのバージョンが検出されなかった場合、インストーラはコンポーネント選択メインメニューを表示します。

コンポーネントの選択 - メインメニュー

注: "*" は、選択が無効であることを示します。

- [] 1. Sun Java(TM) System Calendar Server 6 2005Q1 (43.41 MB)
- [] 2. Sun Java(TM) System Directory Preparation Script (303.30 KB)
- [] 3. Sun Java(TM) System Web Server 6.1 SP4 2005Q1 (60.58 MB)
- [] 4. Sun Java(TM) System Messaging Server 6 2005Q1 (125.65 MB)
- [] 5. SunSM Remote Services Net Connect 3.1.1 (24.72 MB)
- [] 6. Sun Java(TM) System Administration Server 5 2005Q1 (13.22 MB)
- [] 7. High Availability Session Store (HADB) (44.34 MB)
- [] 8. Sun Cluster 3.1 9/04 (68.22 MB)
- [] 9. Sun Java(TM) System Access Manager 6 2005Q1 (22.19 MB)
- [] 10. Sun Java(TM) System Communications Express 6 2005Q1 (19.04 MB)
- [] 11. Sun Java(TM) System Message Queue 3 2005Q1 Enterprise Edition (10.02 MB)
- [] 12. Sun Java(TM) System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q1 (76.85 MB)
- [] 13. Sun Java(TM) System Directory Proxy Server 5 2005Q1 (9.46 MB)
- [] 14. Sun Java(TM) System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 (9.86 MB)
- [] 15. Sun Java(TM) System Instant Messaging 7 2005Q1 (11.40 MB)
- [] 16. Sun Java(TM) System Portal Server 6 2005Q1 (67.53 MB)
- [] 17. Sun Cluster Agents for Sun Java(TM) System (7.24 MB)
- [] 17. Sun Java(TM) System Directory Server 5 2005Q1 (46.09 MB)

インストールする製品をコンマで区切って入力してください [] { "<"
戻る, "!" 終了 }:

1. インストールするコンポーネントに対応する番号をコンマで区切って入力し、インストールするコンポーネントを指定して **Return** キーを押します。
2. 必要に応じて、表示されるメッセージに従って、選択した各コンポーネントのサブコンポーネントを選択します。

注 サブコンポーネントがないコンポーネントもあります。そのような製品については、サブコンポーネントの選択メッセージは表示されません。

コンポーネントとそのサブコンポーネントの選択が完了すると、インストーラは依存性チェックを行います。依存性に問題がある場合、問題の種類に応じて「製品の依存関係のチェック」エラーまたは警告が表示されます。一般的な問題には次のものがあります。

- ローカル依存性が満たされていない
この場合、コンポーネント選択に戻り、ローカル依存関係を解決できるように、適切なコンポーネントを選択します。
 - あとで行うインストール後設定の間にリモート依存性が満たされる
リモートインストールを指定するつもりがない場合、コンポーネントの選択に戻り、ローカルで依存性を満たすように適切なコンポーネントを選択します。
 - コンポーネントの以前のバージョンがローカルホストにすでにインストールされている
この場合、報告されたコンポーネントをアップグレードまたは削除し、インストーラに再びチェックを実行させます。以前の Java ES バージョンからコンポーネントをアップグレードする手順については、『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) を参照してください。
3. 互換性のないバージョンのコンポーネントが見つかったと、そのようなコンポーネントをホストから削除するかどうかを確認されます。互換性のないコンポーネントをインストーラで削除するには、**yes** と入力して **Return** キーを押します。コンポーネントを手動で削除するには、そのまま **Return** キーを押してデフォルトの **no** を選択します。

警告 デフォルトの **no** を選択する場合、インストールを続ける前にコンポーネントを削除する必要があります。

▶ 共有コンポーネントをアップグレードするには

依存性検査の実行後、インストーラはすでにインストールされている共有コンポーネントの互換性チェックを行います。互換性のないバージョンの共有コンポーネントが検出された場合、インストーラは「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」レポートを表示し、互換性のない共有コンポーネントを示します。このリストを確認し、表示された共有コンポーネントをインストーラが自動的にアップグレードしても安全かどうかを判断します。表示された共有コンポーネントをインストーラが自動的にアップグレードできるようにするには、**Return** キーを押します。このアップグレードは、「インストールの準備が完了しています」ページに進むまでは実行されません。

Solaris: 互換性のないシステム全体バージョンの J2SE SDK が検出された場合、「J2SE SDK のアップデートが必要です」ページが表示されます。**Linux** プラットフォームには、J2SE SDK のシステム全体の特定制インストールが存在しないため、インストーラによるこのチェックは **Solaris** プラットフォームでのみ行われます。

警告 JES 以外のアプリケーションについては、ホストに存在する依存関係を確認せずに共有コンポーネントをアップグレードしないでください。必要となる共有コンポーネントのバージョンと、これらの既存のアプリケーションとの間に互換性があるかどうかを最初に確認する必要があります。

アップグレードの詳細については、『Java Enterprise System アップグレードと移行』(<http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja>) を参照してください。

▶ **インストールディレクトリを指定し、システムチェックを開始するには**

選択された各コンポーネントについて、デフォルトのインストールディレクトリが表示されます。この場所をそのまま使用するか、これから行う配備に応じてデフォルトの場所を変更します。インストールするものとして選択されたすべてのコンポーネントについて、この手順を繰り返す必要があります。

選択されたコンポーネントのインストールディレクトリの選択が完了すると、インストーラは自動的にシステムチェックを行います。インストーラは、ディスク容量、メモリ、オペレーティングシステムのパッチ、およびオペレーティングシステムリソースをチェックします。必要なオペレーティングシステムパッチがインストールされていない場合、次の手順に従います。

1. インストーラを終了します。
2. SunSolve サイト (<http://sunsolve.sun.com>) を表示し、「Patch Portal」をクリックします。
3. 「PatchFinder」テキストボックスにパッチ番号を入力し、「Find Patch」をクリックします。
4. 必要なパッチをダウンロードします。
「Selection」ボックスにデフォルトのダウンロード先が表示されます。
5. システム上で、パッチファイルを展開します。たとえば、次のように入力します。
`unzip 112785-44.zip`
パッチファイルのディレクトリが作成されます。
6. パッチを適用します。たとえば、次のように入力します。
`patchadd 117885-44`
7. インストーラを再起動します。

▶ **設定の種類を選択するには**

次のオプションから設定の種類を指定します。

- **今すぐ設定**：インストール時に設定可能なコンポーネントを設定できます。

「今すぐ設定」の作業には、共通サーバー設定や、選択したコンポーネント製品の設定情報の指定が含まれます。

注 一部のコンポーネントは、「今すぐ設定」設定オプションでのインストール時に設定できません。それらのコンポーネントをインストール後に設定する必要があるという警告が表示された場合、「次へ」をクリックし、設定の詳細について [280 ページの「あとで設定」オプション：手順](#) で確認します。

- **あとで設定**：パッケージのインストールに必要な最小限の値だけを入力します。
インストーラは、詳細設定を行わずに処理を先に進めます。このオプションを選択する場合、[257 ページの「インストールの準備が完了していることを確認するには」](#)に進みます。

▶ **設定データを指定するには**

「今すぐ設定」設定オプションでのインストールの場合、インストール時の設定が可能なコンポーネントについて、設定情報の入力を求められます。パスワードを除いて、デフォルト値が表示されます。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。

ヒント 設定パネルの操作中に、インストーラは設定情報を収集します。インストールが完了したあとで、「インストールサマリー」でこの情報を確認できます。

Solaris の場合：/var/sadm/install/logs

Linux の場合：/var/opt/sun/install/logs

1. 共通サーバー設定を指定します。
デフォルト値をそのまま使用するか、または別のデータを使用して、これらのグローバルフィールドに関するインストーラの質問に答えます。これらのフィールドの詳細については、[121 ページの「共通サーバー設定」](#)を参照してください。
2. コンポーネントの設定を指定します。
デフォルト値を受け入れるか、またはコンポーネントのワークシートで収集した情報を使用して、各コンポーネントに関するインストーラの質問に答えます。各ページの設定値の詳細については、次を参照してください。
 - [119 ページの第 4 章「設定情報」](#)
各設定ページの設定値について詳しく説明しています。

○ 191 ページの第 5 章「設定用ワークシート」

設定データをすでに収集している場合は、これらのワークシートを参照してください。

3. 選択したコンポーネントおよびサブコンポーネントのリストが表示されます。このリストをよく確認してください。変更する必要がある場合は、変更が必要な質問が表示されるまで、<を入力して Return キーを押します。

ここには共有コンポーネントは表示されませんが、それらはすでに確認されており、必要に応じてインストールされます。

▶ **インストールの準備が完了していることを確認するには**

選択したコンポーネントおよびサブコンポーネントのリストが表示されます。このリストをよく確認してください。変更する必要がある場合は、変更が必要な質問が表示されるまで、<を入力して Return キーを押します。

ここには共有コンポーネントは表示されませんが、それらはすでに確認されており、必要に応じてインストールされます。

▶ **ソフトウェアをインストールするには**

1. インストールを開始するには、Return キーを押してデフォルトの「1」を受け入れます。

インストール処理が開始され、進捗バーにインストールの状況が表示されます。次に例を示します。

```
Java Enterprise System
|-1%-----25%-----50%--
```

注 インストールのサイズと複雑さによっては、インストールに長い時間がかかる場合があります。

インストールが正常に完了すると、「インストールが完了しました」というメッセージが表示されます。

2. インストールログファイルを確認します。このファイルは、Solaris OS では /var/sadm/install/logs、Linux では /var/opt/sun/install/logs の各ディレクトリにあります。
 - [1] **インストールサマリー**: インストールされた各コンポーネントと、指定した設定内容が記録されます。「今すぐ設定」設定オプションを選択した場合、このサマリーファイルにはすべての設定値が記録されます。
 - [2] **インストールログ**: コンポーネントに関するインストーラのログメッセージを示します。

- 別のログファイルに、共有コンポーネントのインストールについての情報が記載されます。
3. インストーラを終了します。

これでインストーラセッションは完了です。インストールされたコンポーネントは、インストール後の作業をすべて完了したあとで開始する必要があります。手順については、[258 ページの「次の手順」](#)を参照してください。

コンポーネントの追加

インストーラを再び実行し、追加のコンポーネントをインストールできます。インストーラは、新しくインストールされたコンポーネントを検出し、ほかのコンポーネントとの依存関係を満たすコンポーネントを使用します。インストールされたコンポーネントは、「コンポーネントの選択」ページで無効になります。

たとえば、今回のインストールで **Access Manager** とそれに必要なコンポーネントをインストールしたとします。そのあとで、**Portal Server** をインストールすることになりました。**Access Manager** に対する **Portal Server** の依存性を満たすために、**Access Manager** の既存のインスタンスが使用されます。**Access Manager** を再インストールするように求められることはありません。

次の手順

インストーラによる **Java ES** のインストールが完了したら、[第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)の説明に従って、最終のインストール作業を行います。インストール時に拡張設定を行なっている場合もありますが、ほとんどのコンポーネントでは追加設定が必要です。

サイレントモードでのインストール

サイレントインストールは、類似した設定を共有している複数のホストに、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) を対話処理なしでインストールする方法です。この章では、サイレントモードを使用して Java ES ソフトウェアをインストールする方法を説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [259 ページの「サイレントインストール処理」](#)
- [260 ページの「状態ファイルの作成」](#)
- [264 ページの「プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成」](#)
- [266 ページの「サイレントモードでのインストーラの実行」](#)
- [268 ページの「次の手順」](#)

サイレントインストール処理

サイレントインストールを実行するには、まずダミーのインストールセッションを実行して、実際のサイレントインストール処理がアクセスする状態ファイルを作成します。このダミーの対話セッションの間、インストーラへの応答がキャプチャされ、名前と値のペアの集合として状態ファイルに記録されます。ソフトウェアはインストールされません (名前と値の各ペアは、インストール処理における 1 つのプロンプトまたはフィールドを表す)。入力として状態ファイルを使用して、多数のホストでインストーラを実行できます。このプロセスにより、企業内の複数のホストに設定を伝達することができます。

次の表は、Java ES のサイレントインストールのイベントの一覧です。左の列には、上位レベルのタスクと、各タスクのサブタスクの一覧を示しています。右の列には各タスクを実行する手順の参照先を示しています。

表 9-1 サイレントインストールのイベント

| 実行するタスク | 情報の参照先 |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1. サイレントインストールを準備する | |
| インストール計画を作成します。 | 第2章「インストールシーケンスの作成」 |
| 非互換性についてシステムを調査します。 | 62 ページの「インストールするコンポーネントの非互換性について」 |
| 2. 状態ファイルを作成する | |
| インストーラを実行して状態ファイルを生成します。 | 261 ページの「状態ファイルの生成」 |
| 編集する前に状態ファイルのコピーを取ります。 | |
| 対象システムに合わせて状態ファイルの値を編集します。 | 261 ページの「状態ファイルの編集」 |
| 3. インストールを実行する | |
| 状態ファイルを指定してインストーラを実行します。 | 266 ページの「サイレントモードでインストーラを実行するには」 |
| インストールを監視します。 | 267 ページの「サイレントインストールの進行状況を監視するには」 |

状態ファイルの作成

状態ファイルを作成するには、インストーラを実行する必要があります。インストーラが生成する状態ファイルを使用することで、リアルタイムの依存性チェックとエラーレポートを活用することができます。

警告 状態ファイルは手動で作成しないでください。この方法では、インストール時、設定時、またはサーバーの起動時に問題が発生する可能性があります。

状態ファイルの生成

状態ファイルは、ソフトウェアをインストールすることなくインストーラを実行することによって作成されます。インストーラのページを進む過程で、回答がキャプチャされ、状態ファイルが生成されます。インストールが完了すると、指定された場所にある状態ファイルが利用可能になります。状態ファイルは、グラフィカルインタフェースインストーラまたはテキストベースインタフェースインストーラのどちらかを実行することによって生成できます。ソフトウェアがインストールされないように、`-no` オプションを使用します。

グラフィカルインタフェースを使用して状態ファイルを作成するには、次のようにします。

```
./installer -no -saveState statefile_name
```

テキストベースのインタフェースを使用して状態ファイルを作成するには、次のようにします。

```
./installer -no -nodisplay -saveState statefile_name
```

インストーラコマンドの完全な構文については、[399 ページ](#)の「インストーラコマンド」を参照してください。詳細なインストール手順については、[第7章「グラフィカルインタフェースによるインストール」](#)または[第8章「テキストベースのインタフェースによるインストール」](#)を参照してください。

生成された状態ファイルの例については、[403 ページ](#)の付録 E 「状態ファイルの例」を参照してください。

状態ファイルの編集

状態ファイルを作成したら、さまざまなインストール先ホストに対してローカルパラメータが正しく設定されることを保証するために、生成された状態ファイルを編集する必要があります。これらのパラメータには、ホスト名、ドメイン名、IP アドレスなどの設定が含まれます。状態ファイルの作成元と異なるプラットフォームへのインストールを計画している場合、状態ファイルのキーの変更が必要になる場合があります。

この節で説明する内容は、次のとおりです。

- [261 ページ](#)の「状態ファイルの編集のガイドライン」
- [262 ページ](#)の「ローカルパラメータの編集」
- [264 ページ](#)の「プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成」

状態ファイルの編集のガイドライン

状態ファイルを編集するときは、ここで示すガイドラインに従ってください。

- 値を編集する以外は、パラメータを変更しないでください。

- 値が指定されていない場合でも、パラメータを削除しないでください。
- パラメータを追加しないでください。
- パラメータの順序を変更しないでください。
- 元のタイプと形式に注意し、新しい値を入力するときはそれに従ってください。次に例を示します。
 - 古い値がホスト名の場合、ドメインの完全修飾名ではなく、ホスト名を入力します。
 - 古い値の先頭にスラッシュ (/) が付いている場合、新しい値の先頭にも必ずスラッシュを付けます。
- 削除する値の代わりに、ほかの値を入力します。パラメータが必須の場合、そのパラメータが削除されているとインストールまたは設定に失敗する可能性があります。
- 元の値の大文字 / 小文字の区別を維持します。

ローカルパラメータの編集

次の表は、インストールするコンポーネントに応じて編集の必要があるパラメータを示しています。また、編集が必要となるパラメータは、ホストの設定によっても異なります。たとえば、状態ファイルを生成したホストが、インストール先のホストと同じドメインに含まれるか、などの条件が影響します。

表 9-2 編集する状態ファイルのパラメータ

| コンポーネント | パラメータ名 |
|------------------|--|
| 共通サーバー設定 | CMN_HOST_NAME |
| | CMN_DOMAIN_NAME |
| | CMN_IPADDRESS |
| Access Manager | IS_WS_HOST_NAME |
| | IS_WS_INSTANCE_DIR (Web Server が Web コンテナの場合) |
| | CONSOLE_HOST |
| | IS_SERVER_HOST |
| | IS_DS_HOST |
| | IS_DS_HOSTNAME |
| | COOKIE_DOMAIN_LIST |
| 管理サーバー | ADMINSERV_DOMAIN |
| | ADMINSERV_CONFIG_DIR_HOST |
| Directory Server | DS_SERVER_IDENTIFIER |
| | CONFIG_DIR_HOST (USE_EXISTING_CONFIG_DIR が 1 に設定されている場合) |
| | USER_DIR_HOST (USE_EXISTING_USER_DIR が 1 に設定されている場合) |
| Portal Server | PS_LOAD_BALANCER_URL |
| | PS_DEPLOY_HOST |

表 9-2 編集する状態ファイルのパラメータ (続き)

| コンポーネント | パラメータ名 |
|-----------------------------------|-------------------|
| Portal ServerSecure Remote Access | SRA_SERVER_DOMAIN |
| | SRA_SERVER_HOST |
| | SRA_GW_HOSTNAME |
| | SRA_GW_DOMAIN |
| | SRA_GW_IPADDRESS |
| | SRA_NLP_HOSTNAME |
| | SRA_NLP_DOMAIN |
| | SRA_NLP_IPADDRESS |
| | SRA_RWP_HOSTNAME |
| | SRA_RWP_DOMAIN |
| | SRA_RWP_IPADDRESS |
| Web Server | WS_ADMIN_HOST |

各パラメータの詳細については、第 4 章「設定情報」を参照してください。

プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成

状態ファイルは、状態ファイルが生成されたホストとプラットフォームの種類が同じであるホストでのみ実行できます。プラットフォームが異なる場合、状態ファイル ID を手動で編集する必要があります。各種の Java ES プラットフォーム別にタイプの異なる状態ファイル ID が存在します。

次の各手順は、ファイルの作成元と異なるプラットフォームで実行するために状態ファイルを編集する方法を説明したものです。

- 「インストーラを使用して状態ファイル ID を生成するには」
- 265 ページの「プラットフォーム固有の配布ファイルを使用して状態ファイル ID を生成するには」

▶ インストーラを使用して状態ファイル ID を生成するには

この手順では、サイレントインストールを実行するプラットフォームでインストーラを実行することによって、状態ファイル ID を生成します。

注 次のコマンドは、コマンドを実行しているのと同じプラットフォームに対する ID を生成する場合にのみ正しく機能します。

1. root としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
2. インストーラが格納されているディレクトリに移動します。
`cd installer-dir`
3. `-id` オプションを指定してインストーラを実行します。
`./installer -id`

このコマンドにより、暗号化された ID が生成されます。

4. ID をコピーし、`STATE_BEGIN` パラメータおよび `STATE_DONE` パラメータの値として状態ファイルに貼り付けます。

次に、状態ファイル内の状態ファイル ID の例を示します。

```
[STATE_BEGIN Sun Java(tm) Enterprise System
f31c7e86a64605bc5b9b629931a30b275a0eb447]
.
.
.
[STATE_DONE Sun Java(tm) Enterprise System
f31c7e86a64605bc5b9b629931a30b275a0eb447]
```

▶ **プラットフォーム固有の配布ファイルを使用して状態ファイル ID を生成するには**

この手順では、プラットフォームに固有の Java ES の配布ファイルを使用して状態ファイル ID を生成します。Java ES の配布用 DVD には、プラットフォーム別のすべての配布ファイルが含まれています。この手順は、1 つのプラットフォーム専用のファイルをダウンロードする場合にも有効です。

注 次のコマンドは、コマンドを実行しているプラットフォームとは異なるプラットフォームに対する ID を生成する場合にも機能します。

`platform/.install` ディレクトリで、次のコマンドを実行します。

```
java -classpath . -D"wizard.idInfo" class
```

`platform` と `class` に指定する値を次の表に示します。

表 9-3 プラットフォーム別の状態ファイル ID

| プラットフォーム | <i>platform</i> 変数 | <i>class</i> 変数 |
|------------------|--------------------|---------------------------------|
| Solaris 8 SPARC | Solaris_sparc | EntsysInstall_SunOS_sparc_8 |
| Solaris 9 SPARC | Solaris_sparc | EntsysInstall_SunOS_sparc_9 |
| Solaris 10 SPARC | Solaris_sparc | EntsysInstall_SunOS_sparc_10 |
| Solaris 9 x86 | Solaris_x86 | EntsysInstall_SunOS_x86_9 |
| Solaris 10 x86 | Solaris_x86 | EntsysInstall_SunOS_x86_10 |
| Linux x86 | Linux_x86 | EntsysInstall_Linux_x86_generic |

このコマンドにより、暗号化された ID が生成されます。

5. ID をコピーし、STATE_BEGIN パラメータおよび STATE_DONE パラメータの値として状態ファイルに貼り付けます。

次に、状態ファイル内の状態ファイル ID の例を示します。

```
[STATE_BEGIN Sun Java(tm) Enterprise System
f31c7e86a64605bc5b9b629931a30b275a0eb447]
.
.
.
[STATE_DONE Sun Java(tm) Enterprise System
f31c7e86a64605bc5b9b629931a30b275a0eb447]
```

サイレントモードでのインストーラの実行

状態ファイルを生成したホストと同じオペレーティングシステムがインストールされているホストで、インストーラを実行します。実行できない場合は、[264 ページの「プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成」](#)を参照してください。

インストール中に問題が発生した場合は、[357 ページの第 13 章「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

▶ サイレントモードでインストーラを実行するには

1. Java ES のコンポーネントをインストールするホストで端末ウィンドウを開きます。
2. root としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
3. インストールプログラムが格納されているディレクトリに移動します。

```
cd installer-directory
```

4. 次のオプションを指定してインストーラを起動します。

```
./installer -nodisplay -noconsole -state statefile
```

各オプションの意味は次のとおりです。

| | |
|-------------------------|--|
| <code>-nodisplay</code> | グラフィカル表示を抑制します。 |
| <code>-noconsole</code> | ユーザーインタフェースを抑制し、インストーラをサイレントモードで起動します。 |
| <code>-state</code> | 指定された状態ファイルをサイレントインストールの入力として使用します。 |
| <code>statefile</code> | 状態ファイルへの絶対または相対パス名を指定します。 |

インストールしようとしているコンポーネントの数とタイプによっては、時間がかかる場合があります。インストーラの実行中、インストールログの変化に注意することによって、進行状況を監視することができます。

▶ サイレントインストールの進行状況を監視するには

1. 端末ウィンドウで、ログファイルのディレクトリに移動します。

Solaris の場合 :

```
cd /var/sadm/install/logs
```

Linux の場合 :

```
cd /var/opt/sun/install/logs
```

2. 現在のインストールのログファイルを探します。

最初に共有コンポーネントがインストールされ、次にコンポーネント製品がインストールされます。ログファイルには、次の形式の名前が付いています。

```
Java_Enterprise_System_Shared_Component_Install.datetimestamp  
Java_Enterprise_System_install.Bdatetimestamp
```

timestamp 変数は、ログの作成時刻を表します。変数の形式は *MMddhhmm* です。各要素の意味は次のとおりです。

| | |
|-----------|-------|
| <i>MM</i> | 月を示す |
| <i>dd</i> | 日付を示す |
| <i>hh</i> | 時間を示す |
| <i>mm</i> | 分を示す |

次の手順

3. `tail` コマンドを使用して、ログに書き込まれるメッセージを監視します。次の形式で実行します。

```
tail -f log-file-name
```

`tail` プログラムを終了するには、`Ctrl+C` キーを押します。

次の手順

インストーラによる Java ES のインストールが完了したら、[第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)の説明に従って、最終のインストール作業を行います。インストール時に拡張設定を行なっている場合もありますが、ほとんどのコンポーネントでは追加設定が必要です。

インストール後のコンポーネントの設定

Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラによるインストールが完了したあとで、ほとんどのコンポーネントについて、Java ES 環境を稼働させる前に追加の設定を行う必要があります。設定の内容は、選択した設定の種類（「今すぐ設定」または「あとで設定」設定オプション）、またはコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアを使用して設定するかどうかによって異なります。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [269 ページの「前提条件」](#)
- [272 ページの「Sun Cluster のインストール後の設定の概要」](#)
- [273 ページの「Sun Cluster フレームワークの設定」](#)
- [274 ページの「「今すぐ設定」 オプション: 手順」](#)
- [280 ページの「「あとで設定」 オプション: 手順」](#)
- [295 ページの「Sun Cluster データサービスの設定」](#)
- [299 ページの「ルート以外の ID によるコンポーネントの設定」](#)
- [302 ページの「次の手順」](#)

前提条件

インストール後の設定を開始する前に、この章の手順を通読してください。使用するコンポーネントに対して追加の設定が必要ない場合は、[第 11 章「コンポーネントの起動と停止」](#)に進み、コンポーネントが動作することを確認します。

注 Java ES コンポーネントのデフォルトのインストール場所は、Solaris オペレーティングシステムと Linux プラットフォームでは異なります。そのため、この章の説明では、これらの場所を表す変数を使用します。たとえば、*ApplicationServer-base* は、それぞれのプラットフォームで *Application Server* がインストールされるディレクトリを表します。

パッケージのインストールの確認

この章の説明に従って作業する前に、Java ES コンポーネントのインストールを完了しておく必要があります。コンポーネントパッケージがインストールされていることは、`pkginfo` コマンドまたは `rpm` コマンドを使用して確認できます。コンポーネントに関連するパッケージのリストについては、付録 F 「インストール可能なパッケージの一覧」を参照してください。

MANPATH の設定

インストール後、Java ES コンポーネントのマニュアルページはデフォルトのディレクトリに配置されています。この場所を `MANPATH` 環境変数に追加する必要があります。

次の表は、Java ES コンポーネントのマニュアルページのデフォルトの場所を示します。一覧中にコンポーネントがない場合、そのコンポーネントにはマニュアルページがありません。

表 10-1 マニュアルページのデフォルトの場所

| コンポーネント | マニュアルページの場所 |
|------------------------|--|
| 管理サーバー | Solaris: /opt/SUNWasvmn/man Linux: /opt/sun/man |
| Application Server | Solaris: /opt/SUNWappserver/share/man Linux: /opt/sun/appserver/share/man |
| Common Agent Container | Solaris: /opt/SUNWcacao/man Linux: /opt/sun/man |
| Directory Server | Solaris: /opt/SUNWdsvmn/man Linux: /opt/sun/man |
| Sun Cluster | Solaris: /usr/cluster/man/ |

▶ MANPATH 変数を更新するには

次の手順例は、UNIX 環境で C shell を使用して、Application Server のマニュアルページを確実に参照できるようにする方法を示しています。

1. Java ES コンポーネントのマニュアルページの場所を、MANPATH 環境変数に追加します。

- Solaris OS では、次のコマンド例は現在のセッションを対象に MANPATH 環境変数を設定します。

```
setenv MANPATH {$MANPATH}:/usr/dt/man:/usr/man:/opt/SUNWappserver/share/man
```

ログインするたびに適用されるようにこの環境変数を設定するには、setenv コマンドの内容を、.login または .cshrc ファイルに追加します。

- Linux では、必要な MANPATH を指定して /etc/man.config ファイルを更新します。たとえば、/etc/man.config ファイルに次の行を追加します。

```
MANPATH /opt/sun/man
```

これで、新しいマニュアルページが、パスに関係なく常に参照できるようになります。

注

Linux 環境で、各ユーザーのシェル別に MANPATH を設定する場合、Solaris の場合の手順を使用します。これにより、ユーザーの個人設定を、/etc/man.config ファイルの設定よりも優先させることができます。

2. マニュアルページにアクセスできることを確認します。たとえば、次のコマンドによって、Application Server の asadmin のマニュアルページが表示されます。

```
man asadmin
```

Sun Cluster のインストール後の設定の概要

Sun Cluster ソフトウェアは、データベース、アプリケーションサーバー、Web サーバーなどのアプリケーションを管理するための高可用性プラットフォームを提供します。Sun Cluster ソフトウェアは、次の Java ES コンポーネントを管理するために使用できます。

- 管理サーバー
- Calendar Server
- Directory Server
- Messaging Server
- Message Queue (インストール後の設定は不要)
- Web Server

インストールした Java ES コンポーネントが Sun Cluster 環境に組み込まれる予定の場合、コンポーネントを設定する前に、Sun Cluster フレームワークを設定する必要があります。さらに、インストールしたコンポーネントによっては、コンポーネント自体を設定したあとで、Sun Cluster データサービスの設定 (Sun Cluster エージェントの設定を含む) が必要な場合があります。

注 Sun Cluster データサービスを設定するには、関連する Sun Cluster エージェントをインストール時に選択している必要があります。Sun Cluster のインストール順序の例については、[91 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの例」](#)を参照してください。

Sun Cluster フレームワークを Java ES 環境に組み込むときは、インストール後の設定作業を次の順序で実行することをお勧めします。

1. [273 ページの「Sun Cluster フレームワークの設定」](#)
2. インストールの種類に応じて、次のどちらかを選択します。
 - [274 ページの「「今すぐ設定」オプション:手順」](#)
 - [280 ページの「「あとで設定」オプション:手順」](#)
3. [295 ページの「Sun Cluster データサービスの設定」](#)

Sun Cluster フレームワークの設定

Java ES インストーラは、コアの Sun Cluster パッケージの単純な pkgadd インストールを実行し、/usr/cluster/bin ディレクトリを設定します。インストール時に設定は行われないため、インストール後の最初の作業で、クラスタフレームワークを設定する必要があります。

注 Sun Cluster の手順の中で、JDK、Common Agent Container、または Sun Java Web コンソールソフトウェアを手動でインストールする指示は無視します。これらの製品は Java ES 共有コンポーネントであり、Java ES インストーラによって自動的にインストールされます。

▶ Sun Cluster フレームワークを設定するには

『Sun Cluster Software Installation Guide for Solaris OS』

(<http://docs.sun.com/doc/817-6543>) に記載されている手順に従って、クラスタフレームワークを設定します。

次のいずれかに当てはまる場合があります。

- 「How to Configure Sun Cluster Software on All Nodes (scinstall)」の節で、scinstall プログラムを実行するように指示があるときは、/usr/cluster/bin/にあるコピーを使用します。
- 「Solaris および Sun Cluster ソフトウェアをインストールする方法 (JumpStart)」の節で、フラッシュアーカイブを作成する対象のホスト上で Sun Cluster ソフトウェアをインストールするには、Java ES インストーラを使用します。この説明中の手順 6b ~ 6e で、Sun Java Web コンソールソフトウェアを手動でインストールするように指示がありますが、その指示は無視します。また、手順 9 ~ 11 の、JumpStart インストールサーバー上に Sun Cluster ソフトウェアをインストールするという指示も無視します。
- オプションの Sun Cluster パッケージを手動でインストールするには、Sun Cluster の指示の Sun Cluster 3.1 9/04 CD-ROM の代わりに、2 枚組の Java ES CD-ROM の 2 枚目を使用します。

注 この段階で、scinstall ユーティリティによって Sun Cluster パッケージが検証されます。パッケージが見つからない場合、エラーメッセージが表示されます。このエラーが表示される場合は、正しい Sun Cluster パッケージがインストールされていることを確認する必要があります。269 ページの「前提条件」を参照してください。

「今すぐ設定」オプション：手順

インストールの間に「今すぐ設定」オプションを選択した場合、インストールセッションの間に、設定値を指定するように求められます。インストール時に設定される一部のコンポーネントについては、次の各節での説明に従って追加の設定が必要な場合があります。

- [274 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定](#)
- [277 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定](#)
- [278 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定](#)
- [278 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定](#)

インストールの間に設定された値を記録したサマリーレポートは、次の場所から参照できます。

Solaris の場合：`/var/sadm/install/logs`

Linux の場合：`/var/opt/sun/install/logs`

「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定

Java ES インストーラを実行した直後に Access Manager を起動して Access Manager コンソールにログインすることはできますが、設定の最後の手順を完了するまで、基本的なユーザー管理操作を実行することはできません。これらの手順は、すでにユーザーデータがプロビジョニングされた Directory Server インスタンスを Access Manager が使用するかどうかによって異なります。

注 すべての Access Manager のインストールに関して、Web コンテナを再起動する必要があります。Web Server または Application Server 上で完全インストールを実行している場合、インストーラは Web コンテナインスタンスを停止するので、インスタンスの起動だけが必要です。Access Manager の再起動の手順については、[306 ページの「Access Manager の起動と停止」](#)を参照してください。

次に、次のような状況でどのような処理が必要になるかについて説明します。

- 「[Directory Server にすでにユーザーデータがプロビジョニングされている場合](#)」

- 「Directory Server にまだユーザーデータがプロビジョニングされていない場合」

Directory Server にすでにユーザーデータがプロビジョニングされている場合

Directory Server にすでにユーザーデータがプロビジョニングされている場合、設定の最後の手順については、『Sun Java System Access Manager Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-7645>)の「Configuring Access Manager with a Provisioned Directory Server」を参照してください。

Directory Server にまだユーザーデータがプロビジョニングされていない場合

Directory Server にまだユーザーデータがプロビジョニングされていない場合は、次の各節の手順を実行します。

- 275 ページの「Directory Server 参照整合性検査プラグインの有効化」
- 276 ページの「Directory Server への Access Manager インデックスの追加」

警告 ここで説明する作業を実行する前に、Directory Server が設定され、動作している必要があります。Directory Server の動作を確認する方法については、313 ページの「Directory Server の起動と停止」を参照してください。

Directory Server 参照整合性検査プラグインの有効化

Directory Server 参照整合性検査プラグインが有効になっている場合、削除または名前変更の操作を実行した直後に、指定された属性の整合性が更新されます。これにより、関連するエン트리間の関係がデータベース全体で維持されます。

▶ 参照整合性検査プラグインの有効化

1. Directory Server コンソールで、「設定」をクリックします。
2. ナビゲーションツリーで「プラグイン」をダブルクリックし、プラグインのリストを展開します。
3. 「プラグイン」リストで、「Referential integrity postoperation」をクリックします。
4. プロパティの領域で、「プラグインを有効に」ボックスを選択します。
5. 「保存」をクリックします。
6. Directory Server を再起動して、プラグインを有効にします。

Directory Server への Access Manager インデックスの追加

データベースのインデックスによって、Directory Server での検索パフォーマンスが向上します。

▶ Directory Server に Access Manager インデックスを追加するには

1. Directory Server コンソールで、「設定」をクリックします。
2. nsroledn インデックスを追加します。
 - a. ナビゲーションツリーで「データ」アイコンをダブルクリックし、Access Manager で使用するディレクトリエントリが含まれるルートサフィックスをクリックします。
 - b. 「インデックス」タブをクリックします。
 - c. 「追加インデックス」の下で、nsroledn 属性の「等価」、「実在」、および「部分文字列」の各チェックボックスを選択します。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成が正常に完了したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
3. memberof インデックスを追加します。
 - a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の追加」ウィンドウで、属性 memberof を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、memberof 属性の「等価」および「実在」チェックボックスを選択します。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成が正常に完了したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
4. iplanet-am-static-group インデックスを追加します。
 - a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の追加」ウィンドウで、属性 iplanet-am-static-group を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、iplanet-am-static-group 属性の「等価」チェックボックスを選択します。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成が正常に完了したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

5. `iplanet-am-modifiable-by` インデックスを追加します。
 - a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の追加」ウィンドウで、属性 `iplanet-am-modifiable-by` を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、`iplanet-am-modifiable-by` 属性の「等価」チェックボックスを選択します。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成が正常に完了したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
6. `iplanet-am-user-federation-info-key` インデックスを追加します。
 - a. 「インデックス」タブで、「属性の追加 ...」をクリックします。
 - b. 「属性の追加」ウィンドウで、属性 `iplanet-am-user-federation-info-key` を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、`iplanet-am-user-federation-info-key` 属性の「等価」チェックボックスを選択します。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成が正常に完了したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
7. Directory Server を再起動します。

「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定

ロードバランス用に Application Server を使用する予定の場合を除き、Application Server については、「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の設定作業は必要ありません。

注 ロードバランス用に Application Server を設定する方法については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition High Availability Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0216>) の「Application Server High Availability Features」の章の「Configuring Web Servers for HTTP Load Balancing」を参照してください。

「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定

Message Queue については、「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の設定作業は必要ありません。ただし、Message Queue の自動起動の設定は、共通のオプションタスクです。これを行うには、スーパーユーザーになり、`imqbrokerd.conf` 設定ファイル (Solaris では `/etc/imq`、Linux では `/etc/opt/sun/mq` にある) の次のプロパティを編集します。

- **AUTOSTART:** 起動時にブローカを自動起動するかどうか (YES または NO) を指定します。デフォルト値は NO です。
- **ARGS:** ブローカ起動コマンドに渡すコマンド行オプションと引数を指定します。`imqbrokerd` コマンドラインオプションの一覧と説明については、『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-2217?l=ja>) を参照してください。(例: `-name instanceName`)。
- **RESTART:** 起動されたブローカに異常がある場合に自動再起動するかどうか (YES または NO) を指定します。デフォルト値は YES です。

Message Queue の追加設定については、『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-2217?l=ja>) を参照してください。たとえば、デフォルトの管理パスワードを変更することができます。

必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアで使用するように設定します。[297 ページの「Message Queue データサービス」](#)を参照してください。

「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定

Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の最後の設定手順は、それらが Sun の Web コンテナにインストールされるのか、それともサードパーティ製の Web コンテナにインストールされるのかによって異なります。以降の各節で、詳細を説明します。

- 「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」
- 「サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」

Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定

Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の Web コンテナとして Application Server または Web Server を使用している場合は、そのインスタンスに変更を適用する必要があります。それぞれ、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1198?l=ja>) および『Sun Java System Portal Server リリースノート』(<http://docs.sun.com/doc/819-1494?l=ja>) の手順に従ってください。

サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定

Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の Web コンテナとして BEA WebLogic Server または IBM WebSphere Application Server を使用している場合は、次の手順を実行します。

注 サードパーティ製 Web コンテナへの Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の配備は、Solaris オペレーティングシステムでのみサポートされています。

1. 管理インスタンスも含め、すべての Web コンテナインスタンスを停止し、BEA WebLogic Server では管理対象のサーバーインスタンスも停止します。
2. Web コンテナの管理サーバーインスタンスを起動します。BEA WebLogic Server の管理対象インスタンスにインストールした場合は、管理対象インスタンスも起動します。
3. 配備コマンドを実行して Portal Server および Portal Server Secure Remote Access を配備します。

```
cd PortalServer-base/bin
./deploy
```

プロンプトが表示されたら、配備 URI のデフォルト値とサーバーインスタンス名を選択し、Web コンテナの管理パスワードを入力します。

4. サンプルポートレット (portletsamples.war ファイル) を配備します。

```
setenv DEPLOY_ADMIN_PASSWORD web-container-admin-password
setenv IDSAME_ADMIN_PASSWORD AccessManager-admin-password
cd PortalServer-base/lib
./postinstall_PortletSamples
```

プロンプトが表示されたら、Web コンテナの管理パスワードと Access Manager の管理パスワードを入力します。

5. Portal Server および Portal Server Secure Remote Access を配備した Web コンテナインスタンスを再起動します。

Web コンテナインスタンスの起動方法については、Web コンテナのドキュメントを参照してください。詳しい情報はそれぞれ、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1198?l=ja>) および『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 リリースノート』(<http://docs.sun.com/doc/819-1494?l=ja>) に記載されています。

注 BEA WebLogic Server の管理対象サーバーへのインストールでは、WAR ファイルは配備されません。BEA WebLogic Server の管理コンソールから WAR ファイルを配備してください。

「あとで設定」オプション：手順

インストール時に「あとで設定」設定オプションを選択した場合は、インストーラによって、コンポーネントパッケージファイルがパッケージ別のディレクトリに配置されます。パラメータの設定は行われておらず、実行時サービスを利用できないため、ほとんどのコンポーネントはそのままでは機能しません。

「あとで設定」設定オプションを選択した場合のインストールを完了するために、多くのコンポーネントには設定ツールが用意されています。設定ツールを実行するとき、本書および各コンポーネントのマニュアルに記載されている手順に従ってさらに変更を加えることもできます。必要な設定の一部または全部を完了したあとで、[303 ページの第 11 章「コンポーネントの起動と停止」](#)に進んで、インストールが正しく行われたことを確認します。

以降の各節では、「あとで設定」オプションを使用した場合のインストール後設定に関する情報を示しています。

- [281 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定」](#)
- [282 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の管理サーバーの設定」](#)
- [283 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定」](#)
- [285 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Calendar Server の設定」](#)
- [286 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Communications Express の設定」](#)

- 287 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Proxy Server の設定」
- 288 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定」
- 289 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の HADB の設定」
- 290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Instant Messaging の設定」
- 290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定」
- 290 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定」
- 292 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定」
- 294 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Cluster の設定」
- 294 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Cluster エージェントの設定」
- 294 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Remote Services Net Connect の設定」
- 295 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Access Manager の設定

「あとで設定」設定オプションでのインストールが完了すると、パッケージがインストールされ、Access Manager 設定スクリプト (*AccessManager-base/bin/amconfig*) を使用して Access Manager を設定できるようになります。このプログラムの使用方法については、『Sun Java System Access Manager 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1938?l=ja>) を参照してください。このガイドには、サードパーティ製 Web コンテナ (BEA WebLogic または IBM WebSphere Application Server) 用に Access Manager を設定するための手順も記載されています。

注 すべての Access Manager のインストールに関して、Web コンテナを再起動する必要があります。Web Server または Application Server 上で完全インストールを実行している場合、インストーラは Web コンテナインスタンスを停止するので、インスタンスの起動だけが必要です。Access Manager の再起動の手順については、[306 ページの「Access Manager の起動と停止」](#)を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の管理サーバーの設定

「あとで設定」設定オプションでのインストールが完了すると、パッケージがインストールされ、管理サーバーの設定を開始できるようになります。設定の詳細については、『Sun Java System Administration Server Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-7612>)を参照してください。

注 管理サーバーを設定する前に、Directory Server の設定を完了しておく必要があります。

▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に管理サーバーを設定するには

1. 設定ユーティリティを起動します。Solaris の場合の例を次に示します。

```
/usr/sbin/mpsadmserver configure
```

各画面に表示される指示に従います。

2. *server-root/alias* の下にあるファイルへのアクセス権が、インストールされるサーバー以外のすべてのユーザーアカウントによるアクセスが禁止されるように設定されていることを確認します。
3. [145 ページの「管理サーバーの設定情報」](#)の表で説明されている、共通サーバー設定および管理サーバーの設定を確認します。必要に応じて、設定を更新します。

注 Access Manager と同じインストールセッションで管理サーバーがインストールされた場合、[手順 3](#)での設定のほとんどはインストールの間に完了しています。

4. 必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアと組み合わせて使用するために管理サーバーを設定します。[296 ページの「管理サーバーデータサービス」](#)を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Application Server の設定

「あとで設定」設定オプションでのインストール後、スクリプトを実行して Application Server を設定する必要があります。次の手順を実行します。

- ▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Application Server を設定するには
 1. Application Server のアクセサリ CD を用意します。
アクセサリの内容は、Sun Download Center (<http://www.sun.com/download/index.jsp>) からダウンロードすることもできます。
 2. CD の Addon フォルダ内の README ファイルを参照し、記載されている手順を実行します。
 3. `common.properties` ファイル内の次のプロパティを修正します。
不明なパスがある場合、`ApplicationServer-base/samples` からパスをコピーすることができます。

表 10-2 Application Server のプロパティ

| Solaris のプロパティ | Linux のプロパティ |
|---|---|
| <code>com.sun.aas.pointbaseRoot=/opt/SUNWappserver/appserver/pointbase</code> | <code>admin.password=admin123</code> |
| <code>com.sun.aas.webServicesLib=/opt/SUNWappserver/appserver/lib</code> | <code>server.cert.alias=s1as</code> |
| <code>com.sun.aas.imqHome=/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/imq</code> | <code>keystore=\${com.sun.aas.domains.dir}/\${domain.name}/config/keystore.jks</code> |
| <code>com.sun.aas.imqBinDir=/usr/bin</code> | <code>domain.name=domain1</code> |
| <code>com.sun.aas.imqUserMgr=/usr/bin/imqusermgr</code> | <code>com.sun.aas.imqHome=/var/opt/sun/appserver/domains/domain1/imq</code> |
| <code>com.sun.aas.imqLib=/usr/share/lib</code> | <code>com.sun.aas.imqUserMgr=/opt/sun/mq/bin/imqusermgr</code> |
| <code>com.sun.aas.installRoot=/opt/SUNWappserver/appserver</code> | <code>com.sun.aas.domains.dir=/var/opt/sun/appserver/domains</code> |
| <code>com.sun.aas.javaRoot=/usr/jdk/entsys-j2se</code> | <code>admin.user=admin</code> |
| <code>com.sun.aas.domains.dir=/var/opt/SUNWappserver/domains</code> | <code>appserver.instance=server</code> |

表 10-2 Application Server のプロパティ (続き)

| Solaris のプロパティ | Linux のプロパティ |
|---|---|
| #admin password will not be saved as default.user can enter it and save it manually | com.sun.aas.imqBinDir=/opt/sun/mq/bin |
| #admin.password= | trustStore=\${com.sun.aas.domains.dir}/\${domain.name}/config/cacerts.jks |
| admin.host=jws-v210-4 | com.sun.aas.imqLib=/opt/sun/mq/share/lib |
| appserver.instance=server | keystore.password=changeit |
| appserver.instance.port=8080 | com.sun.aas.pointbaseRoot=/opt/sun/appserver/pointbase |
| admin.user=admin | admin.port=4849 |
| admin.port=4849 | pointbase.port=9092 |
| pointbase.port=9092 | com.sun.aas.webServicesLib=/opt/sun/appserver/lib |
| domain.name=domain1 | admin.host=jws-linuxpc-2 |
| server.cert.alias=s1as | com.sun.aas.javaRoot=/usr/jdk/entsys-j2se |
| keystore=\${com.sun.aas.domains.dir}/\${domain.name}/config/keystore.jks | com.sun.aas.installRoot=/opt/sun/appserver |
| keystore.password=changeit | appserver.instance.port=8080 |
| trustStore=\${com.sun.aas.domains.dir}/\${domain.name}/config/cacerts.jks | |

注 ロードバランス用に Application Server を設定する方法については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition High Availability Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0216>) の「Application Server High Availability Features」の章の「Configuring Web Servers for HTTP Load Balancing」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Calendar Server の設定

「あとで設定」設定オプションでのインストール後、次の手順を実行して Calendar Server を設定します。

▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Calendar Server を設定するには

注 別の通信コンポーネントのインストール中に、同じ Directory Server 上で Directory Preparation Script をすでに実行済みの場合は、[手順 1](#) を省略します。

1. Directory Preparation Script (`comm_dssetup.pl`) を実行することによって、通信サービス (Calendar Server、Messaging Server、および Delegated Administrator) 用に Directory Server を設定します。
 - a. Directory Server が稼働していることを確認します。必要に応じて [313 ページの「Directory Server の起動と停止」](#) を参照してください。
 - b. Directory Server がインストールされているホスト上で、次の Directory Preparation Script を実行します。

```
perl comm_dssetup.pl
```
 - c. スクリプトによって要求されたら、以前のバージョンの Calendar Server、Messaging Server、またはカスタムアプリケーションとの互換性を保持する必要がある場合を除いて、スキーマタイプとして「Schema 2 Native Mode」を選択します。適切な選択についての詳細は、『Sun Java System Communications Services Schema Migration Guide』 (<http://docs.sun.com/doc/819-0112>) を参照してください。
2. `/etc/hosts` ファイルの 2 番目の列の内容が、単純なホスト名ではなく完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。次に例を示します。

```
192.18.99.999 mycomputer.company.com mycompany loghost
```
3. Calendar Server 用にユーザーをプロビジョニングするために Delegated Administrator Utility を使用する予定の場合、このユーティリティを設定するための追加手順を実行する必要があります。ユーティリティの設定およびユーザーのプロビジョニングの手順については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』 (<http://docs.sun.com/doc/819-1101?l=ja>) を参照してください。

警告 この手順は、インストールに Access Manager と LDAP Schema 2 が含まれ、別の通信コンポーネントの設定時にこの手順を実行しなかった場合にのみ考慮します。

4. Calendar Server 設定プログラム (*CalendarServer-base/cal/sbin/csconfigurator.sh*) を実行することによって、Calendar Server を設定します。

Calendar Server の設定の詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja>) を参照してください。

5. 必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアと組み合わせて使用するために Calendar Server を設定します。296 ページの「Calendar Server データサービス」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Communications Express の設定

Communications Express を設定するために、Communications Express 設定プログラムを実行する必要があります。

- ▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Communications Express を設定するには

注 別の通信コンポーネントのインストール中に、同じ Directory Server 上で Directory Preparation Script をすでに実行済みの場合は、[手順 1](#) を省略します。

1. Directory Preparation Script (*comm_dssetup.p1*) を実行することによって、通信サービス (Calendar Server、Messaging Server、および Delegated Administrator) 用に Directory Server を設定します。

スクリプトの実行手順については、285 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Calendar Server を設定するには」を参照してください。

ヒント [手順 2](#) に進む前に、Communications Express が依存するコンポーネントが正常に稼働していることを確認します。詳細については、『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1065?l=ja>) の「Communications Express の設定の前提条件」を参照してください。

2. **Communications Express 設定プログラム**
(*CommunicationsExpress-base/sbin/config-uw*) を使用して、設定を完了します。設定手順については、『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1065?l=ja>) の「Communications Express のインストールおよび設定」の章を参照してください。
3. **Communications Express** については、追加のインストール後設定手順を完了する必要があります。『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1065?l=ja>) の「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Proxy Server の設定

「あとで設定」設定オプションでのインストールが完了すると、パッケージがインストールされ、Directory Proxy Server の設定作業を実行できるようになります。

▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Directory Proxy Server を設定するには

1. *quickstart.tcl* スクリプトを使用して Directory Proxy Server インスタンスを設定します。次に例を示します。

```
# cd /usr/sadm/mps/admin/v5.2/dps
# /usr/sadm/mps/admin/v5.2/bin/tcl8.2/tclsh quickstart.tcl -cid cid_path
-iisten port number -password password -serverroot serverroot_path -userID dn
```

次の表は、*quickstart.tcl* スクリプトの引数について説明しています。

表 10-3 *quickstart.tcl* スクリプトの引数

| 引数 | 説明 |
|-------------|--|
| -cid | 完全修飾パス。次のディレクトリの存在をスクリプトが確認することを許可します。 <i>cid_path/bin/dps/install/script</i> |
| -serverroot | インストールおよび設定が完了している管理サーバーへの完全修飾パス。スクリプトは、次のファイルの存在を確認します。 <i>serverroot_path/admin-serv/config/adm.conf</i> <i>serverroot_path/admin-serv/config/jvm12.conf</i> |
| -listen | Directory Proxy Server ポート。 |
| -userID | 管理サーバー管理者の識別名 (DN)。 |
| -password | 管理サーバー管理者のパスワード。 |

2. 145 ページの「管理サーバーの設定情報」に記載されている共通のサーバー設定を確認します。
3. Directory Proxy Server の共通サーバー設定を、121 ページの「共通サーバー設定」の説明に従って更新します。
4. 158 ページの「Directory Proxy Server 設定情報」に記載されている設定を確認します。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Directory Server の設定

「あとで設定」設定オプションでのインストールが完了すると、パッケージがインストールされ、Directory Server の設定作業を実行できるようになります。64 ビットモードで稼働している Solaris SPARC プラットフォーム上で Directory Server を 32 ビットモードで実行する場合、インストール後手順の完了後、特別な設定手順に従う必要があります。

▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Directory Server を設定するには

1. 設定ユーティリティを起動します。次に例を示します。

```
directoryserver -u 5.2 configure
```

各画面に表示される指示に従います。

2. システム設定を更新し、コアファイルの生成を有効にします。次に例を示します。

```
coreadm -e proc-setid
```

注 スーパーユーザー以外のユーザーとして Directory Server を実行するようにインストールした場合、Directory Server はクラッシュ時にコアファイルを生成できない可能性があります。コアファイル用の十分な容量を確保し、クラッシュ時に Directory Server がコアファイルを生成できるように設定することが重要です。

3. (省略可能) Perl で記述された多くのコマンド行スクリプトは、バインドパスワードを対話的に読み取ることができます (-w オプション)。この機能を有効にするために、次の手順を実行します。
 - a. CPAN (<http://cpan.org>) から入手できる Term::ReadKey Perl モジュールをインストールします。
 - b. 各 Perl スクリプトを編集し、適切な行のコメントアウト設定を解除することで、バインドパスワードの対話的な読み取りを有効にします。

Term::ReadKey モジュールがなくても、Perl スクリプトのその他すべての機能は使用可能です。

4. 145 ページの「管理サーバーの設定情報」に記載されている共通のサーバーの設定、および 150 ページの「Directory Server 設定情報」の表に記載されている Directory Server の設定を確認します。
必要に応じて、設定を更新します。
5. 必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアと組み合わせて使用するために Directory Server を設定します。297 ページの「Directory Server データサービス」を参照してください。

➤ **64 ビット Solaris SPARC プラットフォームで Directory Server が 32 ビットモードで稼働するように設定するには**

配備計画において、64 ビットモードで稼働する Solaris SPARC プラットフォーム上で Directory Server を 32 ビットモードで実行する必要がある場合、一部の 64 ビットパッケージを削除する必要があります。

1. 「あとで設定」オプションを使用して Directory Server をインストールします。
2. pkgrm コマンドを使用して、次の 64 ビット Directory Server パッケージを削除します。

```
SUNWdsvhx
SUNWdsvx
```

3. /var/sadm/install/productregistry ファイルを編集し、SUNWdsvhx パッケージと SUNWdsvx パッケージへの参照を削除します。
4. Directory Server を設定します。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の HADB の設定

HADB のインストール後設定手順および詳細情報については、『Sun Java System Application Server High Availability Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0216>) を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Instant Messaging の設定

Java ES インストーラを使用して、Instant Messaging を設定することはできません。サーバーをインストールするとき、マルチプレクサもインストールおよび有効化されます。ホスト上で1つのマルチプレクサのみをサポートしたい場合、そのホスト上にインストールされたサーバーを無効にする必要があります。手順については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja>)を参照してください。

Instant Messaging 設定ユーティリティ (*InstantMessaging-base/configure*) の使用方法については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja>)の「インストール後の Instant Messaging の設定」の章を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定

Message Queue コンポーネントについては、追加の設定は不要です。ただし、Message Queue の自動起動の設定は、共通のオプションタスクです。このタスクを実行する手順については、278 ページの「「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Message Queue の設定」を参照してください。必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアで使用するよう設定します。297 ページの「Message Queue データサービス」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Messaging Server の設定

Java ES インストーラを使用して、Messaging Server を設定することはできません。

- ▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Messaging Server を設定するには

注 別の通信コンポーネントのインストール中に、同じ Directory Server 上で Directory Preparation Script をすでに実行済みの場合は、**手順 1** を省略します。

1. Directory Preparation Script (comm_dssetup.pl) を実行することによって、通信サービス (Calendar Server、Messaging Server、および Delegated Administrator) 用に Directory Server を設定します。

スクリプトの実行手順については、285 ページの「「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Calendar Server を設定するには」を参照してください。

2. /etc/hosts ファイルの 2 番目の列の内容が、単純なホスト名ではなく完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。次に例を示します。

```
192.18.99.999 mycomputer.company.com mycompany loghost
```

3. Messaging Server の初期実行時設定プログラム (MessagingServer-base/sbin/configure) を実行することによって、Messaging Server を設定します。

Messaging Server の設定の詳細については、『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1054?l=ja>) を参照してください。

4. Messaging Server 用にユーザーをプロビジョニングするために Delegated Administrator Utility を使用する予定の場合、このユーティリティを設定するための追加手順を実行する必要があります。ユーティリティの設定およびユーザーのプロビジョニングの手順については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1101?l=ja>) を参照してください。

警告

この手順は、インストールに Access Manager と LDAP Schema 2 が含まれ、別の通信コンポーネントの設定時にこの手順を実行しなかった場合にのみ考慮します。

5. 必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアで使用するよう設定します。298 ページの「Messaging Server データサービス」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の設定

Portal Server の最後の設定手順は、Sun の Web コンテナにインストールされるのか、それともサードパーティ製の Web コンテナにインストールされるのかによって異なります。以降の各節で、詳細を説明します。

- 292 ページの「Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定」
- 293 ページの「サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定」

注 Portal Server Secure Remote Access の設定の詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1202?l=ja>) を参照してください。

Sun の Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定

Portal Server には、Portal Server Secure Remote Access に加えて、Portal Server のすべてのサブコンポーネントを設定するために使用できる共通の設定プログラムが用意されています。

▶ Application Server または Web Server 上で「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Portal Server を設定するには

1. Portal Server 設定プログラム *PortalServer-base/lib/psconfig* を実行することによって、Portal Server の実行時設定を作成します。

設定プログラムで使用される設定の説明、および設定プログラムの実行手順については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1198?l=ja>) の「インストール後の設定」の章を参照してください。

2. インスタンスに変更を適用します。手順については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1198?l=ja>) の「インストール後の設定」の章の「Portal Server インストール後の作業」を参照してください。

サードパーティ製 Web コンテナ上での「今すぐ設定」設定オプションでのインストール後の Portal Server の設定

Portal Server には、Portal Server Secure Remote Access に加えて、Portal Server のすべてのサブコンポーネントを設定するために使用できる共通の設定プログラムが用意されています。

注 サードパーティ製 Web コンテナへの Portal Server および Portal Server Secure Remote Access の配備は、Solaris オペレーティングシステムでのみサポートされています。

▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に BEA WebLogic Server または Web Sphere Application Server 上の Portal Server を設定するには

1. Portal Server 設定プログラム `PortalServer-base/lib/psconfig` を実行することによって、Portal Server の実行時設定を作成します。

設定プログラムで使用される設定の説明、および設定プログラムの実行手順については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/817-7298?l=ja>) の「インストール後の設定」の章を参照してください。

2. 管理インスタンスも含め、すべての Web コンテナインスタンスを停止し、BEA WebLogic Server では管理対象のサーバーインスタンスも停止します。
3. Web コンテナの管理サーバーインスタンスを起動します。BEA WebLogic Server の管理対象インスタンスにインストールした場合は、管理対象インスタンスも起動します。
4. 配備コマンドを実行して Portal Server を配備します。

```
cd PortalServer-base/bin
./deploy
```

プロンプトが表示されたら、配備 URI のデフォルト値とサーバーインスタンス名を選択し、Web コンテナの管理パスワードを入力します。

5. サンプルポートレット (`portletsamples.war` ファイル) を配備します。

```
setenv DEPLOY_ADMIN_PASSWORD web-container-admin-password
setenv IDSAME_ADMIN_PASSWORD AccessManager-admin-password
cd PortalServer-base/lib
./postinstall_PortletSamples
```

プロンプトが表示されたら、Web コンテナの管理パスワードと Access Manager の管理パスワードを入力します。

6. Portal Server を配備した Web コンテナインスタンスを再起動します。Web コンテナインスタンスの起動方法については、Web コンテナのドキュメントを参照してください。

注 BEA WebLogic Server の管理対象サーバーへのインストールでは、WAR ファイルは配備されません。BEA WebLogic Server の管理コンソールから WAR ファイルを配備してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Cluster の設定

コアの Sun Cluster ソフトウェアは、Java ES インストーラによって設定することができません。Sun Cluster ソフトウェアのインストール後設定を開始する手順については、273 ページの「Sun Cluster フレームワークの設定」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Cluster エージェントの設定

Java ES インストーラを使用して、Sun Cluster エージェントソフトウェアを設定することはできません。Sun Cluster ソフトウェアのインストール後設定を完了する手順については、295 ページの「Sun Cluster データサービスの設定」を参照してください。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Sun Remote Services Net Connect の設定

SunSM Remote Services (SRS) Net Connect を有効化および設定する方法については、『Sun Remote Services Net Connect 3.1.1 Activation Guide』の「Activation」の章を参照してください。このマニュアルは <http://docs.sun.com/doc/819-0619> からダウンロードできます。

「あとで設定」設定オプションでのインストール後の Web Server の設定

「あとで設定」設定オプションでのインストールが完了すると、パッケージがインストールされ、Web Server を設定する準備ができます。

- ▶ 「あとで設定」設定オプションでのインストール後に Web Server を設定するには
1. Web Server 設定プログラム `WebServer-base/setup/configure` を実行することによって、Web Server の実行時設定を作成します。
 2. 145 ページの「管理サーバーの設定情報」に記載されている共通のサーバーの設定、および 184 ページの「Web Server の設定情報」の表に記載されている Web Server の設定を確認します。

必要に応じて、設定を更新します。これらの設定の詳細については、『Sun ONE Web Server Installation and Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0131>) を参照してください。
 3. 必要に応じて、Sun Cluster ソフトウェアで使用するように設定します。298 ページの「Web Server データサービス」を参照してください。

Sun Cluster データサービスの設定

クラスタの確立およびコンポーネントの設定が完了すると、各種の Java ES コンポーネント用に Sun Cluster データサービスを設定できるようになります。インストールされる Sun Cluster エージェントは、アプリケーションがクラスタを利用できるようにするソフトウェアプログラムです。エージェントソフトウェアおよび追加の設定ファイルは、(Web Server や Oracle データベースなどの) アプリケーションを、単一のサーバー上ではなくクラスタ上で実行できるようにするデータサービスを構成します。データサービスは、Sun Cluster フレームワークソフトウェアおよびマルチホストディスクと組み合わせることによって、アプリケーションの高可用性とスケーラビリティを実現します。

注 データサービスの詳細については、『Sun Cluster Overview for Solaris OS』(<http://docs.sun.com/doc/817-6536>) を参照してください。

以降の各節では、エージェントがインストーラの Sun Cluster エージェントコンポーネントで提供される Java ES コンポーネントについて説明します。それぞれのコンポーネントについて、必要なドキュメントを含め、高可用性サービスおよびインストールプロセスの概要を示します。ドキュメントで参照されるすべてのデータサービスインストール手順で、Sun Cluster 3.1 9/04 Agents CD-ROM を Java ES アクセサリ CD-ROM に置き換えてください。

注 データサービスおよびサポートされるすべての層 (ボリュームマネージャ、クラスタファイルシステム、リソースグループ情報) が完全に設定されるまでは、JES への Sun Cluster のインストールは完了しません。

管理サーバーデータサービス

フェイルオーバー用に管理サーバーを設定することができます。『Sun Java System Directory Server Installation and Migration Guide』 (<http://docs.sun.com/doc/817-7608>) の付録「Installing Sun Cluster HA for Directory Server」では、管理サーバーデータサービスのインストールおよび設定についての情報を示しています。

必要なパッケージをインストールするには、各ノード上で Java ES インストーラを実行し、管理サーバーと、Sun Java System コンポーネント用 Sun Cluster エージェントの HA Sun Java System Directory Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。

設定時は、クラスタファイルシステム上の場所をサーバールートとして使用します。

Calendar Server データサービス

フェイルオーバー用に Calendar Server を設定することができます。インストールと設定については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』 (<http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja>) の「高可用性 (フェールオーバーサービス) の設定」を参照してください。

必要なパッケージをインストールする方法は、次のとおりです。

- プライマリノード上で Java ES インストーラを実行し、Calendar Server と、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA Sun Java System Calendar Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。インストールディレクトリを指定するときは、Calendar Server のクラスタファイルシステム上の場所を使用します。

- セカンダリノード上で Java ES インストーラを実行し、「あとで設定」オプションを選択して HA Sun Java System Calendar Server をインストールします。

Directory Server データサービス

フェイルオーバー用に Directory Server を設定することができます。インストールと設定については、『Sun Java System Directory Server Installation and Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-7608>) を参照してください。

必要なパッケージをインストールするには、各ノード上で Java ES インストーラを実行し、Directory Server と、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA Sun Java System Directory Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。

インストールディレクトリを指定するときは、Directory Server のクラスタファイルシステム上の場所 (サーバルールト) を使用します。

Message Queue データサービス

フェイルオーバー用に Message Queue を設定することができます。インストールと設定については、『Sun Cluster Data Service for Sun Java System Message Queue Guide for Solaris OS』(<http://docs.sun.com/doc/817-4643>) を参照してください。

必要なパッケージをインストールするには、各ノード上で Java ES インストーラを実行し、Message Queue と、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA Sun Java System Message Queue サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。

設定時に、スタティックファイルとデータの場所として各ノードのローカルファイルシステム上の場所を使用し、ダイナミックデータの場所としてクラスタファイルシステム上の場所を使用します。

Messaging Server データサービス

フェイルオーバー用に Messaging Server を設定することができます。インストールと設定については、『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1054?l=ja>)の「高可用性の校正」を参照してください。

必要なパッケージをインストールするには、各ノード上で Java ES インストーラを実行し、Messaging Server と、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA Sun Java System Messaging Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。

インストールディレクトリを指定するときは、Messaging Server のクラスタファイルシステム上の場所を使用します。設定時に、設定とデータをクラスタファイルシステムに配置します。

Web Server データサービス

フェイルオーバーまたはスケーラビリティのために Web Server を設定することができます。以降の各節では、各オプションに関連する情報を示します。

フェイルオーバーのための Web Server データサービス

インストールと設定については、『Sun Cluster Data Service for Sun Java System Web Server Guide for Solaris OS』(<http://docs.sun.com/doc/817-4641>)を参照してください。

必要なパッケージをインストールする方法は、次のとおりです。

- プライマリノード上で Java ES インストーラを実行し、Web Server と、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA/Scalable Sun Java System Web Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」設定オプションを選択します。
- セカンダリノード上で Java ES インストーラを実行し、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA/Scalable Sun Java System Web Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。

スケーラビリティのための Web Server データサービス

インストールと設定については、『Sun Cluster Data Service for Sun Java System Web Server Guide for Solaris OS』(<http://docs.sun.com/doc/817-4641>)を参照してください。

必要なパッケージをインストールするには、各ノード上で Java ES インストーラを実行し、Web Server と、Sun Cluster エージェントコンポーネントの HA/Scalable Sun Java System Web Server サブコンポーネントをインストールします。「あとで設定」オプションを選択します。

その他の製品用のデータサービス

インストール計画において、その他の製品の高可用性を必要とする場合は、その製品をサポートするエージェントを入手し、適切な Sun Cluster データサービスのマニュアルの説明に従ってインストールおよび設定を行います。その他の製品用のエージェントは、Java ES アクセサリ CD3 から入手できます。

- Solaris SPARC プラットフォーム用のデータサービスのマニュアルは、次の場所から入手できます。<http://docs.sun.com/coll/1124.3>
- Solaris x86 プラットフォーム用のデータサービスのマニュアルは、次の場所から入手できます。<http://docs.sun.com/coll/1125.2>

注 Access Manager と Portal Server は、高可用性 Web コンテナに配備することができます。ただし、Web コンテナに配備されるその他の Web アプリケーションと同様に、それらに障害が発生する可能性があります。その場合、Web コンテナのフェイルオーバーは行われません。

ルート以外の ID によるコンポーネントの設定

インストール後に設定を行うとき、一部のコンポーネント製品にはルート以外の実行時ユーザーまたはグループを割り当てることができます。たとえば、ルートの所有でない Web Server のインスタンスに Access Manager を配備することができます。

インストール目的から管理目的に至るまで、ルート以外の ID でコンポーネントを設定する理由はさまざまです。ルート以外の ID の使用例を、[113 ページの「非ルートの例」](#)に示しています。

以降の各節では、ルート以外の ID を使用できるコンポーネントを設定する方法を示します。

警告 JES インストーラを実行するには、ルートである必要があります。この理由により、インストーラによってマシンに配置されるすべてのファイルはルートの所有となります。

ルート以外の ID による Access Manager の設定

ルート以外の ID を使用して Access Manager を設定するには、Access Manager 設定スクリプト `AccessManager-base/bin/amconfig` を使用します。このプログラムの使用方法については、『Sun Java System Access Manager 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1938?l=ja>) を参照してください。

ルート以外の ID による 管理サーバー の設定

ルート以外の ID を使用して管理サーバーを設定するには、`mpsadmserver configure` コマンドを使用します。詳細については、『Sun Java System Directory Server Installation and Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-7608>) を参照してください。

- ルート以外のユーザーとして管理サーバーを実行している場合は、管理サーバーと、それに依存する製品の両方に対して、同じユーザー ID およびグループ ID を使用することを検討してください。
- Directory Server がすでにインストールされている場合、管理サーバーは自動的に、Directory Server に適用されているのと同じユーザー ID およびグループ ID によって所有されます。

ルート以外の ID による Application Server の設定

ルート以外の ID を使用して Application Server を設定する方法は 2 とおあります。管理サーバーがルートによって所有および起動されることは変更せずに、特定の Application Server インスタンスをルート以外のユーザーとして実行することができます。または、管理ドメイン全体が、ルート以外のユーザーによって所有および運用されるようにすることができます。

- ルート以外のユーザーとして特定のアプリケーションサーバーを実行するには、`create-instance` サブコマンドの `-sysuser` オプションを使用します。詳細については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1551?l=ja>) を参照してください。
- 管理ドメイン全体がルート以外のユーザーによって所有および運用されるようにするには、次の手順を実行します。
 - a. Application Server のインストール時に、「今すぐ設定」または「あとで設定」のどちらかのオプションを使用します。「今すぐ設定」オプションを選択すると、ルートによって所有される管理ドメインが作成されますが、このドメインは無視できます。

- b. インストールプログラムの実行後、`asadmin` コマンドを使用して、新しい管理ドメインを作成します。`create-domain` サブコマンドの `-sysuser` オプションで、ルート以外のユーザーを指定します。詳細については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1551?l=ja>) を参照してください。
- c. 新しく作成された管理ドメインの下に、新しい Application Server インスタンスを作成します。デフォルトでは、新しいインスタンスは、管理ドメインを所有するのと同じユーザーによって所有されます。`-sysuser` オプションでユーザーを指定できますが、このユーザーは、管理ドメインの所有者と同じグループに属していなければなりません。

ルート以外の ID による Calendar Server の設定

ルート以外の ID を使用して Calendar Server を設定するには、Calendar Server 設定プログラムを使用します。詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja>) を参照してください。

ルート以外の ID による Directory Proxy Server の設定

ルート以外の ID を使用して Directory Proxy Server を設定するには、スーパーユーザーになって `quickstart.tcl` スクリプトを実行します。このスクリプトは管理サーバーに対して指定されたユーザー ID を採用するため、管理サーバーがルート以外の ID を使用するとき、Directory Proxy Server も同様にその ID を使用します。

ルート以外の ID による Directory Server の設定

ルート以外の ID を使用して Directory Server を設定するには、Directory Server 設定プログラムを使用します。「あとで設定」オプションを使用して Directory Server パッケージをインストールします。インストーラの実行後、デフォルトの Directory Server バージョンを 5.2 に設定します。Directory Server 設定プログラムを実行し、ルート以外のユーザー ID を指定します。1024 よりも大きいポート番号を選択します。詳細については、『Sun Java System Directory Server Installation and Migration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-7608>) を参照してください。

ルート以外の ID による Messaging Server の設定

ルート以外の ID を使用して Messaging Server を設定するには、Messaging Server 設定プログラムを使用します。詳細については、『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1054?l=ja>) を参照してください。

ルート以外の ID による Portal Server の設定

ルート以外の ID を使用して Portal Server を設定するには、Portal Server 設定プログラムを使用します。使用する設定の説明、および設定プログラムの実行手順については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1198?l=ja>) の「インストール後の設定」の章を参照してください。

ルート以外の ID による Web Server の設定

ルート以外の ID を使用して Web Server を設定するには、Web Server 設定プログラムを使用します。295 ページの「[あとで設定](#) 設定オプションでのインストール後の Web Server の設定」を参照してください。

次の手順

この章で説明した設定作業が完了したら、303 ページの第 11 章「[コンポーネントの起動と停止](#)」に記載されているコンポーネントに固有の手順に従って、インストール後の設定を確認します。

コンポーネントの起動と停止

この章では、インストールと設定がすんだ Sun Java™ Enterprise System (Java ES) コンポーネントを起動および停止する方法について説明します。ここで説明する手順を実行することで、コンポーネントが正常に動作するかどうかを確認できます。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [304 ページの「前提条件」](#)
- [304 ページの「Java ES コンポーネントの起動シーケンス」](#)
- [306 ページの「Access Manager の起動と停止」](#)
- [307 ページの「管理サーバーとサーバーコンソールの起動と停止」](#)
- [309 ページの「Application Server の起動と停止」](#)
- [311 ページの「Calendar Server の起動と停止」](#)
- [312 ページの「Communications Express の起動と停止」](#)
- [312 ページの「Directory Proxy Server の起動と停止」](#)
- [313 ページの「Directory Server の起動と停止」](#)
- [314 ページの「Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動と停止」](#)
- [316 ページの「Message Queue の起動」](#)
- [316 ページの「Messaging Server の起動と停止」](#)
- [318 ページの「Portal Server デスクトップへのアクセス」](#)
- [319 ページの「Portal Server Secure Remote Access の起動と停止」](#)
- [320 ページの「Sun Cluster ソフトウェアの停止と再起動」](#)
- [320 ページの「Sun Remote Services Net Connect の起動と停止」](#)
- [320 ページの「Web Server の起動と停止」](#)
- [322 ページの「次の手順」](#)

前提条件

この章で説明する手順を実行する前に、[269 ページの第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)に記載されているインストール後の設定作業をすべて完了しておく必要があります。

Java ES コンポーネントの起動シーケンス

Java ES を起動するには、特定の順序でコンポーネントを 1 つずつ起動します。まず、Directory Server が提供する基本的なサービスと Web コンテナ (Web Server または Application Server) を起動します。Java ES は、インストール中にこれらのサービスの実行可能インスタンスを作成します。Portal Server と Access Manager は Web コンテナ内で実行されるため、Web コンテナを起動すると、これらのサーバーも起動されます。

Java ES コンポーネントセット全体を起動するための一般的なシーケンスは、次の表に示すとおりです。左側の列は起動手順の実行順序、中央の列は作業の内容、右側の列は作業の実行手順が解説されている場所をそれぞれ示しています。

表 11-1 Java ES の推奨起動シーケンス

| 順序 | 実行するタスク | 説明の場所 |
|----|---|---|
| 1 | Directory Server を起動します。 | |
| | A. Directory Server を起動します。 | 313 ページの「Directory Server の起動」 |
| | B. 管理サーバーを起動します。 | 307 ページの「管理サーバーの起動」 |
| | C. サーバーコンソールを起動します。 | 307 ページの「Console Server の起動」 |
| 2 | 使用する Web コンテナを起動します。Access Manager と Portal Server が、インストールされている場合には起動します。Communications Express も、インストールと設定がすんでいれば起動します。 | |
| | Application Server を起動します (Message Queue も起動)。 | 309 ページの「Application Server インスタンスの起動」 |
| | Web Server を起動します。 | 320 ページの「Web Server Administration Server とインスタンスの起動」 |
| | IBM WebSphere Server を起動します。 | このサーバーに関しては、サードパーティの資料を参照してください。 |
| | BEA Weblogic Server を起動します。 | このサーバーに関しては、サードパーティの資料を参照してください。 |

表 11-1 Java ES の推奨起動シーケンス (続き)

| 順序 | 実行するタスク | 説明の場所 |
|----|--|--|
| 3 | Access Manager を起動します。 | 306 ページの「Access Manager の起動」 |
| 4 | Portal Server Secure Remote Access を起動します。 | 319 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの起動」 |
| 5 | Instant Messaging を起動します。 | 314 ページの「Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動」 |
| 6 | Messaging Server を起動します。 | 316 ページの「Messaging Server の起動」 |
| 7 | Calendar Server を起動します。 | 311 ページの「Calendar Server の起動」 |
| 8 | Directory Proxy Server を起動します。 | 312 ページの「Directory Proxy Server の起動」 |

Java ES コンポーネントセット全体を停止するときは、このシーケンスと逆の順序で行います。

Java ES コンポーネントがデフォルトでインストールされる場所は、Solaris オペレーティングシステムと Linux オペレーティングシステムでは異なります。そのため、この章で説明する手順では、便宜上プレースホルダでインストール場所を表すことにします。たとえば、*AccessManager-base* という表記で、Access Manager のベースインストールディレクトリを表します。

ヒント この章で示す例のほとんどは、デフォルトの情報に基づいています。設定時に指定したインストール値や設定値がわからない場合は、例に示されている値を試してください。

Access Manager の起動と停止

Access Manager の起動と停止のメカニズムは、実行先の Web コンテナの起動と停止のメカニズムの一部です。また、Directory Server にも依存しています。インストールと設定のあとに Sun Web コンテナと Access Manager を起動する方法については、以下の節を参照してください。

- 309 ページの「Application Server の起動と停止」
- 320 ページの「Web Server の起動と停止」

ここで説明する手順では、`amserver` というコマンドを使用して、Web コンテナがすでに実行している状態で Access Manager を起動および停止します。

▶ Access Manager の起動

1. Web コンテナが実行中であることを確認します。
2. コマンド行で、`AccessManager-base/bin` ディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを入力して Access Manager を起動します。

```
./amserver start
```

4. Access Manager プロセスが実行されていることを確認します。

例：

Solaris の場合：`/usr/bin/ps -ef | grep SUNWam`

Linux の場合：`/bin/ps -ef | grep identity`

次の値が返されます。

Solaris の場合：`/opt/SUNWam/share/bin/amunixd -c 58946`

Linux の場合：`/opt/sun/identity/share/bin/amunixd -c 58946`

▶ Access Manager のログインページへのアクセス

1. 次の URL を指定して、デフォルトページにアクセスします。

```
http://web_container-host:port/amconsole
```

Access Manager のログインページが表示されます。

2. ログインします。

Access Manager へのログインが成功することにより、このソフトウェアが正常に配備されていることを確認できます。デフォルトの管理者アカウントは、`amadmin` です。

▶ Access Manager の停止

1. Web コンテナが実行中であることを確認します。

2. コマンド行で、*AccessManager-base/bin* ディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを入力して Access Manager プロセスを停止します。

```
./amserver stop
```
4. 上記の**手順 4** に記述されているコマンドを使用して、Access Manager プロセスが実行されていないことを確認します。

管理サーバーとサーバーコンソールの起動と停止

ここでは、管理サーバーとサーバーコンソールの起動と停止の手順について説明します。詳細については、『Sun Java System Administration Server Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-7612>) の「Starting and Stopping Administration Server」を参照してください。管理サーバーは Directory Server に依存しています。

▶ 管理サーバーの起動

1. 次のコマンドを入力します。

```
Solaris: /usr/sbin/mpsadmserver start
```

Solaris 以外の場合：サーバールートディレクトリに移動して、`./start-admin` を入力します。

2. 管理サーバープロセスが実行中であることを確認します。

例：

```
/usr/bin/ps -ef | grep admin-serv/config
```

```
./uxwdog -e -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config
```

▶ Console Server の起動

1. 必要に応じて `$DISPLAY` 変数を設定し、ホストでサーバーコンソールを表示します。
2. 管理サーバープロセスが実行中であることを確認します。

例：

```
/usr/bin/ps -ef | grep admin-serv/config
```

```
./uxwdog -e -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /var/opt/mps/serverroot/admin-serv/config
```

3. 次のコマンドを入力します。

Solaris: /usr/sbin/mpsadmserver startconsole

Solaris 以外の場合: サーバルールディレクトリに移動して、startconsole を入力します。

4. サーバーコンソールプロセスが実行中であることを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep console
```

```
/usr/lib/saf/ttymon -g -h -p mycomputer console login:-T sun  
-d /dev/console -1
```

▶ サーバーコンソールの停止

1. サーバーコンソールを停止するには、グラフィカルインタフェースを終了します。
2. サーバーコンソールが実行中でないことを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep console
```

▶ 管理サーバーの停止

1. 次のコマンドを入力します。

Solaris: /usr/sbin/mpsadmserver stop

Solaris 以外の場合: サーバルールディレクトリに移動して、./stop-admin を入力します。

2. 管理サーバーが稼働していないことを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep admin-serv/config
```

Application Server の起動と停止

Application Server はドメインとして設定されます。インストーラはデフォルトの管理ドメインを作成して、デフォルトのポート番号 4849 を設定します。この Application Server インスタンスを使用するには、このインスタンスを起動してから、管理用にグラフィカル管理コンソールを起動する必要があります。詳細については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1551?l=ja>)の「概要」の章を参照してください。Application Server を起動すると、Message Queue も起動します。

▶ Application Server インスタンスの起動

1. コマンド行で、*ApplicationServer-base/bin* ディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
% asadmin start-domain --user admin-id --passwordfile
path_to_admin-password_file domain-name
```

オプション部分には、インストール時に指定した値を入力してください。サーバーが起動中であることを通知するメッセージが表示されます。

ドメイン *domain1* を起動しています。お待ちください。ログは *install_dir* にリダイレクトされます。

起動プロセスが完了すると、さらに次のメッセージが表示されます。

ドメイン *domain1* が起動しました

2. Application Server プロセスが実行中であることを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep appservd
```

```
./appservd-wdog -r /SUNWappserver -d /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/a
appservd -r /SUNWappserver -d /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/admin-se
appservd -r /SUNWappserver -d /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/admin-se
/SUNWappserver/lib/Cgistub -f /tmp/admin-server-4f378e6f/.cgistub_4816
/SUNWappserver/lib/Cgistub -f /tmp/admin-server-4f378e6f/.cgistub_4816
/SUNWappserver/lib/Cgistub -f /tmp/admin-server-4f378e6f/.cgistub_4816
./appservd-wdog -r /SUNWappserver -d /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/s
appservd -r /SUNWappserver -d /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/server/
appservd -r /SUNWappserver -d /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/server/
```

▶ 管理コンソールへのアクセス

管理コンソールにアクセスするには、ブラウザに次の URL 形式を指定します。

```
https://localhost:port
```

Application Server をインストールしたホストで管理コンソールを実行している場合は、ホスト名に `localhost` を指定します。ブラウザが別のシステム上にある場合は、`localhost` の代わりに Application Server ソフトウェアを実行しているシステムの名前を指定します。`port` 変数には、インストール時に割り当てられた管理ポート番号を指定します。インストール時に割り当てられるデフォルトのポート番号は **4849** です。

例：

```
https://mycomputer.example.com:4849
```

管理コンソールのログイン画面をご覧ください。

注 Application Server のインストール、ドメイン管理サーバー、およびサーバーの個々のポート番号と概念の詳細については、『Sun Java System Applications Server Enterprise Edition Installation Guide』 (<http://docs.sun.com/doc/819-0218>) で説明されています。

▶ Application Server の停止

1. コマンド行で、`ApplicationServer-base/bin` ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力して Application Server インスタンスを停止します。

```
./asadmin stop-domain --domain domain1
```

3. Application Server が稼働していないことを確認します。

例：

```
/usr/bin/ps -ef | grep appservd
```

Calendar Server の起動と停止

Calendar Server は Directory Server に依存しています。

▶ Calendar Server の起動

1. sbin ディレクトリに移動します。

Solaris の場合 : /opt/SUNWics5/cal/sbin

Linux の場合 : /opt/sun/calendar/cal/sbin

2. 次のコマンドを入力して Calendar Server を起動します。

```
./start-cal
```

3. Calendar Server プロセスが実行中であることを確認します。

例 :

```
/usr/bin/ps -ef | grep cal
```

```
/opt/SUNWics5/cal/lib/cshttpd -d 3  
/opt/SUNWics5/cal/lib/enpd -p 57997 -c config/ics.conf  
/opt/SUNWics5/cal/lib/csadmin  
/opt/SUNWics5/cal/lib/csnotifyd
```

▶ Calendar Server のグラフィカルインタフェースへのアクセス

Calendar Server で指定している LDAP ディレクトリにすでにデータがプロビジョニングされている場合は、Calendar Server にログインできます。ブラウザで、`http://hostname.domain[:port]` という形式で Calendar Server にアクセスします。

例 :

```
http://mycomputer.example.com:89
```

初回ログイン時に、Calendar Server はデフォルトカレンダーを作成します。Calendar Server にログインすることにより、インストールが成功したことを確認できます。

▶ Calendar Server の停止

1. sbin ディレクトリに移動します。

Solaris の場合 : /opt/SUNWics5/cal/sbin

Linux の場合 : /opt/sun/calendar/cal/sbin

2. 次のコマンドを入力して Calendar Server を停止します。

```
./stop-cal
```

3. Calendar Server が稼働していないことを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep cal
```

Communications Express の起動と停止

Communications Express は Web ベースの通信クライアントで、アドレス帳、メールクライアント、およびカレンダーからなっています。Web ブラウザの Web アドレスフィールドに次の URL を入力すると、Communications Express にアクセスします。

```
http://WebContainer-host:WebContainer-port/URI path
```

各オプションの意味は次のとおりです。

- *WebContainer-host* は、Communications Express アプリケーションが設定されている Web コンテナインスタンスのホスト名です。
- *WebContainer-port* は、Communications Express が設定されている Web コンテナインスタンスのポート番号です。
- URI path は Communications Express が配備されている URI です。

Directory Proxy Server の起動と停止

UNIX タイプのすべてのシステムで、サーバーが 1024 未満の番号のポートで稼働している場合は、ルートとしてログインします。1024 以上の番号のポートで稼働している場合は、ルートまたはサーバーの管理者アカウントとしてログインします。Directory Proxy Server は管理サーバーに依存しています。

► Directory Proxy Server の起動

1. *DirectoryProxyServer-base/dps-instance-name* に移動します。*instance-name* は通常はホスト名です。たとえば、デフォルトのディレクトリは次のとおりです。

```
cd /var/opt/mps/serverroot/dps-host1
```

2. 次のコマンドを入力して Directory Proxy Server プロセスを起動します。

```
./start-dps
```

3. Directory Proxy Server プロセスが実行中であることを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep dps
```



```
./ldapfwd -t /var/opt/mps/serverroot/dps-or03/etc/tailor.txt
```

▶ Directory Proxy Server の停止

1. *DirectoryProxyServer-base/dps-instance-name* に移動します。*instance-name* は通常はホスト名です。たとえば、デフォルトのディレクトリは次のとおりです。

```
cd /var/opt/mps/serverroot/dps-host1
```

2. 次のコマンドを入力して Directory Proxy Server プロセスを停止します。

```
./stop-dps
```

3. Directory Proxy Server が稼働していないことを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep dps
```

Directory Server の起動と停止

Directory Server がクラスタの一部である場合は、論理ホストのアクティブノードで作業していることを確認してください。Directory Server には依存関係がありません。

▶ Directory Server の起動

1. Directory Server を起動するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- Directory Server 5.2 がデフォルトバージョンである場合:

Solaris の場合: `/usr/sbin/directoryserver start`

Linux の場合: `/opt/sun/sbin/directoryserver start`

- Directory Server 5.2 がデフォルトバージョンでない場合:

Solaris の場合: `/usr/sbin/directoryserver -useversion 5.2 start`

Linux の場合: `/opt/sun/sbin/directoryserver -useversion 5.2 start`

2. Directory Server プロセスが実行中であることを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep slapd
```

```
./ns-slapd -D /var/opt/mps/serverroot/slapd-host1 -i  
/var/opt/mps/serverroot/slapd-host1
```

▶ Directory Server の停止

1. Directory Server を停止するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- Directory Server 5.2 がデフォルトバージョンである場合：

Solaris の場合：`/usr/sbin/directoryserver stop`

Linux の場合：`/opt/sun/sbin/directoryserver stop`

- Directory Server 5.2 がデフォルトバージョンでない場合：

Solaris の場合：`/usr/sbin/directoryserver -useversion 5.2 stop`

Linux の場合：`/opt/sun/sbin/directoryserver -useversion 5.2 stop`

2. Directory Server が稼働していないことを確認します。

例：

```
/usr/bin/ps -ef | grep slapd
```

Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動と停止

Instant Messaging サーバーが起動すると、Sun Java System Instant Messenger クライアントはこのサーバーに接続します。Instant Messaging サーバーを停止すると、すべての接続が閉じ、クライアントはすべて切断されます。インスタンスごとの設定で、有効にする対象をマルチプレクサのみ、サーバーのみ、または両方のコンポーネントのいずれかに指定できます。Instant Messaging は Directory Server と Web Server に依存しています。

注 Messaging Server クライアントの起動および Windows オペレーティングシステム上のサーバーについては、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja>) を参照してください。

▶ Instant Messaging サーバーとマルチプレクサの起動

1. `InstantMessaging-base/sbin/` ディレクトリに移動します。

例：

Solaris の場合：`cd /opt/SUNWiim/sbin`

Linux の場合：`cd /opt/sun/im/sbin`

2. 次のコマンドを入力して、Instant Messaging サーバーとマルチプレクサプロセスを起動します。

```
./imadmin start
```

3. Instant Messaging プロセスが実行中であることを確認します。

```
./imadmin check
```

```
./../lib/multiplexor -c ./../config/iim.conf  
...  
/usr/j2se/bin/java -server -Xmx256m -cp \  
./../classes/imserv.jar:./../classes/im
```

▶ Instant Messaging の停止

1. *InstantMessaging-base/sbin/* ディレクトリに移動します。

例:

Solaris の場合: `cd /opt/SUNWiim/sbin`

Linux の場合: `cd /opt/sun/im/sbin`

2. 次のコマンドを入力して、Instant Messaging サーバーとマルチプレクサプロセスを起動します。

```
./imadmin stop
```

3. Instant Messaging プロセスが実行していないことを確認します。

```
./imadmin check
```

Message Queue の起動

Message Queue サービスの中心となるのは Message Server です。Message Server は、1 つまたは複数のブローカを利用してメッセージルーティングとメッセージ配信のサービスを行います。imqbrokerd コマンドを実行すると、ブローカが起動します。

▶ Message Queue Message Server ブローカの起動

1. `MessageQueue-base/bin` ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力して Message Queue Message Server ブローカを起動します。

```
./imqbrokerd
```

3. ブローカプロセスが実行中であることを確認します。

例:

Solaris の場合: `/usr/bin/ps -ef | grep imqbrokerd`

```
/bin/sh /usr/bin/imqbrokerd
```

Linux の場合: `/bin/ps -ef | grep imqbrokerd`

```
/bin/sh ./imqbrokerd
```

Messaging Server の起動と停止

Messaging Server の `start-msg` ユーティリティは、Messaging Server のすべてのプロセス、または任意に指定した 1 つのサービスを起動します。どのサービスを起動するかは、設定パラメータを有効または無効にすることで制御できます。Messaging Server は Directory Server および Administration Server に依存しています。

▶ Messaging Server の起動

1. `MessagingServer-base/sbin` ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力して Messaging Server を起動します。

```
./start-msg
```
3. Messaging Server プロセスが実行中であることを確認します。

例：

```
/usr/bin/ps -ef | grep SUNWmsgsr
```

表示されるプロセスは、使用するように設定されている Messaging Server 機能によって異なります。

```
/opt/SUNWmsgsr/lib/enpd
/opt/SUNWmsgsr/lib/stored -d
/opt/SUNWmsgsr/lib/popd -d 5
/opt/SUNWmsgsr/lib/imapd -d 5 -D 6
/opt/SUNWmsgsr/lib/mshttpd -d 5 -D 6
/opt/SUNWmsgsr/lib/dispatcher
/opt/SUNWmsgsr/lib/job_controller
/opt/SUNWmsgsr/lib/tcp_lmtp_server
/opt/SUNWmsgsr/lib/tcp_smtp_server
/opt/SUNWmsgsr/lib/tcp_smtp_server
/opt/SUNWmsgsr/lib/imsched
/opt/SUNWmsgsr/lib/watcher
```

➤ Messaging Server の停止

1. *MessagingServer-base*/sbin ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力して Messaging Server を停止します。
./stop-msg
3. Messaging Server プロセスが実行していないことを確認します。

例：

```
/usr/bin/ps -ef | grep SUNWmsgsr
```

実行中トランザクションが完了するまで待機する必要があるため、一部の Messaging Server プロセスは停止まで数分かかることがあります。

➤ Messenger Express へのアクセス

Messenger Express は Web ベースの電子メールプログラムで、このプログラムを使用すると、エンドユーザーはブラウザから自分のメールボックスにアクセスできます。Messaging Server で指定している LDAP ディレクトリにすでにデータがプロビジョニングされている場合は、ブラウザからログインできます。
`http://hostname.domain[:port]` という形式で Messenger Express にアクセスします。

例：

```
http://mycomputer.example.com:80
```

LDAP ディレクトリにまだプロビジョニングされていない場合は、admin として、設定時に入力したパスワードを指定してログインできます。

Portal Server デスクトップへのアクセス

Portal Server の起動と停止のメカニズムは、実行先の Web コンテナ (Sun Java Systems またはサードパーティ製) の起動と停止のメカニズムの一部です。また、Directory Server、Access Manager、および Access Manager SDK にも依存しています。インストールと設定のあとに Sun Web コンテナ、Access Manager、および Portal Server を起動する方法については、以下の節を参照してください。

- [309 ページの「Application Server の起動と停止」](#)
- [320 ページの「Web Server の起動と停止」](#)

Portal Server は、Access Manager 管理コンソールを使用して管理されます。Access Manager 管理コンソールを開く方法については、[306 ページの「Access Manager のログインページへのアクセス」](#)を参照してください。

エンドユーザー Portal Server Desktop にアクセスする手順は、以下のとおりです。

▶ Sun Web コンテナから Portal Server デスクトップへのアクセス

ブラウザに次の URL を指定して、サンプルデスクトップを表示します。

```
http://server:port/portal
```

サンプルデスクトップを表示することで、Portal Server が正常に配備されていることを確認できます。

モバイル装置の場合は、次の URL を使用します。

```
http://server:port/portal/dt
```

▶ BEA WebLogic から Portal Server デスクトップへのアクセス

新しいブラウザに次の URL を指定して、サンプルデスクトップを表示します。

```
http://beaweblogic-host:port/portal
```

サンプルデスクトップを表示することで、Portal Server が正常に BEA WebLogic に配備されていることを確認できます。

▶ IBM WebSphere から Portal Server デスクトップへのアクセス

新しいブラウザに次の URL を指定して、サンプルデスクトップを表示します。

```
http://ibmwebsphere-host:port/portal
```

サンプルデスクトップを表示することで、Portal Server が正常に IBM WebSphere に配備されていることを確認できます。

Portal Server Secure Remote Access の起動と停止

Portal Server の Secure Remote Access コンポーネントにはブラウザ用にセキュリティ保護されたリモートアクセスが備わっているため、リモートデバイスの Java™ テクノロジ対応ブラウザから、ポータルコンテンツやサービスにアクセスすることができます。ゲートウェイコンポーネントは、リモートユーザーごとにインタフェースを確立して、内部の Web サーバーとアプリケーションサーバーからのコンテンツを安全に配信します。Portal Server Secure Remote Access は Portal Server、および Access Manager または Access Manager SDK に依存しています。

▶ Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの起動

1. ゲートウェイコンポーネントをインストールし必要なプロファイルを作成したあとに、次のコマンドを実行してゲートウェイを起動します。

```
/gateway-install-root/SUNWps/bin/gateway -n default start
```

default は、インストール時に作成されたデフォルトのゲートウェイプロファイルです。あとで独自に新しいプロファイルを作成し、そのプロファイルを指定してゲートウェイを再起動することもできます。

2. 次のコマンドを実行して、指定したポートでゲートウェイが動作しているかどうかをチェックします。

```
netstat -a | grep port-number
```

デフォルトのゲートウェイポートは 443 です。

▶ Portal Server Secure Remote Access の停止

1. 次のコマンドを入力してゲートウェイを停止します。

```
/gateway-install-root/SUNWps/bin/gateway stop
```

このコマンドを実行すると、指定したホスト上で動作中のすべてのゲートウェイインスタンスが停止します。

2. 次のコマンドを実行して、指定したポートでゲートウェイが動作していないかチェックします。

```
/usr/bin/ps -ef | entsys
```

Sun Cluster ソフトウェアの停止と再起動

Sun Cluster ソフトウェアは他のコンポーネントのように起動または停止されることはありませんが、再起動時に非クラスタモードに変更することでソフトウェアを停止することは可能です。操作方法については、『Sun Cluster System Administration Guide for Solaris OS』(<http://docs.sun.com/doc/817-6546>)を参照してください。

Sun Remote Services Net Connect の起動と停止

SunSM Remote Services (SRS) Net Connect は、有効化後 3 分以内に自動的に起動されます。30 分後には、レポートを生成できるようになります。

SRS Net Connect が適切に機能していることを確認する方法については、『Sun Remote Services Net Connect 3.1.1 Activation Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0619>)の第 2 章に記載されている「Testing the Installation」を参照してください。

Web Server の起動と停止

Web Server をインストールすると、管理サーバーインスタンスと Web Server インスタンスという 2 つのサーバーインスタンスがデフォルトでインストールされます。Web Server には依存関係がありません。

► Web Server Administration Server とインスタンスの起動

1. コマンド行で、*WebServer-base/https-admserv* ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力して Web Server 管理プロセスを起動します。

```
./start
```
3. *WebServer-base/https-hostname.domain* に移動します。
4. 次のコマンドを入力して Web Server インスタンスを起動します。

```
./start
```
5. 2 つの Web Server プロセスが実行中であることを確認します。

例:

```
/usr/bin/ps -ef | grep SUNWwbsvr
```



```

./webservd-wdog -r /opt/SUNWwbsvr -d /opt/SUNWwbsvr/https-admserv/config -n
http
./webservd-wdog -r /opt/SUNWwbsvr -d /opt/SUNWwbsvr/https-host1.example.com
webservd -r /opt/SUNWwbsvr -d /opt/SUNWwbsvr/https-admserv/config -n
https-admserv
webservd -r /opt/SUNWwbsvr -d /opt/SUNWwbsvr/https-admserv/config -n
https-admserv
webservd -r /opt/SUNWwbsvr -d /opt/SUNWwbsvr/https-host1.example.com/config
webservd -r /opt/SUNWwbsvr -d /opt/SUNWwbsvr/https-host1.example.com/config

```

▶ 管理サーバーのグラフィカルインタフェースへのアクセス

ブラウザで、`http://hostname.domain:adminport` という形式で管理サーバーのグラフィカルインタフェースにアクセスします。

例：

```
http://host1.example.com:8888
```

ログインすることにより、インストールが成功したことを確認できます。

▶ Web Server Administration Server とインスタンスの停止

1. コマンド行で、`WebServer-base/https-admserv` ディレクトリに移動します。

2. 次のコマンドを入力して Web Server 管理プロセスを停止します。

```
./stop
```

3. `WebServer-base/https-hostname.domain` に移動します。

4. 次のコマンドを入力して Web Server インスタンスを停止します。

```
./stop
```

5. Web Server プロセスが実行していないことを確認します。

例：

```
ps -ef | grep SUNWwbsvr
```

次の手順

この章を終えると、インストールと設定を終えたコンポーネントが正常に機能することの確認が完了します。これでコンポーネントの管理に進むことができます。以下のマニュアルは、その作業を始めるうえで役立ちます。

- 『Sun Java Enterprise System ドキュメントロードマップ』
(<http://docs.sun.com/doc/817-7068?l=ja>)
 - Java ES コンポーネントのマニュアル : (<http://docs.sun.com/prod/entsys.05q1>)
 - 『Sun Cluster System Administration Guide for Solaris OS』
(<http://docs.sun.com/doc/817-6546>)
- 『Sun Cluster Data Services Planning and Administration Guide for Solaris OS』
(<http://docs.sun.com/doc/817-6564>)

コンポーネントのアンインストール

この章では、Java ES インストーラを使用してインストールした Sun Java™ Enterprise System (Java ES) コンポーネントをアンインストールする方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [323 ページの「前提条件」](#)
- [325 ページの「アンインストーラのしくみ」](#)
- [328 ページの「アンインストールの計画」](#)
- [345 ページの「アンインストーラの実行」](#)
- [353 ページの「Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール」](#)
- [353 ページの「アンインストール後の作業」](#)

前提条件

次の表は、アンインストールの前に必要なタスクを示しています。タスクによっては、ご使用の環境に適用されない場合もあります。

左の列は、作業の一般的な実行順序を示し、中央の列は実行する操作を説明しています。右の列は、便利なその他の情報と参照先を示しています。

表 12-1 アンインストール前のチェックリスト

| 順序 | 作業の説明 | 便利な情報または参照先 |
|----|--|---|
| 1 | Java ES インストーラによってシステム内の各ホストにインストールされた、すべてのソフトウェアに必要な処理を確認します。設定によって生じるコンポーネント間の依存関係を調べ、データのバックアップ、依存コンポーネントの設定変更による依存関係の解消、適切な順序でのコンポーネントのアンインストールなど、適切な対応をとる必要があります。 | 328 ページの「アンインストールの計画」 327 ページの「設定によるコンポーネントの依存関係」 |
| 2 | アンインストールする各コンポーネントに必要な処理を確認します。 | 329 ページの「Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認」 |
| 3 | 製品レジストリファイルのコピーを作成します。このバックアップコピーは、アンインストールが失敗した場合にシステムを復旧するのに役立ちます。 | Solaris の場合： /var/sadm/install/productregistry Linux の場合： /var/opt/sun/install/productregistry |
| 4 | 以後のインストールでデータの再利用を考えている場合は、アンインストールするコンポーネントの設定データまたはユーザーデータをバックアップまたはアーカイブします。 | 329 ページの「Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認」 |
| 5 | 設定ディレクトリをホストする Directory Server インスタンスが稼働していることを確認します。 | アンインストールするコンポーネントの設定をアンインストーラが正しく解除するには、この Directory Server インスタンスが稼働している必要があります。 |
| 6 | 必要に応じて、管理サーバー、Directory Server、Access Manager の管理者アクセス情報を収集します。 | 344 ページの「アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与」 |
| 7 | 独自のシステムにインストールされている Messaging Server をアンインストールする前に、管理サーバーの設定を解除します。 | 管理サーバーの設定解除方法： /usr/sbin/mpsadmserver unconfigure |

アンインストーラのしくみ

Java ES には、Java ES インストーラを使用してシステムにインストールしたコンポーネントを削除するためのアンインストールプログラムが用意されています。アンインストーラは、グラフィカル、テキストベース、またはサイレントの各モードで実行できます。

インストール時に、Java ES インストーラは次の場所に Java ES アンインストーラを格納します。

```
/var/sadm/prod/entsys/
```

すべての Java ES コンポーネントがアンインストールされると、このファイルは自動的に削除されます。

注 オプションの `-no` パラメータを使用して、ソフトウェアをアンインストールしない設定でアンインストーラを実行することができます。このオプションは、アンインストーラの動作に慣れるのに役立つだけでなく、状態ファイルを作成してサイレントアンインストールにそれを使用する場合にも便利です。

全般的な動作

Java ES インストーラと同じく、アンインストーラは、グラフィカル、テキストベース、またはサイレントの各モードで実行できます。

- アンインストーラによって削除されるのは、Java ES インストーラによってインストールされたコンポーネント製品だけです。Java ES インストーラを使用せずにインストールしたコンポーネントの削除については、各コンポーネントのドキュメントに記載されている操作手順を参照してください。
- アンインストーラの実行は、Java ES コンポーネントがインストールされている個々のホストごとに行う必要があります。リモートアンインストールはサポートしていません。削除するコンポーネントを、ホストごとに1つまたは複数選択することができます。
- アンインストーラは Java ES 共有コンポーネントを削除しません。
- アンインストーラによって、設定ファイルとユーザーデータファイルが削除される場合があります。これらのファイルはコンポーネントによって異なります。

アンインストールプロセスが完了したあとで、一部のファイルとディレクトリの削除が必要になる場合もあります。製品別の情報については、[329 ページの「Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認」](#)を参照してください。

- アンインストーラは、コンポーネントの依存関係をチェックし、依存が検出された場合は警告メッセージを出力します。ただし、そのチェック対象はアンインストーラが実行されているシステムだけです。
- アンインストーラがサードパーティ製の Web コンテナのインストール設定を解除することはありません。
- アンインストーラが Web コンテナでの Access Manager SDK のインストール設定を解除することはありません。Web コンテナの再設定は、元の classpath に戻すなどして手動で行う必要があります。

警告

Sun Cluster ソフトウェアがインストールされているが、クラスタノードの設定に一度も使用されていない場合を除き、Sun Cluster ソフトウェアの削除にはアンインストーラを使用しないでください。詳細については、[353 ページの「Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール」](#)を参照してください。

相互依存関係の処理

アンインストーラの動作は、インストールしたコンポーネント、および各コンポーネントの相互関係によって異なります。

- アンインストーラは、同一ホストにインストールされている製品間の依存関係を認識します。同一ホスト上で依存関係を持つコンポーネントをアンインストールしようとする、アンインストーラは警告を出力します。

たとえば、Portal Server がインストールされているホストから Access Manager をアンインストールしようとする、アンインストーラは、Access Manager がないと Portal Server が機能しなくなる可能性があることを警告します。

- 通常は、他のコンポーネントが依存していないコンポーネントはアンインストールできます。

たとえば、Portal Server は Access Manager に依存しています。Access Manager は Portal Server なしでも機能できるため、Portal Server をアンインストールしようとしても、アンインストーラは警告を出力しません。

警告

コンポーネント製品をアンインストールするときは、どの製品がそのコンポーネントをサポートするように設定されているかを調べ、必要であれば追加の設定を行います。必要な追加設定を行わない場合、存在しなくなった製品をサポートするように設定されたコンポーネントがシステムに残されることになります。

アンインストーラは、次の相互依存関係を認識しません。

- 327 ページの「リモートホストからのコンポーネント依存関係」
- 327 ページの「設定によるコンポーネントの依存関係」

リモートホストからのコンポーネント依存関係

コンポーネントの依存関係のなかには、リモートホストに配備されたコンポーネントによって解決できるものもあります。アンインストーラはこのような依存関係を認識しません。

たとえば、Directory Server をアンインストールしようとした場合に、アンインストーラは Access Manager が Directory Server に依存することを、この両方が同じホストに配備されている場合でも警告しません。これは、異なるホスト上にある別の Directory Server インスタンスが Access Manager をサポートする可能性があるためです。

設定によるコンポーネントの依存関係

アンインストーラは、インストール後の設定によって生じるコンポーネント間の依存関係を認識しません。

たとえば、同じホストに Portal Server と Calendar Server をインストールし、Portal Server のカレンダーチャネルとして Calendar Server を使用するように Portal Server を設定したとします。この設定により、Portal Server は Calendar Server に依存します。ただし、そのあとで Calendar Server をアンインストールしようとしても、アンインストーラはインストール後の設定を認識していないため、Portal Server が Calendar Server に依存することを警告しません。

アンインストールの計画

アンインストーラを使用する場合は、データが紛失したり相互依存関係が消失したりしないように、事前にインストール状況を調査して、作業手順の計画を立てる必要があります。各種 Java ES コンポーネントをアンインストールしたときに、残るコンポーネントがどのように動作するかを理解しておくことは重要です。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- [328 ページの「インストール済み Java ES ソフトウェアの調査」](#)
- [329 ページの「Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認」](#)
- [344 ページの「アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与」](#)

インストール済み Java ES ソフトウェアの調査

各ホストにすでにインストールされている Java ES コンポーネントソフトウェアを確認するには、次のいずれかの手順を実行します。

▶ アンインストーラによるインストール済みソフトウェアの表示

1. root として、アンインストーラが格納されているディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/prod/entsys
```

2. ローカルシステムを調査するために、ソフトウェアをアンインストールしない設定でアンインストーラを実行します。

グラフィカルモードの場合：

```
./uninstall -no
```

テキストベースモードの場合：

```
./uninstall -no -noconsole
```

uninstall コマンドに指定可能なすべての構文については、付録の [401 ページの「uninstall コマンド」](#) を参照してください。

3. インストールされている製品のリストが表示されるまでアンインストーラのページを切り替えます。
4. インストールされているコンポーネントのリストを確認したら、アンインストーラを終了します。

ソフトウェアのアンインストールは行われません。

- ▶ **Solaris の prodreg ユーティリティによるインストール済みソフトウェアの表示**
- prodreg ユーティリティを使用して、Java ES コンポーネントを含む、システムにインストールされているすべてのパッケージに関する情報を表示することができます。この情報は、コンポーネントの依存関係を調べる場合に便利です。また、prodreg ユーティリティは、インストールが不完全で、特別な処理が必要なパッケージも示します。prodreg の詳細については、マニュアルページで説明されています。Solaris 10 および Solaris 9 オペレーティングシステム、および一部のバージョンの Solaris 8 オペレーティングシステムでは、次を実行してこのユーティリティを起動します。

```
prodreg
```

詳細については、prodreg マニュアルページを参照してください。

Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認

以下の中から関係のある表を調べて、アンインストーラが各コンポーネントに対して行う内容を確認してください。さらに、作業手順の計画を立てて、データが紛失したり相互依存関係が消失したりすることがないようにします。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 330 ページの「Access Manager のアンインストール動作」
- 331 ページの「管理サーバーのアンインストール動作」
- 331 ページの「Application Server のアンインストール動作」
- 332 ページの「Calendar Server のアンインストール動作」
- 334 ページの「Communications Express のアンインストール動作」
- 335 ページの「Directory Server のアンインストール動作」
- 336 ページの「Directory Proxy Server のアンインストール動作」
- 337 ページの「Instant Messaging のアンインストール動作」
- 337 ページの「Messaging Server のアンインストール動作」
- 338 ページの「Message Queue のアンインストール動作」
- 340 ページの「Portal Server のアンインストール動作」
- 341 ページの「Portal Server Secure Remote Access のアンインストール動作」
- 342 ページの「Sun Cluster のアンインストール動作」
- 343 ページの「Web Server のアンインストール動作」

Access Manager のアンインストール動作

表 12-2 Access Manager アンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 設定データ | Directory Server のエントリーは、Access Manager 固有のデータを含め、何も削除されません。 |
| 依存 | Directory Server Web Server または Application Server |
| このインストールを必要とする製品 | <ul style="list-style-type: none"> • Portal Server (Access Manager と同じホストに配備する必要がある) • Calendar Server (シングルサインオン (SSO) を使用するように設定されている場合) • Instant Messaging (Portal Server、SSO を使用するように設定されている場合) • Messaging Server (SSO を使用するように設定されている場合) • Communications Express (SSO を使用するように設定されている場合、および Schema 2 を使用している場合) |
| アンインストール前の作業 | なし |
| アンインストール後の作業 | <p>アンインストールによって、Web Server または Application Server 上でのみ、Access Manager のインストール設定すべてが Web コンテナから解除されます。サードパーティ製の Web コンテナから Access Manager の設定を解除することはありません。また、Web Server、Application Server、BEA WebLogic、IBM WebSphere といった Web コンテナの SDK インストールの設定も解除しません。</p> <p>さらに、次のファイルが /var/sadm/install ディレクトリに格納されている場合は、それを削除します。</p> <pre>.lockfile .pkg.lock</pre> |

管理サーバーのアンインストール動作

表 12-3 管理サーバーのアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 設定データ | <ul style="list-style-type: none"> アンインストール時に他のサーバーを管理するためのプロキシ情報が失われます。 他のサーバーを管理するために管理サーバーが使用する設定データは、設定 Directory Server に残されます。この情報は、その後の管理サーバーのインストール時に再利用することができます。 |
| 依存 | <p>Directory Server</p> |
| このインストールを必要とする製品 | <p>Directory Proxy Server と Messaging Server には、管理サーバーが必要です。設定によっては、Directory Server にも管理サーバーが必要です。</p> <p>注: 管理サーバーを削除し、Directory Server を削除しなかった場合、Directory Server に付属するその他のユーティリティを使用して Directory Server を管理する必要があります。詳細については、Directory Server のマニュアル (http://docs.sun.com/app/docs/coll/DirectoryServer_05q1_ja) を参照してください。</p> |
| アンインストール前の作業 | <p>設定 Directory Server が稼働していることを確認し、管理者ユーザー ID とパスワードを指定できるように準備します。</p> |
| アンインストール後の作業 | なし |

Application Server のアンインストール動作

表 12-4 Application Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|---------------|---|
| 設定データとユーザーデータ | <ul style="list-style-type: none"> インストール時に作成されたデフォルトのドメインは、アンインストール時に削除されます。 アンインストール時には、すべての管理サーバーインスタンスと Application Server インスタンスを含め、設定されている管理ドメインは削除されません。 アンインストールが完了するまでに、すべての管理サーバーインスタンスと Application Server インスタンスは停止されます。 |

表 12-4 Application Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 依存 | 同一システム上に Message Queue が必要です。 |
| このインストールを必要とする製品 | <ul style="list-style-type: none"> • Access Manager (Application Server を使用するように設定されている場合) • Portal Server (Application Server を使用するように設定されている場合) • Communications Express (Application Server を使用するように設定されている場合) |
| アンインストール前の作業 | 設定データを保存するために、管理ドメインディレクトリのコピーを作成します。 |
| アンインストール後の作業 | <p>システムから Application Server を完全に削除するために、残っている Application Server のログファイルとディレクトリを削除します。Application Server ディレクトリのデフォルトの場所は次のとおりです。</p> <p>Solaris の場合 :</p> <pre>/var/opt/SUNWappserver /opt/SUNWappserver</pre> <p>Linux の場合 :</p> <pre>/var/opt/sun/appserver /opt/sun/apserver</pre> <p>Message Queue のアンインストール後の作業については、338 ページの表 12-11 を参照してください。</p> |

Calendar Server のアンインストール動作

表 12-5 Calendar Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|---------------|--|
| 設定データとユーザーデータ | <p>設定データとユーザーデータはアンインストール時には削除されず、以後のインストール時に上書きされます。</p> <p>Calendar Server のカスタマイズ情報はアンインストール時に削除されます。</p> |

表 12-5 Calendar Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 依存 | <ul style="list-style-type: none"> • Directory Server • Access Manager (シングルサインオン (SSO) 用に設定されている場合、または Schema 2 を使用する場合) • Messaging Server (またはその他のメールサーバー、Calendar Server の電子メール通知サービスを使用する場合) |
| このインストールを必要とする製品 | <ul style="list-style-type: none"> • Portal Server (Portal Server のカレンダーチャンネルに Calendar Server を使用するように設定されている場合) • Communications Express |
| アンインストール前の作業 | 設定データとユーザーデータの再利用を予定している場合は、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja)に記載されている移行手順に従います。 |
| アンインストール後の作業 | 不要なログファイルと Calendar Server ディレクトリを削除します。 |

Communications Express のアンインストール動作

表 12-6 Communications Express のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|---|
| 設定データとユーザーデータ | <p>すべての設定データ、ユーザーデータ、UI カスタマイゼーションは、アンインストール後も維持されます。</p> <p>Communications Express ファイルは、次の 2 つの場所に保持されます。</p> <p>デフォルトのパッケージインストール:</p> <p>Solaris の場合: /opt/SUNWuwc Linux の場合: /opt/sun/uwc</p> <p>設定時にデフォルトで作成されるアプリケーション配備:</p> <p>Solaris の場合: /var/opt/SUNWuwc Linux の場合: /var/opt/sun/uwc</p> <p>Communications Express をアンインストールすると、アンインストーラはパッケージインストールの場所だけからデータを削除します。アプリケーション配備の場所にあるデータは、そのまま残されます。アプリケーション配備の場所からアプリケーションにアクセスすることができます。</p> <p>ただし、すべての設定データと UI カスタマイゼーションは再設定時に上書きされます。ユーザーデータは再設定後もそのまま維持されます。</p> |
| 依存 | <ul style="list-style-type: none"> • Application Server (Application Server 下で実行するように設定されている場合) • Web Server (Application Server 下で実行するように設定されている場合) • Identity Server (SSO を使用するように設定されている場合) • Directory Server • Calendar Server • Messaging Server |
| このインストールを必要とする製品 | なし |

表 12-6 Communications Express のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|--------------|--|
| アンインストール前の作業 | Communications Express を設定解除します。Communications Express の設定解除については、『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1065?l=ja)の「Communications Express の設定解除」の章を参照してください。 |
| アンインストール後の作業 | 不要なログファイルと Communications Express ディレクトリを削除します。 |

Directory Server のアンインストール動作

表 12-7 Directory Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|---------------|---|
| 設定データとユーザーデータ | <p>設定ディレクトリをホストする Directory Server をアンインストールする場合、設定ディレクトリの情報はアンインストール時に削除されます。ユーザーデータをホストする Directory Server をアンインストールする場合、Directory Server の LDAP データベースはアンインストール時に削除されます。</p> <p>注：データの喪失を避けるために、アンインストール前に Directory Server 情報をバックアップする必要があります。Directory Server には、Directory Server をバックアップしたり、設定データを移行したりするためのツールやユーティリティが、いくつか用意されています。詳細については、Directory Server のマニュアル (http://docs.sun.com/app/docs/coll/DirectoryServer_05q1_ja) を参照してください。</p> <p>注：o=NetscapeRoot サフィックスの下にある、設定情報を含む設定ディレクトリをアンインストールする場合、警告は出力されません。その他のディレクトリの設定情報も含む中央の設定ディレクトリをアンインストールすると、アンインストール後にそれらのディレクトリを管理できなくなります。</p> |
| 依存 | なし |

表 12-7 Directory Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|---|
| このインストールを必要とする製品 | <ul style="list-style-type: none"> • 管理サーバー • Calendar Server • Directory Proxy Server • Access Manager • Instant Messaging • Messaging Server • Portal Server • Communications Express |
| アンインストール前の作業 | <ul style="list-style-type: none"> • 必要に応じて Directory Server の設定ディレクトリと Directory Server LDAP データベースのバックアップを行います。 • 設定ディレクトリをホストする Directory Server インスタンスが稼働していることを確認し、管理者ユーザー ID とパスワードを指定できるように準備します。 |
| アンインストール後の作業 | Directory Server のアンインストールでは、残りのファイルとディレクトリの手動削除が必要となる場合があります。 |

Directory Proxy Server のアンインストール動作

表 12-8 Directory Proxy Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|-------|---|
| 設定データ | <ul style="list-style-type: none"> • アンインストールする Directory Proxy Server インスタンスの設定データは、アンインストール時に削除されます。 • Directory Proxy Server の複数のインスタンスで共有される設定データは、アンインストール後も残されます。 • Directory Proxy Server はユーザーデータを持ちません。 |
| 依存 | Directory Proxy Server は、設定 Directory Server として機能するローカルまたはリモートの Directory Server に論理的に依存します。Directory Proxy Server はローカルの管理サーバーに依存しています。 |

表 12-8 Directory Proxy Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|----|
| このインストールを必要とする製品 | なし |
| アンインストール前の作業 | なし |
| アンインストール後の作業 | なし |

Instant Messaging のアンインストール動作

表 12-9 Instant Messaging のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 設定データとユーザーデータ | 設定データは、アンインストール後もすべて残されるため、以後のインストールで再利用できます。 |
| 依存 | <ul style="list-style-type: none"> • Directory Server • Access Manager SDK |
| このインストールを必要とする製品 | Portal Server (Instant Messaging チャネルを使用するように設定されている場合) |
| アンインストール前の作業 | なし |
| アンインストール後の作業 | なし |

Messaging Server のアンインストール動作

表 12-10 Messaging Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|---------------|---|
| 設定データとユーザーデータ | すべての設定データとカスタマイズ情報はアンインストール後も残されるため、以後のインストールで再利用できます。 |
| 依存 | <ul style="list-style-type: none"> • Directory Server • 管理サーバー (同じホストに配備する必要がある) • Web Server (フィルタなどのメール機能用) • Access Manager (Schema 2 を使用している場合) |

表 12-10 Messaging Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| このインストールを必要とする製品 | <ul style="list-style-type: none"> • Calendar Server • Portal Server (メッセージングチャネルを使用するように設定されている場合) • Communications Express (メッセージングを使用している場合) |
| アンインストール前の作業 | なし |
| アンインストール後の作業 | 状況によっては、 355 ページの「Messaging Server アンインストール後の作業」 に記載されているアンインストール後の作業が必要になる場合があります。 |

Message Queue のアンインストール動作

表 12-11 Message Queue のアンインストールに関する詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 設定データ | インスタンスに固有の設定データ、ユーザーリポジトリ、およびアクセス制御ファイルはアンインストール後も残され、以後の再インストール時に再利用できます。 |
| 依存 | Directory Server (オプション) |
| このインストールを必要とする製品 | Application Server (Message Queue と同じホストに存在する必要がある) |

表 12-11 Message Queue のアンインストールに関する詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|--------------|---|
| アンインストール前の作業 | <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="701 274 1310 331">• 実行しているすべてのブローカを停止します。ユーザー名 (管理者) とパスワードの入力が求められます。 <code>imqcmd shutdown bkr [-b hostName:port]</code> <li data-bbox="701 409 1310 552">• Message Queue の再インストールを予定しておらず、各ブローカインスタンスに関連するダイナミックデータ、フラットファイルユーザーリポジトリ、アクセス制御ファイルを削除する場合は、次のコマンドを使用してこのデータを削除します。 <code>imqbrokerd -name instanceName -remove instance</code> <li data-bbox="701 630 1310 861">• Message Queue アップグレードスクリプトを使用して Message Queue をアップグレードする場合には、使用するプロセスを書き留めておいてください。アップグレードスクリプトがインストール情報を JES レジストリに書き込まないからです。詳細については、『Java Enterprise System アップグレードと移行』 (http://docs.sun.com/doc/819-2235?l=ja) に説明されています。 |
| アンインストール後の作業 | <p data-bbox="701 881 1310 994">Message Queue の再インストールを予定していない場合は、コンポーネントのマニュアルで説明されているコマンドを実行してシステムをクリーンアップします。Message Queue のマニュアルは以下のサイトから入手できます。 http://docs.sun.com/app/docs/coll/MessageQueue_35_SP1_ja</p> |

Portal Server のアンインストール動作

表 12-12 Portal Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 設定データとユーザーデータ | <ul style="list-style-type: none"> 設定データはアンインストール時に削除されます。設定の解除には、Portal Server によって Access Manager 内に作成されたサービスの削除も含まれません。 ユーザーチャネルのプロバイダは、アンインストール時に削除されないため、以後のインストールで再利用できます。 カスタマイズ設定データには、ディスプレイプロファイル、プロパティファイル、リソース文字列などのカスタマイズデータが含まれ、これらはアンインストールによっては削除されません。カスタマイズ設定データは以後のインストールで再利用できますが、それには Portal Server を同一ホスト上に同じ設定で再インストールする必要があります。 |
| 依存 | <ul style="list-style-type: none"> Directory Server Application Server または Web Server (IBM WebSphere または BEA WebLogic に依存するように設定することもできる) Access Manager <p>Portal Server のチャネルを使用するように設定されている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> Calendar Server Messaging Server Instant Messaging |
| このインストールを必要とする製品 | なし |
| アンインストール前の作業 | なし |

表 12-12 Portal Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|--------------|--|
| アンインストール後の作業 | <ul style="list-style-type: none"> • Portal Server が Web Server 内で実行されており、Portal Server だけを削除する場合、Access Manager を再起動する必要があります。詳細については、354 ページの「Access Manager 関連のアンインストール後の作業」を参照してください。 • Portal Server が IBM WebSphere Web コンテナに配備されている場合、追加のアンインストール作業が必要となる場合があります。 |

Portal Server Secure Remote Access のアンインストール動作

表 12-13 Portal Server Secure Remote Access のアンインストールに関する詳細

| 項目 | 詳細 |
|-------|---|
| 設定データ | <ul style="list-style-type: none"> • Portal Server Secure Remote Access コアコンポーネントのすべての設定データは、アンインストール時に削除されます。 • 配備されているすべての Web アプリケーションの配備が解除されます。 • Portal Server Secure Remote Access のゲートウェイ、Netlet プロキシ、Rewriter プロキシの各コンポーネントの設定データには、ユーザーはアクセスできません。 |

表 12-13 Portal Server Secure Remote Access のアンインストールに関する詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 依存 | <ul style="list-style-type: none"> • Portal Server Secure Remote Access は Portal Server に依存しています。 • Portal Server, Secure Remote Access ゲートウェイ、Netlet プロキシ、Rewriter プロキシの各コンポーネントは、Access Manager SDK に依存しています。 • Portal Server と Portal Server Secure Remote Access サポートは、同一ホスト上の同一ディレクトリ内に存在している必要があります。 • Access Manager SDK は、ゲートウェイ、Netlet プロキシ、および Rewriter プロキシと同じホスト上に存在している必要があります。ゲートウェイ、Netlet プロキシ、および Rewriter プロキシを同一ディレクトリ内に置くことはできません。 • Portal Server Secure Remote Access のどのコンポーネントを削除する場合も、それに依存するコンポーネントを削除する必要はありません。 • ゲートウェイを削除しても、Access Manager SDK をホスト上に残すことができます。 |
| このインストールを必要とする製品 | なし |
| アンインストール前の作業 | なし |
| アンインストール後の作業 | なし |

Sun Cluster のアンインストール動作

表 12-14 Sun Cluster ソフトウェアのアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|-------|---|
| 設定データ | インストールされてはいるが、クラスタノードの設定に一度も使用されていない Sun Cluster ソフトウェアを除き、Sun Cluster ソフトウェアの削除には Java Enterprise System アンインストーラを使用しません。詳細については、353 ページの「Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール」を参照してください。 |
| 依存 | Sun Cluster コアと Sun Cluster エージェントは、同時に削除する必要があります。 |

表 12-14 Sun Cluster ソフトウェアのアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| このインストールを必要とする製品 | なし |
| アンインストール前の作業 | Sun Cluster ソフトウェアのアンインストールには、Sun Cluster のインストール時に提供されるユーティリティだけを使用します。 |
| アンインストール後の作業 | Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール後に、productregistry ファイルのアップデートが必要になる場合があります。詳細については、 353 ページの「Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール」 を参照してください。 |

Web Server のアンインストール動作

表 12-15 Web Server のアンインストールの詳細

| 項目 | 詳細 |
|------------------|--|
| 設定データとユーザーデータ | <ul style="list-style-type: none"> 設定データとユーザーデータはアンインストール時に削除されません。 Web Server の管理サーバーインスタンスと設定済みの Web Server インスタンスディレクトリは、インストールディレクトリ内に維持されます。また、初期設定によるドキュメントルートディレクトリも維持されます。 Web Server 管理サーバーインスタンスと Web Server インスタンスは、アンインストールが完了する前に停止されます。 |
| 依存 | なし |
| このインストールを必要とする製品 | <ul style="list-style-type: none"> Access Manager (Web Server 内で実行されるように設定されている場合) Portal Server (Web Server 内で実行されるように設定されている場合) Communications Express Application Server ロードバランスプラグイン |
| アンインストール前の作業 | なし |

表 12-15 Web Server のアンインストールの詳細 (続き)

| 項目 | 詳細 |
|--------------|---|
| アンインストール後の作業 | <ul style="list-style-type: none"> 設定データを維持する場合は、インストールディレクトリ内の管理サーバーインスタンスと Web Server インスタンスのディレクトリのバックアップを行います。 アンインストール後に同じ場所に Web Server をインストールする場合は、インストールディレクトリが存在してはなりません。同じ場所に再インストールする前に、インストールディレクトリとすべてのカスタム設定を手動で削除します。 |

アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与

アンインストール対象として選択したコンポーネントによっては、Access Manager、管理サーバー、および Directory Server への管理者アクセス権をアンインストーラに付与する必要があります。

- Application Server 上の Access Manager Web アプリケーションの配備を取り消し、Access Manager スキーマを削除するには、Access Manager の管理者アクセス権が必要です。
- アンインストール時に設定ディレクトリを管理する必要がある場合は、管理サーバーと Directory Server の管理者アクセス権が必要です。

次の表は、管理者アクセス権を付与するためにアンインストーラが必要とする情報を示しています。各表の左の列は、指定が必要な情報のグラフィカルモードのラベルと状態ファイルのパラメータを示します。右の列は、その説明です。

表 12-16 必要な管理情報

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| Access Manager | |
| 管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN | Application Server 管理者のユーザー ID |
| 管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWD | Application Server 管理者のパスワード。 |
| ディレクトリマネージャ DN IS_DIRMGRDN | Directory Server に対して無制限のアクセス権を持つユーザーの識別名 (DN)。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。 |
| ディレクトリマネージャパスワード IS_DIRMGRPASSWD | ディレクトリマネージャのパスワード。 |

表 12-16 必要な管理情報 (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | 説明 |
|--|---|
| 管理サーバー | |
| 管理者ユーザー ID ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER | 設定ディレクトリ管理者のユーザー ID。管理サーバーは、この ID を使用して設定ディレクトリのデータを管理します。 |
| 管理者のユーザーパスワード ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD | 設定ディレクトリ管理者のパスワード。 |
| Directory Server | |
| 管理者ユーザー ID CONFIG_DIR_ADM_USER | 設定ディレクトリに対して管理者権限を持つユーザー。このユーザーは、サフィックスの作成や削除など、 Directory Server の設定を変更できます。アクセス制御の制約を受けます。 |
| 管理者パスワード CONFIG_DIR_ADM_PASSWD | 管理者のパスワード。 |

アンインストーラの実行

323 ページの「前提条件」の関連作業が完了すると、アンインストーラを実行する準備が整います。ここでは、アンインストーラを起動する 3 とおりの方法を説明します。

- グラフィカルモードでアンインストーラを実行する手順については、346 ページの「グラフィカルモードでのアンインストーラの実行」を参照してください。
- テキストベースモードでアンインストーラを実行する手順については、348 ページの「テキストベースモードでのアンインストーラの実行」を参照してください。
- サイレントモードでアンインストーラを実行する手順については、351 ページの「サイレントモードでのアンインストーラの実行」を参照してください。

アンインストールユーティリティについては、付録 D 「インストールコマンド」で詳しく説明されています。アンインストール時に生じる問題については、357 ページの第 13 章「トラブルシューティング」を参照してください。

グラフィカルモードでのアンインストーラの実行

ここでは、対話形式によるグラフィカルインタフェースを使用して、Java ES コンポーネントをアンインストールする方法を説明します。

▶ グラフィカルアンインストーラの起動

1. (オプション) ローカルディスプレイへのアクセスを確保します。

リモートマシンにログインするときは、DISPLAY 環境変数がローカルディスプレイに適した設定になっていることを確認します。DISPLAY 変数が正しく設定されていないと、インストーラはテキストベースモードで実行されます。

- C Shell での例 (マシン名は myhost):

```
setenv DISPLAY myhost:0.0
```

- Korn Shell での例 (マシン名は myhost):

```
DISPLAY=myhost:0.0
```

ローカルディスプレイでインストーラを実行するには、表示権限の付与が必要になる場合があります。たとえば、次のコマンドを使用して、myhost から serverhost のルートユーザーに表示権限を付与することができます。

```
myhost> xauth extract - myhost:0.0 | rsh -l root serverhost xauth merge -
```

注 このような権限を安全に付与する手順については、『Solaris X Window System Developer's Guide』(<http://docs.sun.com/doc/805-3921?l=ja>)の「Manipulating Access to the Server」の章を参照してください。

2. root としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。

3. 次のディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/prod/entsys/
```

4. グラフィカルアンインストーラを起動します。

```
./uninstall
```

「ようこそ」ページが表示されます。

5. 「次へ」をクリックして処理を継続します。

「コンポーネントの選択」ページが表示されます。

▶ アンインストールするコンポーネントの選択

1. コンポーネントを調べて、アンインストールするコンポーネントを選択します。

- システムにインストールされて有効になっているコンポーネントを選択できます。システムにインストールされていないコンポーネントは選択できません。
 - コンポーネントによっては、サブコンポーネントを含むものもあります。それらのコンポーネントを展開すると、対応するサブコンポーネントが表示されます。
 - サブコンポーネントを含むコンポーネントの選択を解除したときは、コンポーネントを展開し、サブコンポーネントのリストを確認します。
2. 選択内容に問題がなければ、「次へ」をクリックします。
 3. アンインストーラが削除対象として選択された製品間の依存関係を認識し、設定データが失われる可能性が検出された場合には、警告メッセージが出力されます。次のいずれかを選択できます。
 - a. 「続行」をクリックして、アンインストールを続行します。
 - b. 「閉じる」をクリックして、「コンポーネントの選択」ページに戻ります。

▶ 管理者アクセス権の付与

削除を指定したコンポーネントによっては、アンインストーラから管理者 ID とパスワードが要求されます。アンインストーラへの指定が必要な情報の詳細については、[344 ページの「アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与」](#)を参照してください。

注 それに加えて、ポート番号またはホスト名の入力を求められる場合もあります。

1. 必要な管理者情報を指定します。
2. 「次へ」をクリックして、「アンインストールの準備が完了しています」ページに進みます。

▶ アンインストールの準備完了の確認

アンインストーラは、ソフトウェアをシステムから削除する前に、「アンインストールの準備が完了しています」ページを表示します。このページには、削除対象として選択されたコンポーネントと再利用可能になるディスク容量の合計が表示されます。

1. アンインストールの選択内容を確認します。
 - a. 変更が必要な場合は、「戻る」を何度かクリックして「コンポーネントの選択」ページを表示します。
 - b. 「コンポーネントの選択」ページの情報を必要に応じて変更します。
 - c. 「次へ」をクリックし、アンインストーラページを再び先に進めます。

アンインストーラは、ユーザーが以前に指定した値を記憶しています。ユーザーが以前に指定した値は変更可能です。

2. 選択内容に問題がなければ、「次へ」をクリックします。

アンインストーラはシステムからのソフトウェアの削除を開始し、次の情報を表示します。

- 全体的な完了割合を示す進捗状況バー
- 現在削除中のパッケージの名前

▶ アンインストールセッションの完了

すべてのコンポーネント製品ソフトウェアの削除が完了すると、アンインストーラは「アンインストールが完了しました」ページを表示します。

1. 「サマリーの表示」ボタンまたは「アンインストールログの表示」ボタンをクリックすると、アンインストールに関する情報が表示されます。
 - **アンインストールサマリー**: アンインストールされたコンポーネントおよびそれらのコンポーネントの設定情報がリストされます。
 - **アンインストールログ**: アンインストール時にアンインストーラが出力したすべてのメッセージが表示されます。

アンインストールのサマリーファイルとログファイルは、次の場所でも確認できます。

Solaris の場合: /var/sadm/install/logs

Linux の場合: /var/opt/sun/install/logs

2. 「閉じる」をクリックしてアンインストーラを終了します。

Access Manager または Messaging Server をアンインストールした場合は、[353 ページ](#)の「[アンインストール後の作業](#)」に進みます。

テキストベースモードでのアンインストーラの実行

テキストベースインタフェースを使用すると、端末ウィンドウ内に表示されるプロンプトに順次応答することで、端末ウィンドウからアンインストーラを直接実行できます。

ヒント テキストベースでのアンインストール時の入力要求について詳しくは、[250 ページ](#)の「[テキストベースのインタフェースの使用方法](#)」を参照してください。

アンインストール時に生じる問題については、[357 ページ](#)の第 13 章「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

▶ テキストベースモードでのアンインストーラの起動

1. root としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
2. 次のディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/prod/entsys/
```

3. アンインストーラを実行します。

```
./uninstall -nodisplay
```

「ようこそ」というメッセージが表示され、システムにインストールされているすべての使用可能な Java ES コンポーネントがリスト表示されます。

▶ アンインストールするコンポーネントの選択

1. アンインストーラは、システム内で検出したインストール済みの Java ES コンポーネントすべてに番号を付けてリストし、削除対象として選択します。Return キーを押して、すべてのコンポーネントをアンインストールします。または、アンインストールするコンポーネントに対応する番号をコマンドで区切ってリストにし、アンインストールするコンポーネントを指定して、Return キーを押します。

注 システムにインストールされていないコンポーネントは無効になっており、選択できません。

2. アンインストーラは、削除対象として選択された製品間にコンポーネントの依存関係を検出すると、設定データが失われる可能性があることを知らせる警告メッセージが表示されます。次のいずれかを選択できます。
 - a. アンインストールを続行するには、Yes と入力し、Return キーを押します。
 - b. 「コンポーネントの選択」ページに戻るには、No と入力し、Return キーを押します。
 - c. アンインストールを終了するには、! を入力し、Return キーを押します。

▶ 管理者アクセス権の付与

アンインストーラが管理者 ID とパスワードを必要とするコンポーネントを選択した場合は、管理者 ID とパスワードが要求されます。アンインストーラへの指定が必要な情報の詳細については、[344 ページの「アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与」](#)を参照してください。

注 削除対象として選択したコンポーネントによっては、ポート番号またはホスト名の入力を求められる場合もあります。

▶ アンインストーラの準備完了の確認

アンインストーラは、ソフトウェアをシステムから削除する前に、サマリーページを表示します。このページには、削除対象として選択されたコンポーネントが表示されます。

1. 選択内容を確認します。
 - a. 変更が必要な場合は、「コンポーネントの選択」リストが表示されるまで、<文字を入力し **Return** キーを押してページを順に戻ります。
 - b. 「コンポーネントの選択」リストを必要に応じて変更します。
 - c. アンインストーラ画面を再び先に進めます。
2. 選択内容に問題がなければ、数値 **1** を入力し、**Return** キーを押します。

アンインストーラは、システムからのソフトウェアの削除を開始します。アンインストール時に、アンインストーラは全体的な完了割合を示す進捗状況バーを表示します。

▶ アンインストールセッションの完了

すべてのコンポーネントソフトウェアが削除されたら、アンインストールサマリーおよびログを表示することができます。

1. **1** または **2** を入力し、**Return** キーを押してアンインストールに関する情報を表示します。
 - **アンインストールサマリー** : **1** を入力すると、アンインストールされたコンポーネントおよびそれらのコンポーネントの設定情報がリストされます。
 - **アンインストールログ** : **2** を入力すると、アンインストール時にアンインストーラが出力したすべてのメッセージがリストされます。

アンインストールのサマリーファイルとログファイルは、次の場所でも見ることができます。

Solaris の場合 : /var/sadm/install/logs

Linux の場合 : /var/sadm/install/logs

2. **!** 文字を入力して、アンインストーラを終了します。

Access Manager または Messaging Server をアンインストールした場合は、[353 ページ](#)の「**アンインストール後の作業**」に進みます。

サイレントモードでのアンインストーラの実行

サイレントアンインストールは、設定内容が似ている複数のホスト上の Java ES コンポーネントをアンインストールする場合に便利です。サイレントモードでのアンインストール手順は、[259 ページの第 9 章「サイレントモードでのインストール」](#)で説明されているサイレントモードでのインストール手順に似ています。

▶ 状態ファイルの生成

サイレントアンインストールを実行するには、まずグラフィカルモードまたはテキストベースモードで `false` を指定してアンインストールを実行し、状態ファイルを生成する必要があります。詳細については、[261 ページの「状態ファイルの生成」](#)を参照してください。

1. `root` としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
2. 次のディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/prod/entsys/
```

3. アンインストーラのグラフィカルインタフェースを使用する場合は、ローカルディスプレイへのアクセスを確保します。[346 ページの「グラフィカルアンインストーラの起動」](#)を参照してください。
4. サイレントモードでアンインストーラを実行します。

例：

グラフィカルモードの場合：

```
./uninstall -no -saveState statefile_name
```

テキストベースモードの場合：

```
./uninstall -no -nodisplay -saveState statefile_name
```

`uninstall` コマンドに指定可能なすべての構文については、[401 ページの「uninstall コマンド」](#)を参照してください。

5. アンインストーラを最後まで実行します。

ユーザーが入力要求に回答するたびに、アンインストーラはその内容を指定された状態ファイルに記録します。アンインストールが完了すると、指定した場所に状態ファイルが保存されます。ソフトウェアのアンインストールは行われません。

▶ ホストに合わせた状態ファイルの編集

1. サイレントアンインストールを実行するホストごとに、状態ファイルのコピーを作成します。
2. 各ファイルを編集して、サイレントアンインストールを実行するホストに固有の情報を設定します。

状態ファイルを編集する際のガイドラインについては、[261 ページの「状態ファイルの編集」](#)を参照してください。また、状態ファイルの編集時に状態ファイル ID を生成する場合があります。これについては、[264 ページの「プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成」](#)を参照してください。

▶ サイレントモードでのアンインストーラの実行

1. Java ES コンポーネントをアンインストールするホストの状態ファイルが適切に準備され、編集されていることを確認します。
2. 端末ウィンドウを開きます。
3. root としてログインしていない場合は、スーパーユーザーになります。
4. 次のディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/prod/entsys/
```
5. アンインストーラを起動します。

例:

```
./uninstall -noconsole -state statefile_name
```

`uninstall` コマンドに指定可能なすべての構文については、[401 ページの「uninstall コマンド」](#)を参照してください。

▶ サイレントアンインストールの進行状況の監視

1. 端末ウィンドウで、ログファイルのディレクトリに移動します。

Solaris の場合: /var/sadm/install/logs

Linux の場合: /var/opt/sun/install/logs

2. 現在のアンインストールに関するログファイルを探します。監視対象のログファイルは、次のとおりです。

```
Java_Enterprise_System_uninstall.Btimestamp
```

`timestamp` 変数は、ログの作成時刻を表します。変数は `MMddhhmm` 形式で指定します。各表記の意味は次のとおりです。

`MM` 月を示す

`dd` 日付を示す

`hh` 時間を示す

`mm` 分を示す

- tail コマンドを使用して、ログに書き込まれるメッセージを監視します。

例:

```
tail -f logfile_name
```

tail プログラムを終了するには、Ctrl+C キーを押します。

Sun Cluster ソフトウェアのアンインストール

Sun Cluster ソフトウェアがインストールされているが、クラスタノードの設定に一度も使用されていない場合を除き、Sun Cluster ソフトウェアの削除には Java ES アンインストーラを使用しないでください。Sun Cluster ソフトウェアのアンインストールには、Sun Cluster ソフトウェアのインストール時に提供されるユーティリティを使用します。Sun Cluster Core と Sun Java System 用 Sun Cluster エージェントは、同時に削除する必要があります。Sun Cluster ソフトウェアの設定解除およびアンインストールの詳細については、Sun Cluster ソフトウェアのマニュアル (SPARC の場合は <http://docs.sun.com/coll/1124.3>、x86 の場合は <http://docs.sun.com/coll/1125.2>) を参照してください。

Sun Cluster ソフトウェアをアンインストールしたら、`/var/sadm/prod/entsys/uninstall` を実行して、Sun Cluster と Sun Cluster エージェントを製品レジストリから削除します。

アンインストール後の作業

ここでは、システムから Java ES コンポーネントをアンインストールしたあとで実行が必要となる作業について説明します。実際に必要となる作業は、アンインストールしたコンポーネントによって異なります。

- 「[Access Manager 関連のアンインストール後の作業](#)」
- 355 ページの「[Messaging Server アンインストール後の作業](#)」

Access Manager 関連のアンインストール後の作業

Web コンテナ (Application Server または Web Server) をアンインストールせずに、Access Manager だけをアンインストールした場合は、Access Manager を配備していたインスタンスに設定の変更を適用する必要があります。

Application Server アンインストール後の作業

Access Manager はアンインストールせず、その中に配備された Application Server だけをアンインストールする場合は、次の手順を実行する必要があります。

1. 必要に応じて Application Server の管理インスタンスを起動します。たとえば、Solaris ホストの場合は次のようにします。

```
cd /opt/SUNWappserver/appserver/bin
./asadmin start-domain --user admin_user --passwordfile
path_to_admin-password_file domain-name
```

2. ブラウザから Application Server 管理コンソールにアクセスします。デフォルトの URL は、`https://hostname:4849` です。
3. 左の区画で、「アプリケーションサーバーインスタンス」の左の鍵をクリックします。
4. サーバーまたは Access Manager が配備されていた Application Server インスタンスの名前を選択します。
5. 「Apply Changes」をクリックします。

Web Server アンインストール後の作業

Access Manager はアンインストールせず、その中に配備された Web Server だけをアンインストールする場合は、次の手順を実行する必要があります。

1. 必要に応じて Web Server の管理インスタンスを起動します。

```
cd /opt/SUNWwbsvr/https-admserv
./start
```

2. Web Server の管理コンソールにアクセスします。
3. 「Apply Changes」をクリックして Web コンテナを再起動します。

Access Manager アンインストール後の作業

場合によっては、アンインストーラでは Access Manager ファイルの一部またはすべてが削除できないことがあります。その場合は、次の 2 つのディレクトリとその内容を削除して、最終的なクリーンアップを行います。

```
/opt/SUNWam
```

または、Access Manager をインストールした場所がデフォルトではない場合は、次のようにします。

```
AccessManager_base/SUNWam
```

Messaging Server アンインストール後の作業

場合によっては、アンインストーラではインストールファイルの一部またはすべてが削除されないことがあります。最終的なクリーンアップを行うには、Messaging Server のベースディレクトリとその内容を削除します。デフォルトのベースディレクトリは、次の場所です。

```
/opt/SUNWmsgsr
```

また、次の場所にある Messaging Server の設定ディレクトリも削除できます。

```
/var/opt/SUNWmsgsr
```

Messaging Server をアンインストールしたあと、Messaging Server 用の sendmail の設定をすべて元に戻してください。

アンインストール後の作業

トラブルシューティング

この章では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) のインストールとアンインストールの問題を解決する方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [357 ページの「トラブルシューティングの手法」](#)
- [363 ページの「インストールに関する問題」](#)
- [367 ページの「アンインストールに関する問題」](#)
- [370 ページの「Common Agent Container の問題」](#)
- [374 ページの「コンポーネントのトラブルシューティングのためのヒント」](#)

トラブルシューティングの手法

ここでは、Java ES のインストールおよびアンインストール時に、問題の原因を分析して特定するための一般的なガイドラインを紹介します。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- [358 ページの「インストールログファイルの検証」](#)
- [359 ページの「コンポーネントログファイルの検証」](#)
- [359 ページの「製品の依存関係の検証」](#)
- [360 ページの「リソースと設定のチェック」](#)
- [360 ページの「インストール後の設定のチェック」](#)
- [361 ページの「配布メディアのチェック」](#)
- [361 ページの「Directory Server の接続性チェック」](#)
- [362 ページの「パスワードの確認」](#)

- [362 ページ](#)の「コンポーネントのインストール状態の検証」
- [362 ページ](#)の「管理者アクセスの確認」

インストールログファイルの検証

問題がインストール時またはアンインストール時に発生した場合は、ログディレクトリ内の適切なログファイルを参照します。

Solaris の場合 : /var/sadm/install/logs

Linux の場合 : /var/opt/sun/install/logs

アンインストーラとインストーラのログファイル、および Java ES の設定ログとコンポーネントのログを調べることは、問題の原因の特定に役立ちます。たとえば、インストールログに記録されているパッケージと、アンインストールログに記録されているパッケージを比較することができます。

ほとんどのログには 2 つのバージョンがあります。

- ログファイルの A バージョンには完了が記録されます。
- ログファイルの B バージョンには、詳細なログメッセージが保存されます。

次の表は、ログファイルの形式を示しています。

表 13-1 Java ES ログファイル名の形式

| ログに記録される内容 | ログファイル名の形式 |
|--------------------------------|---|
| インストーラ : コンポーネント | Java_Enterprise_System_install.Atimestamp |
| | Java_Enterprise_System_install.Btimestamp |
| | Java_Enterprise_System_Config_Log.id |
| インストーラ : 共有コンポーネント アンインストーラ | Java_Enterprise_System_Shared_Component_Install.timestamp |
| | Java_Enterprise_System_uninstall.Atimestamp |
| | Java_Enterprise_System_uninstall.Btimestamp |
| インストールサマリー | Java_Enterprise_System_Config_Log.id |
| | Java_Enterprise_System_Summary_Report_install.timestamp |
| | Java_Enterprise_System_Summary_Report_uninstall.timestamp |

ログファイルをトラブルシューティングに使用するには、最初に発生した問題を特定します。それは、最初の問題が原因となって、次々と問題が引き起こされることがよくあるためです。次の手順を実行します。

1. インストールのサマリーファイルを参照します。このファイルには、何がインストールされ、設定されているかについての概要が記載されています。
問題が発生した場合は、どのコンポーネントが問題の原因であるかを確認します。複数の問題が発生している場合は、最初の問題を特定します。
2. 詳細なログファイルを参照します。
 - a. 最初に発生したエラーまたは警告を探して、解決を試みます。1つのエラーを解決すると、関連性がないように見える後続の多数のエラーも解決することがよくあります。
 - b. 問題の原因となっているコンポーネントまたはパッケージの名前を探します。

ログファイルによって、次に示すような、次の手順を見極めるためのヒントが与えられることがあります。

- 設定に問題がある場合は、設定のサマリーを参照して使用している設定を調べます。
- ディレクトリが競合している場合は、コンポーネントによって予約されているディレクトリを指定していないかどうかチェックします。

コンポーネントログファイルの検証

コンポーネントの起動時に問題が発生する場合は、ログファイルを調べます。[374 ページ](#)の「コンポーネントのトラブルシューティングのためのヒント」のリストに、コンポーネントのログファイルが多数示されています。

製品の依存関係の検証

多数のコンポーネントに、インストール時の相互依存関係があります。1つのコンポーネントに影響を与える問題は、別のコンポーネントにも影響を与える可能性があります。まず、[52 ページ](#)の「コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響」で説明されている内容をよく理解します。次に、次の項目をチェックします。

- サマリーファイルおよびログファイルを参照し、関連付けられている製品に問題が発生していないかどうか確認します。これにより、最初に解決すべきことの手がかりが得られる可能性があります。
- 正しい接続情報を指定しているかどうかチェックします。
例：
 - **Directory Server** の設定時に指定した情報は、**Directory Server** を使用するコンポーネントに指定したディレクトリ情報と一致しているか。

- Portal Server または Portal Server SRA に指定した Access Manager の情報は、Access Manager に指定した情報と一致しているか。

コンポーネントの相互依存関係のほかに、一部のコンポーネントは Solaris パッケージがインストールされているかどうかにも依存しています。パッケージがホストにインストールされていない場合、それが原因でインストールが失敗することがあります。詳細については、リリースノート「ソフトウェア要件」の節を参照してください。

リソースと設定のチェック

次のホストレベルの問題は、インストール時に問題を引き起こす可能性があります。

- **アップデート** : 推奨アップデート (パッチ) は適用されているか。
- **ディスク容量** : ディスクパーティションをどのように設定し、どのパーティションにインストールディレクトリを作成するか。インストールディレクトリ /var/sadm and /etc/opt、または独自に指定したデフォルト以外のディレクトリに、十分なディスクの空き容量が必要です。
- **ネットワークポート** : 設定時に、Java ES コンポーネントのポート番号を指定します。次の項目をチェックします。
 - /etc/services ファイルで標準ポート番号を調べる。
 - サマリーログファイルを参照し、標準の設定と比較する。ポート番号を誤って入力していないか、またはあるサーバーに対して通常は別のサーバーで使用するポートを設定していないか。
 - netstat -a コマンドを使用して、現在システムで使用しているポートを調べる。すでに他で使用中のポート番号を割り当てていないか。
- **IP アドレス** : 設定時に、IP アドレスを指定します。正しい IP アドレスを入力したかどうかチェックします。確認する必要があることがいくつかあります。
 - このシステムに複数のネットワークインターフェースがある場合、それぞれに独自の IP アドレスが指定されているか。
 - 高可用性設定において、論理ホストの IP アドレス、またはクラスタノードの IP アドレスを指定したか。

インストール後の設定のチェック

コンポーネントの起動に問題がある場合は、[第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)に略述されている手順を正しく行なったことを確認します。

配布メディアのチェック

DVD または CD からのインストールでは、メディアの汚れや損傷を調べます。ディスクに汚れがあると、インストール時に問題が発生する可能性があります。

Directory Server の接続性チェック

Directory Server に依存するコンポーネントをインストールする場合、次のいずれかの問題によって問題が発生する可能性があります。

- Directory Server に対して不正なユーザー ID およびパスワードを指定した。
- 不正な LDAP ポートを指定した。
- Directory Server に接続できない。

インストーラを対話モードで実行するとインストール時に Directory Server の接続性がチェックされますが、サイレントモードではチェックされません。Directory Server を利用できない状態でサイレントインストールを実行すると、Access Manager または Portal Server のインストールが失敗する可能性があります。

Web Server のファイルおよびディレクトリの削除

編集済みの設定ファイルなど、カスタマイズされたファイルの上書きを防ぐために、そのファイルが格納されるディレクトリには Web Server をインストールできません。

Web Server を再インストールする場合、インストールディレクトリをチェックして、それが空であることを確認します。空ではない場合は、どこか別の場所にファイルをアーカイブしてからインストールを再試行します。

パスワードの確認

インストーラは、コンポーネントごとにパスワードの入力を求めます。複数のホストに複数のコンポーネントをインストールする場合、各ホストで正しいパスワードを入力することが重要です。

パスワードの問題を解決するには、いったんアンインストールしてから再インストールすることが必要となる場合があります。アンインストールに失敗した場合は、[363 ページの「アンインストール時に残されたファイルによるインストールの失敗」](#)を参照してください。

コンポーネントのインストール状態の検証

コンポーネントをインストールしたものの問題があり、再インストールまたはアンインストールを実行できない場合は、Solaris の `pkginfo` コマンドまたは Linux の `rpm` コマンドを使用して、インストールしたパッケージを調べます。結果を [413 ページの付録 F 「インストール可能なパッケージの一覧」](#) に示されている Java ES パッケージのリストと比較し、どの製品がアンインストールされていないかを確認します。補足情報が [363 ページの「アンインストール時に残されたファイルによるインストールの失敗」](#) にあります。

ヒント Solaris 9 と Solaris 10 では、`prodreg` ツールを使用することもできます。このツールは、製品レジストリへのグラフィカルインタフェースを提供し、`pkg` ユーティリティの代わりに、各コンポーネントおよびそのパッケージの両者への索引付けをします。`prodreg` を起動するには、コマンド行でこのコマンド名を入力します。詳細については、`prodreg(1)` マニュアルページを参照してください。

管理者アクセスの確認

[344 ページの「アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与」](#) で説明したように、アンインストール時に管理者アクセス権をアンインストーラに付与しなければならないことがあります。アンインストール時に指定したユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

インストールに関する問題

ここでは、インストール時に発生する可能性のある次の問題について説明します。

- 「アンインストール時に残されたファイルによるインストールの失敗」
- 364 ページの「IBM WebSphere を Portal Server の Web コンテナとして設定できない」
- 365 ページの「予期せぬ外部エラーが発生する」
- 366 ページの「グラフィカルインストーラが応答しない」
- 366 ページの「サイレントインストールの失敗: 状態ファイルに互換性がない、または破損している」
- 367 ページの「サイレントインストールに失敗した」
- 367 ページの「マニュアルページが表示されない」

アンインストール時に残されたファイルによるインストールの失敗

アンインストールが失敗すると、コンポーネントやパッケージが削除されずに残されることがあります。このような場合、Java ES を再インストールする前に、コンポーネントやパッケージを手動で削除する必要があります。この問題には、次のものが該当します。

- アンインストーラで問題が発生し、アンインストールに失敗したパッケージの名前が表示される。
- 一度削除したコンポーネントをインストールしようとしたが、インストーラはそのコンポーネントがすでにインストールされていることを示す。

▶ 部分的なインストールのクリーンアップ

1. 次のコマンドを使用して、一部だけがインストールされたパッケージがないかどうか調べます。

Solaris の場合：

```
pkginfo -p
```

Linux の場合：

```
rpm -qa |grep sun | xargs rpm -V
```

コマンドの出力で、一部だけがインストールされたパッケージのリストが表示されます。付録 F 「インストール可能なパッケージの一覧」を参照し、返されたパッケージ名から、パッケージが属しているコンポーネントを調べます。

2. コンポーネントまたはパッケージを削除します。
 - Solaris 9 または Solaris 10 では、`prodreg` というツールを使用します。

`prodreg` ツールを使用すると、ホスト上のパッケージベースのコンポーネントを管理できます。各コンポーネントとそのパッケージについて、相互依存関係を含む完全な情報を参照できます。`prodreg` ツールを使用して、安全にコンポーネントをアンインストールし、パッケージを削除することができます。`prodreg` ツールでコンポーネントを削除すると、再インストールできるようになります。
 - Solaris 8 では、`pkgrm` コマンドを使用します。

`pkgrm` コマンドを使用すると、コンポーネントはパッケージごとにとまとめて削除されます。このコマンドによって、製品のレジストリが更新されることはありません。コマンド実行後の状況に応じて、アーカイブされた製品のレジストリファイルを復元することも、削除されたコンポーネントを参照しないように、手動で製品のレジストリファイルを編集することもできます。

製品のレジストリファイルを編集するには、`/var/sadm/install/productregistry` ファイルを開きます。この XML ファイルには、各コンポーネントの説明があります。各コンポーネントの説明は、`<compid>` タグで始まり、`</compid>` タグで終わります。コンポーネントのエントリ全体を削除します。
 - Linux では、`rpm -e` コマンドを使用します。

製品のレジストリファイルを編集するには、`/var/opt/sun/install/productregistry` ファイルを開きます。この XML ファイルには、各コンポーネントの説明があります。各コンポーネントの説明は、`<compid>` タグで始まり、`</compid>` タグで終わります。コンポーネントのエントリ全体を削除します。
3. Web Server のインストールディレクトリが存在する場合は、それを削除します。
4. インストーラをもう一度実行します。

IBM WebSphere を Portal Server の Web コンテナとして設定できない

WebSphere を実行していない、または WebSphere のネイティブ設定と一致しない WebSphere 値を指定したことが原因として考えられます。この問題の解決には、次の 2 つの方法があります。

設定のチェック

1 つの方法は、WebSphere インスタンスの設定をチェックすることです。

1. WebSphere が実行されていることを確認します。
2. 次のインストーラフィールドの値を調べます。
 - WebSphere 仮想ホスト (状態ファイルの PS_IBM_VIRTUAL_HOST)
 - Application Server 名 (状態ファイルの PS_IBM_APPSERV_NAME)
3. WebSphere ツールで設定をチェックし、これらの値と一致する値を確実に入力します。
4. 再試行します。

新しいインスタンスの作成

もう1つの方法は、WebSphere エンティティの新しいインスタンスを作成することです。

1. `adminclient.sh` を使用して、WebSphere コンソールを起動します。
2. 新しい仮想ホストのインスタンスおよび新しい Application Server のインスタンス名を作成します。
3. ノード (通常はホスト名) の下のエントリをクリックし、Regen WebServer Plugin を選択します。

このプロセスにより、plugin 設定ファイルに新しいエントリが保存されます。インストーラによって、その正式名称がチェックされます。
4. インストーラに戻り、作成した値を入力します。

予期せぬ外部エラーが発生する

電源障害またはシステム障害が発生した可能性があります。または CTRL/C を入力して、インストーラのプロセスを停止した可能性もあります。

推奨される解決方法: インストール中または設定プロセスで障害が発生した場合は、おそらく一部だけがインストールされたままになっています。インストーラを実行します。アンインストールに失敗した場合は、[368 ページの「アンインストールが失敗し、ファイルが削除されずに残った」](#)の手順を実行します。

グラフィカルインストーラが応答しない

イメージが入力を受け付けるようになる前に、インストーラによって画面上にイメージが作成されることがあります。待ちきれずにインストールウィザードで何度も「次へ」をクリックすることは避けてください。

推奨される解決方法：デフォルトの選択肢を表すボタンには、青い四角形が表示されます。この四角形は、ボタンが表示されたあとに表示されることがあります。ボタンをクリックするときは、青い四角形が表示されるまで待ってください。

サイレントインストールの失敗：状態ファイルに互換性がない、または破損している

使用しているプラットフォームで作成された状態ファイルを使用している場合、ファイルが壊れ、原因不明であるというエラーが発生する可能性があります。この問題の解決には、次の2つの方法があります。

新しい状態ファイルの生成

- サイレントインストールを実行しているのと同じプラットフォームで状態ファイルを作成した場合は、新しい状態ファイルを生成して再インストールします。
- 別のプラットフォームまたは別のバージョンで作成した状態ファイルを使用している場合、問題は、その状態ファイルが、作成したときと同じタイプのプラットフォームだけで実行できることです。たとえば、状態ファイルを Solaris 9 で作成した場合、そのファイルは Solaris 8 では使用できません。また、x86 プラットフォームで作成した状態ファイルは、Sparc プラットフォームでは使用できません。

プラットフォームに適した新規 ID の作成

状態ファイルを作成したプラットフォームが、サイレントインストールを実行しているプラットフォームと異なる場合、状態ファイルに対してプラットフォームに適した ID を新たに作成します。この方法については、[264 ページの「プラットフォームに適した状態ファイル ID の作成」](#)を参照してください。

サイレントインストールに失敗した

状態ファイルを編集した場合、それによってエラーが発生した可能性があります。次の点をチェックし、[260 ページ](#)の「[状態ファイルの作成](#)」に説明されている方法で状態ファイルを再生成します。

- すべてのローカルホストパラメータが設定され、矛盾のない値が設定されているか。
- パラメータ値の大文字、小文字の区別は適切か。
- 目的のパラメータを入力せずに、必須のパラメータを削除してしまっていないか。
- 使用するすべてのポート番号は有効であり、かつ割り当て済みではないか。

マニュアルページが表示されない

この問題が起きる場合、たいていはインストールしたコンポーネントの MANPATH 環境変数が正しく設定されていないことが原因です。[270 ページ](#)の「[MANPATH の設定](#)」を参照してください。

アンインストールに関する問題

ここでは、アンインストール時に発生する可能性のある次の問題について説明します。

- 「[アンインストーラが見つからない](#)」
- [368 ページ](#)の「[アンインストールが失敗し、ファイルが削除されずに残った](#)」
- [370 ページ](#)の「[製品レジストリが破損している](#)」

アンインストーラが見つからない

Java ES のインストールプログラムは、システム上の次の場所に `uninstall` (アンインストーラ) を格納します。

```
/var/sadm/prod/entsys/
```

アンインストーラがこのディレクトリにない場合は、次のいずれかの原因が考えられます。

- このホストには **Java ES** がインストールされていない。
- **Java ES** アンインストーラは、すでにアンインストーラを含むすべてのコンポーネントをこのホストから削除している。

アンインストール時に、どの **Java ES** コンポーネントもホストに存在しないことを検出すると、アンインストーラはアンインストーラ自身をもアンインストールします。

- 失敗したインストールの実行中に、次のいずれかの状況が生じた。
 - アンインストーラがホストにインストールされなかった。
 - アンインストーラは削除されたが、一部の **Java ES** コンポーネントはホストに残された。

推奨される解決方法 : [368 ページの「アンインストールが失敗し、ファイルが削除されずに残った」](#) に示されている手順を実行し、システムを手動でクリーンアップします。

アンインストールが失敗し、ファイルが削除されずに残った

アンインストーラがファイルまたはプロセスを削除できなかったために手動クリーンアップが必要となった場合は、次の手順を実行し、システムからパッケージを削除します。

▶ 手動でのパッケージのクリーンアップ

1. 削除が必要なパッケージを特定します。

システム上のパッケージと、[413 ページの付録 F 「インストール可能なパッケージの一覧」](#) に記載されている **Java ES** パッケージのリストと比較します。インストールされているパッケージを特定するには、**Solaris** の `pkginfo` または `prodreg` ユーティリティ、あるいは **Linux** の `rpm` コマンドを使用できます ([363 ページの「アンインストール時に残されたファイルによるインストールの失敗」](#) を参照)。

2. **Java ES** コンポーネントの実行中のプロセスをすべて停止します。

プロセスを停止する手順の要約については、[303 ページの第 11 章「コンポーネントの起動と停止」](#)を参照してください。各コンポーネントの情報、およびそのコンポーネントのドキュメントへのリンクは、[374 ページの「コンポーネントのトラブルシューティングのためのヒント」](#)に記載されています。

3. 以後のインストールで再利用を考えているカスタム設定データとユーザーデータをすべてバックアップします。

[329 ページの「Java ES コンポーネントのアンインストール動作の確認」](#)には、バックアップが必要な設定データとユーザーデータに関する情報が記載されています。詳細については、各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

4. `pkgrm` または `rpm -e` コマンドを使用して、Java ES コンポーネントパッケージを削除します。
5. 以後のインストールで使用しない、残されているコンポーネントディレクトリとその内容をすべて削除します。これらのディレクトリをあとで利用する場合は、別の場所に移動します。
6. 次の場所にある製品レジストリファイルを更新します。

Solaris の場合：`/var/sadm/install/productregistry`

Linux の場合：`/var/opt/sun/install/productregistry`

アンインストーラはこのレジストリを使用して、ホストにインストールされているコンポーネントを特定します。インストーラとアンインストーラは、インストールまたはアンインストールの完了時に製品レジストリを更新します。

| | |
|----------|--|
| 注 | アンインストーラを使用せずに、パッケージを手動で削除した場合は、システムにインストールされているソフトウェアを製品レジストリが正しく反映するように、このファイルを手動で更新する必要があります。 |
|----------|--|

7. 次の場所にあるシステムのログファイルをクリーンアップします。

Solaris の場合：`/var/sadm/install/logs`

Linux の場合：`/var/opt/sun/install/logs`

ログファイルは、パッケージを手動削除したあとのシステムの状態を正しく反映していない可能性があります。

製品レジストリが破損している

アンインストール時に、アンインストーラは製品レジストリファイルを使用して、アンインストールが必要な要素を特定します。

Solaris の場合 : /var/sadm/install/productregistry

Linux の場合 : /var/opt/sun/install/productregistry

- アンインストーラが失敗した場合は、バックアップコピーから製品レジストリを復元してからアンインストールを再実行しなければならないことがあります。
- パッケージを手動で削除した場合、製品レジストリは自動更新されません。製品レジストリがシステムの状態を正しく反映していないために、後でアンインストーラを実行したときに問題が生じる可能性があります。このような場合は、再インストールを行ってから、アンインストーラを再実行します。

Common Agent Container の問題

ここでは、Common Agent Container の共有コンポーネントに関連して起きる可能性のある次の問題について説明します。

- [370 ページの「ポート番号の競合」](#)
- [372 ページの「ルートパスワードの安全性が危惧される場合」](#)
- [373 ページの「ロックファイルに関するエラー通知」](#)

ポート番号の競合

Java ES 内部の Common Agent Container は、デフォルトで次のポート番号を占有します。

- JMX ポート (TCP) = 10162
- SNMP アダプタポート (UDP) = 10161
- トラップ用 SNMP アダプタポート (UDP) = 10162
- Commandstream アダプタポート (TCP) = 10163

上記のポート番号のいずれかがすでにインストール時に予約されている場合は、Common Agent Container が占有するポート番号を次のようにして変更します。

Solaris の場合 :

1. ルートとして、Common Agent Container 管理デーモンを停止します。

```
# /opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm stop
```

2. 次の構文を使用して、ポート番号を変更します。

```
# /opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm set-param param=value
```

たとえば、SNMP アダプタが占有するポートをデフォルトの 10161 から 10165 に変更するには、次のようにします。

```
# /opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm set-param snmp-adaptor-port=10165
```

3. Common Agent Container 管理デーモンを再起動します。

```
# /opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm start
```

Linux の場合:

1. ルートとして、Common Agent Container 管理デーモンを停止します。

```
# /opt/sun/cacao/bin/cacaoadm stop
```

2. 次の構文を使用して、ポート番号を変更します。

```
# /opt/sun/cacao/bin/cacaoadm set-param param=value
```

たとえば、SNMP アダプタが占有するポートを 10161 から 10165 に変更するには、次のようにします。

```
# /opt/sun/cacao/bin/cacaoadm set-param snmp-adaptor-port=10165
```

3. Common Agent Container 管理デーモンを再起動します。

```
# /opt/sun/cacao/bin/cacaoadm start
```

Common Agent Container の cacaoadm コマンドの詳細については、cacaoadm マニュアルページを参照してください。このマニュアルページをコマンド行に表示できない場合は、MANPATH が正しく設定されているか確認します。[270 ページの「MANPATH の設定」](#)を参照してください。

ルートパスワードの安全性が危惧される場合

Java ES が稼働するホストで、セキュリティキーを再生成することが必要になる場合があります。たとえば、ルートパスワードが他の人に知られたおそれがあり、安全性が危うくなっている場合には、セキュリティキーを再生成することが必要です。

Common Agent Container サービスによって使用されるキーは、次の場所に格納されています。

Solaris の場合 : /etc/opt/SUNWcacao/security

Linux の場合 : /etc/opt/sun/cacao/security

通常の操作条件では、これらのキーはデフォルトの設定のままにかまいません。キーの安全性が危うくなったために、キーを再生成することが必要な場合は、次の手順でセキュリティキーを再生成できます。

Solaris の場合 :

1. ルートとして、Common Agent Container 管理デーモンを停止します。
/opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm stop
2. セキュリティキーを再生成します。
/opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm create-keys --force
3. Common Agent Container 管理デーモンを再起動します。
/opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm start

Linux の場合 :

1. ルートとして、Common Agent Container 管理デーモンを停止します。
/opt/sun/cacao/bin/cacaoadm stop
2. セキュリティキーを再生成します。
/opt/sun/cacao/bin/cacaoadm create-keys --force
3. Common Agent Container 管理デーモンを再起動します。
/opt/sun/cacao/bin/cacaoadm start

注 Sun Cluster の場合は、この変更をクラスタ内のすべてのノードに伝達する必要があります。詳細については、『Sun Cluster System Administration Guide』(<http://docs.sun.com/doc/817-6546>) を参照してください。

cacaoadm コマンドの詳細については、cacaoadm マニュアルページを参照してください。

ロックファイルに関するエラー通知

cacaoadm サブコマンドを実行したところ、別のユーザーがまったく同時に何かのコマンドを実行しているということもありえます。しかし、cacaoadm サブコマンドは一度に1つしか実行できません。

Solaris の場合、次のエラーメッセージが生成されます。

```
If cacaoadm daemon is running, it is busy executing another command.  
Otherwise remove lock file /var/opt/SUNWcacao/run/lock
```

Linux の場合、次のエラーメッセージが生成されます。

```
If cacaoadm daemon is running, it is busy executing another command.  
Otherwise remove lock file /var/opt/sun/cacao/run/lock.
```

この通知メッセージを受け取ったときにまず行うとよいことは、少し待ってから再試行することです。

再試行しても同じ通知メッセージを受け取る時には、ロックファイルが **Common Agent Container** 管理デーモンによって削除されていない可能性があります。障害発生時にそのようになることがあります。ロックファイルがあるために、それ以後 cacaoadm サブコマンドは実行できません。

エラーメッセージに示されている場所からロックファイルを削除します。

コンポーネントのトラブルシューティングのためのヒント

ここでは、コンポーネントについてのさまざまなヒントを提供し、役立つマニュアルを紹介します。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 375 ページの「[Access Manager のトラブルシューティングツール](#)」
- 375 ページの「[管理サーバーのトラブルシューティングツール](#)」
- 376 ページの「[Application Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 376 ページの「[Calendar Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 377 ページの「[Communications Express のトラブルシューティングツール](#)」
- 378 ページの「[Directory Proxy Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 378 ページの「[Directory Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 379 ページの「[Instant Messaging のトラブルシューティングツール](#)」
- 379 ページの「[Message Queue のトラブルシューティングツール](#)」
- 379 ページの「[Messaging Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 380 ページの「[Portal Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 380 ページの「[Portal Server Secure Remote Access のトラブルシューティングツール](#)」
- 381 ページの「[Sun Cluster ソフトウェアのトラブルシューティングツール](#)」
- 381 ページの「[Sun Remote Services Net Connect のトラブルシューティングツール](#)」
- 382 ページの「[Web Server のトラブルシューティングツール](#)」
- 383 ページの「[トラブルシューティングの追加情報](#)」

Access Manager のトラブルシューティングツール

表 13-2 Access Manager のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-----------------|---|
| 設定ファイル | AMConfig.properties Solaris: /etc/opt/SUNWam/config Linux: /etc/opt/sun/identity/config |
| ログファイルとデバッグファイル | ログファイルのディレクトリ : <ul style="list-style-type: none"> • Solaris: /var/opt/SUNWam/logs • Linux: /var/opt/sun/identity/logs デバッグファイルのディレクトリ : <ul style="list-style-type: none"> • Solaris: /var/opt/SUNWam/debug • Linux: /var/opt/sun/identity/debug |
| デバッグモード | 『Sun Java System Access Manager Developer's Guide』(http://docs.sun.com/doc/817-7649) の「Auditing Features」の章を参照してください。 |

管理サーバーのトラブルシューティングツール

表 13-3 管理サーバーのトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|--|
| ログファイル | インストールログのディレクトリ : <ul style="list-style-type: none"> • <i>AdministrationServer-base/admin-serv/logs/</i> 設定ログファイル : <ul style="list-style-type: none"> • <i>Administration_Server_install.Atimestamp</i> • <i>Administration_Server_install.Btimestamp</i> ログのオプションについては、『Sun Java System Administration Server Administration Guide』(http://docs.sun.com/doc/817-7612) を参照してください。 |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Administration Server Administration Guide』(http://docs.sun.com/doc/817-7612) を参照してください。 |

Application Server のトラブルシューティングツール

表 13-4 Application Server のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|--|
| ログファイル | <p>ログファイルのディレクトリ :</p> <p>Solaris: /var/sadm/install/logs/ Linux: /var/opt/sun/install/logs/</p> <p>Application Server インスタンスのログディレクトリ (最初に作成するインスタンスのデフォルトの場所):</p> <p>Solaris: /var/opt/SUNWappserver/domain/domain1/logs Linux: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/logs</p> <p>メッセージログのファイル名 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • server.log (サーバーインスタンスごとに存在する) |
| 設定ファイル | 設定ファイルのディレクトリ :/var |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Application Server Enterprise Edition Troubleshooting Guide』(http://docs.sun.com/doc/819-0086) を参照してください。 |

Calendar Server のトラブルシューティングツール

表 13-5 Calendar Server のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|--------|--|
| ログファイル | <p>管理サービス (csadmin):admin.log 分散データベースサービス (csdwpd):dwp.log HTTP サービス (cshttpd):http.log イベント通知サービス (csnotifyd):notify.log Calendar バックアップサービス (csstored):store.log</p> <p>デフォルトのログディレクトリ :/var/opt/SUNWics5/logs</p> <p>詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja) を参照してください。</p> |
| 設定ファイル | /opt/SUNWics5/cal/config/ics.conf |

表 13-5 Calendar Server のトラブルシューティングツール (続き)

| 項目 | 詳細 |
|-------------|---|
| デバッグモード | <p>デバッグモードを使用するには、Calendar Server の管理者が <code>ics.conf</code> ファイルで <code>logfile.loglevel</code> 設定パラメータを設定します。</p> <p>例:</p> <pre>logfile.loglevel = "debug"</pre> <p>詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja) を参照してください。</p> |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1476?l=ja) を参照してください。 |

Communications Express のトラブルシューティングツール

表 13-6 Communications Express のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|---|
| ログファイル | <p>デフォルトのログファイル: <code>uwc-deployed-path/logs/uwc.log</code></p> |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1065?l=ja) の「障害追跡」の章を参照してください。 |

Directory Proxy Server のトラブルシューティングツール

表 13-7 Directory Proxy Server のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|---|
| ログファイル | デフォルトのログファイル: <code>dps_svr_base/dps-hostname/logs/fwd.log</code> 詳細については、『Sun Java System Directory Proxy Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-2016?l=ja) を参照してください。 |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Directory Proxy Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-2016?l=ja) を参照してください。 |

Directory Server のトラブルシューティングツール

表 13-8 Directory Server のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|--|
| ログファイル | インストールログファイル: Solaris: <code>/var/sadm/install/logs</code> Linux: <code>/var/opt/sun/install/logs</code> 設定ログファイル: <ul style="list-style-type: none"> • <code>Directory_Server_install.Atimestamp</code> • <code>Directory_Server_install.Btimestamp</code> ログファイルの管理については、『Sun Java System Directory Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-2011?l=ja) を参照してください。 |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Directory Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-2011?l=ja) を参照してください。 |

Instant Messaging のトラブルシューティングツール

Instant Messaging のトラブルシューティングについては、クライアントオンラインヘルプと『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja>) を参照してください。

Message Queue のトラブルシューティングツール

表 13-9 Messaging Queue のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|---|
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』の「問題のトラブルシューティング」の章、および MQ Forum を参照してください。MQ Forum の URL は次のとおりです。 http://swforum.sun.com/jive/forum.jspa?forumID=24 また、 http://developers.sun.com/prodtech/msgqueue/reference/techart/index.html からアクセスできる知識データベースにも関連記事が掲載されています。 |
| パフォーマンス | 『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-2217?l=ja) の「メッセージングサービスの分析と調整」の章を参照してください。 |

Messaging Server のトラブルシューティングツール

表 13-10 Messaging Server のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|--|
| 実行ファイルの場所 | /opt/SUNWmsgsr/sbin |
| ログファイル | MessagingServer-base/data/log |
| トラブルシューティング | 『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1054?l=ja) を参照してください。 |

Portal Server のトラブルシューティングツール

- Portal Server では、Access Manager と同じログファイルおよびデバッグファイルを使用します。これらのディレクトリは、次のとおりです。
 - ログファイルのディレクトリ：
 - Solaris: /var/opt/SUNWam/logs
 - Linux: /var/opt/sun/identity/logs
 - デバッグファイルのディレクトリ：
 - Solaris: /var/opt/SUNWam/debug
 - Linux: /var/opt/sun/identity/debug

Portal Server のログファイルとデバッグファイルの管理については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/817-7298?l=ja>) を参照してください。

- Portal Server デスクトップの場合、デバッグファイルは次の debug ディレクトリにあります。
 - desktop.debug
 - desktop.dpadmin.debug

これらのファイルの管理については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/817-7298?l=ja>) を参照してください。

ヒント dpadmin、par、rdmgr、および sendrdm という Portal Server コマンド行ユーティリティには、デバッグメッセージを生成するためのオプションがあります。それらのオプションについては、『Portal Server 管理ガイド』を参照してください。

Portal Server Secure Remote Access のトラブルシューティングツール

Portal Gateway のデバッグログは次のディレクトリに格納されます。

- Solaris: /var/opt/SUNWps/debug
- Linux: /var/opt/sun/portal/debug

注 Access Manager 管理コンソールからロギングをオンにした場合、NetFile などの Portal Server サービスのログは /var/opt/SUNWam/debug に作成されます。

Sun Cluster ソフトウェアのトラブルシューティングツール

表 13-11 Sun Cluster ソフトウェアのトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|-------------|--|
| ログファイル | デフォルトのログディレクトリ : /var/cluster/logs/install エラーメッセージ : /var/adm/messages |
| トラブルシューティング | 『Sun Cluster Software Installation Guide for Solaris OS』 (http://docs.sun.com/doc/817-6543) を参照してください。 |

Sun Remote Services Net Connect のトラブルシューティングツール

SunSM Remote Services (SRS) Net Connect のトラブルシューティングについては、『Sun Remote Services Net Connect 3.1.1 Activation Guide』(<http://docs.sun.com/doc/819-0619>) の「Troubleshooting」の章を参照してください。

インストール後の SRS Net Connect の使用とトラブルシューティングに関する補足資料が、次のサイトにあります。

<https://srsnetconnect.sun.com>

ログインして、次のマニュアルを取得してください。

- Sun Remote Services Net Connect 3.1.1 Customer Operations Guide
- Sun Remote Services Net Connect 3.1.1 FAQ

Web Server のトラブルシューティングツール

表 13-12 Web Server のトラブルシューティングツール

| 項目 | 詳細 |
|----------------|---|
| ログファイル | <p>Web Server のログファイルには、errors ログファイルと access ログファイルの 2 種類があり、どちらも次のディレクトリに格納されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris: /opt/SUNWwbsvr/https-instance_name/logs • Linux: /opt/sun/webserver/https-instance_name/logs <p>errors ログファイルには、サーバーで発生したすべてのエラーがリストされます。access ログファイルには、サーバーに対する要求と、サーバーからの応答に関する情報が記録されます。詳細については、『Sun One Web Server 6.1 管理者ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-0822?l=j) を参照してください。</p> |
| トラブルシューティング | <p>『Sun One Web Server 6.1 Installation and Migration Guide』(http://docs.sun.com/doc/819-0131) を参照してください。</p> |
| 設定ファイルのディレクトリ: | <p>/opt/SUNWwbsvr/https-instance-name/config</p> |
| デバッグモード | <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログ出力は、診断とデバッグに利用できる可能性があります。 /server_root/https-instance_name/config/server.xml ファイルの LOG 要素にある loglevel の値を info、fine、finer、または finest に設定できます。これらの値は、デバッグメッセージの詳細度を示し、finest で詳細度が最大になります。LOG 要素の詳細については、『Sun ONE Web Server Administrator's Configuration File Reference』(http://docs.sun.com/doc/817-6248) を参照してください。 • デバッグフラグを有効化してサーバーの Web コンテナをデバッグモードで起動し、JPDA (Java Platform Debugger Architecture) デバッガとの連携準備を整えることができます。これを行うには、/instance_root/https-server_name/config/server.xml ファイルの JAVA 属性にある jvm.debug フラグの値を true に設定します。詳細については、『Sun ONE Web Server Administrator's Configuration File Reference』(http://docs.sun.com/doc/817-6248) を参照してください。 • Sun Java System Studio 5, Standard Edition のプラグインは、Web アプリケーションのデバッグに利用できます。詳細については、『Sun ONE Web Server Programmer's Guide to Web Applications』(http://docs.sun.com/doc/817-6251) を参照してください。 |

トラブルシューティングの追加情報

このマニュアルに記載されている次の情報も、トラブルシューティングに役立ちます。

- [53 ページの表 2-2](#) には、コンポーネントの相互依存関係に関する情報が記載されています。
- [第 10 章「インストール後のコンポーネントの設定」](#)
- [303 ページの第 11 章「コンポーネントの起動と停止」](#)

コンポーネントのトラブルシューティングのためのヒント

インストールリファレンス

付録 A 「Java Enterprise System コンポーネント」

付録 B 「デフォルトのインストールディレクトリ」

付録 C 「デフォルトのポート番号」

付録 D 「インストールコマンド」

付録 E 「状態ファイルの例」

付録 F 「インストール可能なパッケージの一覧」

Java Enterprise System コンポーネント

この付録では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアに含まれる選択可能な共有コンポーネントの一覧を示します。

選択可能なコンポーネント

Java ES インストーラの「コンポーネントの選択」ページでは、選択可能なコンポーネントが、支援するサービス別にグループ分けされています。コンポーネントのインストール時とともにインストールされるサブコンポーネントは、それぞれ次のとおりです。

通信サービスと共同作業サービス

- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q1
- Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1
 - Instant Messaging Server コア (サーバーとマルチプレクサソフトウェアを含む)
 - Instant Messaging リソース
 - Access Manager Instant Messaging Service
- Sun Java System Portal Server 6 2005Q1
- Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1
 - Secure Remote Access コア
 - ゲートウェイ
 - Netlet プロキシ
 - Rewriter プロキシ
- Sun Java System Communications Express 6 2005Q1

- Sun Java System Directory Preparation Script

Web サービスとアプリケーションサービス

- Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q1

- ドメイン管理サーバー
- Application Server ノードエージェント
- コマンド行管理ツール
- ロードバランSPラグイン

Web Server 6 または Apache Web Server 1.3.27 以上のいずれかで使用できます。設定時に選択可能です。デフォルトは Web Server です。

- PointBase
- サンプルアプリケーション
- Sun Java System Web Server 6 SP4 2005Q1
- Sun Java System Message Queue 3 2005Q1 Enterprise Edition

ディレクトリサービスとアイデンティティサービス

- Sun Java System Access Manager 6 2005Q1

Calendar Server と Messaging Server の Delegated Administrator プロビジョニングツールは、Access Manager インストール時に自動的にインストールされます。

- アイデンティティ管理とポリシーサービスコア (Delegated Administrator を含む)
- Access Manager 管理コンソール
- 連携管理の共有ドメインサービス
- Access Manager SDK
- Sun Java System Directory Server 5 2005Q1
- Sun Java System Directory Proxy Server 5 2005Q1

可用性サービス

- Sun Cluster 3.1 9/04
 - Sun Cluster コア
- Sun Java System 用 Sun Cluster エージェント
 - HA/Scalable Sun Java System Web Server
 - HA Sun Java System Application Server
 - HA Sun Java System Message Queue
 - HA Sun Java System Calendar Server

- HA Sun Java System Administration Server
- HA Sun Java System Directory Server
- HA Sun Java System Messaging Server
- HA Sun Java System Application Server EE (HADB)
- High Availability Session Store (HADB)

管理サービス

- Sun Java System Administration Server 5 2005Q1
- SunSM Remote Services Net Connect 3.1.1

注 Sun Cluster ソフトウェアと Sun Cluster Agents は、Solaris 10 または Linux のオペレーティングシステムでは利用できません。

SunSM Remote Services Net Connect は、Solaris x86 または Linux プラットフォームでは利用できません。

共有コンポーネント

共有コンポーネントは、選択可能なコンポーネントにローカルサービスとテクノロジーサポートを提供します。Java ES コンポーネントをインストールすると、そのコンポーネントに必要な共有コンポーネントがインストールされていない場合に、インストーラは自動的にそれらの共有コンポーネントをインストールします。

このリリースの Java ES には、次の共有コンポーネントが含まれています。

- Ant (Jakarta ANT Java/XML ベースの構築ツール)
- Apache SOAP (Simple Object Access Protocol) Runtime
- Berkeley DB
- Common Agent Container
- ICU (International Components for Unicode)
- J2SE™ (Java 2 Platform, Standard Edition) プラットフォーム 5.0
- JAF (JavaBeans™ Activation Framework)
- JATO (Java Studio Enterprise Web Application Framework)
- JavaHelp™ Runtime
- JavaMail™ Runtime
- JAXB (Java Architecture for XML Binding) Runtime

- JAXM (Java API for XML Messaging) Client Runtime
- JAXP (Java API for XML Processing)
- JAXR (Java API for XML Registries) Runtime
- JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call) Runtime
- JCAPI (Java Calendar API)
- JDMK (Java Dynamic Management™ Kit) Runtime
- JSS (Java Security Services)
- KTSE (KT Search Engine)
- LDAP C SDK
- LDAP Java SDK
- NSPR (Netscape Portable Runtime)
- NSS (Network Security Services)
- Perl LDAP (NSPERL を含む)
- SAAJ (SOAP with Attachments API for Java)
- SAML (Security Assertions Markup Language)
- SASL (Simple Authentication and Security Layer)
- SNMP (Simple Network Management Protocol) Peer
- Sun Explorer Data Collector (Solaris OS のみ)
- Sun Java Monitoring Framework
- Sun Java Web コンソール
- Tomcat サブレット JSP コンテナ
- XML C Library (libxml)
- WSCL (Web サービス共通ライブラリ)

デフォルトのインストールディレクトリ

Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラは、特に指定されない限り、コンポーネントを自動的にデフォルトのディレクトリにインストールします。通常は、「今すぐ設定」オプションを使用すると、デフォルトの場所を別の場所に変更できます。

次のコンポーネントのインストールディレクトリには制限があります。

- **Directory Server:** Directory Server のインストール場所は指定できません。ただし、Directory Server ランタイム設定データの場所は指定できます。
- **Portal Server Secure Remote Access:** Portal Server Secure Remote Access コアは、Portal Server と同じ場所にインストールする必要があります。
- **Sun Cluster ソフトウェア、Sun Java System 用 Sun Cluster エージェント:** インストールディレクトリの場所を変更することはできません。
- **Message Queue:** インストールディレクトリの場所を変更することはできません。

次の表は、Java ES コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリのリストを記載しています。

表 B-1 デフォルトのインストールディレクトリ

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | デフォルトディレクトリ | コメント |
|--|--|---|
| Access Manager CMN_IS_INSTALLDIR | Solaris: /opt /SUNWam Linux: /opt/sun/identity | |
| Application Server CMN_AS_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWappserver/appserver Linux: /opt/sun/appserver | Application Server のユーティリティ、実行ファイル、およびライブラリが保存されます。 |
| Application Server ドメイン CMN_AS_DOMAINSDIR | Solaris: /var/opt/SUNWappserver/domains Linux: /var/opt/sun/appserver/domains | 管理ドメインが作成されるデフォルトの領域。 |

表 B-1 デフォルトのインストールディレクトリ (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | デフォルトディレクトリ | コメント |
|--|---|--|
| Calendar Server CMN_CS_INSTALLDIR | Solaris: /opt Linux: /opt/sun | |
| Communications Express CMN_UWC_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWuwc Linux: /opt/sun/uwc | |
| Directory Preparation Script | Solaris: /opt/SUNWcomds Linux: /opt/sun/comms/dssetup | |
| Directory Proxy Server CMN_DPS_INSTALLDIR | Solaris: / Linux: /opt/sun | |
| Directory Server、サーバールート CMN_DS_SERVER_ROOT | Solaris: /var/opt/mps/serverroot Linux: /var/opt/sun/directory-server | |
| HADB CMN_HADB_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWhadb Linux: /opt/SUNWhadb | HADB のインストール場所は、JES インストール時には再配置できません。 |
| | Solaris: /var/opt/SUNWhadb Linux: /var/opt/SUNWhadb | HADB のリポジトリデータとログの場所。 |
| | Solaris: /etc/opt/SUNWhadb Linux: /etc/opt/SUNWhadb | HADB 管理エージェント設定ファイル |
| | Solaris: /etc/init.d/ma-initd Linux: /etc/init.d/ma-initd | HADB 管理エージェント起動スクリプト |
| Instant Messaging CMN_IIM_INSTALLDIR | Solaris: /opt Linux: /opt/sun | |
| Instant Messaging リソースディレクトリ CMN_IIM_DOCSDIR | Solaris: /opt/SUNWiim/html Linux: /opt/sun/im/html | |
| Instant Messaging オンラインヘルプディレクトリ CMN_IIM_DOCSHELPPDIR | Solaris: /opt/SUNWiim/html/en/imhelp Linux: /opt/sun/im/html/en/imhelp | |

表 B-1 デフォルトのインストールディレクトリ (続き)

| ラベルと状態ファイルのパラメータ | デフォルトディレクトリ | コメント |
|---|--|--|
| Message Queue インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータのフィールドは存在しません。 | なし | Solaris: /usr/bin /usr/share/lib /usr/share/lib/imq /etc/imq /var/imq /usr/share/javadoc/imq /usr/demo/imq /opt/SUNWimq/include Linux: /opt/sun/mq /etc/opt/sun/mq /var/opt/sun/mq |
| Messaging Server CMN_MS_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWmsgsr Linux: /opt/sun/messaging | |
| Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWps Linux: /opt/sun/portal | |
| Portal Server Secure Remote Access CMN_SRA_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWps Linux: /opt/sun/portal | Portal Server Secure Remote Access コアは、Portal Server と同じディレクトリにインストールする必要があります。 |
| Sun Cluster インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータのフィールドは存在しません。 | なし | Sun Cluster ソフトウェアは、Solaris 上の次の場所にインストールされます。 / /usr /opt |
| Web Server CMN_WS_INSTALLDIR | Solaris: /opt/SUNWwbsvr Linux: /opt/sun/webserver | |

デフォルトのポート番号

Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラは、ポート番号の入力をユーザーに要求する際、使用中のポートの実行時チェックを実行して適切なデフォルト値を表示します。別のコンポーネント、または同じコンポーネントの別のインスタンスがデフォルト番号のポートを使用している場合、インストーラは別の値を示します。

次の表は、デフォルトの Java ES コンポーネントのポート番号、および各ポートの目的を示しています。

注 Access Manager と Portal Server は、それぞれが配備される Web コンテナのポート番号を使用するため、この表には含まれません。

表 C-1 コンポーネントのデフォルトポート番号

| コンポーネント | ポート | 目的 |
|--------------------|------|-----------------------|
| 管理サーバー | 390 | 標準の HTTP ポート |
| Application Server | 8080 | 標準の HTTP ポート |
| | 443 | HTTP over SSL |
| | 3700 | 標準の IIOP ポート |
| | 4849 | 管理サーバーのポート |
| | 7676 | 標準の Message Queue ポート |
| | 8686 | JMX ポート |
| | 8181 | HTTPS over SSL |

表 C-1 コンポーネントのデフォルトポート番号 (続き)

| コンポーネント | ポート | 目的 |
|------------------------|-------|-----------------------------|
| Calendar Server | 80 | 標準の HTTP ポート |
| | 389 | LDAP ポート |
| | 443 | HTTP over SSL |
| | 57997 | ENS |
| | 59779 | DWP |
| Common Agent Container | 10162 | JMX ポート (TCP) |
| | 10161 | SNMP アダプタポート (UDP) |
| | 10162 | トラップ用 SNMP アダプタポート (UDP) |
| | 10163 | Commandstream アダプタポート (TCP) |
| Directory Proxy Server | 489 | LDAP リスナ |
| Directory Server | 389 | 標準の LDAP リスナ |
| | 636 | LDAPS over SSL |
| HADB | 1862 | 管理エージェントのポート (JMX) |
| | 15200 | デフォルトのポートベース |
| Instant Messaging | 5222 | マルチプレクサポート |
| | 5269 | Instant Messaging サーバー間ポート |
| | 45222 | Instant Messaging のポート |
| Message Queue | 80 | 標準の HTTP ポート |
| | 443 | HTTP over SSL |
| | 7676 | ポートマップ |
| | 7677 | HTTP トネリングサブレットポート |

表 C-1 コンポーネントのデフォルトポート番号 (続き)

| コンポーネント | ポート | 目的 |
|------------------------------------|---------------|--|
| Messaging Server | 25 | 標準の SMTP ポート |
| | 80 | Messaging Express (HTTP) のポート |
| | 110 | 標準の POP3 ポート / MMP POP3 プロキシ |
| | 143 | 標準の IMAP4 ポート / MMP IMAP プロキシ |
| | 443 | HTTP over SSL |
| | 992 | POP3 over SSL |
| | 993 | IMAP over SSL または MMP IMAP プロキシ over SSL |
| | 7997 | イベント通知サービスのポート |
| | 27442 | 製品の内部通信のために Job Controller によって使用される |
| | 49994 | 製品の内部通信のために Watcher によって使用されます |
| Portal Server Secure Remote Access | 8080 | 標準の HTTP ポート |
| | 443 | HTTP over SSL |
| | 10443 | Rewriter プロキシポート |
| | 10555 | Netlet プロキシポート |
| Sun Cluster ソフトウェア | 23 | Sun Fire 15000 システムコントローラ用に Telnet ポート 23 を使用します |
| | 161 | SNMP (Simple Network Management Proocol) エージェント通信ポート |
| | 3000 | SunPlex インストーラポート |
| | 5000 ... 5010 | 物理ポート番号に 5000 を追加する、コンソールアクセスポート |
| | 6789 | Sun Java Web コンソールを介して SunPlex Installer にアクセスします |
| Web Server | 80 | 標準の HTTP ポート |
| | 443 | HTTP over SSL |
| | 8888 | 標準の管理ポート |

インストールコマンド

この付録では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラとアンインストーラの実行で使用するコマンド構文とオプションについて説明します。

- [399 ページの「インストーラコマンド」](#)
- [401 ページの「uninstall コマンド」](#)

インストーラコマンド

Java ES の `installer` コマンドは、次の形式で指定します。

```
installer [option]...
```

次の表に、`installer` コマンドのオプションを説明します。

表 D-1 Java ES インストーラのコマンド行オプション

| オプション | 説明 |
|-------------------------|---|
| <code>-help</code> | インストーラに使用できるコマンド行オプションを定義します。 |
| <code>-id</code> | 状態ファイル ID を画面上に出力します。 |
| <code>-no</code> | ソフトウェアをインストールしない設定でインストーラを実行します。 |
| <code>-noconsole</code> | インストーラをサイレントモードで起動し、グラフィカルインタフェースを抑制します。サイレントモードでインストーラを起動するには、このオプションと <code>-state</code> を組み合わせて指定します。 |
| <code>-nodisplay</code> | インストーラをテキストベースモードで起動します (グラフィカルインタフェースを起動しない)。 |

表 D-1 Java ES インストーラのコマンド行オプション (続き)

| オプション | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| <code>-saveState [statefile]</code> | <p><i>statefile</i> によって指定される場所に状態ファイルを作成するようにインストーラに指示します。状態ファイルは、サイレントインストールの実行に使用されます。</p> <p>指定されたファイルが存在しない場合、このファイルは自動的に作成されます。</p> <p><i>statefile</i> の値を省略すると、インストーラはデフォルトの <code>statefile.out</code> ファイルに書き込みます。</p> <p>以後のインストールセッションで連続して同じ状態ファイルを指定することができます。初回のセッションが終了すると、ファイル名に <i>n</i> が追加されます。この <i>n</i> はゼロ (0) から始まる整数で、セッションが開始されるたびに増えます。</p> |
| <code>-state statefile</code> | <p>指定された状態ファイルをサイレントインストールの入力として使用します。サイレントインストールを開始するには、このオプションと <code>-noconsole</code> を組み合わせて指定します。</p> |

例

インストールディレクトリからグラフィカルモードでインストーラを実行する。

```
./installer
```

インストーラをテキストベースモードで実行する。

```
./installer -nodisplay
```

ソフトウェアをインストールせずに、インストーラをグラフィカルモードで実行する。

```
./installer -no
```

ソフトウェアをインストールせずに状態ファイルを作成する。

- グラフィカルモードの場合

```
./installer -no -saveState myInstallStatefile
```

- テキストベースモードの場合

```
./installer -no -nodisplay -saveState myInstallStatefile
```

ソフトウェアをインストールしながら状態ファイルを作成する。

```
./installer [-nodisplay] -saveState myInstallStatefile
```

インストーラをサイレントモードで実行する。

```
./installer -nodisplay -noconsole -state myInstallStatefile
```


uninstall コマンド

Java ES の `uninstall` コマンドは、次の形式で指定します。

```
uninstall [option] ...
```

次の表に、`uninstall` コマンドのオプションを説明します。

表 D-2 Java ES `uninstall` のコマンド行オプション

| オプション | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| <code>-help</code> | アンインストーラに使用できるコマンド行オプションを定義します。 |
| <code>-id</code> | 状態ファイル ID を画面上に出力します。 |
| <code>-no</code> | ソフトウェアを削除しない設定でアンインストーラを実行します。 |
| <code>-noconsole</code> | アンインストーラをサイレントモードで起動し、グラフィカルインタフェースを抑制します。サイレントモードでアンインストーラを起動するには、このオプションと <code>-state</code> を組み合わせて指定します。 |
| <code>-nodisplay</code> | アンインストーラをテキストベースモードで起動します (グラフィカルインタフェースを起動しない)。 |
| <code>-saveState [statefile]</code> | <p><code>statefile</code> によって指定される場所に状態ファイルを生成するようにアンインストーラに指示します。状態ファイルは、サイレントアンインストールの実行に使用されます。</p> <p>指定されたファイルが存在しない場合、このファイルは自動的に作成されます。</p> <p><code>statefile</code> の値を省略すると、アンインストーラはデフォルトの <code>statefile.out</code> ファイルに書き込みます。</p> <p>以後のアンインストーラセッションで連続して同じ状態ファイルを指定することができます。初回のセッションが終了すると、ファイル名に <code>n</code> が追加されます。この <code>n</code> はゼロ (0) から始まる整数で、セッションが開始されるたびに増えます。</p> |
| <code>-state statefile</code> | 指定された状態ファイルをサイレントアンインストールの入力として使用します。サイレントアンインストーラを開始するには、このオプションと <code>-noconsole</code> を組み合わせて指定します。 |

例

/var/sadm/prod/entsys ディレクトリからグラフィカルモードでアンインストーラを実行する。

```
./uninstall
```

アンインストーラをテキストベースモードで実行する。

```
./uninstall -nodisplay
```

ソフトウェアを削除せずに、アンインストーラをグラフィカルモードで実行する。

```
./uninstall -no
```

ソフトウェアを削除せずに状態ファイルを作成する。

- グラフィカルモードの場合

```
./uninstall -no -saveState myUninstallStatefile
```

- テキストベースモードの場合

```
./uninstall -no -nodisplay -saveState myUninstallStatefile
```

ソフトウェアをアンインストールしながらアンインストーラ状態ファイルを作成する。

```
./uninstall [-nodisplay] -saveState myUninstallStatefile
```

アンインストーラをサイレントモードで実行する。

```
./uninstall -nodisplay -noconsole -state myUninstallStatefile
```

状態ファイルの例

この付録では、サイレントインストール用に準備された状態ファイルの一例を示します。PSP_SELECTED_COMPONENTS パラメータは、対話式インストールで選択したコンポーネントを示します。

```
# Wizard Statefile created: Tue Jan 18 17:58:37 IST 2005
#
#           Wizard path:
# /tmp/.jes_CaChE/Solaris_sparc/.install/EntsysInstall_SunOS_sparc_9.class
#
# Install Wizard Statefile section for Sun Java(tm) Enterprise System
#
[STATE_BEGIN Sun Java(tm) Enterprise System
278994f3d1432b1ff02952e9fed37ba9b3b9b746]

LICENSE_TYPE =

PSP_SELECTED_COMPONENTS = LDAPJDK, JDK, NSPR, NSS, JSS, JATO, JAXP, WSCL, JAXB,
JavaActivationFramework, JavaMail, SOAPRuntime, JAXR, JAXRPC,
ApacheCommonLogging, DSConfigurator, NSPRX, NSSX, SASL, SASLX, LDAPCSDK,
LDAPCSDKX, ICU, ICUX, Dssetup, AdminConsole, DirectoryServ32, MiscPackages,
MAPplugin, ISConfigurator, appserv, WSCCommon, ASCommon, Ant, JavaHelpRuntime,
SunONEMessageQueue, Tomcat, SunWebConsole, JDMK, ASAdmin, ASCore,
OrionUninstaller, ISAdministrationConsole, InstantMessaging,
InstantMessagingConfig, IMAPI, InstantMessengerResources, SunCluster, Explorer,
NSSU, Cacao, SCore, SCDirServer, HADB, ASPointBase, SCAppServer, MFWK-CFG,
MFWK-AGENT, MFWK-MAN, InstantMessagingServer, SunONEWebServerEn, NSPRD, KTSE,
SunONEWebServer, CalendarServ, ASNA, SCCalServer, PortalSRA,
PSRAL10NConfigurator, NSSUX, PortalServer, PSL10NConfigurator, MAPCore, WebNFS,
ExternalJARs, IdentityServerSDKAlone, ISCommonDomainDeployment,
SunONEIdentityServerManagementandPolicyServices, PortalServerCore, SRACore,
```

SCMsgServer, JCAPI, ASConfigurator, AdminServ, MessagingServ, UWC, IdentityServerInstantMessagingService, DPSCConfigurator, DirectoryProxyServ, SRAGateway, IdentityServ, SRARewriterProxy, DAS, SRANetletProxy, CNPClient, ASSamples, SCMQ, LB, SCAdminServer, SCHADB, SCWebServer, SCAgents

PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING = no
PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED = yes
REMOVE_BUNDLED_PRODUCTS =
CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_INCOMPATIBLE_JDK =
CMN_SRA_INSTALLDIR = /opt
CMN_DS_SERVER_ROOT = /var/opt/mps/serverroot
CMN_IS_INSTALLDIR = /opt
CMN_AS_DOMAINSDIR = /var/opt/SUNWappserver
CMN_DPS_INSTALLDIR = /
CMN_DSSETUP_INSTALLDIR = /opt/SUNWcomds
CMN_PS_INSTALLDIR = /opt
CMN_WS_INSTALLDIR = /opt/SUNWwbsvr
CMN_UWC_INSTALLDIR = /opt/SUNWuwc
CMN_IIM_INSTALLDIR = /opt
CMN_CS_INSTALLDIR = /opt
CMN_AS_INSTALLDIR = /opt/SUNWappserver
CMN_MS_INSTALLDIR = /opt/SUNWmsgsr
CONFIG_TYPE = Custom
CMN_HOST_NAME = sunjump
CMN_DOMAIN_NAME = india.sun.com
CMN_IPADDRESS = 129.158.224.235
CMN_ADMIN_USER = admin
CMN_ADMIN_PASSWORD = solaris123
CMN_SYSTEM_USER = root
CMN_SYSTEM_GROUP = other
WS_ADMIN_USER = admin
WS_ADMIN_PASSWORD = solaris123
WS_ADMIN_PORT = 8888

```
WS_ADMIN_SYSTEM_USER = root
WS_ADMIN_HOST = example.sun.com
WS_INSTANCE_USER = root
WS_INSTANCE_GROUP = other
WS_INSTANCE_PORT = 80
WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT = /opt/SUNWwbsvr/docs
WS_INSTANCE_AUTO_START = N
AS_ADMIN_USER_NAME = admin
AS_PASSWORD = solaris123
AS_ADMIN_PORT = 4849
AS_JMX_PORT = 8686
AS_HTTP_PORT = 8080
AS_HTTPS_PORT = 8181
AS_MASTER_PASSWORD = solaris123
ASNA_ADMIN_HOST_NAME = sunjump
ASNA_ADMIN_USER_NAME = admin
ASNA_PASSWORD = solaris123
ASNA_MASTER_PASSWORD = solaris123
ASNA_ADMIN_PORT = 4849
ASNA_NODE_AGENT_NAME = sunjump
AS_WEB_SERVER_LOCATION = /opt/SUNWwbsvr/https-example.sun.com
AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE = Sun Java System Web Server
DS_ADMIN_USER = admin
DS_ADMIN_PASSWORD = solaris123
DS_DIR_MGR_USER = cn=Directory Manager
DS_DIR_MGR_PASSWORD = solaris123
DS_SERVER_IDENTIFIER = sunjump
DS_SERVER_PORT = 389
DS_SUFFIX = dc=india,dc=sun,dc=com
DS_ADM_DOMAIN = india.sun.com
DS_SYSTEM_USER = root
```

```
DS_SYSTEM_GROUP = other
USE_EXISTING_CONFIG_DIR = 0
CONFIG_DIR_HOST = example.sun.com
CONFIG_DIR_PORT = 389
CONFIG_DIR_ADM_USER = admin
CONFIG_DIR_ADM_PASSWD = solaris123
USE_EXISTING_USER_DIR = 0
USER_DIR_HOST = example.sun.com
USER_DIR_PORT = 389
USER_DIR_ADM_USER = admin
USER_DIR_ADM_PASSWD = solaris123
USER_DIR_SUFFIX = dc=india,dc=sun,dc=com
DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING = 0
DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES = 0
DS_POPULATE_DATABASE = 1
DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME =
ADMINSERV_ROOT = /var/opt/mps/serverroot
ADMINSERV_PORT = 390
ADMINSERV_DOMAIN = india.sun.com
ADMINSERV_SYSTEM_USER = root
ADMINSERV_SYSTEM_GROUP = other
ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER = admin
ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD = solaris123
ADMINSERV_CONFIG_DIR_HOST = example.sun.com
ADMINSERV_CONFIG_DIR_PORT = 389
DPS_PORT = 489
DPS_SERVERROOT =
DPS_CDS_ADMIN = admin
DPS_CDS_PWD = solaris123
IS_LDAPUSERPASSWD = solaris1234
IS_ADMINPASSWD = solaris123
```

```
IS_LDAP_USER = amldapuser
IS_ADMIN_USER_ID = amAdmin
AM_ENC_PWD = LOCK
DeploymentServer = WebServer
PortalSelected = TRUE
IS_WS_HOST_NAME = example.sun.com
IS_WS_INSTANCE_DIR = /opt/SUNWwbsvr/https-example.sun.com
IS_WS_INSTANCE_PORT = 80
IS_WS_DOC_DIR = /opt/SUNWwbsvr/docs
IS_SERVER_PROTOCOL = http
IS_APPSERVERBASEDIR =
IS_AS_CONFIG_DIR =
IS_IAS81INSTANCE =
IS_IAS81INSTANCEDIR =
IS_IAS81INSTANCE_PORT =
IS_IAS81_ADMIN =
IS_IAS81_ADMINPASSWD =
IS_IAS81_ADMINPORT =
IS_SERVER_PROTOCOL = http
ASADMIN_PROTOCOL =
IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR =
IS_BEA_INSTALL_DIR =
IS_BEA_ADMIN_PASSWD =
IS_BEA_ADMIN_PORT =
IS_BEA_DOMAIN =
IS_BEA_INSTANCE =
IS_BEA_DOC_ROOT_DIR =
IS_BEA_WEB_LOGIC_JAVA_HOME_DIR =
IS_BEA_MANAGED_SERVER =
IS_SERVER_PROTOCOL = http
IS_IBM_INSTALL_DIR =
```

```
IS_IBM_VIRTUAL_HOST =
IS_IBM_APPSERV_NAME =
IS_IBM_APPSERV_PORT =
IS_IBM_DOC_DIR_HOST =
IS_IBM_WEB_SERV_PORT =
IS_IBM_WEBSPPHERE_JAVA_HOME =
IS_SERVER_PROTOCOL = http
IS_WAS40_NODE =
CONSOLE_HOST = example.sun.com
CONSOLE_DEPLOY_URI = amconsole
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI = ampassword
IS_SERVER_HOST = example.sun.com
IS_SERVER_PORT = 80
CONSOLE_PORT =
SERVER_DEPLOY_URI = amserver
COOKIE_DOMAIN_LIST = .sun.com
USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER =
CDS_DEPLOY_URI = amcommon
ADMIN_COMPONENT_SELECTED = true
IS_DS_HOST = example.sun.com
IS_DS_HOSTNAME = sunjump
IS_DS_PORT = 389
IS_ROOT_SUFFIX = dc=india,dc=sun,dc=com
IS_DIRMGRDN = cn=Directory Manager
IS_DIRMGRPASSWD = solaris123
IS_EXISTING_DIT_SCHEMA = n
IS_LOAD_DIT = y
IS_ORG_OBJECT_CLASS = sunISManagedOrganization
IS_ORG_NAMING_ATTR = o
IS_USER_OBJECT_CLASS = inetorgperson
IS_USER_NAMING_ATTR = uid
```



```
IS_DIRECTORY_MODE = 1
PS_DEPLOY_TYPE = IWS
PS_DEPLOY_DIR = /opt/SUNWwbsvr
PS_DEPLOY_INSTANCE = example.sun.com
PS_DEPLOY_PROTOCOL = http
PS_DEPLOY_PORT = 80
PS_DEPLOY_DOCROOT = /opt/SUNWwbsvr/docs
PS_DEPLOY_DIR = /opt/SUNWwbsvr
PS_DEPLOY_DOMAIN = domain1
PS_DEPLOY_INSTANCE = example.sun.com
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR = /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1
PS_DEPLOY_PROTOCOL = http
PS_DEPLOY_PORT = 80
PS_DEPLOY_DOCROOT = /opt/SUNWwbsvr/docs
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT = 4849
PS_DEPLOY_ADMIN = admin
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD = solaris123
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL = https
PS_DEPLOY_DIR = /opt/SUNWwbsvr
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR =
PS_DEPLOY_PROJECT_DIR =
PS_DEPLOY_DOMAIN = domain1
PS_DEPLOY_INSTANCE = example.sun.com
PS_DEPLOY_PROTOCOL = http
PS_DEPLOY_PORT = 80
PS_DEPLOY_DOCROOT = /opt/SUNWwbsvr/docs
PS_DEPLOY_ADMIN = admin
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD = solaris123
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL = https
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT = 4849
PS_DEPLOY_NOW = y
```

```
PS_DEPLOY_JDK_DIR = /usr/jdk/entsys-j2se
PS_DEPLOY_DIR = /opt/SUNWwbsvr
PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST =
PS_DEPLOY_CELL =
PS_DEPLOY_NODE =
PS_DEPLOY_INSTANCE = example.sun.com
PS_DEPLOY_PROTOCOL = http
PS_DEPLOY_PORT = 80
PS_DEPLOY_DOCROOT = /opt/SUNWwbsvr/docs
PS_DEPLOY_JDK_DIR = /usr/jdk/entsys-j2se
PS_DEPLOY_URI = /portal
PS_LOAD_BALANCER_URL = http://example.sun.com:80/portal
PS_SAMPLE_PORTAL = y
PS_IS_INSTALLDIR = /opt
PS_IS_LDAP_AUTH_PASSWORD = solaris1234
PS_IS_ADMIN_PASSWORD = solaris123
PS_DS_DIRMGR_DN = cn=Directory Manager
PS_DS_DIRMGR_PASSWORD = solaris123
PS_LOAD_BALANCER_URL = http://example.sun.com:80/portal
SRA_DEPLOY_URI = /portal
SRA_IS_INSTALLDIR = /opt
PS_IS_ADMIN_PASSWORD = solaris123
PS_DS_DIRMGR_PASSWORD = solaris123
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD = solaris123
SRA_SERVER_DOMAIN = india.sun.com
SRA_GATEWAY_PROTOCOL = https
SRA_GATEWAY_DOMAIN = india.sun.com
SRA_GATEWAY_PORT = 443
SRA_GATEWAY_PROFILE = default
SRA_LOG_USER_PASSWORD = solaris123
SRA_GW_PROTOCOL = https
```

```
SRA_GW_HOSTNAME = sunjump
SRA_GW_SUBDOMAIN =
SRA_GW_DOMAIN = india.sun.com
SRA_GW_PORT = 443
SRA_GW_IPADDRESS = 129.158.224.235
SRA_GW_PROFILE = default
SRA_LOG_USER_PASSWORD = solaris123
SRA_GW_START = n
SRA_NLP_HOSTNAME = sunjump
SRA_NLP_SUBDOMAIN =
SRA_NLP_DOMAIN = india.sun.com
SRA_NLP_PORT = 10555
SRA_NLP_IPADDRESS = 129.158.224.235
SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE = default
SRA_LOG_USER_PASSWORD = solaris123
SRA_NLP_START = n
SRA_RWP_HOSTNAME = sunjump
SRA_RWP_SUBDOMAIN =
SRA_RWP_DOMAIN = india.sun.com
SRA_RWP_PORT = 10443
SRA_RWP_IPADDRESS = 129.158.224.235
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE = default
SRA_LOG_USER_PASSWORD = solaris123
SRA_RWP_START = n
SRA_IS_CREATE_INSTANCE = y
SRA_SERVER_PROTOCOL = http
SRA_SERVER_HOST = example.sun.com
SRA_SERVER_PORT = 80
SRA_SERVER_DEPLOY_URI = /portal
SRA_IS_ORG_DN = dc=india,dc=sun,dc=com
SRA_IS_SERVICE_URI = /amserver
```

```
SRA_IS_PASSWORD_KEY = LOCK
SRA_CERT_ORGANIZATION = Sun Microsystems
SRA_CERT_DIVISION = Software
SRA_CERT_CITY = Santa Clara
SRA_CERT_STATE = CA
SRA_CERT_COUNTRY = US
SRA_CERT_PASSWORD = solaris123
SRA_CERT_SELFSIGNED =
[STATE_DONE Sun Java(tm) Enterprise System
278994f3d1432b1ff02952e9fed37ba9b3b9b746]
```

インストール可能なパッケージの一覧

この付録には、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラによってインストールされるパッケージの一覧を記載します。

- 「Solaris パッケージ」
 - 413 ページの「Solaris OS 用アンインストールパッケージ」
 - 414 ページの「コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ」
 - 420 ページの「共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ」
 - 422 ページの「コンポーネント用のローカライズされた Solaris パッケージ」
- 「Linux パッケージ」
 - 432 ページの「Linux 用アンインストールパッケージ」
 - 432 ページの「コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ」
 - 439 ページの「共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ」
 - 441 ページの「コンポーネント用のローカライズされた Linux パッケージ」

Solaris パッケージ

Solaris OS 用アンインストールパッケージ

次の表は、Java ES のアンインストールパッケージを示しています。

表 F-1 Solaris 用アンインストールパッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|----------|----------------------|
| アンインストーラ | SUNWentsys-uninstall |

表 F-1 Solaris 用アンインストールパッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|-----------------------------|--------------------------|
| アンインストーラ (ローカライズされたパッケージ) | SUNWentsysl10n-uninstall |

コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ

ここでは、Java ES の各コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージを示します。

Access Manager Solaris パッケージ

表 F-2 Access Manager Solaris OS 用パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|-----------------------|--------------|-----------------|
| Access Manager | SUNWamconsdk | SUNWamsci |
| | SUNWamsam | SUNWamutl |
| | SUNWamclnt | SUNWcomic |
| | SUNWamrsa | SUNWcomis |
| Access Manager SDK | SUNWamext | SUNWamsdkconfig |
| | SUNWamsdk | |
| 管理コンソール | SUNWamcon | SUNWampwd |
| Mobile Access プラグイン | SUNWamma | SUNWammae |
| アイデンティティ管理とポリシーサービスコア | SUNWamsvc | SUNWamsvcconfig |
| 連携管理の共有ドメインサービス | SUNWamfcd | |
| セッションフェイルオーバー | SUNWamsfodb | |

管理サーバーの Solaris パッケージ

表 F-3 Solaris OS 用管理サーバーパッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------|-----------|-----------|
| 管理サーバー | SUNWasha | SUNWasvr |
| | SUNWasvc | SUNWasvu |
| | SUNWasvcp | SUNWasvmn |

Application Server の Solaris パッケージ

表 F-4 Solaris OS 用 Application Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------------------------------------|-------------|------------------|
| Application Server、Enterprise Edition | SUNWasacee | SUNWasdb |
| | SUNWascml | SUNWasdemb |
| | SUNWasdem | SUNWasu |
| | SUNWashdm | SUNWasuee |
| | SUNWasman | SUNWasut |
| | SUNWasmanee | SUNWaswbc |
| | SUNWascmn | SUNWasjdoc |
| | SUNWascmnse | SUNWaJdbcDrivers |
| Administration Client | SUNWasac | |
| Point Base サーバー | SUNWasdb | |
| ロードバランスプラグイン | SUNWaslb | |

Calendar Server の Solaris パッケージ

表 F-5 Solaris OS 用 Calendar Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|-----------------|---------|---------|
| Calendar Server | SUNWica | SUNWics |

Communications Express の Solaris パッケージ

表 F-6 Solaris OS 用 Communications Express パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------|---------|
| Communications Express | SUNWuwc |

Directory Server の Solaris パッケージ

表 F-7 Solaris OS 用 Directory Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|----------------------------|-----------|-----------|
| SPARC 環境の Directory Server | SUNWdsvr | SUNWdsvpl |
| | SUNWdsvu | SUNWdsvh |
| | SUNWdsvx | SUNWdsvh |
| | SUNWdsvcp | SUNWdsvmn |
| X86 環境の Directory Server | SUNWdsvr | SUNWdsvcp |
| | SUNWdsvu | SUNWdsvpl |

Directory Proxy Server の Solaris パッケージ

表 F-8 Solaris OS 用 Directory Proxy Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|----------------------------------|---------------------|----------|
| SPARC 環境の Directory Proxy Server | SUNWdps SUNWdpsg | SUNwdpsi |

HADB の Solaris パッケージ

表 F-9 Solaris OS 用 HADB パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------|-----------|-----------|
| HADB | SUNWhadbc | SUNWhadbi |
| | SUNWhadbe | SUNWhadbs |
| | SUNWhadbv | SUNWhadbj |
| | SUNWhadbx | SUNWhadbm |
| | SUNWhadba | |

Instant Messaging の Solaris パッケージ

表 F-10 Solaris OS 用 Instant Messaging パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------------------------------------|----------------------|----------|
| Instant Messaging サーバーコア | SUNWiim SUNWiimjd | SUNWiimm |
| Instant Messaging リソース | SUNWiimc | SUNWiimd |
| Access Manager Instant Messaging サーバー | SUNWiimid | |

Message Queue の Solaris パッケージ

表 F-11 Solaris OS 用 Message Queue パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|----------------------------------|--|---|
| Message Queue Enterprise Edition | SUNWiqcdv SUNWiqcrt SUNWiqdoc SUNWiqfs SUNWiqjx SUNWiqlen | SUNWiqlp1 SUNWiqr SUNWiqu SUNWiquc SUNWiqum |

Messaging Server の Solaris パッケージ

表 F-12 Solaris OS 用 Messaging Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------|---|---|
| Messaging Server | SUNWmsgco SUNWmsgen SUNWmsgin SUNWmsglb SUNWmsgwm | SUNWmsgmf SUNWmsgmp SUNWmsgst SUNWmsgwmt |

Portal Server の Solaris パッケージ

表 F-13 Solaris OS 用 Portal Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------------|-------------|--------------------------|
| Portal Server | SUNWiimps | SUNWpsoh |
| | SUNWps | SUNWpsp |
| | SUNWpsap | SUNWpsps |
| | SUNWpsc | SUNWpsrw |
| | SUNWpscfcg | SUNWpsrwa |
| | SUNWpscp | SUNWpsdk |
| | SUNWpsdis | SUNWpsse |
| | SUNWpsdt | SUNWpssea |
| | SUNWpsdta | SUNWpssep |
| | SUNWpsdtc | SUNWpspp |
| | SUNWpsdtm | SUNWpsso |
| | SUNWpsdtp | SUNWpssoa |
| | SUNWpsdtx | SUNWpsub |
| | SUNWpslcfcg | SUNWpstlj |
| | SUNWpsma | SUNWpswsrpcommon |
| | SUNWpsmad | SUNWpswsrpconsumer |
| | SUNWpsmai | SUNWpswsrpconsumerconfig |
| | SUNWpsmas | SUNWpswsrpconsumersample |
| | SUNWpsmig | SUNWpswsrpproducer |
| | SUNWpsmp | SUNWpswsrpproducersample |
| | SUNWpsnm | |

Portal Server Secure Remote Access の Solaris パッケージ

表 F-14 Solaris OS 用 Portal Server SRA パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|----------------------|-----------|-----------------|
| Portal Server SRA コア | SUNWpsgws | SUNWpsplt |
| | SUNWpsgwa | SUNWpspltconfig |
| | SUNWpsks | SUNWpsgwm |
| | SUNWpsnl | SUNWpsss |
| | SUNWpsnf | SUNWpscfcg |
| ゲートウェイ | SUNWpsgw | SUNWpscfcg |
| | SUNWpsgwm | |
| Netlet プロキシ | SUNWpsnlp | SUNWpscfcg |
| Rewriter プロキシ | SUNWpsrwp | SUNWpscfcg |

Sun Cluster ソフトウェアとエージェントの Solaris パッケージ

表 F-15 Solaris OS 用 Sun Cluster ソフトウェアのパッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|--------------------|-----------|------------|
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWscdev | SUNWscsam |
| | SUNWscgds | SUNWscsck |
| | SUNWscman | SUNWscu |
| | SUNWscnm | SUNWscva |
| | SUNWscr | SUNWscmasa |
| | SUNWscsal | SUNWscspm |
| | SUNWscspr | SUNWscspmu |
| | SUNWscvm | SUNWscspmr |

表 F-16 Solaris OS 用の Sun Java System 用 Sun Cluster エージェントパッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---|------------|
| 管理サーバーデータサービス | SUNWasha |
| Application Server データサービス | SUNWscs1as |
| Calendar Server データサービス | SUNWscics |
| Directory Server データサービス | SUNWdsha |
| Message Queue データサービス | SUNWscs1mq |
| Messaging Server データサービス | SUNWscims |
| Sun Java System HADB 用 Sun Cluster HA データサービス | SUNWschadb |
| Web Server データサービス | SUNWschtt |

Sun Remote Services Net Connect の Solaris パッケージ

表 F-17 Solaris OS 用 Sun Remote Services Net Connect パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---|--|
| Sun SM Remote Services Net Connect | SUNWcstu、SUNWexplu、SUNWexplo、 SUNWsrscp、SUNWsrsep、 SUNWsrsefp、 SUNWsrshp、SUNWsrspc、 SUNWsrsefp、 SUNWsrstp、SUNWsrsvp |

Web Server の Solaris パッケージ

表 F-18 Solaris OS 用 Web Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---------------------------|
| Web Server | SUNWawbsvr SUNWwbsvr |

共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ

次の表は、各共有コンポーネント用に配布される Solaris パッケージを示しています。

表 F-19 Solaris OS 用共有コンポーネントパッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|--|--|
| Ant | SUNWant |
| Apache SOAP Runtime | |
| Berkeley DB | SUNWbdb SUNWbdbj |
| Common Agent Container | SUNWcacao SUNWcacaocfg |
| ICU (International Components for Unicode) | SUNWicu SUNWicux (Solaris 8、9のみ) |

表 F-19 Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|--|----------------------|------------|
| J2SE (Java 2 Standard Edition) JDK 1.5 | SSUNWj5rt | SUNWj5jmp |
| | SUNWj5cfg | SUNWj5rtx |
| | SUNWj5dev | SUNWj5dvx |
| | SUNWj5dmo | SUNWj5dmx |
| | SUNWj5man | |
| JATO (Java Studio Enterprise Web Application Framework) | SUNWjato | SUNWjatodm |
| | SUNWjatodoc | o |
| JavaHelp Runtime | SUNWjhrt | SUNWjhdoc |
| | SUNWjhdev | SUNWjhdem |
| Java Mail Runtime | SUNWjmail | |
| JAXB (Java Architecture for XML Binding) Runtime | SUNWjaxb | |
| JAF (JavaBeans Activation Framework) | SUNWjaf | |
| JAXM (Java API for XML Messaging) Client Runtime | SUNWjaxm | |
| JAXP (Java API for XML Processing) | SUNWjapx | |
| JAXR (Java API for XML Registries) Runtime | SUNWxrgrt | |
| JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call) Runtime | SUNWxrprt | |
| JCAPI (Java Calendar API) | SUNWjcapi | |
| JDMK (Java Dynamic Management Kit) Runtime | SUNWjdmk-runtime | |
| | SUNWjdmk-runtime-jmx | |
| JSS (Java Security Services) | SUNWjss | SUNWjssx |
| KTSE (KT Search Engine) | SUNWktse | |
| LDAP C Language SDK | SUNWldk | SUNWldkx |
| LDAP Java SDK | SUNWljdk | |
| NSPR (Netscape Portable Runtime) | SUNWpr | SUNWprx |
| | SUNWprd | |
| NSS (Netscape Security Services) | SUNWtls | SUNWtlx |
| | SUNWtlisu | |
| Perl LDAP (NSPERL を含む) | | |
| SAAJ (SOAP With Attachments API for Java) | SUNWxsrt | |

表 F-19 Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|--|-----------------------------------|------------------------|
| SAML (Security Assertions Markup Language) | | |
| SASL (Simple Authentication Security Layer) | SUNWsas1 | SUNWsas1x |
| SNMP (Simple Network Management Protocol) Peer | | |
| Sun Explorer Data Collector | SUNWexpl0 SUNWexplj | SUNWexplu |
| Sun Java Monitoring Framework | SUNWmfwk-agent SUNWmfwk-cfg | SUNWmfwk-man |
| Sun Java Web コンソール | SUNWmcon SUNWmconr SUNWmcos | SUNWmcosx SUNWmctag |
| Tomcat サブレット JSP コンテナ | SUNWtcatu | |
| XML C Library (libxml) | | |
| WSCL (Web サービス共通ライブラリ) | SUNWwscl | |

コンポーネント用のローカライズされた Solaris パッケージ

ここでは、Java ES の各コンポーネント用のローカライズされたパッケージを示します。言語別の構成となっており、ローカライズされたパッケージが作成された言語ごとに分かれています。各言語のセクションでは、Java ES コンポーネントごとにローカライズされたパッケージを示します。また、表にはローカライズされたコンポーネントのバージョン番号も示されます。

ローカライズされたパッケージの名前には、言語を識別するための文字が含まれます。一部のパッケージでは、パッケージ名に含まれる「SUNW」の後に 1 文字が挿入されています。たとえば、日本語にローカライズされた **Web Server** のパッケージ名は SUNWjwbsvr で、このパッケージの韓国語バージョンの名前は SUNWkwbsvr です。

それ以外のパッケージでは、パッケージ名全体にローカライズバージョンを識別するための 2 文字が追加されています。たとえば、日本語にローカライズされた **Messaging Server** のパッケージ名は SUNWmsgja で、このパッケージの韓国語バージョンの名前は SUNWmsgko です。

次の表は、ローカライズされたパッケージ名の識別に使用される 1 文字と 2 文字の略号を示しています。

表 F-20 パッケージ名に含まれる言語略号

| 言語 | 1 文字の略号 | 2 文字の略号 |
|--------|---------|---------|
| 簡体字中国語 | c | zh |
| 繁体字中国語 | h | tw |
| フランス語 | f | fr |
| ドイツ語 | d | de |
| 日本語 | j | ja |
| 韓国語 | k | ko |
| スペイン語 | e | es |

簡体字中国語の Solaris パッケージ

表 F-21 簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| Access Manager | SUNWamlzh | SUNWcammmmap |
| 管理サーバー | SUNWcasvu SUNWcasvc | SUNWcasvcp |
| Application Server | SUNWcasacee SUNWcascmnse | SUNWcasu SUNWcasuee |
| Calendar Server | SUNWzhics | |
| Communications Express | SUNWcuwc | |
| Directory Server | SUNWcdsvcp | SUNWcdsvu |
| Directory Proxy Server | SUNWcdpsg | |
| Instant Messaging | SUNWciimc SUNWciimd | SUNWciimin SUNWcimid |
| Message Queue | SUNWciqu | SUNWciquc |
| Messaging Server | SUNWmsgzh | |

表 F-21 簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|--------------------|-------------|-------------------------|
| Portal Server | SUNWcpsab | SUNWcpsoh |
| Portal SRA | SUNWcpsca | SUNWcpsp |
| | SUNWcpsda | SUNWcpsplt |
| | SUNWcpsdm | SUNWcpsps |
| | SUNWcpsds | SUNWcpsr |
| | SUNWcpsdt | SUNWcpsra |
| | SUNWcpsdx | SUNWcpss |
| | SUNWcpsga | SUNWcpssa |
| | SUNWcpsgw | SUNWcpsse |
| | SUNWcpsim | SUNWcpsso |
| | SUNWcpsma | SUNWcpsp |
| | SUNWcpsmai | SUNWcpsss |
| | SUNWcpsmap | SUNWcpsssoa |
| | SUNWcpsmas | SUNWcpssu |
| | SUNWcpsnc | SUNWcpswsrpconsumer |
| | SUNWcpsnl | SUNWcpswsrpconsumersamp |
| | SUNWcpsnm | le |
| | | SUNWcpswsrpproducer |
| Sun Cluster エージェント | SUNWcscht | SUNWcschadb |
| | SUNWcscls | SUNWcscls1mq |
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWcsc | SUNWcscspm |
| | SUNWcscspmu | |
| Web Server | SUNWcwbsvr | |

繁体字中国語の Solaris パッケージ

表 F-22 繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------|--------------|-------------|
| Access Manager | SUNWamltw | SUNWhammmap |
| 管理サーバー | SUNWhasvu | SUNWhasvcp |
| | SUNWhasvc | |
| Application Server | SUNWhasacee | SUNWhasu |
| | SUNWhascmnse | SUNWhasuee |
| Calendar Server | SUNWtwics | |
| Communications Express | SUNWhuwc | |
| Directory Server | SUNWhdsvcp | SUNWhdsvu |

表 F-22 繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------------------|-------------------------|---------------------|
| Directory Proxy Server | SUNWhdpsg | |
| Instant Messaging | SUNWhiimc | SUNWhiimin |
| | SUNWhiimd | SUNWhimid |
| Message Queue | SUNWhiqu | SUNWhiquc |
| Messaging Server | SUNWmsgtw | |
| Portal Server | SUNWhpsab | SUNWhpsoh |
| Portal Server Secure Remote Access | SUNWhpsca | SUNWhpsp |
| | SUNWhpsda | SUNWhpsplt |
| | SUNWhpsdm | SUNWhpsps |
| | SUNWhpsds | SUNWhpsr |
| | SUNWhpsdt | SUNWhpsra |
| | SUNWhpsdx | SUNWhpss |
| | SUNWhpsga | SUNWhpssa |
| | SUNWhpsgw | SUNWhpsse |
| | SUNWhpsim | SUNWhpsso |
| | SUNWhpsma | SUNWhpssp |
| | SUNWhpsmai | SUNWhpsss |
| | SUNWhpsmap | SUNWhpsssoa |
| | SUNWhpsmas | SUNWhpssu |
| | SUNWhpsnh | SUNWhpswsrpconsumer |
| SUNWhpsnl | SUNWhpswsrpconsumersamp | |
| SUNWhpsnm | le | |
| | SUNWhpswsrpproducer | |
| Sun Cluster エージェント | SUNWhscht | SUNWhschadb |
| | SUNWhscslas | SUNWhscslmq |
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWhsc | SUNWhscspmu |
| | SUNWhscspm | |
| Web Server | SUNWhwbsvr | |

フランス語の Solaris パッケージ

表 F-23 フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|----------------|-----------|-------------|
| Access Manager | SUNWamlfr | SUNWfammmap |

表 F-23 フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------------------------------------|---|---|
| 管理サーバー | SUNWfasvu SUNWfasvc | SUNWfasvcp |
| Application Server | SUNWfasacee SUNWfascmnse | SUNWfasu SUNWfasuee |
| Calendar Server | SUNWfrics | |
| Communications Express | SUNWfuwc | |
| Directory Server | SUNWfdsvcp | SUNWfdsvu |
| Directory Proxy Server | SUNWfdpsg | |
| Instant Messaging | SUNWfiimc SUNWfiimd | SUNWfiimin SUNWfimid |
| Message Queue | SUNWfiqu | SUNWfiquc |
| Messaging Server | SUNWmsgfr | |
| Portal Server | SUNWfpsab | SUNWfpsoh |
| Portal Server Secure Remote Access | SUNWfpsca SUNWfpsda SUNWfpsdm SUNWfpsds SUNWfpsdt SUNWfpsdx SUNWfpsga SUNWfpsgw SUNWfpsim SUNWfpsma SUNWfpsmai SUNWfpsmap SUNWfpsmas SUNWfpsnf SUNWfpsnl SUNWfpsnm | SUNWfpssp SUNWfp spl t SUNWfp sps SUNWfp sr SUNWfp sra SUNWfp ss SUNWfp ssa SUNWfp sse SUNWfp sso SUNWfp spp SUNWfp sss SUNWfp ssoa SUNWfp ssu SUNWfp swsrp consumer SUNWfp swsrp consumer s amp le SUNWfp swsrp producer |
| Sun Cluster エージェント | SUNWfscht t SUNWfsclslas | SUNWfschadb SUNWfsclsmq |
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWfsc SUNWfscspmu | SUNWfscspm |
| Web Server | SUNWfwbsvr | |

表 F-24 ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|--------------------|------------------------|------------|
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWdsc SUNWdscspmu | SUNWdscspm |
| Web Server | SUNWdwbsvr | |

日本語の Solaris パッケージ

表 F-25 日本語にローカライズされた Solaris パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| Access Manager | SUNWamlja | SUNWjammmap |
| 管理サーバー | SUNWjasvu SUNWjasvc | SUNWjasvcp |
| Application Server | SUNWjasacee SUNWjascmnse | SUNWjasu SUNWjasuee |
| Calendar Server | SUNWjaics | |
| Communications Express | SUNWjuwc | |
| Directory Server | SUNWjdsvcp SUNWjdsvu | |
| Directory Proxy Server | SUNWjdpsg | |
| Instant Messaging | SUNWjiimc SUNWjiimd | SUNWjiimin SUNWjimid |
| Message Queue | SUNWjiqu | SUNWjiquc |
| Messaging Server | SUNWmsgja | |

表 F-25 日本語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------------------|-------------|-------------------------|
| Portal Server | SUNWjpsab | SUNWjpsoh |
| Portal Server Secure Remote Access | SUNWjpsca | SUNWjpsp |
| | SUNWjpsda | SUNWjpsplt |
| | SUNWjpsdm | SUNWjpsps |
| | SUNWjpsds | SUNWjpsr |
| | SUNWjpsdt | SUNWjpsra |
| | SUNWjpsdx | SUNWjps |
| | SUNWjpsga | SUNWjpsa |
| | SUNWjpsgw | SUNWjpsse |
| | SUNWjpsim | SUNWjpsso |
| | SUNWjpsma | SUNWjpsp |
| | SUNWjpsmai | SUNWjps |
| | SUNWjpsmap | SUNWjpssoa |
| | SUNWjpsmas | SUNWjpsu |
| | SUNWjpsnj | SUNWjpswsrpconsumer |
| | SUNWjpsnl | SUNWjpswsrpconsumersamp |
| | SUNWjpsnm | le |
| | | SUNWjpswsrpproducer |
| Sun Cluster エージェント | SUNWjscht | SUNWjschadb |
| | SUNWjscslas | SUNWjscslmq |
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWjsc | SUNWjscsp |
| | SUNWjscspmu | SUNWjscman |
| Web Server | SUNWjwbsvr | |

韓国語の Solaris パッケージ

表 F-26 韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------|--------------|--------------|
| Access Manager | SUNWamlko | SUNWkammmmap |
| 管理サーバー | SUNWkasvu | SUNWkasvc |
| | SUNWkasvc | |
| Application Server | SUNWkasacee | SUNWkasu |
| | SUNWkascmnse | SUNWkasuee |
| Calendar Server | SUNWkoics | |
| Communications Express | SUNWkuwc | |
| Directory Server | SUNWkdsvcp | SUNWkdsvu |

表 F-26 韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|------------------------------------|--------------------------|------------------------|
| Directory Proxy Server | SUNWkdpsg | |
| Instant Messaging | SUNWkiimc | SUNWkiimin |
| | SUNWkiimd | SUNWkimid |
| Message Queue | SUNWkiqu | SUNWkiquc |
| Messaging Server | SUNWmsgko | |
| Portal Server | SUNWkpsab | SUNWkpsoh |
| Portal Server Secure Remote Access | SUNWkpzca | SUNWkpssp |
| | SUNWkpzda | SUNWkpsplt |
| | SUNWkpzdm | SUNWkpsps |
| | SUNWkpzds | SUNWkpsr |
| | SUNWkpzdt | SUNWkpzra |
| | SUNWkpzdx | SUNWkpzss |
| | SUNWkpzga | SUNWkpzsa |
| | SUNWkpzgw | SUNWkpzse |
| | SUNWkpzsim | SUNWkpzso |
| | SUNWkpzma | SUNWkpzssp |
| | SUNWkpzmai | SUNWkpzsss |
| | SUNWkpzmap | SUNWkpzssoa |
| | SUNWkpzmas | SUNWkpzssu |
| | SUNWkpzsnk | SUNWkpzsrpconsumer |
| | SUNWkpzsnl | SUNWkpzsrpconsumersamp |
| SUNWkpzsnm | le SUNWkpzsrpproducer | |
| Sun Cluster エージェント | SUNWkscht | SUNWkschadb |
| | SUNWksclsas | SUNWkscls1mq |
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWksc | SUNWkscspm |
| | SUNWkscspmu | |
| Web Server | SUNWkwbsvr | |

スペイン語の Solaris パッケージ

表 F-27 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ

| コンポーネント | パッケージ | |
|---------------------------------------|---|---|
| Access Manager | SUNWamles | SUNWeammmap |
| 管理サーバー | SUNWeasvu SUNWeasvc | SUNWeasvcp |
| Application Server | SUNWeasaco SUNWeascmo | SUNWeasdm SUNWeaso |
| Calendar Server | SUNWesics | |
| Communications Express | SUNWeuwc | |
| Directory Server | SUNWedsvcp | SUNWedsvu |
| Directory Proxy Server | SUNWedpsg | |
| Instant Messaging | SUNWeiimc SUNWeiimd | SUNWeiimin SUNWeiimid |
| Message Queue | SUNWeiiqu | SUNWeiiquc |
| Messaging Server | SUNWmsges | |
| Portal Server | SUNWepsab | SUNWepsoh |
| Portal Server Secure Remote Access | SUNWepsca SUNWepsda SUNWepsdm SUNWepsds SUNWepsdt SUNWepsdx SUNWepsga SUNWepsgw SUNWepsim SUNWepsma SUNWepsmai SUNWepsmap SUNWepsmas SUNWepsne SUNWepsnl SUNWepsnm | SUNWepspl SUNWepspl t SUNWepsps SUNWepsra SUNWepsr SUNWepsra SUNWepss SUNWepssa SUNWepsse SUNWepss SUNWepss SUNWepssso SUNWepsssp SUNWepsss SUNWepsssoa SUNWepssu SUNWepswsrpconsumer SUNWepswsrpconsumersamp le SUNWepswsrpproducer |

表 F-27 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ | |
|--------------------|-------------|-------------|
| Sun Cluster エージェント | SUNWeschtt | SUNWeschadb |
| | SUNWescslas | SUNWescslmq |
| Sun Cluster ソフトウェア | SUNWesc | SUNWescspm |
| | SUNWescspmu | |
| Web Server | SUNWewbsvr | |

Linux パッケージ

Linux 用アンインストールパッケージ

次の表は、Java ES のアンインストールパッケージを示しています。

表 F-28 Linux 用アンインストールパッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|-----------------------------|---------------------------|
| アンインストーラ | sun-entsys-uninstall |
| アンインストーラ (ローカライズされたパッケージ) | sun-entsys-uninstall-l10n |

コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ

ここでは、Java ES の各コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージを示します。

Access ManagerLinux パッケージ

表 F-29 Access Manager Linux 用パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------|---|
| Access Manager | sun-commcli-client sun-commcli-server sun-identity-external sun-identity-linux-support sun-identity-utils sun-identity-clientsdk |
| 管理コンソール | sun-identity-console sun-identity-console-sdk sun-identity-password sun-identity-sci |
| Mobile Access | sun-identity-mobileaccess sun-identity-mobileaccess-config |
| アイデンティティ管理とポリシー サービスコア | sun-identity-services sun-identity-services-config |
| 連携管理の共有ドメインサービス | sun-identity-federation |
| Access Manager SDK | sun-identity-samples sun-identity-sdk sun-identity-sdk-config |
| セッションフェイルオーバー | sun-identity-sfodb |

管理サーバーの Linux パッケージ

表 F-30 Linux 用管理サーバーパッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------|--|
| 管理サーバー | sun-admin-server sun-server-console sun-admin-server-man |

Application Server の Linux パッケージ

表 F-31 Linux 用 Application Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------------------|---|
| Application Server、Enterprise Edition | sun-asJdbcDrivers sun-asacee sun-ascml sun-ascmn sun-ascmnse sun-asdem sun-asdemdb sun-ashdm sun-asjdoc sun-asman sun-asmanee sun-asu sun-asuee sun-asut sun-aswbcr |
| Administration Client | sun-asac |
| Point Base サーバー | sun-asdb |
| ロードバランスプラグイン | sun-aslb |

Calendar Server の Linux パッケージ

表 F-32 Linux 用 Calendar Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|-----------------|---------------------------------------|
| Calendar Server | sun-calendar-api sun-calendar-core |

Communications Express の Linux パッケージ

表 F-33 Linux 用 Communications Express パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------|---------|
| Communications Express | sun-uwc |

Directory Server の Linux パッケージ

表 F-34 Linux 用 Directory Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------|--|
| Directory Server | sun-directory-server sun-directory-server-man |

Directory Proxy Server の Linux パッケージ

表 F-35 Linux 用 Directory Proxy Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------|----------------------------|
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server |

HADB の Linux パッケージ

表 F-36 Linux 用 HADB パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------|--|
| HADB | sun-hadb-a sun-hadb-b sun-hadb-c sun-hadb-e sun-hadb-i sun-hadb-j sun-hadb-m sun-hadb-s sun-hadb-v sun-hadb-x |

Instant Messaging の Linux パッケージ

表 F-37 Linux 用 Instant Messaging の Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|--------------------------|--|
| Instant Messaging サーバーコア | sun-im-apidoc sun-im-install sun-im-mux sun-im-server |

表 F-37 Linux 用 Instant Messaging の Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| Instant Messaging リソース | sun-im-client sun-im-olh |
| Access Manager Instant Messaging サーバー | sun-im-ident |

Message Queue の Linux パッケージ

表 F-38 Linux 用 Message Queue パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|----------------------------------|---|
| Message Queue Enterprise Edition | sun-mq sun-mq-config sun-mq-var sun-mq-ent sun-mq-jaxm sun-mq-jmsclient sun-mq-xmlclient sun-mq-capi |

Messaging Server の Linux パッケージ

表 F-39 Linux 用 Messaging Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------|----------------------|
| Messaging Server | sun-messaging-server |

Portal Server の Linux パッケージ

表 F-40 Linux 用 Portal Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------|--|
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi |
| | sun-portal-addressbookapi-config |
| | sun-portal-calendarapi |
| | sun-portal-calendarapi-config |
| | sun-portal-configurator |
| | sun-portal-container |
| | sun-portal-core |
| | sun-portal-core-config |
| | sun-portal-desktop |
| | sun-portal-desktopadmin- |
| | sun-portal-desktop-config |
| | sun-portal-desktopdatamgmt |
| | sun-portal-desktopextension |
| | sun-portal-desktopextension-config |
| | sun-portal-desktoppapi |
| | sun-portal-desktoppapi-config |
| | sun-portal-desktopserviceconfig |
| | sun-portal-desktopserviceconfig-config |
| | sun-portal-discussions |
| | sun-portal-discussions-config |
| | sun-portal-instantmessaging |
| | sun-portal-instantmessaging-config |
| | sun-portal-jsptaglib |
| | sun-portal-jsptaglib-config |
| | sun-portal-l10n-configurator |
| | sun-portal-mail |
| | sun-portal-mail-config |
| | sun-portal-mobileaccess |
| | sun-portal-mobileaccess-config |
| | sun-portal-mobileaccess-doc |
| | sun-portal-mobileaccess-identity |
| | sun-portal-netmail |
| | sun-portal-onlinehelp |
| | sun-portal-onlinehelp-identity |
| | sun-portal-portlet |
| | sun-portal-portlet-config |
| | sun-portal-portletsample |
| | sun-portal-portletsample-config |

表 F-40 Linux 用 Portal Server パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|---------|---------------------------------|
| | sun-portal-portlettck |
| | sun-portal-portlettck-config |
| | sun-portal-rewriter |
| | sun-portal-rewriteradmin |
| | sun-portal-sample |
| | sun-portal-sample-config |
| | sun-portal-sdk |
| | sun-portal-searchadmin |
| | sun-portal-searchserver |
| | sun-portal-searchui |
| | sun-portal-searchui-config |
| | sun-portal-ssoadapter |
| | sun-portal-ssoadapteradmin |
| | sun-portal-subscriptions |
| | sun-portal-subscriptions-config |
| | sun-portal-wsrpcommon |
| | sun-portal-wsrpconsumer |
| | sun-portal-wsrpconsumerconfig |
| | sun-portal-wsrpconsumersample |
| | sun-portal-wsrpproducer |
| | sun-portal-wsrpproducersample |
| | sun-webnfs |

Portal Server Secure Remote Access の Linux パッケージ

表 F-41 Linux 用 Portal Server SRA パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------------------|--|
| Portal Server Secure Remote Access コア | sun-portal-gatewayadmin |
| | sun-portal-gatewayidentityagent |
| | sun-portal-gatewayidentityagent-identity |
| | sun-portal-netfile |
| | sun-portal-kssl |
| | sun-portal-netlet |
| | sun-portal-netlet-config |
| | sun-portal-proxylet-config |
| | sun-portal-srasample |
| | ゲートウェイ |
| | sun-portal-gateway-config |

表 F-41 Linux 用 Portal Server SRA パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------|--|
| Netlet プロキシ | sun-portal-netletproxy sun-portal-netletproxy-config |
| Rewriter プロキシ | sun-portal-rewriterproxy sun-portal-rewriterproxy-config sun-portal-configurator |

Web Server の Linux パッケージ

表 F-42 Linux 用 Web Server パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---------------|
| Web Server | sun-webserver |

共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ

次の表は、各共有コンポーネント用に配布される Linux パッケージを示しています。

表 F-43 Linux 用共有コンポーネントパッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---|--|
| Ant | sun-ant |
| Apache SOAP Runtime | |
| Berkeley DB | sun-berkeleydatabase-core sun-berkeleydatabase-java |
| Common Agent Container | sun-cacao sun-cacao-config sun-cacao-man |
| ICU (International Components for Unicode) | sun-icu |
| J2SE (Java 2 Standard Edition、JDK) | jdk |
| JAF (JavaBeans Activation Framework) | sun-jaf |
| JATO (Java Studio Enterprise Web Application Framework) | SUNWjato SUNWjatodmo SUNWjatodoc |

表 F-43 Linux 用共有コンポーネントパッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|--|---|
| JavaHelp Runtime | sun-javahelp |
| Java Mail Runtime | sun-javamail |
| JAXB (Java Architecture for XML Binding) Runtime | sun-jaxb |
| JAXM (Java API for XML Messaging) Client Runtime | sun-jaxm |
| JAXP (Java API for XML Processing) | sun-jaxp |
| JAXR (Java API for XML Registries) Runtime | sun-jaxr |
| JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call) Runtime | sun-jaxrpc |
| JCAPI (Java Calendar API) | sun-jcapi |
| JDMK (Java Dynamic Management Kit) Runtime ライブラリ | sun-jdmk-runtime sun-jdmk-runtime-jmx |
| JSS (Java Security Services) | sun-jss |
| KTSE (KT Search Engine) | sun-ktsearch |
| LDAP C Language SDK | sun-ldapcsdk |
| LDAP Java SDK | sun-ljdk |
| NSPR (Netscape Portable Runtime) | sun-nspr sun-nspr-devel |
| NSS (Netscape Security Services) | sun-nss- sun-nss-devel |
| Perl LDAP (NSPERL を含む) | |
| SAAJ (SOAP With Attachments API for Java) | sun-saaaj |
| SASL (Simple Authentication Security Layer) | sun-sasl |
| SNMP | |
| Sun Java Monitoring Framework | sun-mfwk-agent sun-mfwk-cfg sun-mfwk-man |
| Sun Java Web コンソール | SUNWmcon SUNWmconr SUNWmcos SUNWmcosx SUNWmctag |
| Tomcat サーブレット JSP コンテナ | SUNWtcatu |

表 F-43 Linux 用共有コンポーネントパッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------|----------|
| WSCL (Web サービス共通ライブラリ) | sun-wscl |

コンポーネント用のローカライズされた Linux パッケージ

簡体字中国語の Linux パッケージ

表 F-44 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------|---|
| Access Manager | sun-identity-sdk-zh_CN |
| 管理サーバー | sun-admin-server-zh_CN sun-server-console-zh_CN |
| Application Server | sun-asacee-zh_CN sun-ascmnse-zh_CN sun-asu-zh_CN sun-asuee-zh_CN |
| Calendar Server | sun-calendar-core-zh_CN |
| Communications Express | sun-uwc-zh_CN |
| Directory Server | sun-directory-server-zh_CN |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-zh_CN |
| Instant Messaging | sun-im-client-zh_CN sun-im-ident-zh_CN sun-im-install-zh_CN sun-im-olh-zh_CN |
| Message Queue | sun-mq-zh_CN |
| Messaging Server | sun-messaging-110n-zh_CN |

表 F-44 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------------------|--|
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-zh_CN |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-zh_CN-config |
| | sun-portal-calendarapi-zh_CN- |
| | sun-portal-calendarapi-zh_CN-config |
| | sun-portal-data-migration-zh_CN |
| | sun-portal-desktopadmin-zh_CN |
| | sun-portal-desktopdatamgmt-zh_CN |
| | sun-portal-desktopextension-zh_CN |
| | sun-portal-desktopextension-zh_CN-config |
| | sun-portal-desktop-zh_CN |
| | sun-portal-desktop-zh_CN-config |

表 F-44 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|---------|--|
| | sun-portal-discussions-zh_CN |
| | sun-portal-discussions-zh_CN-config |
| | sun-portal-gatewayadmin-zh_CN |
| | sun-portal-gatewaycommon-zh_CN |
| | sun-portal-gatewayidentityagent-zh_CN |
| | sun-portal-gatewayidentityagent-zh_CN-identity |
| | sun-portal-gateway-zh_CN |
| | sun-portal-instantmessaging-zh_CN |
| | sun-portal-instantmessaging-zh_CN-config |
| | sun-portal-mail-zh_CN |
| | sun-portal-mail-zh_CN-config |
| | sun-portal-mobileaccess-identity-zh_CN |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-zh_CN |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-zh_CN-config |
| | sun-portal-mobileaccess-zh_CN |
| | sun-portal-netfile-zh_CN |
| | sun-portal-netletproxy-zh_CN |
| | sun-portal-netlet-zh_CN |
| | sun-portal-netlet-zh_CN-config |
| | sun-portal-netmail-zh_CN |
| | sun-portal-onlinehelp-zh_CN |
| | sun-portal-onlinehelp-zh_CN-identity |
| | sun-portal-portletsample-zh_CN |
| | sun-portal-portlet-zh_CN |
| | sun-portal-proxylet-zh_CN |
| | sun-portal-rewriteradmin-zh_CN |
| | sun-portal-rewriterproxy-zh_CN |
| | sun-portal-rewriter-zh_CN |
| | sun-portal-sample-zh_CN |
| | sun-portal-sample-zh_CN-config |
| | sun-portal-searchadmin-zh_CN |
| | sun-portal-searchserver-zh_CN |
| | sun-portal-searchui-zh_CN |
| | sun-portal-srasample-zh_CN |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-zh_CN |
| | sun-portal-ssoadapter-zh_CN |
| | sun-portal-subscriptions-zh_CN |
| | sun-portal-subscriptions-zh_CN |
| | sun-portal-wsrpconsumersample-zh_CN |
| | sun-portal-wsrpconsumer-zh_CN |
| | sun-portal-wsrpproducer-zh_CN |

表 F-44 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---------------------|
| Web Server | sun-webserver-zh_CN |

繁体字中国語の Linux パッケージ

表 F-45 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------|--|
| Access Manager | sun-identity-sdk-zh_TW |
| 管理サーバー | sun-admin-server-zh_TW sun-server-console-zh_TW |
| Application Server | sun-asacee-zh_TW sun-ascmnse-zh_TW sun-asu-zh_TW sun-asuee-zh_TW |
| Calendar Server | sun-calendar-core-zh_TW |
| Communications Express | sun-uwc-zh_TW |
| Directory Server | sun-directory-server-zh_TW |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-zh_TW |
| Instant Messaging | sun-im-client-zh_TW- sun-im-ident-zh_TW sun-im-install-zh_TW sun-im-olh-zh_TW |
| Message Queue | sun-mq-zh_TW |
| Messaging Server | sun-messaging-l10n-zh_TW |

表 F-45 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------------------|--|
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-zh_TW |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-zh_TW-config |
| | sun-portal-calendarapi-zh_TW |
| | sun-portal-calendarapi-zh_TW-config |
| | sun-portal-data-migration-zh_TW |
| | sun-portal-desktopadmin-zh_TW |
| | sun-portal-desktopdatamgmt-zh_TW |
| | sun-portal-desktopextension-zh_TW |
| | sun-portal-desktopextension-zh_TW-config |
| | sun-portal-desktop-zh_TW |
| | sun-portal-desktop-zh_TW-config |
| | sun-portal-discussions-zh_TW |
| | sun-portal-discussions-zh_TW-config |
| | sun-portal-gatewayadmin-zh_TW |
| | sun-portal-gatewaycommon-zh_TW |

表 F-45 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---|
| | sun-portal-gatewayidentityagent-zh_TW- sun-portal-gatewayidentityagent-zh_TW-ide ntity |
| | sun-portal-gateway-zh_TW |
| | sun-portal-instantmessaging-zh_TW- sun-portal-instantmessaging-zh_TW-config |
| | sun-portal-mail-zh_TW sun-portal-mail-zh_TW-config |
| | sun-portal-mobileaccess-identity-zh_TW sun-portal-mobileaccessstatic-zh_TW sun-portal-mobileaccessstatic-zh_TW-confi g |
| | sun-portal-mobileaccess-zh_TW |
| | sun-portal-netfile-zh_TW |
| | sun-portal-netletproxy-zh_TW sun-portal-netlet-zh_TW sun-portal-netlet-zh_TW-config |
| | sun-portal-netmail-zh_TW |
| | sun-portal-onlinehelp-zh_TW sun-portal-onlinehelp-zh_TW |
| | sun-portal-portletsample-zh_TW sun-portal-portlet-zh_TW |
| | sun-portal-proxylet-zh_TW |
| | sun-portal-rewriteradmin-zh_TW sun-portal-rewriterproxy-zh_TW |
| | sun-portal-rewriter-zh_TW |
| | sun-portal-sample-zh_TW sun-portal-sample-zh_TW-config |
| | sun-portal-searchadmin-zh_TW sun-portal-searchserver-zh_TW |
| | sun-portal-searchui-zh_TW |
| | sun-portal-srasample-zh_TW |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-zh_TW sun-portal-ssoadapter-zh_TW |
| | sun-portal-subscriptions-zh_TW sun-portal-subscriptions-zh_TW |
| | sun-portal-wsrpconsumersample-zh_TW sun-portal-wsrpconsumer-zh_TW |
| | sun-portal-wsrpproducer-zh_TW |
| Web Server | sun-webserver-zh_TW |

フランス語の Linux パッケージ

表 F-46 フランス語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------------------|--|
| Access Manager | sun-identity-sdk-fr |
| 管理サーバー | sun-admin-server-fr sun-server-console-fr |
| Application Server | sun-asacee-fr sun-ascmse-fr sun-asu-fr sun-asuee-fr |
| Calendar Server | sun-calendar-core-fr |
| Communications Express | sun-uwc-fr |
| Directory Server | sun-directory-server-fr |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-fr |
| Instant Messaging | sun-im-client-fr sun-im-ident-fr sun-im-install-fr sun-im-olh-fr |
| Message Queue | sun-mq-fr |
| Messaging Server | sun-messaging-l10n-fr |
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-fr |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-fr-config sun-portal-calendarapi-fr sun-portal-calendarapi-fr-config sun-portal-data-migration-fr sun-portal-desktopadmin-fr sun-portal-desktopdatamgmt-fr sun-portal-desktopextension-fr sun-portal-desktopextension-fr-config sun-portal-desktop-fr sun-portal-desktop-fr-config sun-portal-discussions-fr sun-portal-discussions-fr-config sun-portal-gatewayadmin-fr sun-portal-gatewaycommon-fr sun-portal-gateway-fr |

表 F-46 フランス語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---|
| | sun-portal-gatewayidentityagent-fr |
| | sun-portal-gatewayidentityagent-fr-identity |
| | sun-portal-instantmessaging-fr |
| | sun-portal-instantmessaging-fr-config |
| | sun-portal-mail-fr |
| | sun-portal-mail-fr-config |
| | sun-portal-mobileaccess-fr |
| | sun-portal-mobileaccess-identity-fr |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-fr |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-fr-config |
| | sun-portal-netfile-fr |
| | sun-portal-netlet-fr |
| | sun-portal-netlet-fr-config |
| | sun-portal-netletproxy-fr |
| | sun-portal-netmail-fr |
| | sun-portal-onlinehelp-fr |
| | sun-portal-onlinehelp-fr-identity |
| | sun-portal-portlet-fr |
| | sun-portal-portletsample-fr |
| | sun-portal-proxylet-fr |
| | sun-portal-rewriteradmin-fr |
| | sun-portal-rewriter-fr |
| | sun-portal-rewriterproxy-fr |
| | sun-portal-sample-fr |
| | sun-portal-sample-fr-config |
| | sun-portal-searchadmin-fr |
| | sun-portal-searchserver-fr |
| | sun-portal-searchui-fr |
| | sun-portal-srasample-fr |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-fr |
| | sun-portal-ssoadapter-fr |
| | sun-portal-subscriptions-fr |
| | sun-portal-subscriptions-fr-config |
| | sun-portal-wsrpconsumer-fr |
| | sun-portal-wsrpconsumersample-fr |
| | sun-portal-wsrpproducer-fr |
| Web Server | sun-webserver-fr |

ドイツ語の Linux パッケージ

表 F-47 ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------------------|--|
| Access Manager | sun-identity-sdk-de |
| 管理サーバー | sun-admin-server-de sun-server-console-de |
| Application Server | sun-asacee-de sun-ascmse-de sun-asu-de sun-asuee-de |
| Calendar Server | sun-calendar-core-de |
| Communications Express | sun-uwc-de |
| Directory Server | sun-directory-server-de |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-de |
| Instant Messaging | sun-im-client-de sun-im-ident-de sun-im-install-de sun-im-olh-de |
| Message Queue | sun-mq-de |
| Messaging Server | sun-messaging-l10n-de |
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-de |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-de-config sun-portal-calendarapi-de sun-portal-calendarapi-de-config sun-portal-data-migration-de sun-portal-desktopadmin-de sun-portal-desktopdatamgmt-de sun-portal-desktop-de sun-portal-desktop-de-config sun-portal-desktopextension-de sun-portal-desktopextension-de-config sun-portal-discussions-de sun-portal-discussions-de-config sun-portal-gatewayadmin-de sun-portal-gatewaycommon-de sun-portal-gateway-de |

表 F-47 ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---|
| | sun-portal-gatewayidentityagent-de |
| | sun-portal-gatewayidentityagent-de-identity |
| | sun-portal-instantmessaging-de |
| | sun-portal-instantmessaging-de-config |
| | sun-portal-mail-de |
| | sun-portal-mail-de-config |
| | sun-portal-mobileaccess-de |
| | sun-portal-mobileaccess-identity |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-de |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-de-config |
| | sun-portal-netfile-de |
| | sun-portal-netlet-de |
| | sun-portal-netlet-de-config |
| | sun-portal-netletproxy-de |
| | sun-portal-netmail-de |
| | sun-portal-onlinehelp-de |
| | sun-portal-onlinehelp-de-identity |
| | sun-portal-portlet-de |
| | sun-portal-portletsample-de |
| | sun-portal-proxylet-de |
| | sun-portal-rewriteradmin-de |
| | sun-portal-rewriter-de |
| | sun-portal-rewriterproxy-de |
| | sun-portal-sample-de |
| | sun-portal-sample-de-config |
| | sun-portal-searchadmin-de |
| | sun-portal-searchserver-de |
| | sun-portal-searchui-de |
| | sun-portal-srasample-de |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-de |
| | sun-portal-ssoadapter-de |
| | sun-portal-subscriptions-de |
| | sun-portal-subscriptions-de-config |
| | sun-portal-wsrpconsumer-de |
| | sun-portal-wsrpconsumersample |
| | sun-portal-wsrpproducer-de |
| Web Server | sun-webserver-de |

日本語の Linux パッケージ

表 F-48 日本語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|---------------------------------------|---|
| Access Manager | sun-identity-sdk-ja |
| 管理サーバー | sun-admin-server-ja sun-server-console-ja |
| Application Server | sun-asacee-ja sun-ascmse-ja sun-asu-ja sun-asuee-ja |
| Calendar Server | sun-calendar-core-ja |
| Communications Express | sun-uw-ja |
| Directory Server | sun-directory-server-ja |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-ja |
| Instant Messaging | sun-im-client-ja sun-im-ident-ja sun-im-install-ja sun-im-olh-ja |
| Message Queue | sun-mq-ja |
| Messaging Server | sun-messaging-l10n-ja |
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-ja |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-ja-config sun-portal-calendarapi-ja sun-portal-calendarapi-ja-config sun-portal-data-migration-ja sun-portal-desktopadmin-ja sun-portal-desktopdatamgmt-ja sun-portal-desktopextension-ja sun-portal-desktopextension-ja-config sun-portal-desktop-ja sun-portal-desktop-ja-config sun-portal-discussions-ja sun-portal-discussions-ja-config sun-portal-gatewayadmin-ja sun-portal-gatewaycommon-ja sun-portal-gatewayidentityagent-ja |

表 F-48 日本語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---|
| | sun-portal-gatewayidentityagent-ja-identity |
| | sun-portal-gateway-ja |
| | sun-portal-instantmessaging-ja |
| | sun-portal-instantmessaging-ja-config |
| | sun-portal-mail-ja |
| | sun-portal-mail-ja-config |
| | sun-portal-mobileaccess-identity-ja |
| | sun-portal-mobileaccess-ja |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-ja |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-ja-config |
| | sun-portal-netfile-ja |
| | sun-portal-netlet-ja |
| | sun-portal-netlet-ja-config |
| | sun-portal-netletproxy-ja |
| | sun-portal-netmail-ja |
| | sun-portal-onlinehelp-ja |
| | sun-portal-onlinehelp-ja-identity |
| | sun-portal-portlet-ja |
| | sun-portal-portletsample-ja |
| | sun-portal-proxylet-ja |
| | sun-portal-rewriteradmin-ja |
| | sun-portal-rewriter-ja |
| | sun-portal-rewriterproxy-ja |
| | sun-portal-sample-ja |
| | sun-portal-sample-ja-config |
| | sun-portal-searchadmin-ja |
| | sun-portal-searchserver-ja |
| | sun-portal-searchui-ja |
| | sun-portal-srasample-ja |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-ja |
| | sun-portal-ssoadapter-ja |
| | sun-portal-subscriptions-ja |
| | sun-portal-subscriptions-ja-config |
| | sun-portal-wsrpconsumer-ja |
| | sun-portal-wsrpconsumersample-ja |
| | sun-portal-wsrpproducer-ja |
| Web Server | sun-webserver-ja |

韓国語の Linux パッケージ

表 F-49 韓国語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------------------|--|
| Access Manager | sun-identity-sdk-ko |
| 管理サーバー | sun-admin-server-ko sun-server-console-ko |
| Application Server | sun-asacee-ko sun-ascmse-ko sun-asu-ko sun-asuee-ko |
| Calendar Server | sun-calendar-core-ko |
| Communications Express | sun-uwc-ko |
| Directory Server | sun-directory-server-ko |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-ko |
| Instant Messaging | sun-im-client-ko sun-im-ident-ko sun-im-install-ko sun-im-olh-ko |
| Message Queue | sun-mq-ko |
| Messaging Server | sun-messaging-l10n-ko |
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-ko |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-ko-config sun-portal-calendarapi-ko sun-portal-calendarapi-ko sun-portal-data-migration-ko sun-portal-desktopadmin-ko sun-portal-desktopdatamgmt-ko sun-portal-desktopextension-ko sun-portal-desktopextension-ko-config sun-portal-desktop-ko sun-portal-desktop-ko-config sun-portal-discussions-ko sun-portal-discussions-ko-config sun-portal-gatewayadmin-ko sun-portal-gatewaycommon-ko sun-portal-gatewayidentityagent-ko |

表 F-49 韓国語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---|
| | sun-portal-gatewayidentityagent-ko-identity |
| | sun-portal-gateway-ko |
| | sun-portal-instantmessaging-ko |
| | sun-portal-instantmessaging-ko-config |
| | sun-portal-mail-ko |
| | sun-portal-mail-ko-config |
| | sun-portal-mobileaccess-identity-ko |
| | sun-portal-mobileaccess-ko |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-ko |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-ko-config |
| | sun-portal-netfile-ko |
| | sun-portal-netlet-ko |
| | sun-portal-netlet-ko-config |
| | sun-portal-netletproxy-ko |
| | sun-portal-netmail-ko |
| | sun-portal-onlinehelp-ko |
| | sun-portal-onlinehelp-ko-identity |
| | sun-portal-portlet-ko |
| | sun-portal-portletsample-ko |
| | sun-portal-proxylet-ko |
| | sun-portal-rewriteradmin-ko |
| | sun-portal-rewriter-ko |
| | sun-portal-rewriterproxy-ko |
| | sun-portal-sample-ko |
| | sun-portal-sample-ko-config |
| | sun-portal-searchadmin-ko |
| | sun-portal-searchserver-ko |
| | sun-portal-searchui-ko |
| | sun-portal-srasample-ko |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-ko |
| | sun-portal-ssoadapter-ko |
| | sun-portal-subscriptions-ko |
| | sun-portal-subscriptions-ko-config |
| | sun-portal-wsrpconsumer-ko |
| | sun-portal-wsrpconsumersample-ko |
| | sun-portal-wsrpproducer-ko |
| Web Server | sun-webserver-ko |

スペイン語の Linux パッケージ

表 F-50 スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ

| コンポーネント | パッケージ |
|------------------------------------|---|
| Access Manager | sun-identity-sdk-es |
| 管理サーバー | sun-admin-server-es sun-server-console-es |
| Application Server | sun-asacee-es sun-ascmse-es sun-asu-es sun-asuee-es |
| Calendar Server | sun-calendar-core-es |
| Communications Express | sun-uwc-es |
| Directory Server | sun-directory-server-es |
| Directory Proxy Server | sun-directory-proxy-server-es |
| Instant Messaging | sun-im-client-es sun-im-ident-es sun-im-install-es sun-im-olh-es |
| Message Queue | sun-mq-es |
| Messaging Server | sun-messaging-l10n-es |
| Portal Server | sun-portal-addressbookapi-es |
| Portal Server Secure Remote Access | sun-portal-addressbookapi-es-config sun-portal-calendarapi-es sun-portal-calendarapi-es-config sun-portal-data-migration-es sun-portal-desktopadmin-es sun-portal-desktopdatamgmt-es sun-portal-desktop-es sun-portal-desktop-es-config sun-portal-desktopextension-es sun-portal-desktopextension-es-config ig- sun-portal-discussions-es sun-portal-discussions-es-config sun-portal-gatewayadmin-es sun-portal-gatewaycommon-es sun-portal-gateway-es |

表 F-50 スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ (続き)

| コンポーネント | パッケージ |
|------------|---|
| | sun-portal-gatewayidentityagent-es |
| | sun-portal-gatewayidentityagent-es-identity |
| | sun-portal-instantmessaging-es |
| | sun-portal-instantmessaging-es-config |
| | sun-portal-mail-es |
| | sun-portal-mail-es-config |
| | sun-portal-mobileaccess-es |
| | sun-portal-mobileaccess-identity-es |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-es |
| | sun-portal-mobileaccessstatic-es-config |
| | sun-portal-netfile-es |
| | sun-portal-netlet-es |
| | sun-portal-netlet-es-config |
| | sun-portal-netletproxy-es |
| | sun-portal-netmail-es |
| | sun-portal-onlinehelp-es |
| | sun-portal-onlinehelp-es-identity |
| | sun-portal-portlet-es |
| | sun-portal-portletsample-es |
| | sun-portal-proxylet-es |
| | sun-portal-rewriteradmin-es |
| | sun-portal-rewriter-es |
| | sun-portal-rewriterproxy-es |
| | sun-portal-sample-es |
| | sun-portal-sample-es-config |
| | sun-portal-searchadmin-es |
| | sun-portal-searchserver-es |
| | sun-portal-searchui-es |
| | sun-portal-srasample-es |
| | sun-portal-ssoadapteradmin-es |
| | sun-portal-ssoadapter-es |
| | sun-portal-subscriptions-es |
| | sun-portal-subscriptions-es-config |
| | sun-portal-wsrpconsumer-es |
| | sun-portal-wsrpconsumersample-es |
| | sun-portal-wsrpproducer-es |
| Web Server | sun-webserver-es |

用語集

このマニュアルセットで使用される用語の完全なリストについては、『Java Enterprise System 用語集』(<http://docs.sun.com/doc/819-1933?l=ja>)を参照してください。

索引

A

Access Manager

Directory Server の例 (単一セッション), 107

Portal Server とは別個 , 111

Portal Server の例 (単一セッション), 107

アンインストール後の作業 , 354

アンインストール動作 , 330

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 281

「今すぐ設定」 オプション , 274

インデックスの追加 , 276

起動と停止 , 306

サードパーティ製 Web コンテナ , 107

サードパーティ製の Web コンテナ , 51, 56, 58, 281

サブコンポーネント , 388

設定情報 , 122

トラブルシューティング , 375

パッケージ , 414, 433

非ルート Web コンテナ , 114

ルート以外の ID による設定 , 300

ローカライズされたパッケージ , 422

ワークシート , 192

Access Manager SDK, 103

依存 , 56

サードパーティ製 Web コンテナを使用する例 , 95

設定情報 , 138

Administration Client パッケージ , 415

ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ , 146

ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ , 146

ADMINSERV_DOMAIN 状態ファイルパラメータ , 145

ADMINSERV_PORT 状態ファイルパラメータ , 145

ADMINSERV_ROOT 状態ファイルパラメータ , 145, 158

AM_ENC_PWD 状態ファイルパラメータ , 125, 140

amconfig, 96

amsamplesilent ファイル , 96

Ant, 389, 420, 439

Apache SOAP Runtime, 389

Apache Web Server, 51, 388

Application Server

アンインストール後の作業 , 354

アンインストール動作 , 331

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 283

「今すぐ設定」 オプション , 277

インストール中のアップグレード , 236

起動と停止 , 309

サブコンポーネント , 388

設定情報 , 148, 149

トラブルシューティング , 376

ノードエージェントのパラメータ , 149

パッケージ , 415, 434

マニュアルページの場所 , 270

ルート以外の ID による設定 , 300

例 (単一セッション), 75

ローカライズされたパッケージ, 422
ワークシート, 200

Application Server のドメイン管理, 148

Application Server のノードエージェント, 149

AS_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 148

AS_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 148

AS_HTTP_PORT 状態ファイルパラメータ, 148

AS_JMX_PORT 状態ファイルパラメータ, 148

AS_MASTER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 149

AS_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 148

AS_WEB_SERVER_LOCATION 状態ファイルパラメータ, 150

AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE 状態ファイルパラメータ, 150

ASNA_ADMIN_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 149

ASNA_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 149

ASNA_ADMIN_USER_NAME 状態ファイルパラメータ, 149

ASNA_MASTER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 149

ASNA_NODE_AGENT_NAME 状態ファイルパラメータ, 149

ASNA_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 149

B

BEA WebLogic, 51
Portal Server, 293

Berkeley DB, 389, 420, 439

C

Calendar Server

Messaging Server を使用する例, 96
アンインストール動作, 332
インストール後の設定
「あとで設定」オプション, 285

起動と停止, 311
データサービスの設定, 296
トラブルシューティング, 376
ルート以外の ID による設定, 301
ローカライズされたパッケージ, 422

CDS_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 130, 135

CMN_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_AS_DOMAINSDIR 状態ファイルパラメータ, 391

CMN_AS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 126, 391

CMN_CS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 392

CMN_DOMAIN_NAME 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_DPS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 392

CMN_DS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 392

CMN_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_IIM_DOCSDIR 状態ファイルパラメータ, 392

CMN_IIM_DOCSHELPPDIR 状態ファイルパラメータ, 392

CMN_IIM_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 391

CMN_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_IS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 391

CMN_MS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 393

CMN_PS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 393

CMN_SRA_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 393

CMN_SYSTEM_GROUP 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_SYSTEM_USER 状態ファイルパラメータ, 122

CMN_UWC_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 392

CMN_WS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ ,
393

Common Agent Container, 389, 396, 420, 439
トラブルシューティング , 370
マニュアルページの場所 , 270

Communications Express
アンインストール動作 , 334
インストール後の設定
「あとで設定」 オプション , 286
起動と停止 , 312
トラブルシューティング , 377
例 (単一セッション), 101

CONFIG_DIR_ADM_PASSWD 状態ファイルパラメータ ,
154

CONFIG_DIR_ADM_USER 状態ファイルパラメータ ,
154

CONFIG_DIR_HOST 状態ファイルパラメータ , 153

CONFIG_DIR_PORT 状態ファイルパラメータ , 153

CONSOLE_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ ,
131, 132, 133

CONSOLE_HOST 状態ファイルパラメータ , 131, 133

CONSOLE_PORT 状態ファイルパラメータ , 132, 134

COOKIE_DOMAIN_LIST 状態ファイルパラメータ ,
130, 134, 144

D

Delegated Administrator, 56, 107, 388

Directory Preparation Script, 77

Directory Proxy Server
アンインストール動作 , 336
インストール後の設定
「あとで設定」 オプション , 287
起動と停止 , 312
情報 , 378
設定情報 , 158
トラブルシューティング , 378
ルート以外の ID による設定 , 301
例 (単一セッション), 79
ローカライズされたパッケージ , 422
ワークシート , 205

Directory Server

64 ビット Solaris 上での 32 ビットモード , 288,
289

64 ビット Solaris 上の 32 ビット , 52

Access Manager の例 (単一セッション), 107

アンインストール動作 , 335

インストール後の設定
「あとで設定」 オプション , 288

インデックス、追加 , 276

起動と停止 , 313

設定情報 , 150

データサービスの設定 , 297

トラブルシューティング , 378

パッケージ , 416, 435

マニュアルページの場所 , 270

ルート以外の ID による設定 , 301

例 (単一セッション), 77

ローカライズされたパッケージ , 422

ワークシート , 202

Directory Server の暗号化 , 77

Directory Server の複製 , 77

DPS_PORT 状態ファイルパラメータ , 158

DPS_SERVERROOT 状態ファイルパラメータ , 158

DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES 状態ファイルパラメータ ,
156

DS_ADM_DOMAIN 状態ファイルパラメータ , 152

DS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ ,
151

DS_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ , 151

DS_DIR_MGR_PASSWORD 状態ファイルパラメータ ,
151

DS_DIR_MGR_USER 状態ファイルパラメータ , 151

DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING 状態ファイルパラメータ ,
157

DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME 状態ファイルパラメータ ,
157

DS_POPULATE_DATABASE 状態ファイルパラメータ ,
157

DS_SERVER_IDENTIFIER 状態ファイルパラメータ ,
151

DS_SERVER_PORT 状態ファイルパラメータ , 152

DS_SUFFIX 状態ファイルパラメータ , 152
DS_SYSTEM_GROUP 状態ファイルパラメータ , 152
DS_SYSTEM_USER 状態ファイルパラメータ , 152

H

HADB, 52
 インストール後の設定
 「あとで設定」 オプション , 289
 インストールの例 , 109
 パッケージ , 416, 435
HTTPS ポート , 148

I

IBM WebSphere, 51
 Portal Server, 293
ICU, 389, 420
imqbrokerd.conf ファイル , 278
installer コマンドのオプション , 399
Instant Messaging
 アンインストール動作 , 337
 インストール後の設定
 「あとで設定」 オプション , 290
 起動と停止 , 314
 サブコンポーネント , 387
 選択の制限 , 56
 トラブルシューティング , 379
 パッケージ , 417, 435
 マルチプレクサ , 290
 例 (単一セッション), 81
 ローカライズされたパッケージ , 422
IS_ADMIN_USER_ID 状態ファイルパラメータ , 124, 139
IS_ADMINPASSWD 状態ファイルパラメータ , 124, 139
IS_APPSERVERBASEDIR 状態ファイルパラメータ , 127
IS_DIRMGRPASSWD 状態ファイルパラメータ , 136, 141
IS_DS_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ , 135, 140
IS_DS_PORT 状態ファイルパラメータ , 135, 140
IS_IAS7INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ , 132
IS_IAS7INSTANCE 状態ファイルパラメータ , 127
IS_IAS81_ADMINPASSWD 状態ファイルパラメータ , 128
IS_IAS81_ADMINPORT 状態ファイルパラメータ , 128, 129
IS_IAS81_ADMIN 状態ファイルパラメータ , 128
IS_IAS81INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ , 128, 129
IS_IAS81INSTANCEDIR 状態ファイルパラメータ , 128
IS_LDAP_USER 状態ファイルパラメータ , 124, 139
IS_LDAPUSERPASSWD 状態ファイルパラメータ , 124, 139
IS_LOAD_DIT 状態ファイルパラメータ , 137, 142
IS_ORG_NAMING_ATTR 状態ファイルパラメータ , 137, 143
IS_ORG_OBJECT_CLASS 状態ファイルパラメータ , 137, 143
IS_ROOT_SUFFIX 状態ファイルパラメータ , 135, 141
IS_SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ , 130, 134
IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR 状態ファイルパラメータ , 128
IS_USER_NAMING_ATTR 状態ファイルパラメータ , 137, 143
IS_USER_OBJECT_CLASS 状態ファイルパラメータ , 137, 143
IS_WS_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ , 126
IS_WS_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ , 126
IS_WS_INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ , 126, 132

J

J2SE, 389, 421, 439

アップグレード, 226

JAF, 389, 421, 439

JATO, 389, 421, 439

Java ES

インストール計画, 37

インストールの例, 69

ソフトウェアの入手, 226

パッケージ, 413

Java ES ソフトウェアの入手, 226

JavaHelp Runtime, 389, 421, 440

Java Mail Runtime, 421, 440

JavaMail Runtime, 389

Java Security Services (JSS), 421, 440

JAXB, 389

JAXM, 390

JAXP, 390, 421, 440

JAX-RPC Runtime, 390, 421, 440

JAXR Runtime, 390, 421, 440

JCAPI, 390

JDMK, 390

JMX ポート, 148

JSS, 390

K

KT Search Engine (KTSE), 390, 421, 440

L

LDAP C SDK, 390, 421, 440

LDAP Java SDK, 390

LDAP Schema 1 の例, 99

libxml, 390

Linux, 118, 389

Korn Shell, 66

Linux 用の Korn Shell, 66

Load Balancing Plugin, 75, 109

M

MANPATH

環境変数の更新, 271

設定, 270

Message Queue

アップグレード, 83

アンインストール動作, 338

インストール後の設定

「あとで設定」オプション, 290

「今すぐ設定」オプション, 278

インストール中のアップグレード, 236

起動と停止, 316

単体インストール, 82

データサービスの設定, 297

トラブルシューティング, 379

パッケージ, 417, 436

例 (単一セッション), 82

ローカライズされたパッケージ, 422

Message Queue のアップグレード, 83

Messaging Server

Calendar Server を使用する例, 96

アンインストール後の作業, 355

アンインストール動作, 337

インストール後の設定

「あとで設定」オプション, 290

起動と停止, 316

データサービスの設定, 298

トラブルシューティング, 379

パッケージ, 417, 436

ルート以外の ID による設定, 302

ローカライズされたパッケージ, 422

Monitoring Framework, 390

N

Netlet プロキシパッケージ, 418, 439

Netscape Portable Runtime (NSPR), 421, 440

Netscape Security Services (NSS) コンポーネント ,
421, 440
Network Security Services (NSS), 390
NSPR、NSS, 390

P

PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI 状態ファイル
パラメータ , 131, 133

Perl, 390, 421

インストールの確認 , 225

pkginfo, 64

pkgrm, 289

Point Base サーバーパッケージ , 415

Portal Server

Access Manager とは別個 , 111

Access Manager の例 (単一セッション) , 107

Web コンテナの非ルートインスタンス , 116

アンインストール動作 , 340

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 292

「今すぐ設定」 オプション , 278

起動と停止 , 318

設定情報 , 159

トラブルシューティング , 380

パッケージ , 418, 437

ルート以外の ID による設定 , 302

例 (単一セッション) , 72

ローカライズされたパッケージ , 422

Portal Server Secure Remote Access

アンインストール動作 , 341

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 292

「今すぐ設定」 オプション , 278

起動と停止 , 319

サブコンポーネント , 387

設定情報 , 166

トラブルシューティング , 380

パッケージ , 418, 438

例 (単一セッション) , 84

ローカライズされたパッケージ , 422

prodreg, 64

PS_AS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ ,
171

PS_AUTO_DEPLOY 状態ファイルパラメータ , 166,
208, 209, 211, 213

PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラ
メータ , 161, 163, 210

PS_DEPLOY_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ ,
161

PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL 状態ファイルパラ
メータ , 162

PS_DEPLOY_ADMIN 状態ファイルパラメータ , 161,
163, 210

PS_DEPLOY_DOCROOT 状態ファイルパラメータ ,
160, 161, 163, 164, 210, 212

PS_DEPLOY_DOMAIN 状態ファイルパラメータ , 161

PS_DEPLOY_INSTANCE 状態ファイルパラメータ ,
160, 161, 163, 164, 210, 212

PS_DEPLOY_NODE 状態ファイルパラメータ , 164,
212

PS_DEPLOY_NOW 状態ファイルパラメータ , 163, 210

PS_DEPLOY_PORT 状態ファイルパラメータ , 160,
161, 163, 164, 210, 212

PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR 状態ファイルパラメー
タ , 162, 210

PS_DEPLOY_PROJECT_DIR 状態ファイルパラメー
タ , 162, 210

PS_DEPLOY_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ ,
160, 162, 163, 165, 210, 212

PS_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ , 166,
207, 209, 211, 213

PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST 状態ファイルパラ
メータ , 164, 212

PS_DEPLOYDIR 状態ファイルパラメータ , 159, 160,
162, 164, 210, 212

R

Rewriter プロキシパッケージ , 418, 439

rpm, 64

S

SAAJ, 390, 421, 440

SAML, 390, 422

SASL, 390, 422, 440

Schema 1, 51, 56

 インストールの例, 99

Schema 2, 56, 77, 101

SERVER_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ,
130, 134, 144

SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ, 130, 134

SNMP, 390

SOAP, 390

SOAP (Apache), 389

Solaris

 サポート, 32

 パッチ, 32

Solaris 10

 サポートされないコンポーネント, 389

 事前にロードされたソフトウェア, 62

 ゾーンへのインストールの例, 88

Solaris 10 ゾーン, 62

Solaris 10 ゾーンの継承ファイルシステム, 90

Solaris 10 のゾーンの例, 88

Solaris コンテナ (ゾーン), 88

SRA_CERT_CITY 状態ファイルパラメータ, 174,
180, 184

SRA_CERT_COUNTRY 状態ファイルパラメータ, 175,
180, 184

SRA_CERT_DIVISION 状態ファイルパラメータ,
174, 179, 184

SRA_CERT_ORGANIZATION 状態ファイルパラメータ,
174, 179, 184

SRA_CERT_PASSWORD 状態ファイルパラメータ,
175, 180, 184

SRA_CERT_STATE 状態ファイルパラメータ, 174,
180, 184

SRA_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 169,
170, 172, 175, 180

SRA_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ,
168

SRA_GW_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 173

SRA_GW_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 173

SRA_GW_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 173

SRA_GW_PORT 状態ファイルパラメータ, 173

SRA_GW_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 174

SRA_GW_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 173

SRA_GW_START 状態ファイルパラメータ, 174

SRA_GW_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ, 173

SRA_IS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ,
172, 176

SRA_IS_ORG_DN 状態ファイルパラメータ, 178, 183

SRA_IS_PASSWORD_KEY 状態ファイルパラメータ,
179, 183

SRA_IS_SERVICE_URI 状態ファイルパラメータ,
178, 183

SRA_LOG_USER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ,
168, 174, 181

SRA_NLP_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 176

SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ,
176

SRA_NLP_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 176

SRA_NLP_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ,
176

SRA_NLP_PORT 状態ファイルパラメータ, 176

SRA_NLP_START 状態ファイルパラメータ, 177

SRA_NLP_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ,
176

SRA_NLP_USER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ,
176

SRA_RWP_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 181

SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ,
181

SRA_RWP_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 181

SRA_RWP_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ,
181

SRA_RWP_PORT 状態ファイルパラメータ, 181

SRA_RWP_START 状態ファイルパラメータ, 181

SRA_RWP_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ,
181

SRA_SERVER_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ,
178, 183

SRA_SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ , 178, 182

SRA_SERVER_PORT 状態ファイルパラメータ , 178, 182

SRA_SERVER_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ , 178, 182

SRS Net Connect, 59, 120

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 294

起動と停止 , 320

ゾーンへのインストール , 90

トラブルシューティング , 381

パッケージ , 420

Sun Cluster

アンインストール , 353

アンインストール動作 , 342

インストール後の設定 , 272, 273

「あとで設定」 オプション , 294

インストールの例 , 91

エージェント , 295

停止と再起動 , 320

トラブルシューティング , 381

パッケージ , 419

マニュアルページの場所 , 270

ローカライズされたパッケージ , 422

Sun Cluster エージェント

「Sun Cluster データサービス」 も参照

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 294

インストールの例 , 91

サブコンポーネント , 388

ローカライズされたパッケージ , 422

Sun Cluster データサービス

Calendar Server, 296

Directory Server, 297

Messaging Server, 298

Web Server, 298

管理サーバー , 296, 297

設定 , 295

Sun Cluster の再起動 , 320

Sun Explorer Data Collector, 390

Sun Java Monitoring Framework, 390, 422

Sun Java Web コンソール , 390, 422, 440

Sun Remote Services Net Connect, 「SRS Net Connect」 を参照

T

tail コマンドとサイレントインストール , 268

Tomcat サブレット JSP コンテナ , 390, 422, 440

U

uninstall コマンド

パッケージ , 413, 432

例 , 402

uninstall コマンドのオプション , 401

USE_EXISTING_CONFIG_DIR 状態ファイルパラメータ , 153, 154, 155, 156, 169, 170, 171

USE_EXISTING_USER_DIR 状態ファイルパラメータ , 155

USER_DIR_ADM_PASSWD 状態ファイルパラメータ , 156, 169, 171

USER_DIR_ADM_USER 状態ファイルパラメータ , 155, 169, 170

USER_DIR_HOST 状態ファイルパラメータ , 155

USER_DIR_PORT 状態ファイルパラメータ , 155

USER_DIR_SUFFIX 状態ファイルパラメータ , 156

W

Web Server

アンインストール後の作業 , 354

アンインストール動作 , 343

インストール後の設定

「あとで設定」 オプション , 295

起動と停止 , 320

設定情報 , 184

データサービスの設定 , 298

トラブルシューティング , 382

- パッケージ, 420, 439
- ルート以外の ID による設定, 302
- 例 (単一セッション), 86
- ローカライズされたパッケージ, 422
- ワークシート, 218

Web コンテナの依存性, 55

Web とアプリケーションサービスの例, 109

WS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 185

WS_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 185

WS_ADMIN_SYSTEM_USER 状態ファイルパラメータ, 185

WS_ADMIN_USER 状態ファイルパラメータ, 185

WS_INSTANCE_AUTO_START 状態ファイルパラメータ, 186

WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT 状態ファイルパラメータ, 186

WS_INSTANCE_GROUP 状態ファイルパラメータ, 186

WS_INSTANCE_HOST 状態ファイルパラメータ, 185

WS_INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 186

WS_INSTANCE_USER 状態ファイルパラメータ, 186

WSCL, 390, 441

X

XML C Library, 390

あ

アップグレード

- ニーズの確認, 64

「あとで設定」オプション

- インストール後の手順, 280
- 概要, 58

アンインストール

- 概要, 41

アンインストール用の管理者アクセス権, 344

アンインストール, 323

- Sun Cluster, 353
- アンインストール後の作業, 353
 - Access Manager, 354
 - Application Server, 354
 - Messaging Server, 355
 - Web Server, 354

インストール済みコンポーネントの調査, 328

- 管理者アクセス権, 344
- グラフィカルインタフェース, 346
- コマンドオプション, 401
- コンポーネントの動作, 329
- しくみ, 325
- 実行, 345
- 状態ファイル, 351
- 前提条件, 323
- 一般的な動作, 325
- 相互依存関係の処理, 326

動作

- Access Manager, 330
- Application Server, 331
- Calendar Server, 332
- Communications Express, 334
- Directory Proxy Server, 336
- Directory Server, 335
- Instant Messaging, 337
- Message Queue, 338
- Messaging Server, 337
- Portal Server, 340
- Portal Server Secure Remote Access, 341
- Sun Cluster, 342
- Web Server, 343
- 管理サーバー, 331
- トラブルシューティング, 357, 367
- 非ルートとしての Access Manager, 114
- 部分的なアンインストールのクリーンアップ, 363

アンインストール後の作業, 353

- Access Manager, 354
- Application Server, 354
- Messaging Server, 355
- Web Server, 354

い

依存

- コンポーネント, 52
- リモート, 56

依存性の確認, 40

- 「今すぐ設定」オプション
- インストール後の手順, 274
- 概要, 58

インストーラ

- コマンドオプション, 399
- 例, 400

インストーラのモード, 38

インストール, 269

- インストール後の設定, 269
- インストール前のチェックリスト, 223
- キャンセル, 246
- グラフィカルインタフェース, 233
- 言語の概要, 38
- 高度なタスク, 43, 44
- コンポーネントの調査, 328
- サイレントモード, 259
 - トラブルシューティング, 367
 - プラットフォームに適した ID, 264
- サイレントモードでの実行, 266
- サイレントモードの処理, 259
- サマリーレポート, 246, 274
- 主要な問題, 50
- 準備, 67, 223
- 状態ファイルを使用, 260
- セッション, 60
- 設定オプション, 41
- 追加コンポーネントのインストール, 247
- ディレクトリ, 391
- テキストベースのインタフェース, 249
- テキストベースの手順, 251
- 手順, 37
- トラブルシューティング, 357
- ネットワーク上の共有イメージ, 231

配布内容

- Linux, 230
- Solaris SPARC, 227
- Solaris x86, 229

プラットフォームに適した ID, 264

モード, 38

利用する事例の選択, 57

ログ, 246

インストール後の設定, 269

Sun Cluster, 272

Sun Cluster フレームワーク, 273

「あとで設定」オプション, 280

Access Manager, 281

Application Server, 283

Calendar Server, 285

Communications Express, 286

Directory Proxy Server, 287

Directory Server, 288

HADB, 289

Instant Messaging, 290

Message Queue, 290

Messaging Server, 290

Portal Server, 292

Portal Server Secure Remote Access, 292

SRS Net Connect, 294

Sun Cluster, 294

Sun Cluster エージェント, 294

Web Server, 295

管理サーバー, 282

「今すぐ設定」オプション, 274

Access Manager, 274

Application Server, 277

Message Queue, 278

Portal Server, 278

Portal Server Secure Remote Access, 278

パッケージの確認, 270

インストールされているソフトウェアの検出, 40, 62

インストール済みコンポーネントの調査, 328

インストールのシーケンス, 69

インストールのシナリオ, 69

インストールの主要な問題, 50

インストールの準備, 67

インストールのセッション, 60

インストールのためのタスク, 43

インストール前のチェックリスト, 223

え

エージェントと Sun Cluster, 295

か

概要

Java Enterprise System, 41

インストール計画, 37

インストール手順, 37

インストールの準備, 223

インストールの例, 70

共有コンポーネント, 389

言語の選択, 38

コンポーネント, 387

コンポーネントのチェック, 39

設定オプション, 41, 58

設定の種類, 41

管理サーバー

アンインストール動作, 331

インストール後の設定

「あとで設定」オプション, 282

起動と停止, 307

情報, 375

設定情報, 145

データサービスの設定, 296

トラブルシューティング, 375

パッケージ, 415, 433

マニュアルページの場所, 270

ルート以外の ID による設定, 300

ワークシート, 199

き

記号の表記規則, 29

キャンセル、インストール, 246

共通サーバー設定, 121

共有インストールイメージ, 231

共有コンポーネント

パッケージ, 420, 439

リスト, 389

く

グラフィカルインタフェース

アンインストール, 346

インストール, 233

け

ゲートウェイパッケージ, 418, 438

言語

インストーラ, 38

ローカライズされたパッケージ, 422

こ

コマンドラインインストール, 249

コンポーネント

アンインストール動作, 329

依存性の確認, 40

インストールされているバージョンの検出, 62

概要, 387

起動シーケンス, 304

起動と停止, 303

Access Manager, 306

Application Server, 309

Calendar Server, 311

Communications Express, 312

Directory Proxy Server, 312

Directory Server, 313

Instant Messaging, 314

Message Queue, 316

Messaging Server, 316

Portal Server, 318

Portal Server Secure Remote Access, 319

SRS Net Connect, 320

Sun Cluster, 320

Web Server, 320

管理サーバー, 307

- サーバーコンソール, 307
- マルチプレクサ (Instant Messaging), 314
- 相互依存関係, 52
- 追加インストール, 247
- トラブルシューティング, 374
- パッケージの確認, 270
- 表示, 63
- リスト, 387
- ルート以外の ID による設定, 299
- コンポーネントの起動と停止, 303
 - Access Manager, 306
 - Application Server, 309
 - Calendar Server, 311
 - Communications Express, 312
 - Directory Proxy Server, 312
 - Directory Server, 313, 319
 - Instant Messaging, 314
 - Message Queue, 316
 - Messaging Server, 316
 - Portal Server, 318
 - SRS Net Connect, 320
 - Sun Cluster, 320
 - Web Server, 320
 - 管理サーバー, 307
 - 起動シーケンス, 304
 - サーバーコンソール, 307
 - マルチプレクサ (Instant Messaging), 314
- コンポーネントのチェックとインストーラ, 39

さ

- サードパーティ製 Web コンテナ, 95, 107
- サードパーティ製の Web コンテナ, 51, 56, 58, 237, 281
- サードパーティ製品, 56
- サーバーコンソール
 - 起動, 307
 - 停止, 308
- サイレントアンインストールおよび状態ファイル, 351
- サイレントインストール, 259
 - インストーラの実行, 266

- 状態ファイル, 260
- 状態ファイルの例, 403
- ログファイル, 267
- サポート, 32, 33
- サマリーレポートとインストール, 246, 274
- 参照整合性プラグイン、有効化, 275

し

- シェルプロンプト, 29
- 事前にロードされたソフトウェア, 62
- 実装仕様, 50
- 収集、設定情報, 119
- 状態ファイル
 - インストール, 260
 - およびアンインストール, 351
 - トラブルシューティング, 366
 - パラメータ, 262
 - プラットフォームに適した ID, 264
 - 例, 403
- 状態ファイルのパラメータ, 187
 - ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_PASSWORD, 146
 - ADMINSERV_CONFIG_ADMIN_USER, 146
 - ADMINSERV_DOMAIN, 145
 - ADMINSERV_PORT, 145
 - ADMINSERV_ROOT, 145, 158
 - AM_ENC_PWD, 125, 140
 - AS_ADMIN_PORT, 148
 - AS_ADMIN_USER, 148
 - AS_HTTP_PORT, 148
 - AS_JMX_PORT, 148
 - AS_MASTER_PASSWORD, 149
 - AS_PASSWORD, 148
 - AS_WEB_SERVER_LOCATION, 150
 - AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE, 150
 - ASNA_ADMIN_HOST_NAME, 149
 - ASNA_ADMIN_PORT, 149
 - ASNA_ADMIN_USER_NAME, 149
 - ASNA_MASTER_PASSWORD, 149
 - ASNA_NODE_AGENT_NAME, 149
 - ASNA_PASSWORD, 149
 - CDS_DEPLOY_URI, 130, 135

CMN_ADMIN_PASSWORD, 122
 CMN_ADMIN_USER, 122
 CMN_AS_DOMAINSDIR, 391
 CMN_AS_INSTALLDIR, 391
 CMN_CS_INSTALLDIR, 392
 CMN_DOMAIN_NAME, 122
 CMN_DPS_INSTALLDIR, 392
 CMN_DS_INSTALLDIR, 392
 CMN_HOST_NAME, 122
 CMN_IIM_DOCSDIR, 392
 CMN_IIM_DOCSHELPPDIR, 392
 CMN_IIM_INSTALLDIR, 391
 CMN_IPADDRESS, 122
 CMN_IS_INSTALLDIR, 391
 CMN_MS_INSTALLDIR, 393
 CMN_PS_INSTALLDIR, 393
 CMN_SRA_INSTALLDIR, 393
 CMN_SYSTEM_GROUP, 122
 CMN_SYSTEM_USER, 122
 CMN_UWC_INSTALLDIR, 392
 CMN_WS_INSTALLDIR, 393
 CONFIG_DIR_ADM_PASSWD, 154
 CONFIG_DIR_ADM_USER, 154
 CONFIG_DIR_HOST, 153
 CONFIG_DIR_PORT, 153
 CONSOLE_DEPLOY_URI, 131, 132, 133
 CONSOLE_HOST, 131, 133
 CONSOLE_PORT, 132, 134
 COOKIE_DOMAIN_LIST, 130, 134, 144
 DPS_PORT, 158
 DPS_SERVERROOT, 158
 DS_ADD_SAMPLE_ENTRIES, 156
 DS_ADM_DOMAIN, 152
 DS_ADMIN_PASSWORD, 151
 DS_ADMIN_USER, 151
 DS_DIR_MGR_PASSWORD, 151
 DS_DIR_MGR_USER, 151
 DS_DISABLE_SCHEMA_CHECKING, 157
 DS_POPULATE_DATABASE, 157
 DS_POPULATE_DATABASE_FILE_NAME, 157
 DS_SERVER_IDENTIFIER, 151
 DS_SERVER_PORT, 152
 DS_SUFFIX, 152
 DS_SYSTEM_GROUP, 152
 DS_SYSTEM_USER, 152
 IS_ADMIN_USER_ID, 124, 139
 IS_ADMINPASSWD, 124, 139
 IS_APPSERVERBASEDIR, 127
 IS_DIRMGRPASSWD, 136, 141
 IS_DS_HOSTNAME, 135, 140
 IS_DS_PORT, 135, 140
 IS_IAS7_ADMIN, 128
 IS_IAS7_ADMINPASSWD, 128
 IS_IAS7_ADMINPORT, 128, 129
 IS_IAS7INSTANCE, 127
 IS_IAS7INSTANCE_PORT, 128, 129, 132
 IS_IAS7INSTANCEDIR, 128
 IS_LDAP_USER, 124, 139
 IS_LDAPUSERPASSWD, 124, 139
 IS_LOAD_DIT, 137, 142
 IS_ORG_NAMING_ATTR, 137, 143
 IS_ORG_OBJECT_CLASS, 137, 143
 IS_ROOT_SUFFIX, 135, 141
 IS_SERVER_HOST, 130, 134
 IS_SUNAPPSERVER_DOCS_DIR, 128
 IS_USER_NAMING_ATTR, 137, 143
 IS_USER_OBJECT_CLASS, 137, 143
 IS_WS_DOC_DIR, 126
 IS_WS_HOST_NAME, 126
 IS_WS_INSTANCE_DIR, 126
 IS_WS_INSTANCE_PORT, 126, 132
 PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI, 131, 133
 PS_ADMIN_ADMIN_PASSWORD, 161, 163, 210
 PS_AS_ADMIN_PASSWORD, 171
 PS_AUTO_DEPLOY, 166, 208, 209, 211, 213
 PS_DEPLOY_ADMIN, 161, 163, 210
 PS_DEPLOY_ADMIN_PORT, 161
 PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL, 162
 PS_DEPLOY_DIR, 159, 160, 162, 164, 210, 212
 PS_DEPLOY_DOCROOT, 160, 161, 163, 164, 210, 212
 PS_DEPLOY_DOMAIN, 161
 PS_DEPLOY_INSTANCE, 160, 161, 163, 164, 210, 212
 PS_DEPLOY_NODE, 164, 212
 PS_DEPLOY_NOW, 163, 210
 PS_DEPLOY_PORT, 160, 161, 163, 164, 210, 212
 PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR, 162, 210
 PS_DEPLOY_PROJECT_DIR, 162, 210
 PS_DEPLOY_PROTOCOL, 160, 162, 163, 165, 210, 212
 PS_DEPLOY_URI, 166, 207, 209, 211, 213
 PS_DEPLOY_VIRTUAL_HOST, 164, 212
 SERVER_DEPLOY_URI, 130, 134, 144

SERVER_HOST, 130, 134
SRA_CERT_CITY, 174, 180, 184
SRA_CERT_COUNTRY, 175, 180, 184
SRA_CERT_DIVISION, 174, 179, 184
SRA_CERT_ORGANIZATION, 174, 179, 184
SRA_CERT_PASSWORD, 175, 180, 184
SRA_CERT_STATE, 174, 180, 184
SRA_DEPLOY_URI, 169, 170, 172, 175, 180
SRA_GATEWAY_PROFILE, 168
SRA_GW_DOMAIN, 173
SRA_GW_HOSTNAME, 173
SRA_GW_IPADDRESS, 173
SRA_GW_PORT, 173
SRA_GW_PROFILE, 174
SRA_GW_PROTOCOL, 173
SRA_GW_START, 174
SRA_GW_SUBDOMAIN, 173
SRA_IS_INSTALLDIR, 172, 176
SRA_IS_ORG_DN, 178, 183
SRA_IS_PASSWORD_KEY, 179, 183
SRA_IS_SERVICE_URI, 178, 183
SRA_LOG_USER_PASSWORD, 168, 174, 181
SRA_NLP_DOMAIN, 176
SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE, 176
SRA_NLP_HOSTNAME, 176
SRA_NLP_IPADDRESS, 176
SRA_NLP_PORT, 176
SRA_NLP_START, 177
SRA_NLP_SUBDOMAIN, 176
SRA_NLP_USER_PASSWORD, 176
SRA_RWP_DOMAIN, 181
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE, 181
SRA_RWP_HOSTNAME, 181
SRA_RWP_IPADDRESS, 181
SRA_RWP_PORT, 181
SRA_RWP_START, 181
SRA_RWP_SUBDOMAIN, 181
SRA_SERVER_DEPLOY_URI, 178, 183
SRA_SERVER_HOST, 178, 182
SRA_SERVER_PORT, 178, 182
SRA_SERVER_PROTOCOL, 178, 182
USE_EXISTING_CONFIG_DIR, 153, 154, 155,
156, 169, 170, 171
USE_EXISTING_USER_DIR, 155
USER_DIR_ADM_PASSWD, 156, 169, 171
USER_DIR_ADM_USER, 155, 169, 170
USER_DIR_HOST, 155

USER_DIR_PORT, 155
USER_DIR_SUFFIX, 156
WS_ADMIN_PASSWORD, 185
WS_ADMIN_PORT, 185
WS_ADMIN_SYSTEM_USER, 185
WS_ADMIN_USER, 185
WS_INSTANCE_AUTO_START, 186
WS_INSTANCE_CONTENT_ROOT, 186
WS_INSTANCE_GROUP, 186
WS_INSTANCE_HOST, 185
WS_INSTANCE_PORT, 186
WS_INSTANCE_USER, 186
シングルサインオン, 56, 107
シングルユーザーエントリ, 52

せ

製品レジストリ、トラブルシューティング, 370
設定、MANPATH, 270
設定オプション, 41, 57
設定情報
 Access Manager, 122
 Access Manager SDK, 138
 Application Server, 148, 149
 Directory Proxy Server, 158
 Directory Server, 150
 Portal Server, 159
 Portal Server Secure Remote Access, 166
 Web Server, 184
 管理サーバー, 145
 収集, 119
 状態ファイル、コンポーネント製品以外, 187
設定の種類, 41

そ

ソフトウェア
 CD または DVD, 226
 事前にロード, 226
 ダウンロード, 226
 ファイルサーバー, 226

た

単一セッションインストールの例, 71

つ

通信サービスと共同作業サービスの例, 105

て

データサービスの設定

Calendar Server, 296

Directory Server, 297

Message Queue, 297

Messaging Server, 298

Sun Cluster, 295

Web Server, 298

管理サーバー, 296

テキストベースのインストーラ、使用方法, 250

テキストベースのインストール, 249

と

統合 ID (シングルサインオン), 56

トラブルシューティング

Access Manager, 375

Application Server, 376

Calendar Server, 376

Common Agent Container, 370

Communications Express, 377

Directory Proxy Server, 378

Directory Server, 378

Instant Messaging, 379

Message Queue, 379

Messaging Server, 379

Portal Server, 380

Portal Server Remote Secure Access, 380

SRS Net Connect, 381

Sun Cluster, 381

Web Server, 382

アンインストール, 367

インストール, 357

管理サーバー, 375

コンポーネント, 374

サイレントモードインストール, 367

手法, 357

状態ファイル, 366

製品レジストリ, 370

部分的なアンインストールのクリーンアップ,
363

ポート番号, 370

ルートパスワード, 372

ログ, 358

トラブルシューティングの手法, 357

ね

ネットワーク共有インストール, 231

は

配備アーキテクチャの例, 48

配備計画ドキュメント, 48

配布内容

Linux, 230

Solaris SPARC, 227

Solaris x86, 229

パッケージ

Access Manager, 414, 433

Administration Client, 415

Application Server, 415, 434

Directory Server, 416, 435

HADB, 416, 435

Instant Messaging, 417, 435

Message Queue, 417, 436

Messaging Server, 417, 436

Netlet プロキシ, 418, 439

Point Base サーバー, 415

Portal Server, 418, 437

Portal Server Secure Remote Access, 418, 438

Rewriter プロキシ, 418, 439

Sun Cluster ソフトウェア , 419

Web Server, 420, 439

アンインストール , 413, 432

管理サーバー , 415, 433

共有コンポーネント , 420, 439

ゲートウェイ , 418, 438

ローカライズされた , 422

ローカライズされたパッケージ , 422

パッケージの確認 , 270

パッチ

グラフィカルベースのインストール中に追加 ,
241

テキストベースのインストール中に追加 , 255

ひ

評価インストールの例 , 71

非ルートインストール , 52, 114, 116

ふ

複数インストールセッション , 60

複製 (ディレクトリ) , 51

プラットフォームに適した ID と状態ファイル , 264

ブローカ、「Message Queue」を参照

ほ

ポート番号 , 395

競合 , 370

ま

マニュアル , 30

マニュアルページのデフォルトの場所 , 270

マルチプレクサ

Instant Messaging, 290

起動と停止 , 314

よ

要件

コンポーネントの依存性 , 52

読者 , 29

り

リモート依存性 , 56

る

ルート以外の ID

Access Manager の設定 , 300

Application Server の設定 , 300

Calendar Server の設定 , 301

Directory Proxy Server の設定 , 301

Directory Server の設定 , 301

Messaging Server の設定 , 302

Portal Server の設定 , 302

Web Server の設定 , 302

管理サーバーの設定 , 300

コンポーネントの設定 , 299

ルートパスワード、トラブルシューティング , 372

れ

例

Access Manager とは別個の Portal Server, 111

Calendar Server と Messaging Server, 96

HADB, 109

Schema 1, 99

Solaris 10 ゾーン , 88

Sun Cluster, 91

uninstall コマンド, 402
Web とアプリケーションサービス, 109
インストーラコマンド, 400
インストーラシーケンス, 70
概要, 70
状態ファイル, 403
単一セッションインストーラ, 71
通信サービスと共同作業サービスの例, 105
配備アーキテクチャ, 48
評価, 71
非ルート, 114, 116
負荷分散, 109

ろ

ログ

インストーラ, 246
サイレントインストーラ, 267
トラブルシューティング, 358
ファイル名の形式, 358

わ

ワークシート, 191, 218

